歌林樸樕

顧問

井上通泰先生
山田孝雄先生
新村出先生

正宗敦夫 編纂 校訂

合資會社
日本古典全集刊行會壽梓

歌林樸樕解題

歌林樸樕〔カリンボクソク〕二十八卷　八本　寫本　松永貞德撰

尾崎雅嘉が群書一覽に書名に就て攷證して「按ずるに此書の名は詩經に『林有二樸樕一』と云ふ語によれるなるべし、詩經の注に、樸樕は小木也と見えたり、貞德謙退の心にて名づけられたるものなるべし」と云つてゐる。赤堀氏「蓋し兼良公の歌林良材抄に對して、かく名づけしものなるべし」と國語學書目解題に云はれたが正に其の通りである。歌の詞、古事等を淸輔の奥儀抄、範兼の童蒙抄、顯昭の袖中抄等を引用して解釋し、自己の新案は丸云として注し、其を「いろは」順に分類したものである。殊に袖中抄に負ふ處がもつとも多い。又日本紀の歌を解いた点は釋日本紀に據つて多くは其のまゝに揭げ、まゝ今案を加へてゐる。本書は歌詞、古事等解釋したのではあるが、日本紀の長歌なぞは其全部を出し、否其に關係ある歌は其次々のをも揭げて釋を加へてゐる。又名目の讀みくせをも揭げてゐる。此書寫本によりて傳はりたれば誤脫も多く、魯魚の誤も少くない。本々異同も有りと見える。群書一覽には七卷と記してあるが、是れは七册に合本せりとの意かと思はれる。帝國圖書館本は三册に合本に成つてゐる。

今此書を本會にて刊行するに當つては山田孝雄先生の藏本を借用して底本とし、帝國圖書館本を參考した。しかし圖書館本と底本とは其系統同一ならず、到底校合は出來難い異本で有るから、脫落と思はるゝ處を圖書館

本に據りて補入したり、又誤字と思はるゝ文字を校合して決定するに參考として用ゐたが校合と云ふやうな事には成つてゐない。又出來るものでもない。底本の奥書は

歌林樸樕二十八卷寫十四策矣　消遊軒貞德所撰述者也
右全篇以貞德老翁之直筆爲元本書寫畢　諸居

と有つて國語學書目解題に出てゐるのと同じ事である。圖書館本の奥書

右以先師寶憧坊明心居士自筆謄寫焉納雒陽講習堂廟藏畢尤可爲證本者乎
元祿癸未季秋望日　　門人　篠田力齋厚敬判

這歌林樸樕二十八篇全八册者吾先逍遊軒貞德翁所編集之書也大父及晚年著述之故求再治而命已終焉今篠田厚敬生繙閲之餘暇歷試此書該貫精理自謄寫而以寄納于講習堂此吾家之至寶抗衡手哉非也予不堪感悰功添秀毫於楮尾因以爲跋
元祿十六年癸未大呂穀旦　　康採尺信軒永三

と有る。一は貞德自筆本とあり、一は篠田厚敬校訂本である。其が爲に差異を生じたのか。次々に寫す人が勝手に改めたのか、其は不明では有るが、たゞ寫誤等の相違ではなく、全く形を異にしてゐる。但し圖書館本も脱落も多く、完全の本ではない。

貞德の傳は野史に

松永貞德、小字勝熊祖曰尙秀、稱族直江、松永久秀弟也。父曰永種、（川岡雜談、〇翁草引俳諧統譜云、本族入江、攝津高槻城主入江九郎盛重曾孫、政重孫永種子、永種改族稱松永、一說貞德母、松永久秀伯母云、又母播州宇野氏女、）甫七歲、爲東福寺喝食、僅二句、諳得法華經一部、人目呼文殊喝食、（戴恩記）貞德生京師、長而猶束髻、著童服、自號長頭丸、又延陀丸（延陀或作圓陀）或逍遙軒、明心居士、（雜談、俳家奇人談）好和歌、善聯句、學和歌於關白藤原植通（玖山）及右大臣藤原晴季、就內大臣藤原實條爲門弟、頗得有職之名、聚樂行幸之儀衛、晴季撰定者多、貞德就學焉、權大納言藤原雅綱居船橋、父永種挽貞德、赴見雅綱、爲門弟、授寄道祝題、其後貞德問會式法於雅綱孫參議雅敦、聯歌者紹巴亦愛貞德學才、當永種修其師遠忌冥福、設聯歌會、時貞德執筆書表八句、紹巴叮嚀反覆授書法、清水宗我亦爲植通入道玖山門人、與貞德爲同門、宗我年老、玖山薨、而後貞德就問其道、又古田城勝者、仕武田信玄、瞽者也、每咫尺實條、聞其說多、故固得聞其說、僧安休者、永種門弟也、以聯歌故實悉傳貞德、（戴恩記）細川幽齋退隱于吉田、貞德師事之、親炙有年、和歌聯歌奧旨、悉得傳授、先是山崎宗鑑嗜俳句、著犬筑波集、而句式未全、備聯百韻者、貞德因撰淀川油滓之二書、正宗鑑之書有差誤、補犬筑波之遺漏、復述御傘之書、審辨其法式、（古今人物志）慶長三年八月、前攝政藤原前久、准后藤原兼孝、命幽齋、紹巴、宗養等聽貞德、稱花咲翁、爲俳諧一道宗匠、每愛木製蓮、承應二年十一月

死、歳八十三、絶命歌曰、「ネカハクハ、ワレノチノヨノ、カゼトナリテ、ツキヲバハラシ、ハナハチラサジ」（雑談、○翁草引二俳諧統譜一云、歿二于花開舎一、絶命歌曰、「ツユノイノチ、キユルコロモノ、タマクシゲ、フタタビウケヌ　ミノリナラナム」） 嘗講二徒然草於京師三條大橋一、輦下富豪或服二其高辯一、寄二附花開地一、貞徳乃攜二琴書一移居焉、是夜有レ夢、建二一小祠一稱二花開稲荷社一（奇人談） 堯然入道親王亦賜二方廣寺南地一、自栽二殖花卉一、標曰二柿園一、中造二報恩藏一、納二趙子昂書妙經一千部一（奇人談） 或時、貞徳問三詠歌道於玖山一、玖山對曰、先可レ棄二聯歌一也。雖二道不一レ異、初學者有レ害矣、夫聯歌者、以レ附二前句一爲レ趣、故其辭不二優艶一、通以用二和歌一、是故有レ碍也、和歌者以レ詞爲レ要、雖二口授多一、今更亘二習得一、惟宜三盡流二棄塵埃一、而竢二水之淸一矣、一日幽齋謂曰、歌道行則子亦當二登庸一、貞徳答曰、否我以レ不レ見レ行爲レ幸也、若盛行則大名巨族、多問二學於師一、然則我輩終世、不レ能レ學レ道也、貞徳謂二林永喜一曰、鑒二刀劔一者、有二本阿彌等一、雖レ非二鍛匠一、能識鑑焉、如二和歌一亦然矣、頃間數試、未レ識二其人一、唯所レ得、時世遠近、粗得二鑒定一焉、永喜乃與二道春一撰二取和歌十餘首一、書以視レ之、貞徳斷レ之、頒二其新古一、莫二一所一レ差、（戴恩記） 有二門弟野口親重（號二立圃一） 松江重頼（號二維舟一） 山本西武（號二佐以牟一） 鶏冠井令德、安原正章（號二貞室一） 北村季吟、高瀬梅盛（號二他心子一） 荻野安靜、宮河正由（號二松堅一） 等數人一、（翁草引二俳諧統譜一） ○貞徳有レ子、名遐年、一號二昌三一、又尺五堂一、別號二講習堂一、夙好レ學、師二事藤原肅一、博覽强記、年十八、見二右府秀頼一、講二說大學一、一後游二事加賀守護利常一、異禮待レ之、晩歸二京師一教授、築二春秋館一、教レ徒爲レ業、聲號謠鬱、是時、所司代板

倉頂宗好レ學、素頂ニ昌三ニ、闢ニ春秋館狹小ニ、爲トニ宅地於堀川ニ、名以ニ講習堂ニ、數應ニ頂宗請ニ、說ニ經史及兵書ニ、明曆元年歿、年六十六、有ニ二子ニ、長昌易、居ニ春秋館ニ、仕ニ西洞院ニ、次永三、居ニ講習堂ニ、子孫襲レ業、

（叢語）

藤井博士が江戶文學硏究に「松永貞德の父祖について」と云ふ硏究が載せて有つて、貞德を久秀の孫と云ふことに多數の書が一致してゐるが其では年代が合はぬと攷證してゐられる。今引ける野史には「尙秀」で有つて「久秀」の弟となつてゐる。藤井博士の說を引けばよいので有るが長い文であり、畧しては通じがたいから原書に就て見られたい。何分にも博士の說の如く在來の說には疑ふべき点が有りて猶硏究すべきで有る。

京師黠者家譜、貞德、松永氏幼名勝熊、壯歲薙髮号曰ニ松友ニ軒名ニ逍遊ニ晚年復束髮而著ニ章服ニ自呼曰ニ延陀丸ニ、後号ニ長頭丸ニ云々とある。俳道大系圖には稚名勝熊、勝熊の際ヲカリテ逍遊軒ト云說アリ、俳家奇人談（野史は之等による）及國語學書目解題に出でたる奧書は「逍遙軒」とあるが、底本も圖書館本も奧書は逍遊軒とあり、かつ三條西實隆が逍遙院で有るから、其の遠からぬ流れの末の身では逍遙軒とは号せぬで有らう。やはり京師黠者家譜によるべきで有らう。

本書を讀んで行くと貞德の爲人を知る事も出來る。彼の見識を伺ふに足る点も少くない。其一二を引くと

第九「タキマチ」の條に、先哲ヲモドクニアラズ、タヾ其哥々ノ正義ヲ糺バカリ也、先哲靈魂アリトモ、丸ヲバニクミ給ベカラズ、誤ヲタヾスハ先哲ノ本意ナレバ、カヘリテホメ給ベキカトコソ

と云つてゐる。丁度本居宣長が玉勝間に師の說になづむまじき事と云つたと態度も同じで有つて、學徒の必ず心のうち深く祕め持つべき事の一つで有らう。又卷十に「タラチネ」の條に

丸是ヲ聞テ、人シレヌ泪ヲ催シ侍ル、上古ノ人ノ說ニモアヤマリハアレド、カヤウニゲニモラシクシテ、事外邪ナル說ヲ求出ス師ノ世ニ出デ、愚ナル弟子ヲマドハスコト、末ノ代ノアサマシキ義ナリ、今ヨリ後ニモカヤウノヒガミタル惡知者、名ヲ取テ正理亂ベキ事アルベシ、右ノ說天下ニ人ノ用タル連歌ノ宗匠タリシ人ノ說ナレバ、闇人無明ニ信ヲヽコシテ一生秘藏セラレシ也、コレハ宰予晝イネタリノ本文ヲ以テ、ウタヽネヲ戒シ哥ナレバ何ノ秘事カ侍ベキ

と其當時の學界の弊風を嘆息した、彼が俗學の徒と其撰を異にせる事も十分察知せられる。又卷十一「ソガ菊」の條に

カラノ文ニモ古註ヲ新註ニテスツル例アリ、必古ヲ貴ビ今ノイヤシムベキニアラズ、古註ト云モ皆作者以後ノ推量ナレバ、其哥ノ義ニ不レ叶ヲバ不レ可レ用、マレニカヤウノヨキ新註アリトテ、後人古人ノ智惠ニマサルニハアラズ、古人ノ先一義付タルヲミテ、其ニテ工夫シ出ルコトナレバ、新註ノヨキモ、只古人ノ力トオモフベシ、自慢ヲシテ古賢ヲ愚ニミオトスコトナカレ、云々

とは實に私どもに取つて日々心に銘じて服膺すべき教訓ではあるまいか。顯昭が學問に忠實なるに隨喜の淚をこぼして「ユハダ」の條に

恩ヲシラヌハ畜類ニ同ジ、歌人多ケレドモカヤウノムツカシキコトヲ書トヾメテ、今ノ我等ニ智惠ヲ付給フ顯昭ノ御心根、アリ難事也、大知識也、大仁者也、此道ニ此法橋ホド功忠アル人無之、ヨミ方ニハ定家卿、歌學ニハ顯昭也、此兩人ノ御恩ヲシラヌ好士ハ冥加アルベカラズ、何ニテモ編ヲカレケル書ヲミテ、何トモオモハデ、結句アシキコトアレバ誹謗ヲナス人アリ、心得ヌ事ナリ、ヨクトアシクト書トメテ末代ニシラシメント思心ヲ感ジ、一切ノ物ノ本ヲバイタヾキテミルベキ事也

と云ひ、「白芽子」を「アキハギ」と訓みたるを褒めて「是殊勝ノ說也、顯昭法橋タヾ人ニアラズ」と評したるなど貞德の面目躍如たるを覺える。万葉集が手前にないから見る事が出來ぬので委い事が書かれぬと有るなぞは、今日から見れば、如何に學問をする事が難事で有つたかと云ふ事をしのぶに十分である。以上の如き事は直接に學說を知ると云ふ以外に本書が私どもの經典で有るやうな氣もする。殊に釋日本紀を引ける處を今の木版本に比較して見るに余程すぐれてゐる處が有る。袖中抄等の引用文は原文の通りではないが、其でも今の版本は余程誤脫の多い本で有つて、貞德の用ゐた本がすぐれてゐたと思はれる事も少くはない。

校訂に就てはこゝに申述べて置かねばならぬ事がある。

一、假名遣は凡て元本の通りにして置いた。此時代には無論歷史假名でないのであるが、又前後で異同も有り、是を勝手に直す事も出來ず、やむなく本のまゝにして置いた。殊に上にある「ワ」が「ハ」を用ゐられて有るなぞは讀むのに不便で有るからと思つたが、其も凡て本のまゝにして、改める事はせぬ事にした。

一、萬葉、日本紀等の訓みには無理な点や、寫誤では有るまいかと思はれる点も少なくないが、是は輕々しく改められない。確實に貞徳の訓み方を知る事は今日では出來難い。自筆本でも出て來ぬ限り寫誤たる事を識別するに困難で有る。其で其註なぞで分明なる誤寫は訂正したが其他は本に從ふと云ふ事にした。古今以下のは本も大抵定まつてゐる事で有るから、いちじるき誤は訂したが、其出所を私が知らぬ歌なぞの不明の点が有るのは是れ又本に據るの外はなかつた。袖中抄を始め、其他の書は一々引出して參考にはしたが、然し是れは貞徳が便宜書き變へたと思はれるから、其に據つて直す事は出來ないが、たゞ一字誤寫なぞ出來てゐて意が通ぜぬ時に、其元本に據つて、其誤寫たるを知つて改めた處はかなり有る。

一、提出の詞にゴヂ形の活字を用ゐ、是れは濁点も清点も元本通りにして増減をせぬと云ふ事にした。註の文は大抵に濁点を加へた、あまり讀みづらいからで有る。讀点も加へた。但し註のうちにても°°の濁点は元本に有つたので有る。

一、長い脱落の處を圖書館本で補つた處が有る、其は其の旨を明かにして置いた。底本にはかなり製本上の錯簡が有る、是れは一目瞭然であるから訂正した。

一、帝國圖書館本は三册に合本に成つてゐるが其中卷一册「ヨ」―「テ」は全く別系の本で有つて、本書の校合に參考とならぬ。其がため「ク」の部の脱落を補ふ事が出來ない。今圖書館本によりて「ク部」全部を掲げ卷末に附載する事とした。

一、編者が加へたのは〔○…〕をして明にして置いた。又割注は（ ）印を加へて一行に延した。其他は大抵從來の校訂の次第によつてゐるから、自から明かであらう。

終に底本を貸與せられた山田先生に深謝の意を表する。又長嶋豐太郎君が帝國圖書館に通つて校訂を助け給うた事をも感謝する

昭和六年八月九日校了。　昨日立秋、本年の土用は雨繁くして涼しかりしかば、あつさは是れから殘暑にて味へと云ふやうな太陽がかゞやいて今日も暮れた

正　宗　敦　夫

つい書落したからこゝへ追加する。本書は
一―二。　三―四。　五―八。　九―一二。　一三―一六。　一七―二〇。　二一―二四。　二五―二八。
の八册に合本とせられてある。

歌林樸樕　第一

【イ】

一イシムラ　日本紀崇神此後倭迹迹日百襲姫命大物主神ノ妻トナル、然トモ其神ツネニ夜來テ晝ミエズ、明ルアシタ、我ニミエ給トアレバ我汝ノ櫛ゲニ入居ン、驚給ナトアリ、アケテミ給ヘバ小蛇ノ長大衣紐ノ如ナルアリ、驚テ叫啼、時ニ大神恥テ人ノ形ニナリ、汝不レ忍晋ニ恥ミセツ、我又汝ニハヂミセント、大虚ヲフンテ御諸山ニノボリマス、ヤマトヽヽヒメ仰見テ悔テ箸ニテ陰ヲ撞テ薨ス、大市ニ葬ス、故ニソノ墓ヲ箸ノ御墓ト云、此墓日ハ人作、夜ハ神作、大坂ノ山ノ石ヲ運ブ、人民時人歌之曰

於朋佐介珥(大坂也)　菟藝廼煩例屢(継昇也)　伊辭務邏塢(石村也)　多誤辭珥(手越也、人民得レ手運レ石也)　固佐縻(越也、言不レ越也、恐レ須也)　固辭介氐務介茂(難越也)

歌ノ心ハ、神ノマジリテツキタマハズハツキオホセガタカルベシト也

一イツモタテルカハケルタチ　崇神天皇六十年秋七月詔シテ曰、武日照ノ命(一云武夷鳥又云天夷鳥)天ヨリ將來レル神寶、其出雲ノ大神宮ニアリ、欲レ見焉、遣ニ矢田部ノ造遠祖武諸隅ニ而使レ獻、ソノ時出雲ノ振根ツクシニアリ、其弟飯入根以ニ神寶ヲ弟甘美韓日狹與子鸕濡渟ニ付テ貢上、既而振根還テ何ゾ我ヲ待ザル何恐之乎、輙神寶ヲ許ツルトイカリ、年月ヲ經テモ猶恨怒ル、欺レ弟ヲテ、コノ比止屋ノ淵ニ多ニ萎生タリ、トモニミニユカントテ、

兄木刀ヲ作リハキ共ニ淵沐トハカル、水中ヨリ兄早ク陸ニ上リ、弟ノ佩刀ヲハク、弟モ上リテ兄カ木刀ヲハク
ニ、スケズシテツヰニ殺シ、故時人謌曰
夜句茂多菟（出雲之枕語也）　伊頭毛多鷄流餓（出雲梟帥謂振根也、謂殺レ弟武勇猛悪也、故云猛也、梟帥ハ
賊林之長）　波鷄流多知（佩也）　菟頭邏佐波磨枳（菟頭邏黒葛也、上古以黒葛纏太刀ノ刀之柄也）　佐微那辭珥
成也、佩与レ忘同謌也、言ハ佩刀與ニ偽刀ヲ佩替之由也）　阿波禮
天皇ヨリ振根ヲコロシ給フ（吉備津彦、武渟河別ヲ遣シテ）

一　イナ筵　（日本紀顕宗）　顕宗天皇ハ弘計天皇トモ云、市邊押磐皇子ノ御子也、雄略天皇ニコロサレタマフ、
其時御兄ノ億計王（仁賢天皇）トモ云御兄弟トモニ遁カクレテ方々流牢ナサレ、播磨国ノ司、山部ノ連カ先祖伊与
来目部小楯カモトニ牧ニ牛馬ヲテヲハス、酒宴ノ時小楯擧燭者ニマヘレト云、兄弟相譲、小楯嘖之曰、ナンジ
起事ヲソキ、時ニ億計先舞給、次ニ顕宗起自ニ衣帯ヲ整、為ニ室壽ニ曰
築立稚室葛根、　築立柱者此家長御心之鎮也、　取擧棟梁者此家長ノ御心之林也、　取置椽橑者此家
長ノ御心之齊者也、　取置蘆萑者此家長ノ御心之平也、　取結繩葛者此家長ノ御壽之堅也、　取葺草葉者此
家長ノ御富之餘也、　出雲者新墾新墾之十握稲於（　）之穂か（續紀には無し）於淺甕醸酒美飲喫哉
美飲喫哉　此云ニ于闐羅儞烏野羅甫屢阿俄ニ也
吾子等（子者男子通稱也）　脚日木此傍山ノ牡鹿之角、擧而吾儛者旨酒餌香市不ニ以レ直買ニ手掌ニ憀亮（手掌憀

亮此云陀那則擧許那羅羅佇）　拍上賜吾常世等壽畢乃起レ節歌曰

イナムシロ（稻席也、稻之被レ推二于水一折臥之形、似レ敷レ席故云二稻席一、又曰、飯蚀飢平云、又曰、俗編レ柳作レ席、〔〇爲脫〕乾レ稻之備一、故曰、已上私記之說、或說、羇旅之意也、或說、河底生短草如レ敷レ席、或說、柳之流二于水一、曰二之稻席一）　カハゾヒ柳（河副柳也）　ミヅユケバ（水行也）　ナビキヲシタチ（靡押立也）　ノネハウセズ（其根不レ失也）

九徘書意者、我身雖レ寘二息風一爲レ避レ難、居二住邊裔一喩下岸柳之目靡レ水遂定不レ失二其根一之由上也

小楯大ニ驚再拜シ滿郡民ヲ發遣宮安置京都ニ二王ヲムカヘ給ヒ、白髮天皇ヨロコビタマヒ、朕ニ無子トテ天下ヲユヅリ給フ

万
玉ホコノ道行ツカレイナ筵シキテモ君ヲミンヨシモカナ

コレニシク思ハナキヲ草枕タビニカヘスハイナムシロトヤ　　公實卿

万　長歌ニ

彥星ハ七夕ツメト天地ノ別シトキ由伊奈牟（マヽ）之呂河立向テオモフソラヤスカラナクニ

此「ウシロ」稻筵也、河トツヾケタルハ水ノ下草イナ筵ニ似クリ、古ノ川ゾヒ柳モ水ニ移カゲノイナ筵ニ似タル故ナリ。又能因歌枕ニ、ミナムシロトハ、水下ナル石也、顯昭ノ說ニ田舍ヲ云、イネヲ席ニシク故ナリ

一イタツキ　　万
ツグミト云鳥ヲカクシテヨム

サク花ニ思ツクミノアヂキナク身ニイタヅキノイルモシラズテ

種々ノ説アレドモワヅラヒノ心也、勞ヲイタヅカハシトヨム

一イハカネ

石金ノコリシクヤマニ入ソメテ山イツカシミイネガテニカモ

顯昭云、磐金トモ書、イハネコリシキ、凝敷ト書　又

神サブル磐根コリシクミヨシノヽ水ワケヤマヲミレバカナシモ

イハネ。イハカネ、同事ナリ。童蒙抄云、磐金トカケリ、物二也トアレド、石金トカキタルニヨリテ二ツト釋

セリ、不レ可レ用

一イツテフネ

サキモリノ堀江コギマフイツテ船カヂトルマナク戀ハシゲヽン

万葉ニ、伊豆手船ト書ク日本紀第十五應神五年十月ニ伊豆國ニ長十丈ノ船ヲ作ソメラル、試ニ海ニ浮ブ、カロ

ク浮テトク行コトハシルガ如シ、故ニ其名ヲ枯野ト云、輕野トハ後ノ人ノ訛ナリ、同卅一年八月官船枯野朽テ

用ニタヘズ、其船材ヲ薪トシテ塩ヲヤカシム、五百篭ノ塩ヲ得タリ、則諸國ニ賜テ舟ヲ作ラシム、初枯野ヲ薪

ニセシ日餘燼アリ、其モエザルヲアヤシミ天皇ニ献ズ、琴作ラシム　又万葉ニ

ホリ江コグ伊豆手ノ舟ノ梶ツクメオトシバタチヌミヲハヤミカモ

是ハ家持ガ越中ニテノ歌ナリ、必ズ伊豆ナラネドモイヅクニテモヨムトミエタリ

丸案ニ、吾朝ノ舟ハ、伊豆ヨリ此時作ゾメシトアリ、不審、應神五年以前ニ三韓セメニ行シ時モ船アリ、其外日本紀神代ニモ舟ノ沙汰アリ、但此伊豆手船ノ作ヤウ、モト・カハリテ珍カリシヲ以テ始ト云歟、奥義抄ニ、舟コグモノヲバイク手ト云也、片方ニ一人ヅ・合テ二人ヲ一手ト云ナリ、イヅテ舟ハ十人シテコグ舟也。和語抄ニ、イヅテ舟ハ、カヂロニロ四アル舟ヲ云ナリ。顯昭云、一手トハ二人ヲ云也、和語ノ義イハレズ、クマノ、モロ手舟ト云舟有、但舟ノ大小ニ隨テロヲバタツルニ、二手三手四手トハイハズシテ、五手トシモヨメルモ如何、万葉ニハ八梶カケトヨム、カヂトハイヘドロヲヨメリ、ソレハ多カル數ヲトリテ八ト云也、梶ハトリカヂ・ヲモカヂトテ、二ニハ不過モノ也、但梶ハ二ツナレドモ、八ハ陰ノ數ノ多カルナリ、サテ八十・八百ナドヨメリ、五ハ陽ノ數多カル也、サテ五百・五十ナドヨメルナリ、サレバ五手ハ多カル數ナリ

丸案ニ八梶ノ説サモ侍ベシ、五手ノ説不信用、日本紀ホトナル委本説アルベカラズ、舟ハソレヨリ先キカラアルベケレド、日出度御時作リ出サレテ、カロク浮テハシリシ枯野ノ例ニナゾラヘテ、其以後ノ舟ヲバ皆伊豆手舟トイヅクニテモ名付タルトミエタリ、サレバツノ字濁テヨムベシ

一イナフネ

　モガミ河ノボレハ下ルイナブネノイナニハアラズコノ月バカリ

顯昭云、稻ツミタル舟也、モガミ河ハ出羽國最上ノ郡ニアリ、ソコヨリ流タレバモガミ河ト云也、郡々ノモノ

ヲツミテ船ニ納レバ、稲ヲモツムナリ、郡々ノ稲舟多ケレバ上リ下ルコト數ヲシラズ、否ヲイハントテ稲舟ト
ハ云ナリ、　顯季ノ歌ニ

　鴫ノフスカリ田ニタテルイナクキノイナトハ人ノイハズモアラナン

此類也、是ヲ最上河ノ早ケレバノボレドモエノボラデ下ルト云説不レ用、一舟ノ事ニミルハアシ、、此河ハ出羽
ヨリ奧州ヘ流タリ、又舟ノ頭ヲフルニヨリ「イナ」ト云説不レ可レ用【書入〔〕私曰、舟多クテノボル舟有又下ル舟
アリテカズ〳〵ナルヲ云歟〕無名抄ニハ、此河出雲國也、早川ニテ上ルニハ四五日、下レバ只一日トアリ
丸案ニ、俊頼ハ出羽ヲ出雲ト書タガヘタル本ニテミチガヘタマフトミエタリ、奧義抄云、イナ舟ハ頭ヲフルト
云古義ヲヒケリ、出羽住人申シハ、彼河スベテ早事ナシ、只クラマノ七マガリノ坂ノヤウニ、トカクヒヂオリ
テ流タレバ、上ル舟ノ又下ルヤウニ、ヨソニテハミユルナリト申セドモ。後撰ニ

　モガミ河フカキニアヘズイナブネノ心カロクモカヘリケル哉

敎長卿云、モガミ河ハ、コノ比キタ川ト彼國ニ申

一　イサヤ河

　近江路ノ鳥籠ノヤマナル不知哉河氣ノコロ〳〵ハ戀ツ、モアラシ〔(マヽ)〇ンか〕

顯昭云、トコノ山・イサヤ河、トモニ在二近江一、又万葉ニ

　狗上ノ鳥籠ノヤマナル不知哉河不知二五寸許瀨ワガナ告奈

而　後拾遺序云。近江ノイサラ河イサ、カニ此集ヲエラベリ云ヽ、古今畧本ニアメノミカドノアフミノ采女ニ
給ケル

イヌガミノトコノ山ナルイサラ河イサトコタヘヨワガナモラスナ

采女御返事

山科ノヲトバノヤマノ音ニダニ人ノシルベクワガ戀メヤモ

此犬上ノトコノヤマノ哥ハ、万葉ノ、イサヤ河ノ歌ナリ、尤不審ナリ、萬葉ニイサヤ河トアレバ、イサラ川ト云ベカラズ、犬上モ江州ナリ。日本紀ニ「潦水」ト書テ「イサラ」水トヨム、雨ノフルトキ川ニアル水也、又古歌ニ

我門ノイサラヲ川ノマシ水ノマシテゾ思フ君ヒトリヲバ

和語抄云、イサラヲ川トハヤリ水也、マシ水ハヨク出ルナリ、又眞清キ水也、綺語抄云、イサラヲ川ハ人ノ不知事也、夕立ナドニ庭ノ水マサリテ門ヨリ出ルヲ云、ソレヲ此比ノ歌仙、イヌガミヤ我名モラスナト云歌ノ、イサラヲ川也トアリ(○有誤)ケルヲ人々ワラハルトカヤ、是ハイサヤ小川也。童蒙抄云、大和ニ絲川ト云アリ「韋尒」ト書テ「イサナミ」トヨム故ナリ。顯昭云、我門ノイサラヲ川ノマシ水ノ歌ヲバ垣根行イサラ小河トモカケリ、此イサラ小河ヲ、日本紀ノイサラ水ト同躰ニ心得テ、綺語抄ニハ釋スル歟、其別事ナリ、万葉ノ床ノ山ナルイサラ川トイヘルニ付テ、後拾遺序ニハ、近江ノイサラ河トハ書歟、マギレヌコト也。但能因歌枕ニ、近江ニイサラ河、イサヤ河トモニ上タリ、不審ナリ、万葉ト古今ト共ニ上ル歟、古今歌ハヤガテ萬葉ノ狗上ノ哥ナ

レバ不レ可レ用者ナリ、大和綵河ハ別事也、同是ニ不レ可レ入丸案ニ、イサヤ河・イサラ河、國モ江州、所モ犬上ナレバ同河ノ名ナルベケレド、万葉ニハ「イサヤ」ト入、古今ニハ「イサラ」トカヘテ入ヲ、能因面々ニ近江ニ入ル上ハ、同國ノ同所ニ少ノ云カヘニテ河二ツアリト思フベシ、又イサラ小川ト小ノ字入ルハ、僅ニナガル、雨後ノ川也、モトヨリ大和ノ綵川ハ別也ト知ベシ、カヤウニワケテヲカズハ後學ノマドフベキト作恐加卑詞而已

一イミジキ　也足說ニ「シ」字清。但イミジクオボエシカト云コト、ツレ〴〵草ニアリ、「シ」ヲ濁テヨミタマフ後ニ問侍レバ濁モ不苦云云

一庵主（イホスン）　增基ノ集ノ名ナリ

一イデハノクニ　出羽國

一イリチトリ　居ニ鳥鵆、（集ノ字ノ心也）古歌能因ガ記ニ
コヨヒコソ淵ノ河ニイリチトリノ鳴テゾカヘルト人ハシラズヤ（入心モアリ）

一イハ千鳥　アヤナ鳴ネハ何故ゾナカスノハマノナカズ待ケン
岩千鳥ハ、チドリノ名ナリ

一イナ枕　稻枕歟

一イカニセン　初五文字ニハ是ナリ

一イカヽセン　中ノ五文字、又下句ニハ是也、タトヘバ

今サラニスミヨシトテモイカヽセンナダノシホヤノ夕暮ノ空

一イサヨフ　ヤスラウ心モアリ、十六夜ノ月ヲイサヨヒノ月ト云モ、十五夜ヨリ少ヲソクヤスラヒテ出カヌル義也、イサヨフ波モ、ヤスラウ心ナリ。又

人ナラバ都ニミマシ宮木ノヽ萩ヲイサヨフ秋ノ夕カゼ

是ハイサナフニヒトシ、サソフ心ナリ

一イツテ舟　船ハ伊豆ノ足柄山ノ柏木ヲ以作始ニヨル、此時ハ「ツ」ノ字「テ」ノ字濁、又五人ヅヽ、廿五人シテヲス早舟ノコト也、此時ハ清ナリ、又舟ハ帆、檣、綱、イカリ、櫓・械ノ五色ニテ行ニヨリ五手ト云

丸案ニ此五色ノ説不可然

一イカテ　ト云詞ニ　ネガヒタル心アリ

便アラバイカデ都ニ告ヤランケフ白河ノ関ハコエヌト

一イザヽメ　カリソメノ心也

一イソノマユ

イソノマユタギツ山河タエズアラバ又モアヒミン秋カタマケテ

間由ナリ、万葉ニ「ヨリ」ト云義アルヤラント云ニハ皆由ノ字ヲ書リ。顯昭奇妙ノ説ナリ

コモリヌノシタ出コヒアマリ白浪ノイチジロク出ヌ人ノ知ベク

郭公イトフ時ナシアヤメ草カヅラニキンモ〔〇ヒの誤〕許(マヽ)由ナキワタル

ケユナキワタレハ、心ヨリナケ也、「ケ」ハ氣歟

一イソノカミフル

石上フルノ中道中々ニミズバ戀シト思ハマシカバ

昔女ノ布ヲ洗ニ劔ノ流カ万ノ物ヲ皆切ヤブルニ此布ニマツハリテトマル、此社ニ祝テ布留ト云ナリ、又社ナラネドタ、フルト云詞ニハ、コレヨリ「イソノカミ」トツヾクルナリ。奧義抄ニハ、彼社世ハジマリノ所ナレバ、只古コトニヨセテモ云ニヤ、此義如何、又後撰ニ

イソノカミナラノミヤコノハジメヨリフリニケルトハミユル衣カ

ナラト、石上ハ遙ニノキタリ、アヤシキニ古今ノ詞ニナラノイソノカミ寺ニテ郭公ノナクヲヨメル素性

石上フルキミヤコノ郭公聲バカリコソ昔ナリケレ

フルキミヤコトハナラ也、石上トマヂカキヤウニヨメリ、詞ニモナラノイソノカミ寺トアリ、素性ハイソノカミノ良因院ニ住バ、ナラノ遠事ハ知テ侍ケン、只ナラノ京ハ故郷ナリ、此京ニウツリテ後ハ、ソノアタリノ所所ヲバナラト云ヤ、タトヘバ此京ノ外ヲモ山城ノ内ナレバ、京ヘノボルト云心ニヤ、此皆顯昭ノ說ナリ、尤聞事ナリ、後撰ノ哥ハ衣ノ古キヲイハントテ石上トヲキ、又ナラノミヤコモ時過タル京ナレバ、一所ヘヨセテヨ

ミタルトシラル、ナラノイソノカミ寺ゾ不審ナレド、此判同ノ義ニテ一理スミ侍、若奈良ニイソノカミ寺ト云寺ノアリツルヤラン、布留ニアル寺ノ末寺ナドアリシニヤ

一イモセノヤマ

ナガレテハイモセノヤマノ中ニオツルヨシノヽ河ノヨシヤ世間

顯昭云、紀州ニアリ、昔イモトセウトヽ河ヲ隔テ中ノ堺ヲ論ズ、遂ニイモカチテ、セノ山ノ方近ク堀テ吉野河ヲナガスト云リ、又土民說ニ、イモノヤマヽセノヤマノ中ニ小山アリ、ソレヲ「イモセ山」ト云

セノヤマニタヾニムカヘルイモノヤマ事ユルスカモウチハシワタル

是ヤ此大和ニシテハ我コフルキヂニアリトイフ名ニオフセノヤマ

ワギモコニ我コヒユケバトモシクモナラビヰシカモ妹與勢ノ山

コレラノ心ナラバ、イモノ山・セノ山別歟

オホナムチスクナミ神ノ作タルイモセノヤマヲミレバトモ(シヨ)ジモ

是ハ夫婦ニヨセタリ

木道ニコソ妹山アリトイヘ櫛上ノ二上山モ妹コソアリケレ

(後)ムツマジキイモセノヤマノ中ニサヘヘダツル雲ノハレズモアルカナ

(拾)ムツマジキイモセノヤマトシラネバヤタツ秋霧ノ中ヲヘダツル

一イハツナ

イハツナノ又ワカヘツ、アヲニヨシナラノ都ヲ又モミンカモ

顯昭云、ツナハ何事ニモヨム、木ツナ・竹ツナモアレバ、石ツナモ、ツヨク久心歟、又イホツナ歟、「ハ」ト「ホ」ト五音也

アメニハモ五百都綱ハフ万代ニ國シラレントイホツ、ナハフ

コレハ多カル心ナリ、ソレヲ略而、イハツナト云歟、又石ハトキハノモノ、「ツネ」ト云ヲ「ツナ」ト云歟、同音ナリ

丸案ニ、右ノ歌ノ心註セネバ此ツナ何事トモシラレズ、若天ノ星ヲ分ツコトニ分野ノ圖ト云モノアレバ、天ニモ國ワリアル也、地ヲモワルニハ綱ヲ張コトアリ、サレバナラノミヤコノアレハテタルモ、又ナハバリシテ都トナランヲ、ワカヤギテミントナリ

一イハシロノ松

イハシロノ野中ニタテルムスビマツ心モトケズ昔思ヘバ

顯昭云、紀伊ニ有所名也、結松ハ孝德ノ王子ニ有間皇子齊明御宇彼所ニオハシテ自傷結松枝

岩代ノハマ松ガ枝ヲヒキムスビ眞幸アラバ又カヘリコン

此歌ヨリ事ヲコレリ、文武紀伊ニ幸時　人丸

後ミント君ガムスベル岩代ノ小松ガウレヲ又ミケンカモ

無名抄云、結松ノ心ハ手向ト云同事ナリ、松葉ヲ結テコレガトケザラン先ニカヘリコントチカヒムスブ也、サテマサシクアラバトヨムナリ

　白浪ノハマ松ガエノ手向草イク代マデニカ年ノヘヌラン

松ヲムスビテ時ニ隨テ花ヲモ紅葉ヲモ折テ手向ナリ、手向草トハ是等申也。私云、此歌ハ幸紀伊之時、河島皇子ノ歌也、手向草ト書タルヲ礼部ノ本ニハスマヒ草トヨメリ、テムカフト云義ニテ也、心ヨカラズ。神樂ニ

　ミヅガキノ神ノ御代ヨリ篠ノ葉ヲタブサニ取テアソビケラシモ

是手草歟、古語拾遺、以二竹葉、飯憩木葉一爲二手草一今多久佐シカレバ手向草ハ此手草歟。俊頼

　手向草シゲキ濱江ノソナレ松代ニヒサシキモ君ガタメトゾ

無名抄云、近來ノ人ハ石代ト云所ノ有トハシラデ失タル人ノ墓也、結松ハシルシニウエタル木也、サレバ祝ノ所ニテハヨムマジキト云ハ僻事也、後冷泉院御時永承四年十一月九日歌合ニ左能因

　春日ヤマイハネノ松ハ君ガタメチトセノミカハ万代ゾヘン

右資仲辨

　昔代ノ尾上ノ風ニ年フレド松ノミドリハカハラザリケリ

是ヲ大二條關白殿判者ノ定申サレヌ、先ニ春日山トヨマレタラン哥ハイカヾマクベキ、沙汰ニモ及マジト申サセタマヒケレバ、サルコト・テ又サタスル人モナクテヤミニケリ、後ニ人ノカタブキケレバ、ヨウモシラヌ事

ヲ云ナリトゾ、作者申サレケル、其人ノ子細皆宰相申サレシ、石代ノ松ハイミアルコト也ト云ケルヲ聞テ、彼石代ノ事ヲオロ聞テヨクモシラズ、人ノ云ナメリトゾ、此歌ヨミタル資仲ノ子ニテ、腹ダヽレシナメリ、石代ノ歌ハウセタル人ノ墓ノ義ニハ非ドモ、有馬王子ノ位ニツキタマフベキカコレヲ思ヘバ哥合ニハヨマデモアリヌベシ、イト目出シトモキコエズトコソ申サマホシカリシカ、一説、住吉ニ岩代ト云所アリト云リ

綺語抄云、岡本天皇ノ(一)皇子說カヽ物ニ狂テ結置給云〻、此事皆以無證據事ナリ、齊明天皇四年戊午十月攝津國温泉ニ幸シテ有間皇子謀反被誅於岩代結松葉之義與住吉ノ義有ヘカラズ云〻不吉之条勿論歟、彼皇子後ニ謀反シテ被誅事内裏ノ歌合ニ有ベカラズ歟、シカラバ只高砂ノ尾上ノ風ニ年フレド、テモアリヌベシ。又万葉ニ家持歌

ヤチクサノ花ハウツロフトキハナル松ノサ枝ヲ我ハムハ゜ス

此歌ハ石代ナラネド松ヲ結トヨメリ

丸案ニ、結松ハ云ニ不及岩代ノ松トバカリモ内裏ナドニテハヨムベカラズ、サレドモ別ノ所ニテハ更忌ベカラザル歟、アル相傳ニ結トサヘヨマネバ岩代ノ松ハ不苦トイヘド、スデニ資仲ノ哥ニ結トナケレド、此センサクアル上ハ、雲食ニツヽシヲイムタメシニ、祝歌ニハ岩代ノ松バカリモ無用也、又松ヲ結テソレニ花紅葉ヲ手向トアルモ心エヌ事ナリ、シカラバ其花紅葉ヲ手向草ト云ニヤ、松ハ神ニテモアラヌニ、手向ケシモ如何、シカレバ無名抄ノ結松ト手向草ト同事トアルモイハレザル歟、白浪ノ濱松ガ枝ノ哥トハ別ノ事ナルベシ、有間皇子

ノハ松ノ梢ヲ結タマヘルトコソアルニ、ソレニ手向草ト一トハワケキコエズ、又松ノ葉ヲ結トアルモイハレズ、其時ノハ枝ナリ、此註ハ書ソコナヒ歟、松ニカキラズ、花紅葉ノ枝ヲモ結ト云コトナルベシ、ソレヲ手向草トモ云ト云事ナルベシ、ソレニテハ無二不審一也、此松ヲムスビタマヒシコト、有間皇子ニモガギラズ、家持ノ歌ニモアル上ハ只今了見スルニ、カラニハ旅ヘ行人ニ環ノ玉ヲヤル、此輪ノ如クヤガテカエラレヨト云義ナリ、サレバ其カハリニ關送ニ柳ヲ折ト云モ、柳條ヲワガンヌト云詩ノ心ナリ、サレバ柳ニカギラズ、昔ハ木ノ枝ヲ丸ク結テ旅ヘ立シトミエタリ、皇子モ此心ニテ石代ノ松ヲバ結タマフナルベシ、此古事ニアハセネバ家持ガ哥モ　何事ニ松ヲ結タリトモシラレズ、又手向草ト同事ト云註モサモアルベシト思ヘバ、白浪ノ歌ノ手向草モ松ノ枝ヲ結タルヲ云トヨクシラレ侍ル、此濱松ガ枝ノ手向草、昔ヨリシレヌ事ニテ種々ノ說アリ、和歌ノ難義ナレドモ今ノ愚案ニテ、何ノ無レ疑歟、又事ノ次ニ申候、手向ト云詞神ニハアリ、佛ニハ未レ聞、或人云、宗祇ノ發句ニ佛ニ手向トセラレシト云々、縱其句アリトモ無レ證歌ハ和歌ニハ不レ可レ用、佛ノ事ニヨマヌ道理至極セリ、古語拾遺ノ多久佐ノ詞ヨリハジマレバ也

一イツシバ゜ヽラ

　道ノヘノ五柴原ノイツモ〳〵ヒルノユルサンコトヲシマタン

顯昭云、五シバヽラハ、道ノホトリノ柴原ト云ナリ、世俗ノ說ニモイチシバヽ柴ト云是也。又歌ニ

　大原ノ此市柴ノイツシカト我思フイモニコヨヒアヘルカモ

イツシバヽ、市柴同事也、「チ」ト「ツ」ト同音ナリ

　御狩スルカリ場ノヲノヽカシハ木ノナレハマサラデ戀ゾマサレル

或本ニハ狩場ノヲノ、櫟柴ノト云、イチシバヽ、イチイシバ也、六帖ニ芝部ニ入タリ、僻事歟、此歌ヲバ常ニハカリバノヲノヽ榛柴ノトイヘリ

丸案ニ、御カリスル歌ハ、柏木ヨリモ、市柴ヨリモ、榛柴マサル歟、サテコソナレハマサラデトツヽキ侍レ、道ノヘノ五柴ハラヲタヽ柴原トバカリニテハ五ノ字心ユカズ、モシ市ヘ出ル柴ナラバ原キコエズ、只コレハ櫟柴原ナルベシ

一イサヨフ月

　山ノハニ不知夜歷月ヲ將出(イデン)カト待ツヽヲルニヨゾ更ニケル

顯昭云、ヤスラフ心ナリ、サレバスデニ出タル月ノ立ノボリヤラヌヲモ、又出ヤラヌヲモ云ベシ、一方ニ付テ論ヲイタス人アリ、イガヽトキコユ

　ヤマノハニイサヨフ月ヲイツトイモ〔○ルカトか〕ワガマチヲランヨハフケニケリ

　山ノハニ不知世經月ノ出ンカド我待君ニヨハフケニツヽ

六帖

　ヤマノハニイデズイサヨフ月マツト人ニハイヒテ君待ワレヲ

コレハ万葉ニ

悪日來ノヤマヨリイヅル月マツト人ニハイヒテイモ待ワレヲ

此歌拾遺ニハ君ヲコソマテト書リ

新撰

ヤマノハニイサヨフ月ヲトヾメヲキテイクヨミテカハアクトキノアラン

綺語抄云、山ノハヨリサシイヅル月ヲ云、又月ハ日ナミニ隨テ其名カハレリ、始ニハ三日月、七八日ハカミノ弓ハリ、十五日ハモチ月、十六日ハイサヨヒ、十七日ハタチマチ、十八日ヲ居待、十九日ハネマチ、廿日ハハツカノ月、廿二三日ヲハシモノ弓ハリ、下旬ヲハヲシナベテ在明、大方ハ十五日ヨリ、月イラヌサキニ夜ノアクルヲ在明ノ月ト云ベケレド、委クイヘバ廿日ノ後ヲ云ベキニヤ、上絃下絃ハ半月ナリ、ツルカケタル弓ノ如シ、一方曲、一方直也、十六日ヲイサヨヒト云ハ、望ノ後、立待ノ先ニイヅルホドヲヤスラフト云、コヽロ望月ヨリハ少ヲソキコヽロナリ、人ヲイサナフト云詞也。童蒙抄云、十六日ノ月ヲ云ナリ、サレバ待トテ夜モ少更ベシ、本集ニハ不知夜ト書ハ、夜ヲシラデトク出ルカトミユルヲ、不知ト云ハ、イサト云コトナレバカク書ルナルベシ

丸云、此不知ト云ハイザト云コトナレバトアル書アヤマリ歟

今云、本集トハ万葉ニヤ、山ノハヨリ不知夜歷月トコソ書タレ、十六日ヲイサヨヒトヨム歌ニハアラズ、則義

抄云、古今ニ

　君ヤコン我ヤユカンノイサヨヒニマキノ板ドモサヽズネニケリ

イサヨヒハ伴心也、ト或物ニ申タレド、ソレハ別ナリ、ヤスラフコヽロ也、イサヨフ月ナドヨムモ、月代アカリテ出モヤラヌホドヲ云也。万葉挽歌ニ

　カクレヌノハツセノヤマノ山ギハニイサヨフ雲ハイモニカアルラン

是モヤスラフ心也、カヤウノ事ハ、閑ハ同テ心ハカハル常ノコト也、追考、凡如此類多也

　ヒトネロニイハルモノカラアヲネロニイサヨフ雲ノヨソリヅマハモ

或本ニハ、タナビク雲トアリ、雖然又同集ニ

　アヲネロニタナビク雲ノイサヨヒニモノヲゾオモフ年ノ此比

丸昔明親ノ自筆ノ書ニイ°サヨヒノ月ト「サ」ノ字ニ淸ルシヤウヲ付給タルヲミ侍リ、是ハ万葉ニ不知ト書タルニヨリ、イサシラヌト云義ニテイ°サトハアヤマレリト思タマヘル歟、尤面白シ、サレドモ、イ°サヨフ月・イサヨフ雲浪ナドヲ、イ°サトスミテモアシカルベシ、万葉ノ不知ノ字ハ濁ベキ義ナケレドモ、イサヨフト云詞ノ心ハ、サソヒヤスラフ心アレバ、心ノツヨキニ随テ濁テヨムベキ歟、ヲソキヲバイ°サト必サソフモノナル故也、ヨフハタヽヨフ等ノ類也、十六夜ノ月ヲ、イサヨヒノ月ト云モ、十五夜ヨリ少ヲソク出ル故ト云義ハ明也、シカリトテ、イサヨフ月トアル歌ヲ皆十六夜ト思フハワルシ、哥ニヨリテソレ〳〵ニキクベシ、此義皆イサヨフ・イサ

ナフ同詞ト心ウルニヨリテ也、但明魏ノ説ヲ信ジテフカク思フニ　イサヨヒ・イサヨフハ、イサナフト云詞ノ類ニアラズ、万葉ニ、イサヨフ月ト云ニ不知ト云文字アレバ、上代ニハサ文字スミテヨミタルトミエタリ、誘引ノ心ニイサト濁ル詞ナラバ不知ト書ベカラズ、イサヨフト云詞ハ十六夜ノ月ヨリヲコリタル詞ナルベシ、然レバ十五夜ヨリスコシハヲソケレバ、明テモ少遅入月ノアカキニヨリテクラキ間ナケレバ、夜ト云コトハイサシラヌト云義ニテ、十六夜ヲイサヨヒト云ヨリ、少ヲソキヿヲモ、ヤスラフ心モ、タ丶ヨフ心モ、皆イサヨフト云トミエタリ。サルニヨリテ、イサヨフ浪・イサヨフ雲・イヅレモヤスラフ心ニアレドモサソフ義ハナシ、此道理ヲシラデ云ツケ、聞ツケテイサナフ心アルヤウニオボユルニヨリテ、イサヨフト濁ルナリ、万葉ノ正字ヲケガスベキニアラネバ自今以後ハ淸テヨムベシ、過テハ改ニ憚コトナカレトハ聖ノ御詞ナリ、明魏ハ南帝ノ臣下大才ノ人、和歌ノ上手ナリ、耕雲トモ申セシ人也【書入〇日本紀ヲミルニ　イザト云誘心ニ云時ハ伊弉ト書リ】丸ガミタル本ハ紀伊國中納言サマノ御内ノ戸田藤左衛門尉所ニ在歟

一イシフミ

石文ノケフノホソ布ハツ〳〵ニアヒミテモ猶アカヌケモ【〇サか】哉

顕昭云、陸奥ニアリ、田村將軍征夷ノ時、弓ノハズニテ石ノ面ニ日本ノ中央ノ由ヲ書付タレバ石文ト云リ、信家侍従ノ申セシハ、石ノ面長サ四五丈計ナルニ、文ヲヱリ付タリ、其所ヲツボト云ナリ。私ニ曰、奥州ハ東ノハテトオモヘドモヱゾガシマハ多テ千嶋トモ云ヘバ、陸地ヲイハンニ日本ニ中央ニコソ

一イヤトシノハ

　フセノ海ノ沖ツ白浪アリガヨヒイヤトシノハニミツ、シノバン

顯昭云、年ノ始也、イヤハ彌也。万葉ニ

　年ノハニ春ノキタラバカクシコソ梅ヲカザシテタノシクノマメ

　毎年ニキナクモノユヘ郭公キケバシヌバクアフ〔○ハヌヒ〕ヲオホエ〔○ミ〕　如本

毎年謂ニ之等（コレヲ）之乃波ニ然バイヤトシニト可讀歟、万葉多ハ彌年ト書リ

丸云、右ノ註如何、毎年ノ字謂ニ之等之乃波ニトアルハ、万葉ノ抄、公案ノ註トミエタリ、シカレバ毎年ト書テ、トシノハトヨムコト必定也、「トシノハ」ヲ年ノ始トイハントスレバ郭公ノ歌ニ相違ス、案之ニ、トシノハヲ、トシノ始ト云ハアヤマリナリ、タヾ年ゴトニト云コトナルベシ、シカルニ毎年ヲトシノハト云詞ノヲコリ、始ニアラズシテハ何故トシノハト思フニ、此「ハ」ノ字ハ端ノ字ナルベシ、一年〳〵ノ端アリ、タトヘバ稍布ヲ一端二端ト云ガ如シ、トシモ一年二年ト別々ニカゾフルモノナレバ、毎年「トシノハ」トヨム歟

一イナオホセ鳥

　我門ニイナオホセドリノナクナベニケサ吹カゼニカリハキニケリ

顯昭云、古今ヨミ人シラズノ哥ナリ、又忠峯

　ヤマ田守秋ノカリ庵ニヲク露ハイナオホセ鳥ノナミダナリケリ

此歌ハ菅家万葉集ニ「泪ナルラシ」ト入リ。綺語抄云、庭タヽキ也。俊語抄云、山田ニ夜ヤ曉ニナク鳥也。無名抄云、庭タヽキナメリト云人アリ、ヲシハカリナメリ、此庭タヽキハ、トツキヲシエドリトゾ申ナル、ソレニ付テ心有歟

アフコトヲイナオホセドリノヲシエズハ人ハ戀ヂニマドハザラマシ

此歌ヲ思アハスルナメリ、雀ト申人アレド、雀ハ常ニアル鳥ナレバ今始テナクナベニナド驚ベキコトニモアラズ、奥義抄ニモ、古今サマ〴〵ニヨメリ、或ハ秋田ニヲシハム鳥ナリ。或ハ秋立クル由アリ、俊子哥ニハ

サヨ更テ稻オホセ鳥ノナキケルヲ君ガタヽクト思ヒケルカナ

又逢事ヲ敎トモアリ、就之庭タヽキト申人モアレドモ、本草和名・兼名苑ナド云文コソハ万ノモノヽ異名カタチヲサヘアカシタルニ、ミエタルコトモナシ、又順和名ニハ庭タヽキヲバ鶺鴒・鶺鴒ナド書テ註云日本紀云、トツキヲシエ鳥トカケリ、又別ニ稻負鳥ト書テ註ニソノヨミ、イナオホセ鳥ト書テ萬葉ヲ引文ニ出シタレバコト鳥トミエタリ、順シラザランヤハ、但此古哥ニテハ庭タヽキトゾミエ侍レドモ、順ガ不弁コトヲ今ノ世ニ定メガタシ。私記日本紀云、陰神先唱曰、善哉善小男、時以陰神先言故爲不祥更復改巡、則陽神唱曰、善哉善小女、遂將合交而不知其術、時有鶺鴒飛來搖其首尾二神見而學之、即得交道、同紀公望私記云、鶺鴒師說ツヽ[〇マ脱カ]ナハシラ。或說トツキヲシユ鳥、又說ニハクナブリ、安氏說ツヽナハセ鳥、案之ニ、ニハタヽキト云ツベシ、然ニ本歌二首ハ古今ニ入、アフコトヲ致ル哥ハ不知ニ定說之上　順和名序云、或擧類聚國史・

万葉集。三代集等所レ用之假字ニ水獣有ニ葦鹿之名一山鳥有ニ稲負之号一野草之中女郎花海石之属於同葉等兼也云々一又私云、日本琴（ヤマトコト）万葉云俗用ニ倭琴字ニ云万葉云、海人（アマ）万葉喚子鳥（ヨブコドリ）万葉集歟云稲負鳥（イナオホセドリ）新撰万葉詩云女郎花和哥云女倍之、「〇以上原本亂レタリ袖中抄ニヨリテ訂ス」今云此物名并字引萬葉中ニ稲負鳥入ニ青家万葉ニ、然バ侍タ、キト云義ハアルベカラズ、喚子鳥モ侍出ニ万葉ニ、是ハ何鳥ノ實名ト尋コトヤハ侍、只イナオホセ鳥トテ秋来テ夜秋田ニナク鳥ニテコソ侍ラメ、以上袖中抄

歌林樸樕第一巻畢

【ハ】

一ハナヺゴ゚メキ、　コノ字濁

一ハクヤウニイハク　百詠ニ云也

一鳩ノウツラ　鷹ニトラレヌ鶉ノ有事也、ハトノキヾス同前

一斎鳥　只春ノ鳥ナリ

一ハイリノコヤ　ハヒ入也、ヒキ、家ナリ

ヤマカツノハイリニタテル青柳ノミドリノイロハミレドアカヌカモ

山ガツノハイリノ竹ノ下葉ヨリカヨヒテナビク野田ノウス雪

ハイリニハ植物ヲ結テヨムベシ

丸案ニ、必植物ヲ結テヨムベキヤウニ古人ノ說ナレドモ、一涯ニサヤウニ心得テムスバヌ人ノ歌ヲ難ベカラズ、是モ彼最中ヲ薄ニヨセテヨムト云說ト等カルベシ、水邊ナラデモヨム也

一ハツセメ　爲家云、ムサトハ不レ可レ詠。宗祇云、初瀨山ニアル女也

一ハシキヤシ　顯云、「ヨシ」ト云心ナリ、又「ハシキ」トモ同ジ、又「ハシケヤシ」、喜撰式云、ハシケヤシ

ハ女ヲ云、無名抄・綺語抄・奥義抄、皆女ヲ云、俊頼歌

ハシケヤシナレコソサソヘイナワレハミタノミクニヲコノモシミ思フ

清輔、顕昭万葉ノ哥ドモカキタテ、奥義抄ノ、男ヲバ「ヨシエヤシ」女ヲバ、ハシケヤシ」ト云義ニ不叶、何ノ書ヨリ出タリト論ジタレバ、男ハ「セナ」女ハ「ワギモゴ」ト書ナヲサレシガ、世ニアル本ハモトノヤウナレハイヽガト袖中抄ニアリ。万葉云、

ハシキヨシトハ、帝ノモトヘ人ノ參ヲ云ナリ

今案ニ、朝參ト書テ、ハシキヨシトヨミタレバ、朝家ニツカフルヨキコトナレバ、ハシキヨシトヨメル也云〻

ハシケヤシツマモコドモ、タカ〴〵ニマツラン君ヤシマガクレヌル

ハシケヤシマヂカキ里ヲ雲居ニヤ戀ツ、ヲラン月モヘナクニ

ハシキヨシカクノミカラニシタヒコシイモカコ、ロノスベテスベナキ

ハシキヨシ君ガ姿ヲミスヒマニヒナニシスメバアレコヒニケリ

長歌ニ

●ヲ［○ハか］シケヤシ家ヲハナレテ　トモアリ

右万葉ノ歌ドモニテ可ニ分別一、日本紀第七、景行天皇、日向國ニテ京都ヲ思ヒ給テヨマセタマフ

ハシキヨシ（註ニ端清也）、（日本紀ニハ端清也、イフ心ハ褒美之詞也）（丸云、此歌ヲミルニ、女ヲハシキヨシト云トハ不レ見）　ワギヘノカタユ（我家ノ方ヨリ也、ユハ由也）　クモヰタチクモ（雲居）　ヤマトハ國ノ

マホロハ(ノ鳥ワキノ下ノ毛歟、マハ眞也、國ヲオホヒカクス國ト云心ナリ、大和ハ輿區之由褒美ナリ) アヲカキ
ヾ、ナツク(靑山並立ノ義也、タ、ハ立也、「タ」ト「チ」ト五音通也、丸云、タチナラビツヾク歟) アヲカキ
山(靑垣山) コモレル(籠也) ヤマトシ(大和ナリ) ウルハシ(麗也) イノチノ(壽ナリ) マソケン人ハ
(坐人也、「ソ」ト「志」ト五音通也) (丸云、命ヽマスベキ人ト云コト歟) タ、ア(〔〕校云アは「ミ」の古
躰の俤か)コメ(平群山ノ倍々アルノ由也、今群疊籠也、「モ」ト「メ」ト五音通)、(丸云、唯吾子國ハ天皇ノ御身
ヲアコトサスナリ) ヘクリノ山ノ(平群山也、ヤマトノ國ノ諸山ノ中ニ平群山ヲサシテ云ハ壽命平遠歷代
而來也云々) シマカシカエヲ(白檮栢也、諸木ノ中檮栢ノ兩木ハトキハカキハノ義也) ウスニサセ(註ニ
謂移ｼ殖ﾙ也、于受耶移也、左勢差也、殖木ノ義ナリ) (丸云、「ウズ」ハウツスニモウフルニモ非ジ、人々
冠ノウズニサセト云詞ナルベシ) コノコ(此子也、天皇ノ自稱也) (丸云、コノコハ、ソコニ居タル人ドモ
ヲサシテ、コノコト云歟、ウズニサセト下知ナリ)

是ヲ謂ニ思邦歌ト也

丸云、此御歌ニテ端淸ノ說明也、コレ「ハシキヨシ」ノコトバノ始ノ哥也

一ハタ薄

ハタス、キ尾花サカフルクロキモテ作レル宿ハ万代マデニ

顯昭ハ「タ」ト「ナ」ト同音ナレバ花薄タルベシトイヘレドモ、能因ガ穗ノ出テ旗ヲ捧タルヤウナルヲ云ト申說可

レ然、唐薄・シノ薄・古薄、此三色ハ種々ノ推量ノ説袖中抄ニアレドモ、トテモ委クシレヌコトヲ糺シテ無レ詮、カヤウノス丶キ品々アリト知テヲクベシ

一ハネズ色

唐棣花色ノウツロヒヤスキ心アレバ年ヲゾキツルコトハタエズテ

夏待テ咲タルハネズ久方ノ雨ウチソラバウツロヒナンカ

山吹ノ匂ヘルイモガ翼酢色ノアカモノ姿爰ニミエツ、

万葉ノ裏書ニ、山ナシノ花（江都督）庭梅　柘榴　露草云々。袖中ニ、夏マチテトヨメバ、夏ノ初ニ咲歟、赤色也、非二月草一、イカサマニモ「ハネズ」トヨメリ、別ノモノ、名ト可レ心レ得

丸案ニ、江都督ノ説ノ山ナシノ花、夏ノ始ニ咲テ赤色ナラバコレヲ可用歟、其山ナシノ花未見バ無二甲斐一、蟲夏ノ初ニ赤サク花ナラバベニノ花ニ木ニサク花ガアリト人ノ申、マコトナラバソレナルベシ、紅粉ハ酢ニテ色ヲマスモノナレバ「ハネ」ハ「ハナ」ト云コト「ス」ハ酢ナルベシ、又柘榴ノ花モスキモノナレバコレヲヤ云ベキ。万葉ニハネカヅラト云カヅラハ、花カヅラ也、花ヲ「ハネ」トモ云、五音通ズル故ナリ、シカレバヲシ出シテ花ト云ハ紅粉ヲイヘバ、花ノ酢ニテ色ノマス花ト云心ニ、ベニヲハナス花ト云ナルベシ、木ニサクニアラズトモ末ツム花ノ別名ナルベシ

一ハナヒル

イテ、ユカン人ヲトヾメンヨシナキニ隣ノ方ニハナモヒヌカナ

毛詩、嚔ハ人道レ我ヲ又咜一則ハ禱一言ス。四分律云、時ニ世尊咜諸比丘呪願言ニ長壽一時ニ有居士咜及禮拜比丘佛令比丘呪願言長壽、今ノ案今俗正月元日若ハ早旦ニ咜ル卽稱テ曰千壽萬歲急々如律令ト是因緣也、何只在ニ元日ノミニ哉、尋常々禱レ之。又万葉

ウチナヒキハナヲゾヒツル劒太刀身ニソフイモガ思クラシモ

此歌ハ思人コントテハ鼻ヒルトミエタリ、又云

眉ネカキハナヒルヒモトキマツランヤイツシカミント思我ヲバ

是モ同心也。奧義抄云、ハラヘスルニハ、ハナヒルヲバ忌事也。或物云、人ノ事ヲ思企ニハ、鼻ヒツレバ不叶トイヘリ

一ハタレ　ハダラ同ジ、雪ノ名ナリ

サヽノ葉ニ薄太礼フリオホヒケナバカモコヒントイハヾマシテ思ハン

同　吾ヤドノ李ノ花カ庭ニチルハダレノイマダ殘リタルカモ

顯昭云、雪トイハネド雪ニナルナリ、又天德ノ歌合ニ　兼盛

ワガヤドニ鶯イタクナクナレバ庭モハダラニ花ヤチルラン

判詞、有、花チラスモコトナル興ナク詞モ不宜。私云、詞不宜トアルハ鶯イタクナクナルハト云詞ノ事歟、又

庭モハダラニト云コト歟、此二詞トモニ宜カラヌニヤ、シカラバ、ハタラト云コトハ聞ヨカラヌト思ベシ

丸案ニ、鷲イタクノ詞ヲトガムルニハアラジ、庭モハダラニノ詞タルベシ、万葉ノ哥ドモニハ、雪ノ異名トミエテ、薄太礼トミユ、兼盛ハマダラトコヽロエテ「ハタレ」ヲ「ハダラ」トヨマレシヲトガメタルコト歟、兼盛ノ「ハダラ」トヨミシ故其後ハ　ハダレ・ハタラ、雪ノマダラニフルコトヽ心エテヲクトミエ侍ル、今心ヲツケテミレバ、「ハタラ」ト云詞ハワルシ、又兼盛以前ニミエズ、兼盛「マダラ」ノ心ニ思チガヘテヨマレタルヲ、小野宮殿被難、万葉ノ「ハダレ」ヲワロキ詞トキラフベカラズ、是ヲ推スルニ、雪ニハ草木ノ葉垂ル故ニ、雪ノ異名トミエタリ、スコシモ斑ノ心ハナキナリ、サレバ「タ」ノ字濁ルベカラズ、若兼盛以前ニ「ハダラ」トヨミタル哥アラバ此說可レ爲二僻事一、サレドモ五音同ケレバ「レ」ヲ「ラ」ニカヘタルニコソアレ、カハル義アルベカラズ、此庭モハダレニトマダラニ用ル詞ノヤウナルハ今ハヨムマジキ也

一ハシタカ

トヤカヘルワガタナラシノ箸鷹ノクルトキコユル鈴虫ノ聲

トヤダカヲ云、人ノモノクヒタル古箸ヲ火ニタキ、夜トヤヨリ出シソムル故ナリ、一說ニ七月ニ亡者ノ箸共ヲタク云々、シカラバ小タカノミノ事ナルベキヲ、大鷹ヲモ云ナラハシ侍ル、鷂(ハイタカ)但鷹而小也、野ノ行幸ニモハイタカ鷹飼トテ小鳥トラン料ニ供奉スル也、小鷹ニハ雀鷂ヲハ、ツミトモ、スヽミタカトモ云、賊エッサイトヨム說哉トモ書ナリ、兄鷂コノリトヨム、皆同、小鷹ナレドコノリハ少大キナリ。綺語抄云、鷹ヲ

バスベテ箸鷹ト云ナリ。顯昭云、ハイタカヲ云也、是ハ綺語抄ニ箸鷹トハ小鷹ノ名ニカヽルタカノアル也ト云ノ説ナリ

丸案ニ、歌ニヨムニハ箸鷹ト云詞キヽヨケレバ、何鷹ヲモハシタカトヨミテ難ナキ也

一ハニフノコヤ

久方ノハニフノコヤニコサメフリトコサヘヌレヌ身ニソヘワガイモ

万葉ニ赤土トカケリ、土ハ「ハニ」ト云也、土ニテヌリタルコヤ也。無名抄云、アヤシノ家板敷ナドモナクテ、ワヅカニネドコロバカリニ板ノマネカタヲヒロヒシキタルヲバ「ハニフノコヤ」ト申トカヤ

丸案ニ、俊頼ノ説ニツカハ板敷ナドモナクテ、土ノ上ニネヲキスル家ト云心ナリ、又前ノ説ニヨラバ赤土ニテヌリタル壁ノ事ナリ。土壁ノ説ヨキヤウニ心得ラレ侍、サレドモ、ソレニテハ「ハニ」ト云コトハゲニモナガラ「フ」ト云文字ノ心ユカズ

今案ニ、イカニモワビタル家ヲ云ニ、四方ヲ土壁ニテヌリタルト云バカリニテハワビタル義ニ不叶、イカナル大家モ檐ヲハヌルナリ、コレハヤネヲモ板ナキニヨリテ、ハニ土ヲ以テ葺(フキ)タル家ナルベシ、今モ片邊土ニサヤウノ家ノヤネニ、苔草ナドノ生タルアリ、コレラヲ云ニヤ、又久方ノハニフノツヾキ昔ヨリシラレヌ由カキヲカレ侍ヘドモ、コレハヤスク心エラレ侍、イカホド句ヲヘダテヽモ、下ニ天象アレバ、久方トヲクナリ、此歌モシタニ雨字アルニヨリテ也、久方ノハニフトツヾクルニハアラズ、カヤウノ作例ヲヨクオボエザレバヒロク

歌ハヨマレヌモノナリ、又和歌ノ判者モナラヌモノ也、此卷物ヲヨク〳〵ミ覺ラルベシ

一鳩フク秋

マスラオノハトフク秋ノ音タテヽトマレト人ヲイハヌバカリゾ

顯昭云、秋サカリニ山鳩ノナケレバ、其マネヲ手ヲ合スルナリ、獵師ノ鹿待ニモ、人ヲヨブニモ、亦盗人ノ木ヲマフシニシテ、友ニシラレントテモスルナリ、マフシハ、木ヲ折カケテ身ヲ隱也

マフシサシ鳩吹秋ノヤマ人ハヲノガスミカヲシラセヤハスル　曾丹

朝マダキ袂ニ風ノ凉キハハトフク秋ニナリヤシヌラン　顯季

[illegible]マフシサスサツオノ身ニモタヘカネテ鳩フク秋ノ音タテツ也　仲實

奥義抄、秋ノ始鷹トラントテ鳩ヲクヽリヲキ、其カタハラニ網ヲハリ、我庵ヲサシ、カクレヰルヲ云也。或說ニ、トヤノ内ニ鳩ヲ置鳩ヲフキテ、鷹トルトモ又鳩ヲトラントテモスルト云。童蒙抄云、立秋ヨリ鳩ハナク也、吹トハ啼ト云事也、諺ニハトフクイ［〇ヒか］タリト云ハ、スサマジキ心也。顯昭云、此說右ノ哥ドモニ不ㇾ叶

一ハヽキ木

ソノ原ヤフセヤニ生ルハヽキヽノアリトハミエテアハヌ君カナ

顯昭云、信濃ノソノハラ•フセヤト云所ノ杜ニ、ヨソニテミレバ帚ニ似タル梢アルヲ、立ヨリミレバミエズトナン、此ハ平ノ定文家ノ歌合ノ哥也、家成卿哥合、藤原爲忠、鹿歌

ハヽキヾニツマヤコモレルサホシカノソノハラニナク鹿ゾキコユル

基俊判云、左ハ、ハヽキヾニツマヤコモレルトヨマレタルコト難二心得一侍、此鹿ノツマノイカヤウニ箒木ニハコモレルニカ侍ラン、此木林ナドノヤウニアツマリ生タル木ニモ侍サレバ、中ニコモレリトイハンニカタシ、此鹿、猿丸・ムサヽビニアラネバ、枝ノ間葉ノ中ニコモレランコト又カタシ、無二指證文證哥一バ何ヲ指南トシテカ可甘心哉、昔風土記ト申文ミ侍シニコソ、此箒木ノ由ハ大略ミ侍シカ、サレドハカ〴〵シクモ覺侍ラズ、件木ハ美濃・信濃兩國ノ堺、ソノハラ・フセヤト云所ニアル木也、遠クミレバ、ハヽキヲ立タルヤウニテタテリ、近クテミレバ、ソレニ似タル木モナシ、然ハアリトハミレドアハヌニタトヘ侍、古歌云、ソノハラヤ……如レ前此左哥心、頗与二本文心一已相違詞モ非二秀逸一。綺語抄云、ハヽキヾニ二ノ論アリ、一ニハ箒木ノアル森ノアル也、其森イトシゲクテ杜ノ中ニハハヽキヾ生タルナリ、ソレヲ森ノ下ニ行テミレバ木ノシゲクテミエヌ也、一ニハ箒ニ似タル木ノ其森ニアルヲ、遠ミルニハアルヤウニテ、近ヨレバウスル也。無名抄云、此比ミタル人ニトヘバ、サル木モミエズトゾ申。私云、爲忠歌ノ心ハ、森ノ木皆箒ニテ在ト存歟。承暦歌合師賢朝臣紅葉哥

ハヽキヽノ梢ヤイヅコオボツカナミナソノハラハ紅葉シニケリ

此歌意ハ森ノ中ニハヽキヾ一本マジレルカ。經信卿記云、此哥本入二撰ノ弁伯耆木ノ歌ニ不レ快事ナリ、以二書改テ不レ轉難不レ知レ所レ避、私云、如レ此難而俊頼入二金葉集一畢如何、件書改哥師賢

吹カラニチルモミヂバノシタガヘバウラヤマシキハコガラシノ風

奥義抄云引ニ後拾遺ニ云

　ユカバコソアハズモアラメハヽキ木ノアリトバカリハヲトヅレヨカシ

今勘ニ國史一、仁明天皇承和二年ニ勅如レ聞關東海東山兩道河津之處、或渡舟數少或橋梁不レ備、由レ是貢調擔夫來集河邊累レ日經レ旬不レ得レ利レ渉、宜ニ毎レ河加ニ増渡舟二艘一其價用者須ニ正税一、又造ニ浮橋一令レ得ニ通行一及建ニ布施屋一備ニ于橋一、寄ニ其造作一料共用ニ救急稻一云々。陽成天皇元慶四年云、弘仁十二年國分寺尼法光爲レ救ニ百姓濟渡之難一於ニ越後國古志郡渡戸濱一建ニ布施「〇屋一、施ニ袖中抄」墾田四十余町一渡船二隻令ニ往還之人得ニ其穩便一而年代積久無ニ人勞濟一屋宇破損田疇荒廢望請被レ宛ニ越後國俘九「〇五袖中抄」人一永令ニ領守一云々。今案ニ信州其原ト云所ニ、フセヤト云所ノ別ニアルカトオモフニ、布施屋トテ所々ニツクレルニコソ、サレバ信濃國ソノ原ニモ此布施屋ヲタテタリケルニヤ。又俊頼田家秋興ヲ

　ヤマ田モルキソノフセヤニカゼフケバアゼツタヒシテ鶉ヲトナフ

是ハ谷ノフセヤ・シツノフセヤナド云躰ナリト存、信濃ノ岐岨ニモ彼布施屋アルニヤ、又キソ其原相違ト云リ。又信濃國ニハ穴ヲホリテ、フキ板ノカタ〳〵ヲバ土ニウヅミテ、片方ニ口ヲアケテ、ソレヨリオリノボル、多雪ノ深オリノ料ト云リ、ソレヲモフセヤトゾ申

丸案ニ、第一ノ歌ハ、紀ノ友則作也、　箒木ト云木アル說ハ不レ可レ然、只箒ニ似タル木ノ說可レ然、又フセヤト云ニ品々アルトミエタリ、一ニハ田フセト同ジク人ノフセルタケアルヤウノイヤシキ屋也、一ニハ布施屋、コ

レハ大ナル家モアルヤラン、元慶ノ國史ニ屋宇破損ストアリ、弘仁ノ時ヨリタテヲキタルガ元慶ノ比マテ殘ルトミユ、而ニ布施ノ字ヲ用ユト不審、モシ勸進ナドヲシテタツルヲ云カト思ヘバ、公儀ヨリタテラル、トミエタリ、案ルニ宿賃ヲアガナハズ往還ノ者ヲヤドス家ナレバ布施ノ功德ニヨセテ此名アル歟、又フセヤニ生ルトヨムハ、其家ニ生ルニハアラジ、其布施屋ノアリシ所ノ邊ヲバ皆フセヤト云トミエタリ、サリトテ名所ニアラズ、サレドモ此友則歌ヨリ以來ハ、名所トコ、ロエテ註シタルモ、古人ノアヤマリニハアラザルベシ

一ハネカツラ

波禰蘰イマスルイモガウラワカミエミ、イカリミキテシ紐(ヒモ)トク

顯昭云、花カツラ也、「ナ」ト「ネ」ト同音也、サネカヅラヲサナカヅラトヨメルガ如シ、又家持贈童女

葉根蘰イマスルイモヲ夢ニミテ心ノウチニ戀ワタルカモ

童女報歌

ハネカヅライマスルイモハナカリシヲイカナルイモゾコ、ダコヒタル

是ハ女ノ花ノ蘰ヲ敦隆ガ部類古集ニ葛篇ニ入タル如何、文字モ蘰ト書リ、葛ニマギルベカラズ

丸云、ハネカヅラ・花カヅラハ非ニ植物ニ女ノカザリニ頭ニサスモノナリ、シカラバ鬘華カツラ・ヒンツラ　是正字ナルベシ、草中ヲソフルコトアルベカラズ、又蘰字ヲ多カキタル歌書アリ、コレハ草ノカヅラノ時用歟、エシラヌコト也、草ノカヅラニハ蘿葛ナドノ字尤可然

一ハナチトリ

嶋宮ノ勾(マガリ)之池之放鳥人メニコヒテ池ニクヽラズ

顕昭云、タヾ放カフ鳥也、此歌ハ日並皇子尊ノウセタマヒテ後ヨメル歌ナリ

嶋宮ノ上池(ウヘノイケニアル)有放鳥アラビナユキソ君マサズトモ

同皇子ノ舎人等、慟傷歌ナリ、万葉抄云、シマ宮ハ所名ナリ、ハナチ鳥トハ、ミコノミヤノカハレケル鳥ヲ、其宮ウセタマヒケレバ、シマ宮ノ池ニ被レ放タルナリ、サレバ此放鳥ハ其鳥ト名ヲサスマジ

丸云、水鳥ナラバ存生ノ御トキモ池ニ放ガヒナルベシ、日本紀ニハ鴨ヲゾ多其池ニハ放タレタリケルト云リ

無名抄云

ハナチ鳥ツバサノナキヲトフカラニイカデ雲井ヲ思カヘラン

是ハ飼ナドシタル鳥ノツバサノナキヲハナチテ詠バ也、マチドリニマギルレバ別ニ註ト云ヽ。私云、池ノ鳥ハカヒツクルホド羽ヲヌクコトナリ、無名抄ニ、カヒタル鳥ノ翅ノナキヲ放テヨムトアルハ如何、タトヘバ日比籠ニ入テカハン鳥ヲ放モセンハ、羽ヲキラズトモ放鳥ト云ベシ、今ノ伊勢ガ歌ニ翅ノナキヲトヨメルハ、羽ヲ力ニス、人ニ取テモ臣ハ帝ノ羽翼ト云ハ御タスケナリ、鳥ノ如ニ思ハナタレテ、タスクル力モナキコトニヨセテソヘヨメルナルベシ、万葉ノ歌ハ、水鳥ナレバヤガテ池ニテ放カフ故ニハナチ鳥トハ云也

丸云、勾ノ池ノ歌、上ノ池ノ歌ノハ水鳥ナリ、サレドモ主人ノ死スル時ハ、籠ニカフ鳥ヲモ放ツ、池ニカフ鳥

ヲモ常ハ虚空ニ飛去ザルヤウニナヅカヌ間ハ羽ヲ少ヅヽソギヲク也、ソレニ今マデノヤウニソガズ飛去次第ニスルヲ、サシテハナチ鳥トハヨミタルトミエタリ、サレバ不吉ノ詞ナレバ哀傷ナラデハ歌ニヨムマジキ事也

一花田ノ帯

泣ナカズ泪ニタヘテ絶ヌレバ花田ノ帯ノコヽチコソスレ

顯昭云、催馬樂ニ

石河ノコマウドニ帯ヲトラレテカラキクヰスルイカナル帯ゾ花田ノオヒノ中ハ絶タル

コレヲ本ニテ、中ハタユトヨム也。古歌ニ

君ガセシ花田ノ帯ノ中絶テサレハヅイヒシナカヽラジトハ

俊頼歌

石河ヤ花田ノ帯ノ中ダエハコマノワタリノ人ニカタラン

是ハ山城ノ國ナリケル人ノ妻ヲ、或人忍テモノ申トキコエケルヲ、ホドモナクカレ〳〵ニ成ヌト聞テ遣シケル云々

一萩カ花スリ

ケサキツル野原ノ露ニ吾ヌレヌウツリヤシヌル萩ガ花ズリ

顯昭云、催馬樂ノ更衣哥心也

衣ガヘセンヤサキンダチヤワガキヌハ野原シノバラハギノ花ズリヤサキンダチヤ

又万葉云

ワガキヌハスレルニアラズタカマトノ野ベユキシカバ萩ノスレルヲ（〇ゾ袖中抄）

萩ノキヌニウツリタルガスレルヤウニミユルナリ、或古物云、此範永ガ哥ヲバ時ノ人笑ケリ、催馬樂・万葉ノ歌ヲバシラザリケルニヤ、又萩ニテスルトモヨメリ。万葉云

古ニアリケン人ノ求ツヽキヌニスリケンマノヽ萩ハラ

寄木歌

シラスゲノマノヽ榛原心ニモ思ハヌ君ガ衣ニゾスル

奥義抄云、万葉ノマノヽ萩ノ哥ハ入ニ詠レ木哥ノ部ニ。今案ニ、稱スル大萩ト是歟、古枝ニ花發ナドヨマン此義ナリ、榛字用レ之、萩字ハ小萩歟、但万葉ニハ皆以ニ榛字ニ用レ之。私云、眞野ナラヌ野ニモ木萩トテ、古枝ニ花サク萩アリ、モトアラノ小萩トハソレナリ、其木萩ハカリ（刈）モシヤキ（焼）モシタレド、新シク枝ハエテサケリ、唯萩ハ古枝ニサクコトナシ、俊頼哥ニ

春キヌトキヽダニアヘヌ明クレニカスミニムセブマノヽ萩原

是ハ時ニアハヌヤウナレド、マノヽ萩ハイツトモナケレバ如此詠ナリ、其マノヽ萩ニテ衣ハスル也、他所ニハ其萩ナシト俊惠カキタルハ、コヽロエヌ事ナリ

住ヨシノ濱里ヲノ、眞榛モテスレル衣ノ盛過行

思フコノ衣スランニ匂ヒセヨ嶌ノ萩原秋タ、ズトモ

ヒクマ野ニ匂フ萩ハラ入ミタル〔レ歟〕衣ニホハセ旅ノシルシニ

今云、眞野ナラネドモ榛字ヲ書、ミナ衣スルトヨメリ、又此催馬樂更衣哥ニ秘説アリ、春夏ハ萩ノ葉スリヤトウタヒ、秋冬ハ萩ノ花摺トウタフベシト云〻、ソレヲ秘説ニ付テ譜ニアラハサズ、萩ノ葉ノスリト書タルハワルシ、彼細摂ノ風俗ニ

ナハノツフラヘノ春ナレバカスミテミユルナハノツフラヘ

アルヲ秘説ニテ、春夏ハ如此ウタヒ、秋冬ハキリニモミユルナハノツフラヘトウタフガ如シ。但或本云、ナハノフリ

本 ナハノツフラヘノセナノ春ナレバ霞テミユルナハノツフラヘ

末 ツフラヘノセナヤ秋ナレバキリニモミユルナハノツフラヘ

如此説ハ時ニ随ニハアラデ本末ニ如此歌歟

丸云、ナハノツフラヘノ歌、後ノ本末ノ説尤也、始ノ萩ノ葉ズリノ秘説イハレヌコトナリ、是ハタゞ其音共節曲ニ宮ヲ得タルモノ、彌ニフトウタヒカヘタルヲ、後人聞目思テ秘事ニシタルナルベシ、サヤウニイハヾ、一切ノ春秋ノ哥ヲ、夏冬ニカヘズシテウタフハ皆アヤマリナルベキ歟、詠歌モウタヒ物ニ其時ニナキモノヲトリ

出テ嶽コソ哥ノ徳ナレ、センナキ批判ナレドモ万事ニ付テカヤウノ道理ニ不達コトヲ、秘事ガマシク書ヲキタルコト多ケレバ、後生ノ人ニ眼ヲツケヨト思テ如此記之

又赤人ノ歌ニ

百濟野(クダラノ)ノ萩ノ古枝ニ春待トヲリシ鶯ナキニケルカモ

萩ハ花モ葉モカハラズ一種ナレドモ、ツヨキヨハキ性ニヨリテ古枝ノ殘ルト不殘トアル歟。榛(シン)(實似ニ小栗ニツバキクリ)小栗也ト字書ニアリ、万葉ノ比ハ此字ヲ用タルヲ、其後古今ノ時ヨリアヤマリト改テ萩ノ字ヲ書トミエタリ、萩日本ノ作字カト申人アレド、玉篇ニ「ハギ」ト付タリ、万葉ニハ榛字ニツキテ木部ニ入ト云ドモ、今ハ草ニノミ可レ用事ナリ

一ハモリノ神

カシハ木ニ葉モリノ神ノマシケルヲシラデゾ折シタヽリナサルナ

顯昭云、椎神也、万ノ椎ヲ守ル神ナリ、サテ葉ヲ守ル神ト云也、シカルヲ家成卿哥合、落葉ノ題ニ通憲ガ哥

ナニシオハヾ葉守ノ神ニイノリミンハヽソノ紅葉チリヤノコルト

判云、ハモリノ神ハ柞(ハヽソ)ノカヘデノ葉守ル神ニアラズ、弘仁式ノ三綱柏ノ所ニクハシクミエテ侍レド、事ナガクテ申侍ラズ。私云、此事ノ説々彼柏ノ哥ヲヒケリ、柏木ノミ守ト云ニヤ、弘仁式ヲタシカニ可考之、他ノ木ヲ守ランヲ嫌ベカラズ、通憲定不暗ハ(〇精相)三綱柏ニ歟。無名抄云、木ノ葉ヲマボル神ノ椎ニハオハスルナリ

丸云、後撰集 第十六雑二云、枇杷左大臣用侍テナラノ葉ヲ求侍ケレバチカヌガアヒシリテ侍ケル家ニトリニツカハシタリケレバ。俊子 イエヌシ

ワガ宿ヲイツナラシテカナラノハヲナラシガホニハオリニヲコスル

返シ 枇杷左大臣

ナラノ葉ノハモリノ神ノマシケルヲシラデゾ折シタヽリナサルナ

大和物語ニモ如レ右

丸案ニ、ハモリノ神トヨミタル歌万葉ニモ古今ニモミエズ、此後撰ノ歌始也、雄神ノコトハ一切ノ木ニアルコトナガラ、三綱柏ノ説ヲ以柏ニカギルト歌合ニ判セシ上ハ、顕昭ノ詞バカリヲ以、今コト木ニヨマン事ハアシカルベキ事也

歌林樸樕第二卷畢

歌林樸樕　第三

【二】

ニヒイハリツクハ　（日本記景行ノ内）　日本武尊蝦夷ヲ平ゲ自ニ日高見國ニ還ニ之西南ニ歷ニ常陸ヲ至ニ甲斐國ニ居ニ于酒折宮ニ時ニ擧燭而進食、是ノ夜以レ歌之間ニ侍者ニ曰

珥比麼利ノ新治也、言ハ旅宿也、旅行之時引レ如レ縣之義也、首書云、珥比麼利ハ欲レ謂ニ筑波ニ之發語也、又常陸國新治郡在之、丸云、世ノツネノ說ハ蘩トテ苗ノ生出テ針ノ如ナルヲ云ニヨリ、針ハ尖ニテモノヲツクト云秀句ト云リ、コヽニ郡ノ名ト出セリ、是正義也、サレドモ此御歌ヨリ後郡ノ名ニ付タル歟）　菟玖波塢ノ筑波）　須擬氐（過）　異玖用伽ノ幾夜）　禰茂流（寢）

諸ノ侍者不レ能ニ答言ニ時ニ有ニ秉燭者ニ續ニ王歌ニ

伽餓奈倍氐ノ謂並心計也）　用珥波虛々能用（九夜也）　比珥波苦塢伽塢（十日也）

丸云、カヾナヘテト云詞ヲツネハ哥ノ序ノ詞ト心得テ、夜ニハ九夜トイヘリ、日本紀ノ歌ハカヾナヘテト云ハ、歌ノ五文字ナリ、或首書ニ、カヾナヘテハ實ノ義トアリ、手ノカヾミカネタル心歟、タヾカンガヘカゾフルコトノ註可然歟、是今ノ代ノ連歌之濫觴云々

一女帝

一二キ　日記也

一二フノ忠臺

一任那ノ國

一二四八

ナヲ坊〔〇ラ坂[補]〕ヲキナキトヨマス郭公二四八トソオチカヘリナク

顯昭云、此歌万葉ニアリトイヘド未レ見、又二四八ヲハツ聲ナド申メレド如何トキコユ、訓ニヨムヤウアルベシ、又七モジノ八九モジアルコトハアレド六文字アル例ナシ。公實卿

オチカヘリイホニナケドモ郭公二四八トモニ珍哉

堀河院ヨリ二四八可ニ詠進一之由アレバ此歌ヲ止テ

ワレハサハ入ヤシナマシ郭公山路ニカヘル一聲ニヨリ

是ヲ百首ニ被レ入、公實モ委ハシラレザリトミエタリ。カヤウニ古來シレヌ事ナガラ、丸思案シテ心ニカナヘルヨミヤウ侍ル、ワザト筆ニハアラハサズ、同志ノ人ニカタリ慰侍ベシ

一鳰ノウキス

アフ事ノ渚ニヨスル鳰ノスノウキシヅミツツモノヲコソ思へ

顯昭云、此鳥巣ヲ波ノ上ニツクリヲキテ、方々ヘユラレアリク、賴政モ　ユラレキテトヨメリ、此義ニ付ベ

シ、マサシク池ナドニアルハ、アチコチクヒモテアリクト人々申セリ、十郎藏人行家ハ、芦ノクキヲ便ニツクレバ水フカケレバシヅミタルモ浮ビ、アサクナレバ浮タルモシヅミテユラレアリカストイヘリ、又顯輔ハ、アカラサマニモクガヘノボラヌ鳥トコソ、サレバ水ノ上ニツクルニヤ、又伯母(ハクボ)ノ集ニハ、鳰ハ氷ニヲツル鳥也トカケリ。高陽院ノ歌合ニ雪ノ歌

フミヽケル鳰ノ跡サヘヲシキカナ氷ノ上ニフレルハツ雪

此歌ノ註ニ書リ

丸案ニ、顯昭ハユラレアリクノ說ニヨレリ、汝ナドニアルヲ人ノミテ云ヲ信ゼリトミユ、併此逢事ノ渚ニヨスルトヨメルハユラルヽニハアラズ、芦ノクキニツクレル巢モ、芦トヽモニ波ニユラメク躰ナリ、下句ノ浮沉ト云詞ヲ以ミレバ行家說正理ナルベシ、浮巢ト云トテムサト流レアリクヤウニ巢ヲツクルベキイハレナシ、一寸ノ虫ニモ其巢ヲ大事ニカケテウシナハヌヤウニスルホドノ智慮ハ生ツクモノナリ、芦ナドノナキ池ノ海川ノヤウニ、ヨソヘユカヌ水ノ上ニハコトナルモノヲ便ニテ作ランモアルベケレバ、ソレヲ定木ニハミルベカラズ

一二ハタチ

モロコシノ屛風ノ繪ニモミチ(本ノママ)、(〇テキ歟)アレバワガスベ(〇レサヘ孫姬式)神ノ庭タチノヨキ(〇サ式)

顯昭云、ニハタチハ神ノオリ給コト歟、神樂ニハ庭火ト云事アリ、又社ニハヒロ庭ナド云リ、又諸社ノ行幸ニモニハノ座トテアリ、又歸立トモ云リ、神ニハ庭立アルコトナリ。孫姬式云、漢國ノ屛風嵐勝ニ我(〇神ヵア歟)

之立ロ庭伊ハ〔〇倭袖〕爲屏風欲レ釣ニ故人之棠路ニ共古〔〇右袖〕神樂哥也

カミカタニイセヘ我行歸サニモハモマツラン門サスナユメ

下向也、又神カタニトハ、太神宮ノ御カタト云歟、將又神風ヲ書タガヘタル歟

一ニシキ木　アラテクム

錦木ハ千束ニナリヌイマコソハ人ニシラレヌ閨ノウチミメ

顯昭云、二ノ様アリ、一ニハ奥ノエビスハ女ヲヨバントスルトキ、文ヲヤル事ハナクテ、一尺バカリナル木ヲマダラニイロドリテ女ノ家ノ門ニ立ルニ、アハント思フ男ナレバ、ソノ木ヲトリ入ツ、ヲソクトリ入レバシヰテ猶立テ、千束ヲカギリニテタツレバ、誠ニコヽロザシアルト、ソノトキトリ入ルト云リ、或千束ニナリテモトリ入ネバ、思タエヌト云リ、但一筋ヲ立ル木、束トイハンコト如何ト、ウタガハルヽ故ニ、薪ヲコリテ立ト云義ハ侍レド、ソレハ別ノコトナリ、一筋ナリトモナドカツカトイハザラン、和語抄云

錦木ノ數ハ千束ニナリニケリイツカミタチノヨルハミルベキ

今云、コレハサキノ哥ト同心ナリ、匡房歌ニ

思カネケフタテソムルニシキ木ノチツカモマタデ相由モガナ

又千束過ニモ猶タツル由ヲ藤原永實

イタヅラニ千束クチヌルニシキ木ヲ猶コリズマニ思タツカナ

一ニハ錦木ト云ハ灰木ナリ、モノヽ色ニアフユヘニ其木ヲ灰ニヤキテサセバ云也、東國ノ細布ノイロノツ出度ハ、其灰ノ木ヲサスユヘナリ、ヤガテモ其灰木ヲ錦ト云ナリ、ソノ木ヲコリテタツレバ、錦木ノチツカト云ナリ、モノヽイロニアフユヘニ祝テ、トクアフベキ由ニケサウ文ニ用テ門ニ立ルナリ、サレバ錦木マダラニイロドルト云コトハ錦木ト云ニ付テ云ナルベシ、サモアラキフルマヒニテ、チツカマテイロドリデタテンコトモ如何トゾオボユル、此後ノ義アシクモ侍ラズ。奥義抄云、灰ニテ錦ノ糸ヲモ染レバ錦木ト云、又薪ヲイロドレル也、サレバチツカトモ云トアレド、千束マデイロドランコトハ如何。又能因ノ歌ニ

ニシキ木ハタテナガラコソクチニケレケフノ細布ムネアハズシテ

私云、此哥モ只錦木ト云ルバカリナリ、色ドルトモ不ㇾ見、無名抄云、陸奥ニ男女ヲヨバヽント思フトキ、消息ヲバヤラデ薪ヲコリテ、毎日ニ一束ソノ女ノ家ノ門ニタツルヲ、アハント思フ男ノ木ヲバ程ナクトリ入ツレバ、其ノ後ハ木ヲバタテ、ヒトヘニ云ヨリテシタシクナリヌ、アハジト思フ男ノ木ヲバ、イカニモトリ入ネバ千束ヲカギリニシテ三年立ルナリ、此木ヲ錦木ト云事ハコ〔〇夕袖〕マホコノサホノヤウニマダラニ色ドリテタツレバ云ナリトゾ、知タリトオボシキ人ハ申セド、實ニハサモセヌトカヤ、錦木ト云ニ付テイヘルニヤ。私云、此義如何トキコユ、始ニハ薪ヲコリテ日毎ニ一束立ト云、後ニハマダラニイロドリタレバ錦木ト云トイヘリ、イロドル義ニテハ薪一束ト云ベカラズ、薪一束トイハヾイロドル義アルベカラズ、オボツカナシ、一方ニ云トヲスベシ、然ニ實ニハサモセヌトカヤ、錦木ト云ニ付テイヘルニヤトアルハアシカラズ。又

アラテクム門ニタテタル錦木ハトラズハトラズ我ヤ苦キ

ヤマカツノ門ノメグリニ三グミニシタルワラクミニテ垣ヲシタルヲ云ナリ。私云、古文ドモニ千束タツルトハアレド、毎日ニ三年立トモイハズ、又ニシコギト書タル本モアリ、同事ナリ、「キ」ト「コ」ト同音也。和語抄云、彼エビスハ女ハラミヌレバ、女子ナラバワカメニセン、男子モタルモノハワガヨメニセン、男子ナラバワガムコニセント約束シテ、此木ヲ門ニ立ル也、其ハラミタル時ヨリ、契テタツレバ、ニシコキトハ云ト云リ、又五色ノ木トモ云。私云、此コキノ事モ只詞ニツキテイヘルコトナルベシ、或「ニシコリギ」ト云ヲ畧シタルト云人モアレド皆ヲシハカリノ事也。又能因歌枕ニ「ニシコギ」トハ薪ヲコリテ東ノエビスノケサウ文ヤルニ付テ、ヨバフ女ノモトニヤルナリ云ゝ。今案ニ、コレモ錦木ヲ「ニシコギ」ト云ナシタル歟、若ハ又錦木ハ女ノ門ニ立「ニシコギ」ハ薪ヲコリテケサウ文ヲツケテヤル木ニヤ、又錦木ニトリテ只木バカリヲタテズシテ、灰ノ木ニモ文ヲ付テ立ニヤ、ソレヲモトリ入ネバ、タテナガラクツトイハンモタガフマジ、打任テハ文ヲ付ヅイハレタル、申文ヲモウルハシキコトニハ木ニハサミテコソハ上モシ、立ルコトニテアレバ、祝テ灰木ニ文ヲ付テ立ン事ハイハレアルヲ、錦木タツルト云コトヲムネトシテ、文ツクル事ヲ云ノコシタルニヤ。或云、傳ベキユカリモナキモノハ、門ニ文ヲ立、錦木ニ文ヲ付テヤル事モヤアラン、オボツカナシ、イカサマニモ薪ヲコルト書タレバ、灰木ハ叶ヘリ、ワザトマダラニイロトルトハ云ベカラズ

丸案ニ、說々多シテマギラハシク、ツヰニ落着ナシ、トモアレカクモアレ、能因ガ哥枕ノ說ニ付テ、ソレニ叶ヲ

正義トスベシ、先錦木トハ灰木ノ名ナルトミエタリ、ソレハ薪ナレバ「ニシコギ」トモ云ベシ、薪ハコルモノナレバナリ、モノ、イロニアフ物ナレバ祝ノ心ヲ以テ其ニシコギニ文ヲ付テ、先一本門ニ立ルナリ、ソレヲトリイレヌトキ、コリセズタテカサヌルニヨリテ、歌人ノ千束ニモナルトハヨミナシタルモノナリ、此ニシキ木ノ外ニ、マコトノ柴薪ヲ千ヅク万ヅク門ニツミタルコトニハアラズ、錦木ト云木卽薪也、火ニタキテ灰トナセバ也、ソレヲ薪ヲコリテ文ヲツクルト哥枕ニ書タリ、ケサウ文ツクル薪ノ名ヲ錦木トモ、ニシコキトモ云ト知ベシ、其木ハ只一本ナルベシ

一ニケ水

東路ニアリトイフナルニゲ水ノニゲカクレテモ世ヲ過スカナ　俊頼

アヅマヂニアリ、クマントスレドモ大方クマレデニグル水ナリト云傳タル、イヅレノ國ニアリトモシルサズ

【ホ】

一牧馬

一法性(ホツシヤウ)ノ室戸(ムロト)

一法興院(ホコイン)

一ホウノ半ノ枕トモヨメリ

一星ノマキレ　暮ニ曉ニアリ、一アルト思ヘバ二三コヽカシコニソヒテ前ノホシノマギルヽナリ、曉ハ多アルホシイヅレカラトモシレズ、一ヅヽウセテミエズナルナリ

在明ノ曉ヨリモツラカリキ星ノマギレノ宿ノワカレハ

明ヌトテ泊コキイヅル友舟ノ星ノマギレニ雲ゾ別ルヽ

一ホツエハ　枝ノ末也、ハツ枝モ同シ。但木ノ花ノツボミヲ持ヲ、ホツエト云、葉ノスエヲハツエト云。

以上宗祇ノ説ナリ。

丸案ニ、ホズエナルベシ、「ツ」ノ字ナルベカラズ、又花ノツボミノ説不ニ信用一、只「ハヒフヘホ」ノ同音ナレバ無ニ差別一同ジ心ニ梢ヲ云ナルベシ、ホノカナル梢。ハツカナル梢トイカニモトサキホトヲ云ナルベシ

一ホロニフミアタシ

天雲ヲホロニフミアタシナル神モケフニマサリテカシコケンカモ

「ホ」ハアラハナル詞ナリ、「ロ」ハ休字也、アタシハワタシナリ、或ハフロニフミアタシトモアリ、「ホ」ト「フ」ト同音也

一ホト゜ロ〳〵

童蒙抄云、モノヽ程々ニタマレルヲ云、雪ノイタクフラヌホドハ、モノヽキハ〳〵ニタマルナリ

丸案ニ、此說ナラバ「ホト」ノ「ト」ノ字濁テヨムベキ歟、「ロ」ハ例ノ付字歟

夜之(方)穗抒呂ワガ出テクレバワギモコガオモヘリシクヨ俤ニミユ

秋ノ日ノホダヲカリガネクラヤミニ夜ノホドロニモ鳴ワタルカモ

是ヲモ夜ノマダラト云歟、偏ニアカクモナラヌ心ニヤ

丸案ニ、此義カナハズ、童蒙ノ程ノ說可ㇾ然

一ホカラ〳〵

シノヽメノホガラ〳〵トアケ行バヲノガキヌ〴〵ナルゾワビシキ

朗(ホガラカ)ト云字ナリ

一穗ヤ　非二人家一神ノ舍也、宇治。諏方ノ兩所バカリニアリ、薄ノ穗ニテ作ル

丸案ニ、ウヂノミヤコノカリホシゾ思フ、トヨミタルヲ、帝ノカリホノ庵ト同ケレバ、必神ノ御家バカリニカギルベカラザルベシ

東路ノホヤノヽ薄ホニ出テシドロモドロニ乱アヒニケリ

一ホヤノスヽキ

信濃ナルホヤノスヽキニ風フケバソヨ〳〵サコソイハマホシケレ

顯昭云、ホヤノト云所信濃ニアリ、其ノ所ニアル薄ナリ、或書ニハチイサヤカナル薄トカケド如何ト覺ユ

云、諏方明神ミサヤマノトウ人カリヤヲ作テツケタルコト也

丸云、御射山祭ノ哥

　尾花フリホヤノメグリノ一村ニシバシ里アル秋ノミサヤマ

是ハ此祭ノ日、穗ヤヲ作トミユ、薄ヲ御草ト云モ此祭故ナルベシ、ホヤト云所ニアル薄トイハルレバ常ノ薄ニアラザルヤウニテワルシ、只カハリメハアルベカラズ、ソコニアル常ノ薄也、ソレヲ屋ニフケルヲホヤノ薄ト云ナルベシ

樸樕第三畢

歌林樸樕　第四

【ト】

一トコ世ノムシ　皇極天皇三年東國不盡河邊人、大生部多勸レ祭ニ虫於村里之人ニ曰、此者常世神也、祭ニ此神ヲ者致ニ富與壽ヲ、巫覡等遂詐託ニ於神語ニ曰、祭ニ常世ノ神ヲ者、貧人致レ富、老人還レ少、由レ是加勸捨ニ民ノ家財寶ヲ、陳ニ酒陳(○紀ナシ)菜六畜於路側ニ、而使レ呼曰、新富人來、都鄙之人取ニ常世虫ヲ置ニ於淸座ニ、歌舞ニ求レ福ヲ棄ニ捨珍財ヲ、都無レ所レ益、損費極甚、於レ是葛野ノ秦造河勝惡ニ民ノ所レ惑、打ニ大生部多ヲ、其巫覡等ヲ恐テ休ニ其勸メ祭ヲ、時人便作レ歌曰

ウヅマサハ(太秦也、河勝之姓也) カミトモカミト(神也) キコエクル(聞來也) トコ世ノカミヲ(常世神也) ウチキタマスモ(持絶也、又打例也)

丸云、ウチキタマスモハ、非ニ此義ニ「キ」ト「ケ」ト同音ナレバ打ケチタマヒマシマスナリ

此虫者常生ニ於橘樹ニ、或生ニ於曼椒ニ(曼椒此云ニ褒曾紀ニ) 其長四寸餘、其大如ニ頭指許ニ、其色綠而有ニ黑點ニ、其貌全似ニ養蠶ニ

一トヲタアフミ　遠江也

一トマテ　ハ八雲ニ田苅手也、私(了俊也) 手クビニ隣タヌキノヤウニワラヲクミテ貫入タルヲ云ト土民ノ

說也

一トヨノアカリ　豐明節也、十一月ノ大嘗會ノ事ヲオシ出シテイヘド必五節バカリヲイハズ、年中ノ節會ヲ云、サレバ宴字ヲモ「トヨノアカリ」トヨメリ、非二神祇一ナリ

一トハカリト云詞ハ　シバシノ心アリ

一鳥カナクアツマ

トリガナクアヅマ男ノツマワカレカナシクアリケン年ノ緒ナガミ

袖中抄ニ日本紀玄中記ヲ引テ鷄ガ啼テ東方ヨリ夜ノアルクヤウニ釋セラレケレドモ皆不レ叶、是ハ夫婦イネテハ曉ヲ妻ニ告ルトキ、ハヤ鳥ガナクゾ、ア、ツマト、ナゲキテオシユルナラヒノ詞ヲ、アハレナルコトナレバ東ノ枕詞トセシナリ、コレ正義ナリ、不レ可レ疑

一トコヨノ國

常世邊ニアラマシモノヲ劍太刀ワガ心カラヲソヤコノキミ

顯昭云、日本紀ニ蓬萊山ト書テトコヨノクニトヨム、然ヲ後拾遺ニ、ヒサシウワヅラヒケル比、鴈ノナキケルヲキ、テ　赤染衛門

オキモヰヌ我トコ世コソカナシケレ春カヘリニシカリモナククナリ

此歌ニ付テ鴈ハ常世ヨリ來ト髓腦等ニアリ、常ハ（延歟）胡國ヨリ來ト云、又蓬萊ヨリ來ト云、本文未レ見、蓬萊ハ東

ナリ、又鴈ノ仙家ヘ往反モ如何、又赤染所労トブラヒニ來ル人ヲウタガヒテ。江匡衡

　カリニクル人ニトコヨヲミセケレバ世ヲアキカゼニ思ヒタルカナ

又、清正哥

　トコ世出テ鴈ノ羽衣サムキウヘニコヽロシテフケアキノヨノ風

又考、日本紀公望註云、當世何處乎、答或此國云々、亦云蓬萊ト、然則是仙人ノ所在處耳、所在未詳云々、又

万葉ニ、大伴卿向レ京上道之時、過二鞆津一日作哥

　ワキモコガミシトモノウラノムロノキハ常世ニアレドミシ人ゾナキ

此歌ハ、トキハト云義歟、但赤染●清正ガ哥床ヲソヘタレバ蓬萊也、心エガタシ、猶可レ考二本文一、或云、此國

又蓬萊、然則是仙人所在未詳云、此國ハ常世胡國ト云ベカラズ、亦日本記ノ註ニトコ世ッバ或ハ此國ト云リ、

胡ノ國ト云コト歟

丸案ニ、日本紀ノ註ニ此國トアルヲ、胡ノ國ト云義ノ註尤ト存ザレドモ、鴈ノトコ世ヨリ來ルト云未決。丸心

ヲ付テミルニ、鴈ハ北ヨリ來レバ、唐ノ北ノ胡國ヲサス、其イハレアリ、蓬萊ハ唐ヨリ東海ニ在トミエタリ、

徐文成ガ秦ノ始皇ヲアザムキ仙藥ヲ求ニ蓬萊ニ赴トテ出タリシモ、日本ノ富峯又熊野山ニ上ルト云、楊貴妃ノ

魂魄ヲタヅネシ方士モ、熱田宮ニ來ルトイヘバ、日本ヲ蓬萊トサシテ公望ガ註ニ此國ト云ナル歟、又蓬萊ニハ

不死ノ藥アルニヨリテトコヨノ國トヨム也、須彌ノ四州ヲ聞ニ、南贍部州ハ壽命短ク、北州ハ壽千年ナリ、鴈

ハ北ヨリクレバ命長トコロヨリ來ト云義ニテ、鴈ハトコ世ヨリ來ルトヨムナルベシ、其トコ世ノ文字ハ日本紀ニ蓬萊ト書テヨマセタレバ、ソレニツキテ顯昭ノ不審モ出來カト存、此外別ニ自ニ蓬萊一鴈ノワタルト云本文アルベシトハ不レ存、將來之君子猶タヾサルベシ

一トフヒノ野守

カスガノヽトブヒノ野守イデヽミヨイマイクカアリテワカナツミテン

顯昭云、兩義アリ、一ハ飛火ノ野守、一ハ飛火野ノ森也。奧義抄云、普通義ハ飛火ノ野守也、實ハ森ナリ、而ニ森ニワカナツマンコト不審。但寛平法皇春日詣之時、大和守忠房所レ獻歌云

ワカナツム年ハヘヌレドカスガノヽ森ハケフヲヤ春ト知ラン

忠房廿首奉ルニ、返歌ヲ二首ヅヽ女房ニヨマセテ廿番ニツガハレテ歌合ニセサセ給ヘルナリ。返歌

ケフニテゾ春〔〇ワレ補〕モ知ヌル春ハ猶カスガノ野ベノ森ナラネドモ

アリヘテモカスガノヽモリ春ニアフハトシモワカナモツメルシルシカ

又忠房哥

今年ヨリ匂ソムメルカスガノヽ若紫ニテナヽフレソモ

返歌

紫ニテモコソフルレカスガノヽ野守ヨ人ニワカナツマスナ

チハヤブル神トミルランカスガ野ノワカ紫ニタレテフレマシ

今案ニ、森ハケフヲヤトヨムハ野守ヲ一畧歟、森ノ一義用ベカラス、又トモシハ唐令云、諸置レ烽（ヲクトブヒヲ）之處置レ火臺之上挙レ烟（ホクシヲ）又此國ニモアリ。國史云、天智三年於ニ對馬・壹岐・筑前等ニ置ニ防与ト烽、和銅五年廢ニ高安烽ニ始置ニ高見及春日烽ニ以通ニ平城ニ也、延暦十五年山城・大和兩國相共便處置ニ彼烽燧ニ。又能因哥枕云、肥前國トブヒノ岡、又万葉長歌云、イコマヤマトブヒガクマニ、又トブヒガ原トヨム。又故六條左京兆、淡路ト云女ノモトヘ

イカニセントブヒモイマハタテワビヌ辟モカヨハヌアハヂシマヤマ

コレハ須磨ト淡路ノイハヤト云所トハ渡ニテアルニ、アハヂヘ下ル急ノ使舟ノナケレバ、スマノウラニテ火ヲタクナリ、ソレニアハヂノイハヤノ濱ニ火ヲタキテ合也、サテムカヘ舟ツカハス、其ヲトブヒタツ、ト〔〇フ脱カ〕ヒアクト云ナリ。無名抄（俊頼）云、昔春日野ニ火ノ飛ケレバ、恐ヲナシテ、野守ヲスヘテ守ラセケルトゾ、此事マコトナラバ、飛火ノ野守トハ春日野ニテノミヨムベキコトナリ、外ノ野ニ詠タラバヒガゴトナルベシ。私云、此火ノ飛ト云事ハ烽ヲ不レ知歟、烽ハ國々ニアレド飛火野ト云コトハ春日野ニノミヨミナラハシタレバ、烽ノ義ニテモ他野ニ不レ可レ詠

一トモノミヤツコ

トノモリノトモノミヤツココヽロアラバ此春バカリ朝ギヨメスナ

顕昭云、主殿寮ノ下部ナリ、一説ニ彼下部ハ伴氏ナリト云、如何。神祇官ノ下部ヲモトモノミヤ人トシルセリ、凡諸司ニワタリテ伴●佐伯二ノ氏ヲ用ラレタリ、昔ハ他姓ノモノハ改姓シテ諸寮ノ下部ニハ成ナリ、主殿寮ニハ伴氏タエズ云々。奥義抄云、或人云、主殿ノ下部ハ伴氏ニテ有也、ミヤツコハ彼氏ノカバネナリト申セド、トモトハ公ト云字ヲヨメバ、キミノミヤツコト云ニヤ、ヤツコトハ氏ナリ、奴也、君ノ御奴トイヘルニコソ、万葉ニ

マスラオハトモノゾメキニナグサムルコ、ロモアランワレゾクルシキ

是公事ノイソギニナグサム也、田舎ニハ大領小領ナド云モノヲバコホノミヤツコ、スコノミヤツコナド云由口遊ニミエタリ、只オホヤケニハ民ヲバ宮ツコト云ベキニコソ、但トモノ公ト云義ハアマリノコト也、伴氏ノミヤツコトヨムナルベシ。今云、万葉ニハ友ノ騒ト書リ、友ノイトナミト云ベキナリ、公ノ義アルベカラズ。綺語抄云、諸司ニハトモノミヤツコト云下部ノアルナリ。私云、此事アシカラズ

一トカヘル鷹

我レガ身ハトカヘルタカトナリニケリ年ハフレドモ戀ヲワスレズ

鷹ニカヘルトヨムハ毛ノカハルコト也、トカヘルハ鳥ヤニテ毛ノカハルナリ、ヤマカヘリハ山ニテ毛ノカハル也、サレバ青鷹ト書ケバワカダカトヨム、一歳ノ鷹ナリ、撫鷹トカキテハ鷹カヘリトヨム、二歳ナリ、鴘ト書テハカヘルトヨム、經二歳也、タカヘルト云ニ二様ノ申、一ニハ合ヤルタカノ手ヘカヘルヲ云、長能歟

御狩スル末野ニタテル一松タカヘルタカノコヰニカモセン

一ニハ、我手ニテ毛ノカハルヲ、タカヘルト云ナリ、長能ガ哥ハアヤマリト古キ物ニ書タリ、或説、タカヘルト、トカヘルトハ同音ナレバ同事ト云〻、トヤカヘルヲ「ヤ」ノ字ヲ畧シテトカヘリト云トイヘ共、古歌ニ

ハシダカノトカヘルヤマノシヰ柴ノハカヘハストモ君ハ忘レジ

トアレバ、山ニテ毛ノカハルヲトカヘルト云歟、又トヤカヘルトハ、トヤニテカヘルニムカヘテ、トヤノ外ニテカヘルト云心トイヘド、ソレモコヽロエラレズ、又説、鷹ニハ七カヘリ・八カヘリト云コトアレバ、十カヘリト云トイヘド、十度カヘル山ト云モ心ユカズ、大方此トカヘルト云コト、京田舎ノ鷹カヒモシラズ、古哥ドモニテ心ヲウルニ、トハ鳥也、其ノ鳥ハ鷹也、万葉ニ鷹カリト書テ、トカヘリトヨム、サレバトカヘルハ鷹ノ毛ノカハルヲ云、山カヘリヲモトカヘルヤマトヨミ、鳥ヤニテモ久カヘル由トミエタリ、又トダチ・トツケナド雉ヲモイヘド、此トカヘルハ鷹ナリ。以上顯昭説。綺語抄云、外ニテカヘルモ、トヤデカヘルモ、同トカヘルト云、次ノ年ノ秋過テカヘルヲ・片カヘリト云、ムネノフノヨコサマニナル也、或ハ野ナドニテカヘルヲ云、童蒙抄云、トカヘルハ、トヤカヘル也。奧義抄、トカヘルハ、トヤカヘルヲ云ト思侍ニ

ワスルトハオモハザラナンハシダカノトカヘルヤマノ椎モ・ミヂス

此哥ニテハ、ヤマニテカヘルヲモトカヘルト云トキコエタリ、オボツカナシ

丸案ニ、イヅレモ後ノ人ノ推量ノ説也、三十六人ノ歌仙ノ傳ハナキトミエタリ、サルホドニ各々ニシテイヅレ

ヲ正義ト難用、其中ニモ古歌ノ數ヲ以テヨク勘辨セラレシハ、顯昭ノ說ニ、トカヘルノトハ鳥也、鳥ハ鷹ナリ、サレバ鷹カヘルト毛ノカハルヲ云ベキ歟ノ由尤宜歟、サレドモ箸鷹ノトカヘルト云ツヾキサモアリゲニモ思ハズ、鷹ノ鷹カヘルト云ベキニアラズ、カヘルハ毛ノカハルヲ云トモ云ベシ、山カヘリトハヤマニテ毛ノカハルヲ云、次ノ年ノ秋過テ毛ノカハルヲ片カヘリト云ナレバ、トカヘルモ毛ノカハルナルベシ、「ト」ノ字ニ付テ或トヤカヘル、或外ニテカハル、或十度カハル、或鳥カハルナリト說々混乱セリ、山ニテ毛ノカハルヲヤマカヘリト云ニ付テ、里ニテ毛ノカハルヲトカヘルト云ハ、トヤカヘル心也ト註シタルナリ、サテハトカヘルヲトヤニテ毛ノカハルコト歟ト思ヘバ、トカヘルヤマノ椎柴トヨミタル哥ニ付テ不審ヲコリテ未決ナリ、今愚ナル智ニテ存ヨルハ、此トカヘルハ年ノ字ナルベシ、一歳・二歳ト年ヲフレバ毛モカハルユヘニ、年ヲカユルトイヘバ毛ノカハルニナル也、此カヘルノトキハ歸ノ字ヨリ反ノ字ヲ用ベシ、カハルコ丶ロツヨシ、サヤウニテコソ箸鷹ノトカヘルトツヾケテ侍レ、下句ニ年ハフレドモト侍義ニモ叶ナリ、「ト」ノ字年字同心病ナレドモ、古歌ニハ其類多シ、年ノ字ニ心エ侍レバヤマニテ毛ノカハルヲモ、里ニテカハルヲモ、更ニ不審ハナキナリ、能々吟味シテ猶ヨキ說アラバ可レ被レ改之

一トモヤタハサミ

マスラオノトモヤタバサミタムカヒニヰルマトカタハミルニサヤケシ

顯昭云、得物矢ト書、鹿・鳥ニ射アツル矢ヲ云ベシ

足曳ノヤマニモ野ニモミカリ人トモヤタバサミ乱レタルミユ

先ノ哥ハ的ヲヰルトアレバ的ニアタラン矢ヲ云トシルベシ、長歌ニ

マスラオノ得物矢タバサミタチムカヒタカマトヤマニ

ヤフサメニタバサミトハ矢一筋ハ手ニハサミテマツ、一ヲバヰテ後ニハサミタルヲヰル也、万葉〔○抄アリ袖〕ニ、弓ヲ二人立向テ射ニ、矢ヲ大指ニハサミテ射ナリ、ソノハサミタル矢ヲトモヤト云也、又一説ニ、アマタノ舟ヲトモ舟ト云如ク、トモナフコヽロ也。又一説ニ、弓射ニハ鞆ヲカクレバ鞆ト矢トハサムナリ、サレド軍ニモ的ノミナラズ鞆ヲカクレバ難レ用。童蒙抄ニ、モノニアタル矢ヲ云、得物矢ト書、タバサミトハ一二三モ手ニハサミヌキテ射也

丸案ニ、得物ハ万葉ノカンナ書也、トモヤハ供矢ナルベシ、弦ニ一ツハケタル矢ヲサキニスヽメバ、主君ノ心ニシテ手ニイクツモテモアレ挿ムヲ供ニタトヘタル詞カト覚侍、コレ万葉ノ説ニ叶義也

一トフノスカコモ

陸奥ノトフノスカゴモ七フニハ君ヲシナシテミフニワレネン

顕昭云、アミ緒ヲ十シテヒロクアミタル菅ノコモナリ、薦ハ大ヤウ菰蒋(コシヤウ)ニテアミタルヲイヘド、薦ニテアミタルヲバワラコモ、菅ニテアムヲバスガゴモト云ナリ、陸奥ニヒロキコモノ有故ナリ。童蒙抄ニ、十府ノ郡ヨリ出トイヘド、奥州ニ全クトフト云郡ナシ。俊頼山家風ノ哥ニ

アラシノミクエヌ太山ニンム民ハイクエカシケルトフノツカナミ

ツカナミハ藻ヲアミテ(一〇シク也袖)ワラクミ●アラシキ●ネコカキトモ云モノナリ

一トツミヤトコロ

月日ノミアラタマレドモ久ニフルミムロノヤマノ礪津宮所

「ト」ハ常也、「ツ」ハ休字也、ヒサニフルハ、久住也、万葉ニ

ヨソニミシマユミノ岡モ君マセバ常都御門トヤドリスルカモ

トツミヤドコロト、常ツ御カド同事也

一友カヾミ　付友マツ雪

クロカミト雪トノ中ノウキミレバトモカヾミヲモツラシトゾ思フ　　貫之

コレハ我トワガ面ノカハリ、髪ノカハルヲバシラヌニワガ同シ年比ノ人ノ、半白ニナリタルヲミテ、サテハワレモアノヤウニコソヲトロヘヌラント知ヲ友鏡ト云也、後選ニ雪ノ朝老ヲナゲキテ。貫之

フリソメテ友マツ雪ハムバ玉ノワガクロカミノカハルナリケリ

返シ

クロカミノイロフリカフル白雪ノマチヅル（イツ）友ハウトクゾアリケル　　兼輔卿

又此返シクロカミト雪トノ……貫之。返シ

年ゴトニシラカノ數ヲマス鏡ミルニゾ雪ノ友ハシラスレ

フリテキエヌ雪ノ、又フル雪ヲ待ヲ友マツ雪ト云ナリ

一トフサタテ

鳥總立アシガラヤマニフナギヽリ木ニキリカケツアタラフナギヲ

顯昭云、哥ニトブサトヨムハ木ノ末也、トフレト云ハ、ホツエト云義也

我思ミヤコノ花ノトブサユヘ君モ下枝(シツエ)ノシツ心アラジ

此心ナリ、字ニハ鞦(シリカイ)ト書テ尾フサトヨム、ソレヲトブサトハ鳥ノ尾フサト云コヽロナリ、鳥ハナカントテモタヽントテモ、羽ヲモ尾ヲモツクロヒハタラカスモノナレバ、トブサタテ足カルキヤマト云歟、「ラ」ト「ル」ト同音ノ故也、イカニモトブサタテハ足柄山ニ付タルコヽロナルベシ

丸案ニ、杣ヲ鳥總ト云ハ、木ノ末ハ鳥ノ尾總ニ似タルユヘナレバ、木ノ末ヲ云ナリ、杣ノ木ヲ切テハ、其キリクチニ木ノ枝ヲタテヽ山ノ神ヲ祭事アリ

一説ニ、舟木ニスル木ヲ、ソバナル木ニタオレカクレバ舟木ニ不レ用、子細アルニヨリ、アタラ舟木トヨメルト云々

一トクキノヤ

アサマシヤ千鳥ノエゾノツクルナルトクキノヤコソヒマハモルナレ

奥ノ夷ハ鳥ノ羽ノ莖ニ附子ト云毒ヲヌリテ、万ノアキマヲハカリテ井ルトイヘリ、附子矢トハ是也

歌林樸樕第四畢

歌林樸樕　第五

【チ】

一チハノカツ野　（日本紀第十譽田天皇）應神六年春二月天皇幸二近江國一至二菟道野上一而歌之曰

知婆能伽豆怒塢（葛野也、所名也）彌例麼（見也）茂茂智儺羅夜（百千足也、儺与レ登五音通、羅与レ利五音通）珥波母彌喩（庭見也、言二千鳥之在一レ庭也）區珥能朋母彌喩（國府見也、朋与レ不五音通）

古事記曰天皇越幸二近淡海國一之時、御二立宇遲野上一望二葛野一歌云と

凡御哥意者、於二菟道野一瞻二望百千屋庭一國應（○府カ）遊レ眼之由也

丸云、此モヽチタルハ、百千ノ屋庭足滿タルト云、一説ハ國ノ府モミユニヨクツヾキ侍ル、又庭ニ千鳥ノアルト云説ハ、少ニツカヌヤウニキコユ、サレトモ此行幸春二月、近州ヘノ道、ウヂ野ヨリチバノカツ野ヲ御ランジヤリテノ眺望ナレバ、百千鳥モ囀リ、人家ノ庭ノ木立モミエ、ソレヨリ國ノ府中マデモウチツヾキテミエルト云心ニヤ、但庭ニ千鳥ノアルトハチイサシ、然者古今ノ百千鳥モ非レ鶯、只百千ノ春鳥ヲサス歟、此御哥ヲ鳥ニミズ、家ノ百千足トミテハ、宇治野ヨリ葛野ヲ御ランジテノ景氣不レ似レ相歟

一チハヤヒト　大鷦鷯天皇（仁德也）

大山守皇子ツネニ先帝ノワレニ代ヲユヅリタマハヌコトヲウラミ、太子ヲ菟道稚郎子コロサント謀タマフヲ、大サヽ

キノ會闘テ、太子ニ告タマフ、太子兵ヲ伏シテマチタマフヲシラズ、大山守皇子百兵士ヲ領ヒ夜半ニ行、會
明ニ菟道川ヲワタルニ、太子布袍ヲ服シ度子ニ接テ檝櫓トリ、河中ニテ舟ヲフミ傾テ大山守ノ皇子ヲ墮ス、
大山守ノ浮流テ歌曰

チハヤビト（師説強力試猛人也、言　強最崎嶇也云々、神代下卷曰　殘賊强暴横惡之神）ウヂノワタリニ（宇治渡也）サホトリテ（竿取也、謂舟檝櫓ナリ）ハヤケンヒトシ（早人也）ワガモコニコン（吾是來ナリ）

凡歌意者欲レ來ニ于此一之意畢

太子早覺悟給介ル之由也

丸云、太子ノ早サトリ給ト云註如何、コレハ水ニオホル、ホドニ、宇治ノ船頭ノ上手ノ名ヲトリタル人、ハヤク今我コ、ヘ來テクレヨトヨビタル歌ナリ

伏　兵　多起テ岸ニツクコトヲエズ、遂ニ沉テ死ス、其屍ヲ考羅濟ニ泛タリ、時太子ソノ屍ヲミテ歌曰

チハヤビト　ウヂノワタリニ　ワタリシニ　タテル（立ナリ）アヅサユミ（梓弓也）マユミ（檀弓也、言以ニ兩弓一喩ニ伏兵一也）イキラント（射斬也）コ、ロハ（意ナリ）モヘド（思ナリ）イトラント（射取也）コ、ロハモヘド　意思也）モトヘハ（元ナリ）（丸云、元ヲ思ヘバ歟、又ヘハ去歟）キミヅ（君也）オモヒテ（思ナリ）スヘモハ（居也、思臣ナリ）（丸云、始ニ元トアレバ末歟）イモヲ（妹

也、皇子者太子之兒也、姉妹兄弟皆同称也）　オモヒテ（思也）　イラケナク（無二違乱一也）（丸云、違乱ハ和語ニアラズ、ソレハモノヽアラアラシキコトヲバイラト云詞ナリ、イラヽケテナド云如ク、根元ヲ思ヘバ君ナリ、兄弟ナレバ弓矢ニテコロシ奉ランハ、其ヲソレアリトテ、舟ヨリヲトシ奉ルトナリ、武具ニテ害セヌコトヲ云歟、アラ〳〵シケナクナリ）　ソコニ（底ナリ、流狀也）　オモヒ（思也）　カナシケク（悲也）　コヽニ（於是也）　オモヒイキラスゾ（不射斬也）　クル（來ナリ）　アヅサユミマユミ

御歌意者、設二伏兵一雖レ欲レ合二戰一皇子没死之間、不レ及レ放レ矢レ抜レ劔單兵空持二敵弓箭一之由也

丸案ニ、此註不レ叶　只丸ガ先ニシルスガ如クワザト弓矢ニテコロサズ道ヲ思テ水ニ入奉ト云御哥ノ心也

裏書云、千磐破神　万葉第二　千磐破人乎　同卷二　千早人氏川浪乎清可毛旅去人之立難爲　同七　無速鬼子遅乃渡

丸云、カヤウニサマ〴〵カキヲカレタレドモ、ツヰニコトキラズ、後生迷ベシ、チハヤブルト此チハヤ人トハ別也、チハヤブルト云モ色々ニカケドモ神書ノ殘賊強暴正義也、ソサノヲノホリ立シ千々ノ刃ヲヤスルト云事也、又此チハヤ人ハ千々ノ隼人ナリ、早人ト同身輕ク早ワザヲスルタケキ男ノコトナリ、サルニヨリテソレハ氏性アル侍ナレバ宇治ノ枕詞ニ用也

一柱　琵琶ニアル也、此字ヲ琴ニテハコトヂトヨム

一チリヅカ

一着袴 ハカマギ也

一チギノカタソギ 社ノ上ニヲク木也

宗祇ノ説ニ、惣而板屋ノ上ニハ木ヲク也、然ドモ住吉バカリニヨム云々

一チハコノ王

戀ワビテ落ル涙ノ玉ナラバ千箱ノカズニ過ヤシナマシ

基俊判云、常ハシノ田ノクズノ千枝、錦木ノ千ヅカナドノミゾロヅケテ侍ル、千ハコ未知、毛詩ニ千箱トアルハ車也、文選ニモ千箱ト作テ侍、箱ト箱トハ文字カハレドモ體ヲイタハリ(〇カタドリ補)テ書トゾ、コレヨリ外シリ侍ラズ。顕昭云、日本紀。宣化天皇元年詔云、黄金万貫不レ可レ療レ飢ヲ、白玉千箱何能救レ冷。是ハ顕輔卿歌合雅親哥也

一チトセホク

青柳ノホヅエヨヂトリカヅラクハ君ガヤドニモチトセホグトゾ

顕昭云、千年祝ト云心ナリ、ホカフト云モ同事也、コトホギナドモ云リ、万葉長歌ニモ、チトセホギヨメリ、ホギトハ禱トカク、ホヅエヨヂトリハ梢ニノボリトルナリ、カヅラクハ、カヅラニスト云也

一チリヒチ

チリヒヂノ數ニモアラヌ我故ニ思ワブラン妹ガ悲シサ

顯昭云、塵泥ト書ナリ、「チリ」ト「ヒチ」ト二ノ物ナリ、泥ヲバヒチリコト云ヲ、略シテヒヂトモ云、長哥ニモ、ヒヂノ土オチテナキツレ云々、ツヰヒチト云、ヒチヲ薬ト云也、是ノ常ニ塵ヲチリヒチト云ト人シレリ、古今序ニ高キ山モ麓ノチリヒチヨリナリテ云々。居易座右銘、千里始ニ足下ニ、高山起ニ微塵ニ云々、此文ニテ書也。字書ニモ塵埃ト書テハチリトヨミテ、チリヒチトハヨマズ、其說アラマシカバサコソ訓セマシ

丸案ニ、此ヨミヤウ口傳トテチリインヂト云ヘリ、總路ト云テ、水邊ニタヨリテ泥ト云コトヲカクシテコイヂトヨメバ、「ヒチ」ヲ「イチ」トキ、ヨキヤウニヨムト云ヘリ、サレド「チ」ノ字ヲ總路ニハ濁ベシ、チリヒチノ時ハ濁ベキ故ナシ、タ、チリヒチトヨミテ「イチ」トヨムハ無理ナリ、チリヒチト二ツモノニヨムベシト師說也

一チフリノ神

行ケフモカヘラントキモ玉ホコノチフリノ神ヲイノレトゾ思フ

顯昭云、チフリノ神トハミチフリノ神ト云ニヤ、海路ニモヨメリ

水底「〇ワタツミ神」ノチフリノ神ニ手向スルスサノヲヒ風ヤマズフカナン

右二首トモニ貫之詠ナリ、隱岐國ニコソ知夫利条ト云トコロニワタスノ宮ト云神ハオハスレ、舟出ストテハ其神ニ奉幣シテワタリヲ祈トゾ申ス、其本躰ニテ海ヲモ陸ヲモ道ヲイノル神ヲバチブリノ神ト名付ニヤ、又其神ヲ思テ彼所ニモツケタルニヤ

【リ】

一リウジノマツリ　臨時ノ祭也

一離宮(リクウ)

一リウタウ　元眞集　龍膽花

思ヒキヤ萩ノ下葉ノ露バカリウタウマヒキニウツロハントハ

【ヌ】

一ヌテユラク　顯宗仁賢ハ御兄弟也、其父ハ允恭ノ御子市邊押磐(イチノベノヲシハ)ノ皇子ト申セシガ、雄略ノ爲ニコロサレ給フ、ソノトキ皆御身ヲカクサレ流牢アリシガ、清寧ニ御子ナカリシニヨリ、此皇子達ヲムカヘ取テ御位ヲユヅラル　互ニ御辭退アリテ先御弟ノ顯宗ヲ立ラル、其後兄ノ仁賢ニナル、其顯宗ノ御トキ、御父ノ御死骸ヲ埋シ所ヲタヅネタマヘドモ老人ドモシラザリシニ、置目トイヘル老嫗ガシリテ、近州來田綿蚊屋野(クタワタカヤノ)ヘ道シルベシテ行幸アリ、御兄弟ナガラ堀出シタル御遺骨ヲ御ランジ、ナキカナシミ給、其置目ヲアハレミメグマセ給フ、内裏ニヲカセラル、老衰タルニヨリ、カレガ出仕ノ屋ニ縄ヲハリ、鐸鈴ヲカク、其ナルトキハ此置目ガ參ルト

シロシメスベキ爲也、天皇其心ヲ歌曰
アサチハラ（淺茅原也、欲レ讀ニ未明ニ之發語也）ヲソネヲスキ（過ニ遲寢ニ也、言夜半之後未明之裏也）モ丶ツタフ（百傳也、私記曰、百傳之義也、如ニ今驛傳之鈴ニ、鈴卽鐸也）ヌテユラクモヨ（鐸動ラキ也）ヲキメクラシモ（翁目來ナリ）

凡御哥意者、朝動レ鐸、老嫗來之由也

丸云、淺茅原ハ小野トイハンタメ歟、ヲソネノ「ネ」ノ字ハ野ト同意也、ヲソネハ遲寢ニハアルベカラズ、アサネヲ捨歟、「ア」ト「ヲ」ト同音、「ソ」ト「サ」ト同音ナリ、モ丶ヅタフトハ、驛路ニ出ル旅人ノ事也、アサヲキシテ驛路ノ鈴ノ音ガスル、ソレハ朝トクノコト、是ハ老女ノ出仕ノ時ヲ定メズアルヲ、奏者ナシニ鈴ノナルニテシロシメスト云心歟、ユラグハ玲瓏ト書也、コ丶ニテハユラメク心モアリ

歌林樸樕第五畢

【ヲ】

一ヲミノコ　大泊瀬幼武天皇（雄略ハ允恭第五御子也）御兄ノ穴穂天皇（安康也）山ノ宮ニ出御遊ノ時、皇后ニカタリ給ヤウ、（此皇后ハ履中ノ皇女也、仁徳ノ皇子、大草香皇子ノ妻タリシヲ、臣ノ讒ニヨリ安康忽大草香ヲコロシタマヒ、皇女ヲ入テ皇后トシタマフ、眉輪王ハ大草香ノ御子也）汝ノウミタマヘドモ眉輪王ヲバ我オソルトノタマフヲ、眉輪王幼年樓下ニ遊居テ悉ニ聞テ、穴穂天皇●皇后ノ膝ヲ枕トシテ酔テ晝眠セラレシヲ刺殺ツ、時ニ雄略聞召驚テ、兄等ヲ猜給テ、八釣白彦ノ皇子ヲ斬、坂合ノ黒彦ノ皇子ヲモイカリ、眉輪王ヲコロサントスルニ、眉輪王ノ曰、臣天位ヲバ不レ求、タヾ父ノ仇ヲ報ノミ、坂合黒彦皇子深恐テ眉輪王ヲカタラヒ圓大臣宅ニ逃入、雄略使ヲツカハシ乞レ之、大臣報曰、蓋聞人臣有レ事トキハ逃ヨ入王室ニ、未見君王ノ臣ガ舍ニカクルト云コトヲ、今此兩君、臣ヲ深頼來ルヲ、イカニシテ送マツランヤト、由是雄略マス〳〵圓大臣ガ宅ヲ兵ヲ以テカコム、大臣庭ニ立出テ索ニ脚帶ヲ、時ニ大臣ノ妻脚帶ヲ持來カナシミテ歌曰

　ヲミノコハ（女子ナリ）タヘノハカマヲ（妙袴也）ナヽヘヲシ（七重着也）ニハニタヽシテ（立レ庭也）

　アユヒ（脚帶也）ナダスモ（度也、奈與レ和同音也、言與ニ脚帶於大臣ニ也）

大臣裝束已畢テ進ニ軍門ニ跪拜曰、ツミセラルヽトモ御命ヲウケタマハルコトナケン、古人ノ云、匹夫之志難レ可

ㇾ遊、方ニ匿ニ于臣ニ、伏願ハ大王ニ臣ガ女韓媛ト葛城ノ宅七區ヲ奉テ贖ㇾ罪ヲト、天皇ユルシ給ハズヤキコロシタマフ

一ヲハヤシ　皇極ノ御宇ニ劍池ニ一ノ莖ニ二ノ蕚アル蓮アリ、豐浦大臣妄推曰、是蘇我ノ臣榮ント云ル瑞相也、即金墨ヲ以テ書テ大法興寺丈六ノ佛ニ獻ズ、是月國内ノ巫覡等枝葉ヲ折取、木綿ヲカケ大臣度ㇾ橋之時ヲ伺ヒ、爭テ神語入微（〇微カ）之說ヲ申之、其巫甚多、不ㇾ可ニ具聽ㇾ、老人等曰、移風之兆也、于時有ニ謠歌三首ニ其一曰

ハルバルニ（遙々ナリ）　コトゾキコユル（事聽也）　シマノ（嶋也）　ヤブハラ（藪原也）

其二曰

ウチカタノ（謂隔ニ江河等ニ所也）　アハノ、（所名也）　キヾシ（雉ナリ）　トヨモサズ（扇也、神代上卷曰、扇大扇國、言動乎）　ワレハネシカド（寢ナリ）　ヒトゾトヨモス（人扇也）

其三曰

ヲバヤシニ（小林也）　ワレヲヒキレテ（引ニ入吾ニ也）　セシヒトノ（殺人也）　オモテモシラズ（面不ㇾ知也）

イエモシラズモ（家不ㇾ知也）

或人說ニ第一謠歌ニ曰、此即宮殿接ニ起於嶋大臣家ニ而中大兄与ニ中臣鎌足連ニ密圖ニ大義ニ謀ニ發入鹿ニ之兆也、說ニ第二謠歌ニ曰、此即上宮王等性順都無ㇾ有ㇾ罪而爲ニ入鹿ニ見ㇾ害、雖ㇾ不ニ自報ニ天使ニㇾ人誅ニ之兆也、第三謠歌曰、

此入鹿臣忽、於ニ宮中一爲ニ佐伯連子麻呂・稚犬養連網田一所レ斬之兆也

一ヲクラス　心ヲアトニナス也、ヲクラサヌハ、コヽロヲ先立ナリ

クルト明ト人ニコヽロヲヽクラサデ雪ニモナリヌ白河ノ關

人ヲ心ニワスレヌナリ

一ヲシテルヤ　難波　此五文字古來種々ノ說アリ。宗祇說ニ、ナニハヽ遠淺ナレバ、舟ヲヽシ出ス故云

と

丸案ニ、不レ可レ然、サアラバ「テル」ノ「テ」ノ字出ナレバ濁ベキニ、シナテル・ヲシテル万葉ニ照字也、只「ヲシ」ハ「ウシ」也、ウシホテルナリ、シホ海ノ枕詞ナリ、ニホテルハ湖海ノ枕詞ナリ、袖中抄ノ說ミナ未當、喜撰・能因說ヲ顯昭難ズトイヘ圧、其難カヘリテアヤマリ也

一女郎花ノ一時ヲクネル　此時ハ四季ノ中、秋一時ナリ、「クネル」ハ女ノナマメク躰也

一ヲニノシコクサ

万
萱草ワガ下紐ニツケタレド鬼ノ志許草コトニシアリケレ

顯昭云、鬼トハワルキト云事、「シコ」モ凶ノ字ナリ、別ニ草アラズ、萱草ヲ云ナリ、ワスレント萱草ヲ下紐ニ付タレバ猶ワスレネバワルキ草ナリト云心也

万
マスラオヤカタ戀セントナゲヽドモ鬼ノマスラオ猶戀ニケリ

此哥モ、マスラオノタケキ身ニテ、何ニカタ戀セントナゲヽドモ、ワルキマスラオニテ、猶戀ヲスルト云ナリ

丸案ニ、有説ヨシ、俊頼髄腦ノ鬼ノ腰草、又紫苑ヲ云ト云説、不レ可レ然ト思侍レドモ

万 忘草カキモシミヽニウヘタレバ鬼ノシコグサ猶戀ニケリ

俊頼ノ哥

マクマノニ雨ソボフリテ木隱ノツマヤニフケル鬼ノシコグサ

カヤウニ別ニアルヤウニ名匠ノヨミヲキタレバ、紫苑ヲ云ニ定テヲクベシ、親ノ墓ニ兄ハ萱草ヲウヘワスレタキト思フ、弟ハワスレマジキトテ紫苑ヲウエ、紫苑ハモノワスレセヌ草ナリ、イヅレモ孝心トテ亡魂アラハレ、汝ラガ日ノ中ニアルコトヲバ夢ニシラセントチカヒキ云々、此義ニテ始ノ哥ヲミレバ事ニシアリケリハ「巽」ノ字又殊ナリ、別ニ又アルト云心ナリ

一ヲカサハラ、ミツノミマキ

小笠原ミヅノミマキニアルヽ駒トレバヅナヅク此我袖トレ

顯昭云、是ハ忠峯十躰ノ内古歌躰ノ哥ナリ、ヲガサハラハ、甲斐也、ミヅノミマキハ山城ナリ、證本ニハヘミノ御牧トアリ、能因哥枕ニモヘミノ御牧トハ、蛇ニ似タル駒ノ生ル故ニ云ナリ云々。堀河院百首ニ、前兵衛佐顯仲春駒ノ歌ニ、ヲカサハラミヅノ御牧トヨメリ、奥義抄ニモ此定ニヒケリ、アヤマリ也、尤以遺恨ナリ

丸云、古人トテモ事ヒロキ道ナレバアヤマリナカルベキニアラズ、カヤウニ證處分明ナルヲバミヅノミマキヲ

トアヤマリニシテ、ヘミノ御牧ヲ正トシ、顯昭ノ說ヲ可レ用也、末代ニハ小笠原ミヅノ御牧トハヨムベカラザルコト也

一ヲクルマノニシキ

小車ノ錦ノ紐ヲトキタレテ（○ド袖）アマタネモセズ君ヒトリナリ

顯昭云、車ヲチカヘ丸ニ文ニヲレル錦ナリ、太神宮ノ御衣ニハ此錦ヲ用云々。綺語抄ニハ、男ノ乘車ヲヲグルマト云トアリ、不レ可レ用、タシカナル無レ說云々

小車ノマヒテ包ノタヘセズハニシキノヒモヲトカントゾ思フ

ヲクルマノニシキノヒモノトケン時君モワスルナワレモタノマン

唐ニハ、男ニアフトキハ錦ノ袴ヲキル也、其袴ニヨツ緒ト云モノ、付タル帶ヲヒモトハ云ナリ。綺語抄云、袴ノ下紐ナリ

忍ベシムスビモアヘズ小車ノヨヒ〳〵ゴトニトクル下ヒモ

小車ノワヅカニ床ハミツレドモニシキノヒモハトカデカヘリヌ

顯昭云、錦ノ紐ノ文小車ナルベキニ非ズ。又風俗ニ、小車哥ニ

ヲグルマイレテキノヒモトカンヨヒヲシノハ（○は袖アリ）キヨナワレシノハキヨワレシノハキヨマサイホテケウ（ラ袖）シ　任本

若キノヒモトカンヨシトアル錦ノ文字落歟
丸寐ニ、錦ノヒモヲトキタレテノ歌ハ衣通姫ノサヽガニノ哥ノ返シナリ、允恭天皇ノ御製也、太神宮ノ御紋ノ錦ノ説ハコヽニ無詮コトナリ、天子ナレバ伊勢ノ御紋ヲ用給カトスレバ、天子ナラズ人ノ哥ニモ小車ノ錦多シ、コレハ唐ニシキノハカマノ古事可然歟、但ソレハ男ニアフトキトアレバ女ニカギルヤウナルヲ、右ノ哥ドモハ男ノ着タルヤウナリ、通用シテヨムニヤ、又錦ノ紐ノ紋車ニテハアルベカラザルト顯昭ノカヽレシハ、ヒモハセバキモノナレバ車ノ紋ハアリガタシト云コト歟、カラノニシキニハイカヤウニ小キ車モナドカナカラザラン

一ヲフノ浦

ヲフノウラニ片枝サシオホヒナル梨ノナリモナラズモネテカタラハン

顯昭云、コレハ古今ノ東哥ノ中ニ伊勢歌ナリ、ヲフノ浦ハイセノ國ニアリ、齋宮御庄献ニ梨所ニナリ、又梨トイハデモ、ナリモナラズトヨム、万葉ノ東歌ニ

小山田ノ池ノ堤ニサス柳ナリモナラズモナトフタリハモ

コレモ、妻男ニ成ナラズトモト云心トミエタリ

一ヲハステ山

我心ナグサメカネツサラシナヤヲバステヤマニテル月ヲミテ

信濃ニアリ、母ノヤウニヤシナヒタテタルヲバヲ、妻ノ云付テ、ヲイノ男、月ノアカヽリケル夜タラシテ、オヒテサラシナヤマニ捨シヨリ、ヲバステ山ト云也、心悲覺テナガメケルヨリナグサメガタキ月トハヨメリ、又行ムカヘ返シテキニケリ、ソレヨリヲバステ山ト云ケル、コレハ大和物語ノ分也、又無名抄ニハ、此哥ヲヽバノ詠ルトアリ、其サキハ冠ノ山トゾカケル、冠ノコジニ似タルトカヤ、大和物語ハオイノ男ステ、無名抄ハメイナリ、物語ハムカヘテカヘリ、是ハステヽヤミニケリ、猶物語ノ説ニ付ベキ歟、此ヲバステタルヨリ後、此山ヲバヲバステヤマト云ベシ、オイニテモ、メイニテモ、ステタランヨ、ヲバステ山ニテル月ヲミテトハ不レ可レ詠歟、坂東ニ第一高國ハ信濃ナリ、甲斐ヨリモ美濃ヨリモ、越後ヨリモノボル也、其國中ニヲバステ山高ケレバ、月マコトニアカヽリシトゾ、顯注密勘ニモ、物語ノ如當座ニオイノヨム哥ノ説ヨシトテ、カラノ當坐ニツケタル山ノ名ノ證例等アレドモ、サリトテハ此哥後人ノヨミタル歟ナルベシ、オイカヨミタル哥トハキコエズト門弟衆ヘモ披露セシニ、其夜ノ夢ニ、定家卿、丸ニ物語ノ説ニ付ベシ、後ノ人ノヨミタル哥トミルハアシヽト明ニヲシヘタマヒシマヽ、又門弟衆ヘ此由告シラセ侍ル

一ヲソノタハレ

世ヲ中ニヲソノタハレノタユミナクツヽマレテノミスミワタルカナ

顯昭云、獺ハタハフレテクヒアフホドニ、ハテニハクヒコロスト云リ、サレバタハブレテ、ハテニハ腹立ナドスル人ヲ云也、丸云、ツヽマレテハ、ツヽシマレテナリ、又万葉ニタハレテト云コトアリ。石川ノ女郎

タハレヲト我ハキケルヲヤドカサズワレヲカヘセリヲソノタハレヲ

返シ　大伴田主

タハレヲニワレハアレドモヤドカサズカヘセル我ゾタハレヲニハアル

丸、万葉ノ心ヲカンナニ申ベシ、コレハ大伴ノ田主トテ無双ノ美男アリテ、ミル人コゝロヲナヤマス、石川ノヲトメ其トナリニ井テ、モトメケレドモカクト云ヨランタヨリナシ、アル夜タクミ出シ、堝子ヲ手ニサゲ、貧女ノマネヲシテ火ヲモラヒニ行、クラキ夜ナレバ、ソノ心ハシラズ、火ヲトラセテモドシケレバ、翌日此歌ヲヨンデ送リケルナリ

奥義抄云、タハレヲハ好色ト云心也、ヲソトハキタナシト云ナリ、今モ田舍人ハ申詞ナリ。顯昭云、或人云、東國者ハソラ事ヲバヲソゴトゝ云ナリ、サレバソラ色ゴノミトヨメルニコソト申メリ、万葉ニ

トコヨベニアラマシモノヲツルギ太刀ワガコゝロカラヲソヤ此君

丸案ニ、此歌ハヲソキト云歟、トコ世ベハ常歟、常ニソフヤウニスベキモノヲ、心カラ別々ニ居テマチワブルト云義歟、又奥義ノキタナシト云說ハ今モワルキ道具ナドヲバヲソキモノト俗ニイヘリ、ヲソロシキト云心トミエタリ、ソノ字ヲ濁ルハアヤマリナレドモサヤウニ云付タリ、サレドモ此哥ノヲソヤハ心不レ叶

一ヲフチノ駒

ミチノクノヲフチノ駒モノカフニハアレコソマサレナヅクモノカハ

ヲフチハ小班（マダラ）也。後拾遺ニモ

相坂ノ關ノ杉村引ホドハヲフチニミユル望月ノ駒

奥義抄ニハ、「ヲフチ」ハミチノクノ所ノ名ナリ。曾丹ガ哥ニ

マダラナルヲフチノ眞弓ミルトキゾイモガテカセバイトド戀シキ

此哥ニモヲフチトハ所ノ名トミユ、アダチノマユミト云ガ如シ。顯昭云、奥州ニヲフチト云所未レ聞、只馬ハイヅレノ國ニモアレドミチノクニ馬トテイミジキモノニスレバ、ミチノクノヲヲチノ駒ト詠也

ミチノクノアダチノ駒ハナヅメドモケフ相坂ノ關マデハキヌ

是ハアダチト云所ノアレバ、駒トモ、眞弓トモヨム也、ソレモ陸奥ノイミジキニヨリテ名高キコユルナリ、但曾丹ガ哥ハヲフチノマユカキト云タル本アリ、ソレハイハレタリ、眉作ノ落チリタランヲミテ、イモガテカゼ思出ラルベキコト也、弓ヲミテ妹ガ手風ハ思出ンコトイハレナシ

丸云、モト古キ閑書ニ此歌アリ、ソレハ始ノ五文字マダラトハナクテ枕ナルトアリ、ソレナレバ夫ノネタル枕ノ上ニアリシ小斑ノ弓ヲミテ、手マクラカハセシ夜ノ手カセヲオモヒ出テシタフ心トキコユ、夫婦ネタル枕ニハ弓太刀ヲクコトモアル故ナリ、ヲフチノ眉カキトハ僻事ナルベシ、此歌ノ義ヲエキカヌモノ丶ヲシアテ丶書カヘタルナルベシ、ソレカ落チリタルナド丶云義モ手風ニアハセンタメニ了簡シテ顯昭ノ書タレドモ心ヨク不レ叶、枕ナルヲ斑（マダラ）ナルト書アヤマリタルナルベシ、只駮（マダラ）ノ馬ヲ丶フチノ駒トヨミ、マダラナル弓ヲ丶フチ

ノマユミト心得ベシ、顯昭ノ師説ニテ奧州ニハヲフチト云トコロナシトイヘレバ、所ノ名ニテハアルベカラズ、殊ニ關ノ杉ムラノ哥ノヲフチニミユルモチ月ノ駒トヨミタルニテ、名所ニアラザルノ義ヨクキコエ侍

【ワ】

一ワガセコ　日本紀第十三、雄朝津間稚子宿禰天皇トハ允恭ノ御事也、八年ノ春二月藤原ニ幸シ密ニ衣通姫ノ消息コノ夕天皇ノ臨コトヲ姫シロシメサズ、天皇ヲ戀テ獨曰

ワガセコガ（我夫也）クベキヨヒナリ（可來夜也）サヽガニノ（佐々蟹、謂蜘蛛也、私記曰、山名也）クモノヲコナヒ（蜘蛛之行也、ト構ナリ）コヨヒシルシモ（今夜驗也）

天皇聆是歌則有感情而歌

サヽラガタ（佐々良形也、言小形之文也）ニシキノヒモヲ（錦紐也）トキサケテ（解ト也）アマタハネスミ〔○ニか〕（多不寢也）タヾ一夜ノミ（只一夜也、恐皇后之威不宜夜也）

明旦天皇見井傍櫻華而歌

ハナグハシ（花香也、具与加五音通）サクラノ（櫻也）メデ（謂日出也、略詞也）コトメデハ（他日出也）ハヤクハメデズ（早不日出也）ワガメヅルコラ（我日出子、謂衣通也）

皇后聞之且大恨也

丸、此歌ノ註ニテモ心ユカズ、櫻ノ目トハ木ノ目ニハアラジ、天皇ノ御目也、コトメテバ、、コトナル花ヲメテナバ歟、ハヤクハメデズハ、イマ、デハコトモノニカヤウノウツクシキコトヲミズ、タヾワガメヅル衣通姫ニヒトシト云義歟、ハヤクトハ今ヨリ先ト云詞ナリ

一ワタクコ　繼体天皇二十四年冬、毛野臣任那ヨリ皈ル到テ對馬ニ疾テ死、海路ヨリ死骸ヲ入ニ近江ニ、其妻歌曰。日本紀ニ尋レ河而入ニ近江ニトアリ

ヒラカタユ(平形ナリ、在近江之所名ナリ)(丸云、日本紀ニ河ヨリトアル淀川歟、平方ハ大坂ノ道ノ名所歟)　フエフキノボル(笛吹上也)、アフミノヤ(近江ナリ)　ケノ、(毛野也、那與能同音)　ワクコ(吾子也、謂夫也)　イフヘフキノボル(伊助語也、笛吹ナリ)

凡歌ニ者、毛野臣於西海ニ雖レ死、爲レ致ニ屍於故郷ニ自ニ海路ニ迄ニ近江ニ也、笛吹者毛野臣久住ニ韓國ニ之間、依ニ漢家之例ニ、葬礼張レ笛歟、且又本朝上古者有下發ニ哥笛於葬礼ニ之事ニ也

丸云、葬礼ニ笛ヲ吹ト云コトモアルベカラズ、コレハ毛野ガ存生ニテノボルヤウノ体ヲヨミタル哥也、毛野笛吹シ人トミエタリ、ソレニテ猶アハレニ覺侍

一ワラデラム　ワラヲタミ恒ニモシキモノニスルヲ云、俊成抄ニハ「ミクミ」トモ云。又私云、ミクサミトテ、小舟ノハタニワラヲククミテ、浪ヲフセグヲ云也。(此私ハ今川了俊也)

一ワタツミト書テモ　ワタツウミトヨム習ナリ

一ワレカラト云虫ハ　コヱビノヤウ也

一ワカクサノツマ　喜撰式云、婦ヲバ若草ト云。男ヲモ妻ト云コト、後拾遺問答云、霜ノイト白クヲキケルツトメテ、和泉式部ガ人ノモトヘツカハシケル

ケサハシモ思ハン人ハトヒテマシツマナキヤドノ上ハイカニト

一ワスレ草　シノブ草

忘草ナニヲカタネト尋レバツレナキ人ノコヽロナリケリ

住ヨシトアマハイフトモ長居スナ人忘草生トイフナリ

コレラ萱草也

忘草生ル野ベトハミルラメドコハ忍ナリノチモタノマン

此伊勢物語ノ哥ヲ以、忘草●忍草、一草二名ト云說ヲコレリ

丸存ニ、此歌ニ別而コトナル草ト云ワケタリ、シカレドモ軒ノシノブニワスレ草ト云名ノアルニヤ、其心ミユル哥

我ヤドノ軒ノ忍ニコトヨセテヤガテモシゲルワスレ草カナ

俊頼

忘草シゲレル宿ヲキテミレバ思ヒノキヨリ生ナリケリ

忘草ニ忍草ト云名ハナシ、シノブ草ノ内ニワスレ草ト云名アリ、今川了俊ヨリ相傳ニ、葉ノコマカニミダレタルハ忍草、其中ニ葉厚ク少黄色ナルヲバワスレ草ト云ナリ、萱草ハ憂ヲ忘ル藥性ニヨリ、本草等ニ慥ニミエテ無レ紛ワスレ草也、サレドモ軒ノツマニ生ベキモノニアラズ、軒ノツマニ生ル三草ハサモコソ侍ラメ丸思フニ、ワスレ草ハ萱草•忍草ハ垣衣、各別ナレドモ、伊勢物語ニ局ノマヘヲ業平ノトヲルヲミカケテ、忘草ヲイダサレタルヲ、業平ノ奇妙ナル心バヘニテ、コハ忍草ナリ後モタノマン、トヨメルヨリイヅレヲカ忍ト云、ワスレ草ト云、但一草二名カナド云ウタガヒヲコレリ。万葉ニ

吾宿ノ軒ノ下草生レドモ戀ワスレグサミレバマダオヒズ

此哥伊勢物語ヨリ以前ノ哥ナレド、上句ノ軒ノシタ草ハシノブ草、下句ハ萱草トヨビワケタリ、只哥人ノ戀ニヨセテ、人ヲ忍ト云ト云コトアルヨリ、トリヨセテヨミケルゾ、末代ニナリテ不明ナル、歌人ウタガハシク註セラレシヲ、ソレモ又今ノ爲ニハ上代ノ人ノ書タル書ナレバ、心アルモノハヨクシレ共、サスガニ用捨シテイヒヤブラザルニヨリ、カヤウニセンナキセンサク出來也、公任卿ノ問答抄ニ、伊勢物語ノコハ忍ノ哥ニ付テ、忘草ノ一名ヲ忍草ト云コトアラハ也云々、是正說ナリ、業平名匠ナルニヨリ、根本ハ別々ノ草ナレドモ、此哥ヨリ忘草ヲ忍草トモ云ト云釋也、コレヲ思ヘバ冷泉家ノ了俊傳說モ皆ムサトシタル事也、童蒙抄•奥義抄•袖中抄其外サマ〴〵ノ名モシレヌ古人ノ聞書ニ色々書タレドモ、更明ニハ不ニ沙汰一、只今此根元ヲシリテ後ニハ、

ワスルヽモ忍ブモ同草ナドトヨミタル哥、百千万アリトモ、只歌人ノ口ノタハプレトコヽロエテマドヒタマフベカラズ、萱草ヲワスレ草ト云ハ、本草ニ此草ヲクヘバウレヘヲワスルヽトアルヨリ、日本ニテ付タル名ナリ、垣衣ヲ忍ブト云ハ、古キ家ノ軒ニムサトシタル草ノ生ルヲミテ、昔ノシノバシクナルニヨリテ、何草ナリトモ正躰ヲイハズ、哥ニヨミソメシ也、ソレヲタヾサントテカラノ書ヲミルニ、軒垣ナドニ生タル苔ヲ垣衣・一名烏韭・垣嬴・天韭・鼠韭ト本草ニ出シタル草ニアテヽ、垣衣ナルベシト後人ノ推量也、垣衣ノ異名ハ韭ノ字多シ、コレヲ思ヘバ爲秀ノ、了俊ヘノ御相傳ノ草ノヤウニ、一葉ニ似タル草、古キ軒ニアルナリ、葉ノナリハイカヤウニアリトモ、ヲシコメテ軒ニ生スルヲバ、忍草ト心エ給フベシ、忍ト云詞ニ對シテ、ワスルヽト云戀ノ詞アレバ、忘草ヲヨミ合タルバカリナリ、軒ニ萱草生ヘカラズ、忍草ノ内ニ、制ニワスレ草ト云草アルベカラズ、一草二名ニアラズト慥ニ思フベシ

一若水

ウチナビキケフタツ春ノ若水ハタガ板井ニカムスビソムラン

顯昭云、立春日モトリノツカサノオホヤケニ奉ル水也、正月元日奉由僻事ナリ、カモノヤシロナドニコソ朔日奉ヲ若水ト申ナル、ソレハ立春ニナズラヘテ申コトナリ。堀河院御時、立春ノ朝ニ、御前ニテケフノ心ヨメト宣旨アリケレバ。俊頼

君ガタメミタラシ河ヲ若水ニムスブヤ千代ノハジメナルラン

一ワガナゲクオキソノ風

オホノヤマ霧タチワタリ我ナゲクオキソノカゼニ霧立ワタル

顯昭云、息ヲバ「オキ」トヨムナリ、ナゲキノ息ノカゼト云ナリ、「イ」ト「ヲ」ト同ヒヾキナリ、「ソ」ハ助字也、海ノ沖ニハ非也

丸云、鳰島ノ沖中川ト云時ハ沖ト息トヲ兼タリ、鳰ハ息ノ長キモノナレバ、イキノナガキト云秀句ニテ、沖中川トツヾケタル由、丸ガ源氏モノガタリヲウケタマハリシ東光院殿被仰侍、九條禪閤ノ御所ナリ、玄旨法印モ此御所ヨリ源氏物語ノ三ケ大事ヲ御相承アリ

歌林樸樕第六畢

歌林樸樕　第七

【カ】

一カムカセ　雄略十二年十月、天皇命シテ木工闘鶏御田ニ始テ起ニ樓閣ヲ、於レ是御田登レ樓、疾ニ走四面ニ、有レ若ニ飛行ルカ一、時有ニ伊勢ノ采女ニ、仰ニ觀樓上ヲ一、怪ニ彼疾行ヲ一、顛ニ仆於庭ニ一、覆ニ所レ擎饌ヲ一、天皇便疑ニ御田ヲ奸ニ其采女ヲ一、自念將レ刑、而付ニ物部ニ一、時ニ秦酒公侍坐、欲下以ニ琴ノ聲ヲ一使ニレ悟ニ於天皇ニ上、横レ琴彈シテ曰

カムカセノ（神風也）イセノイセノ（伊勢也）ヌノ（謂ニ野津古ニ也）サカヘヲ（榮也）イヲフル（思也　伊與レ於五音通）カキテシ（懸也、枳與レ介五音通、言レ覆ニ御膳ヲ一也）。（丸云、コノ覆ニ御膳ヲ一トアル詮如何、コレハ伊勢采女ノ年ノサカリヲミテ、木工ガ思ヒヲカケタルト云心歟）カツクルマデニ（纏覆也）（丸云、此詮如何、カツハ且也、カク也、カクワガコヽヘクルマデナルベシ）オホキミニ（大君ナリ）カタク（堅也）ツカヘマツラント（奉仕也）ワカイノチモ（我命ナリ）ナガクモガト（長也）イヒシ（言ナリ）タクミハヤ（工也）アタラ（惜也）タクミハヤ（工也）

於レ是天皇悟ニ琴聲ニ一而赦ニ其罪ヲ一

凡彈歌意者、伊勢采女仕ニ朝庭ニ一、成ニ榮華ニ之處、纏覆ニ御膳ニ之少事、欲レ及ニ木工之死刑ニ一、堅致ニ用意ニ可レ仕之君ニ也、此天皇之御世、死罪連綿之間、我命モ危之由、諸人謳ニ歌之ニ一、兼又惜ニ闘鶏木工ニ之由也

丸云、此註心エラレズ、此哥ノ心ハ、イセノウネメ花ノスガタノサカンナルヲ木工ガオモヒヲカケ、アヤマチテ死刑ニアフ也、只今コヽヘ來ルマデ君ニツカヘマツラン、イノチモナガヽレト云シモノヲ、アタラ臣下ゾト云心ナルベシ、ワガ命トハ木工ガ己トイヒシ詞ナリ、ソレヲ秦酒公ガ命モアヤウキト註セリ、キヽタガヘタル歟

カムカセ〔〇圖書館本ナシ衍カ〕

神風ヤイセノ濱荻オリフセテタビネヤスランアラキ濱ベニ

此下句ヲ、イモコヒシラニミツル月哉トカヘテ、基俊ノ歌トス、定家卿以前ハカヤウニ上句ヲ皆取用ラレタリ、サテ此神カゼト云ハ、ツネニ吹風ニハ非ズ、神ノ御メグミノアマネキコトヲ云也、論語ニ君子之德ハ風也ト云義ニ同ジ、日本紀垂仁二十五年三月朔ニ豐耜姬命(トヨスキヒメノミコト)ニ離テ倭姬命(ヤマトヒメノミコト)ニツケ給、倭姬命大神ヲシヅメマサン所ヲ求ム、菟田(ウタ)ノ篠幡ニ詣、サラニカヘリ、近江國ニ入、東美濃ヲ廻テ伊勢ニ至ルトキ、大神•倭姬命ニヲシエテ曰ク、此神風伊勢國スナハチ常世ノ浪ノ重(シキ)波ノヨスル國ナリ、傍(カタヘ)ノ國ノ可怜(ウマシ)國也、此國ニヰント、コレニヨッテ齋宮(イムミヤ)ヲ五十鈴川ノ上ニ興ス、コレヲイソノ宮ト云、則大神始テ天クダル所也。又万葉長歌ニ

神カゼニ　イフキマヨヒテ　アマグモヲ　日ノメシミセズ　トコヤミニ　オホセタマヒテ云〻

コレハ　イセトツヾケネド　イフキトモ云リ、「イ」ハ助字ナリ、サレバ風ニモコトヨレリ、五十鈴ヲバ、イヲ鈴•イソ鈴•イスヾトモヨメリ、此五十鈴川ヲ、ミモスソ川ト申ナリ、太神宮ノ御前ニアリ、濱荻ハ芦ヲ云

也、通宗朝臣、筑紫ノ安樂寺ニテ神風トヨミテ人笑ケリ、神風ヲ神ガ瀨ト云說ハ不レ可レ用、又イサヽ波ハ「ナガラ」トノミツヾケズ、近江ノ名所ニハイヅレニモヨム、神風ハ万葉ニ「イセ」トバカリヨメルヲ、經信卿ノ、ミモスソトツヾケタマヘバ、神宮チカキ所ニハヨムベキ歟、イカニイセノ國ナリトモ、ムサトハヲカレズ、五文字ナリ、ヨク〳〵可ニ斟酌ハ、又ハマ荻ハ濱ニ生タル荻ヲモ申ト云說ハ不レ用、伊勢ノ風俗ニテ芦ヲ云ナリ、後拾遺ノ作者、侍從命婦ハ輔親ガ猶子ナル故ニ、ハマオギノ侍從ト云ケリ。伊勢國風土記曰、夫伊勢國者、神武天皇勅ニ詔天日別命一曰、國（〇有）ニ天津之方一、宜下平其國印賜ニ標刀ニ、天日別命奉レ勅東入數百里、其邑有レ神、名曰ニ伊勢津彥一、天日別命問ヒ曰汝國獻ニ於天孫ニ哉ト、答曰、吾覓ニ此國ニ居住久、不ニ敢聞レ命矣、天日別命發レ兵欲レ戮ニ其神一、于レ時伏畏、伏啓曰、吾國悉獻ニ於天孫ニ吾不ニ敢居ニ矣、天日別命令レ問云、汝之去時、何以爲レ驗、啓云、吾云吾以ニ今夜一起ニ八風ニ吹ニ海水一、乘ニ波浪ニ將ニ東入一、此州（〇則脫）吾之却山也、天日別命令レ整レ兵窺レ之、比レ及ニ中夜一大風四起、扇ニ擧波瀾一、光ニ耀如レ日、陸國海共朗、遂乘レ波而東焉、古語云ニ神風伊勢國ニ常世浪寄國者蓋此謂之也、詔云、國宜下取ニ國神之名ニ號中伊勢上

丸云、此風土記久斷絕シテ今ニミタルモノナキユヘ、神風ト云ヲ、吹風ニハアラズト云、又神ガ瀨ト云說ヲコレリ、此記ノ文ヲミレバ吹風ナリ、イセノ國ノ枕詞也、イセノクニ、今吹風ニハアラズ、サルホドニ他ノ國、他ノ神ニ用事ハワルシト云傳タルモ、委ク其理キコエ侍

一カブツヽイシツヽ　神武イセノ國見ノ岳、八十梟師ヲコロシ、猶其餘黨ヲ道臣命（ミチヲミノミコト）ニタバカリテコロセ

ト勅シタマヘバ、道臣命大來目部ヲ帥ヒ大室ヲ忍坂邑ニ作リ、宴饗ヲマウケ虜ヲ醉シメ、今來テウテト兵ドモニウタヒテキカスル歌

於佐箇廼(忍坂也) 於朋務露夜珥(大室屋也) 比苦瑳破而(人多也) 異離烏利苦毛(入居ナリ) 游(○瀰か)都游(○瀰か)都志(滿々也、言ニ充滿ーナリ) 倶梅能固邏餓(來目子等也) 勾蒭都々伊(頭槌々也、刀名、其頭曲) 異志都々伊(石槌也、刀名、其頭似レ石) 毛智(持也) 于知弖之(擊也) 夜莽務

コノ哥ヲキ、頭椎刀ヲ抜テミナコロシ皇軍大ニ悅、仰レ天テ咲、因テ哥之曰

伊莽波豫(今者也) 伊莽波豫阿、阿々(咲也) 時夜摀(乎加志也) 伊莽儞而毛(今ダニモ也) 阿誤豫(小兒) 伊莽儞而毛阿誤豫

今來目部ガ哥畢後ニ大ニ哂フ、是其緣也。又哥曰

愛游(○瀰カ)詩(夷也) 烏毘儞利(置也) 毛々那比苦比苦(百ノ人々也) 破易陪廼毛(雖レ侍也) 多牟伽毘毛勢儒(不ニ手對一也)

一カミナカヒメ　應神天皇。　日向ノ國諸縣君牛諸井之女髮長媛、美人之由帝キコシメシ、專使ヲ以テ召テ、桒津ノ邑ニヲカシムルヲ、大鷦鷯尊見給、戀情アルトシロシメシ、配セント思召シ、後宮ニ宴シ、始テ髮長媛ヲ宴ノ席ニ上シメ、盞ヲ撝歌テ曰

イサ(去ナリ) アギノニ 安藝野也、所名也) ヒルツミニヒルツミ ニ(蒜摘々々也、先称ニ是須物ー者、欲

レ稱ニ芬々芳物ニ之發語也）　ワカユクミチニ（我行道也）　カクハシ（芳也）　ハナタチバナ（廬橘也）　シヅエヲバ（下枝等也）　人ミナトリホツ（取落ナリ、保與レ於同響）　エハトリシカラシ（枝取枯ナリ）　ミツクリノ（三栗也）　ナカツエノ（中枝也、言伊加栗之實多者有レ三也）　フホゴモリ（謂レ篭也、未レ開之皃）　アカレル（謂レ稚也、又謂レ明也）（丸云、上レル歟、赤ク色ヅクヲ云歟）　ヲトメ（髮長媛也）　イサ、カバ（榮ナリ、言以ニ髮長媛ニ配ニ大鷦鷯尊ニ而可レ榮也）　ヘナ（私記曰、叟ハ謂レ去也云々、言天皇之可レ嫁ナ春レ避ニ大鷦鷯尊ニ也）

丸云、伊弉作伽脛叟那トゝ日本紀ハアルヲ、私記ニ叟エハ謂レ去ト釋シタレバ「ヘ」ハイニシヘ「サ」ト云狎歟、就其テ、「ムカシヘ」ト云詞モ「ヘ」ノ字濁來ハアヤマリナルベシ、內々イニシヘト云ト、ムカシヘト云ト一ナルベシトオモヒシカドモ、慥ナル證ナカリシニ、今コヽニ侍リ、數年ノ不審ヲハラシ侍ル

几御哥ノ意者、以ニ髮長媛ニ賜ニ鷦鷯ノ尊ニ之由也、以ニ皇后妃等ニ喩レ花分榮彩雖レ甚、人皆如ニ折取折枯ニ、天皇已分ニ交接ニ給畢、於ニ髮長媛ニ者、如ニ未レ開三栗之中實ニ、若（〇稚殊勝之義也。脫カ）大鷦鷯尊大ニ悅テ報レ歌（カヘシウタ）曰

ミヅタマル（水積ナリ）　ヨサミノイケニ（夜佐見池ナリ）　ヌナハ（蓴也）　クリハヘケク（絲組也、蓴自ニ水ノ下ニ波比保止己留、言御（〇心脫カ）乎密ニ髮長媛ニ波部多利）　シラニ（下知也）　イグヰツク（井杭着也、言蓴組ニ付于井杭ニナリ）　カハマタエノ（河股江也）　ヒシガラノ（菱柄也）　サシケク（謂差也、菱有レ角天人乎左須）　シラニ（不レ知也）　アカコヽロ（吾心也）　イヤヲコニシテ（旀尾篭也）

凡御哥者、天皇歌レ免レ之、髮長媛ニ如ニ池蓴之紐ニ懸于井杭ニ、如ニ江菱之指ニ入手ニ、密懸レ意之條嗚呼之由也

丸云、コノユナハクリハヘテクハ、人シレズ尊ノ心ノ尊ニカヽルナリ、シラニハ人シレズ也、而ヲ帝ノ御手ノカヽルト釋シタルハ如何、イクヰツク、川マタノサシケクハ、思ヘドモヨリツカレヌ難堪ナル戀路ノコヽロナリ、シラニハ、哥ノヂウジ也、又人シレズ心ノウチヲ云ナリ、アガ心イヤヲコニシテハ、カヤウニ存ズルヲ、シロシメテ、今ユルシ下サルヽトアレバ、彌オコガマシキト仰ラルヽ、哥ナルベシ、ヲコハ　愛ニテハハヅカシキ由也

大鷦鷯尊髮長媛ニ對テ歌之曰

ミチノシリ（道後也）　コハ（來也、言ニ髮長媛之歷ニ原野江海ニ來ル自ニ日向ニ也）　タヲトメヲ（貴乙女也）　カ

ミノコトキ（如レ神也）　コヘシカト（雖［○戀脫カ］ナリ）　アヒマクラ（逢枕也）　マク（纏綿之意也）

又歌之曰

ミチノシリ（道後也）　コハ（來也）　タラトメ（貴乙女也）　アラソハズ（不レ諍也）　ネシクヲシゾ（寢來境

也、之與レ利同音ナリ、共寢來之意ナリ）　ウルハシミモフ（麗思（ウルハシミオモフ）　也）

丸云、此ネシクヲシゾト云詞、下ノ詁ニテモ彌コヽロエラレズ、愚案アラソハズネシトツヾケテヨンヂ、「クヲシゾ」ト句ヲ切ベキ歟、其心ハ、帝ノユルシ給シハ、アラソフ事ナク、汝トスルナリ、クラシゾトハ緣フカクテ日向ヨリ來ルコトヲオモヘバ、ウルハシミオモハルヽト云心ナルベシ、初ニミチノシリコハトアレバ、ク

ラシゾハクルヲゾ也、「シ」ハ助字也

一カラノ　應神三十一年詔曰、官船(ミヤケフネノ)名枯野(ナカラノ)ハ、伊豆ヨリ貢ス、朽テ久官用(オホカタモノ)トナシテ功(イタハリ)ヅスルベカラズ、イカデカ其舟ノ名ヲ勿絕(クタズ)シテ後葉ニツタヘン、群卿令(ノリコトシテ)ニ有司ニ薪トナシテ塩(シホ)ヲヤクニ五百篭ノ鹽ヲ得タリ、諸國ニ給テ令レ造レ船、是ヲ以テ諸國一時(モロトモ)ニ五百船ヲ貢ス、集(ツトウ)武庫ノ水門ニ云々　初枯野舟ノ有ニ餘ノ燼(エクヒ)ニ不レ燒コトヲ奇ミ獻之、天皇令レ作レ琴、其聲鏗(アサヤカ)々トシテトヲクキコユ、天皇歌之曰

カラノヲ(枯野、船名也)　シホニヤキシガ(燒レ塩也)　アマリ(餘ナリ)　コトニツクリ(作レ琴也)　ユラノトノ(由羅之戸也、在ニ紀伊國ニ之湊也)　ナカノ(中也)　イクリニ(句礁謂レ石也、異助語也)　フレタツナ(觸立也)　ツノキノ(劔ナリ、欲レ讀レ鞘之發語也)　サヤ／＼(鏗鏘(アサヤカ)々々也、言寄ニ詞於劔鞘ニ也)

九御歌意者、彼和琴聲高兮、如ニ澤ノ(○湊カ下波歟カ)之寄レ石鏗鏘ニ之由也

一カモツクシマ

飫企都鄧利軻茂豆句志磨尓和我謂祢志伊茂播和素邏珥譽能據鄧馭鄧母(オキツトリカモツクシマニワガイネシイモハワスラジヨノコトゴトモ)

沖津鳥ハ鴨ノ枕詞ナリ、鴨着嶋ハ海神ノ宮ナリ、イモハワスラジハ、ワスレジ也、ヨノコト／＼ニ、其代ノ毎事ヲ豐玉姫ノサダメテワスレタマハジトナリ。塩土老翁、無目堅間小舟ヲ作テ火々出見尊ヲノセテ海中ニヲシ放ツ、龍宮ニ至リ、豐玉姫トチギリ、三年ヲヘテカヘリ給トキ、豐玉姫ワレ御子ヲハラム、豈海中ニシテウマンヤ、君ノ所ニ到ン、故尊已還テウノ羽ヲ以テウフヤヲ海邊ニツクル、甍(イラカ)イマダフキアハセザルニ、玉姫大龜

ニノリテ女弟玉依姫ヲキテ來ル、尊ニノタマハク、我コウムヲミ給ナト、尊心ニ其言ヲアヤシミ、ヒソカニウカヾヒミタマヘバ、八尋ノ大鰐トナル、其カヒマミテ深慙恨、尊兒ノ名ヲ何トカツゲント問タマヘバ、彦波瀲武鸕鷀草葺不合尊ト號ベシト云ステ、海ヲ渉テ去、于レ時彦火々出見尊ノヨミタマフ哥也。是後豐玉姫其兒ノ端正コトヲ聞、女弟ノ玉依姫ヲ以ヤシナハシム、豐玉姫ノ報哥

阿軻娜摩廼比訶利播阿利登比鄧播伊珮耐企弭我譽贈比志多輔妬何阿利計利

明珠光アリトイヘドモ、所生ノ兒ニシカズト、又彦火々出見ヲサスト兩說也

丸云、アカダマノハ、我玉兒ノヒカリハアリト人ハイヘド、我ハ彦ホヽデミノ尊ノヨソホヒ忘レズタフトク思フト云心歟、明珠ニ我ト云コヽロヲコメテヨメルナリ、サラバ「カ」文字濁ベシ、但其マヽ明珠ニシテ、ソレヲ兒ニナゾラヘテヨムトキクモヨケレバ、スミテモ可然也

一カナマタ　仁德天皇隼別皇子ノ媒トシ、雌鳥皇女ヲ妃ト爲ントスルニ、隼別皇子密通シテ久不二復命一、天皇シロシメザス、雌鳥皇女ノ殿ニ臨タマフトキニ、皇女織絍女人等ニウタハスル哥（○以下闕書ニ補フ）

久方ノアメ（欲レ謂二金機一之發語也）カナマタ（金機也、昔傚レ機以二金鏁一取二其鳴聲一織也）メトリカ（謂二皇女一也）ヲルカナマタ（織金機也）ハヤフサワケノ　ミノスイカネ（御裝束也）

天皇皇子ノ密ニ婚ヲウラミ給ヘド忍テ勿罪、俄而隼別皇子、皇女膝ヲ枕トシテ、鷦鷯トワレト何レカ疾、曰隼捷也、皇子曰、是我所先也、天皇聞召ウラムルトキニ皇子ノ舍人等歌曰

ハヤフサハ　アメニノボリ（言レ可レ昇二天位一也）　トビカケリ（飛翔也）　イツキガ（謂レ森也、高樹於保久生毛利也）　ウヘノ（上也）　ハサキ（葉前也）　トラサネ（取也）

今案、我朝鷹始出來者、仁德四十三年也、其以前不レ可レ讀二鷹才學一。丸云、鷹ハワタラヌ以前ニモ知マジキ（○以上補）ニアラズ、今モ未レ見、師子・麒麟・鳳凰ノコトヲモ、諺ニハモテアツカヒ侍ル

凡哥意者、如二隼之高翔一、皇子登二天位一、可レ知二初物一之由也、以二高樹葉一喩二初物一也。

天皇コノ哥ヲキコシメシ、勃然大怒テ曰、朕私ノウラミヲ以テ親族ヲウシナハントハシタマハヌヲ、カヽル私ゴトヲ以社稷ニ及ボス、クセゴト、ノタマフヲ聞、皇子嶋鳥皇女ヲ率ヒ、伊勢神宮ニ欲レ納《マイラント》而馳去ヲ追而殺タマフ、至二菟田一、迫二於素珥《ニ》山一、時隱二草ノ中一、僅ニ得レ免《マスカルヽコトヲ》、急走テ而越レ山ヲ、於是皇子歌

ハシタテノ（梯立也、言山嶮岨如レ立レ梯也）　サカシキヤマモ（嶮山也）　ワギモコト（吾妻也）　フタリコユレバ（二人越也）　ヤスムシロカモ（安席也）

古事記ニイモトコユレバ、サカシクモアラズ也

一カナト為ケ　允恭第二皇子穴穗天皇トモ申、輕太子行《アラクサカシマナルワザシタマヒクハク》暴虐、淫二于婦女《ヲトメニ》一、國人ソシリ群臣シタガハズ、悉穴穗皇子ニツキヌ、太子密ニ設レ兵皇子ヲコロサントス、皇子亦興レ兵ヲ《フコス》、太子諸人ノワレニソムクト知テ、物部《モノヽベ》大前宿祢家ニカクル、皇子圍《カコム》之大前宿祢出レ門而迎之、穴穗皇子歌曰

オホマヘ（大前也） ヲマヘ（小前也） スクネカ（宿祢也） カナトカゲ（金戸蔭也、私記曰、古以ニ金鏁ヲ天門戸ヲ久左礼利、故曰ニ訶那杜加礙ニ門戸之陰也） カクタチヨラニ（如レ此立寄也） アメタチヤメン（雨立止也）

古事記曰、穴穗御子興レ軍ヲ圍ニ大前宿祢ガ之家ヲ、尓到ニ其門ニ時零ニ太氷雨ヲ。大前宿祢答哥之曰

ミヤ人ノ（宮人ナリ） アユミノコス、（歩小鈴也、言ニ足鈴ヲ也、如ニ手玉足玉ノ、又以レ鈴爲レ餝、謂ニ輕太子ノ鈴ナリ） オチニキト（落也） ミヤビト、ヨム（宮人動搖也、呼也） サトヒトモ（里人ナリ） ユメ（言也、畧レ布也、又努力也、愼之義也）

裏書云、万葉第二ー シラナミトヨム白浪散動、第三浪立莫動、

乃チ皇子ニ曰、願クハ勿レ害スルヿ太子ヲ、臣將ニ議、由レ是太子自ミ死ニ于大前宿祢之家ニ、一云、流ニ伊豫國ニ

凡御哥意者、木梨輕ノ太子之足結ツ鈴落ツル之條、今日ノ軍爲ニ可レ負微シルシ之由、寓ニ此哥ニ之旨告啓ヲツケマウス也

一カナキツケ　孝德天皇、皇太子之皇祖母尊間人皇后并皇弟等ヲ率テ、飛鳥河邊ノ行宮ニ遷ラル、天皇ウラミ國位ヲ捨ントオホシ、山崎宮ヲツクラシム、乃送ニ歌於間マヒトノ人皇后ニ曰

カナキツケ（形木付也、謂着レ金鐵也） アガ、フコマハ（我飼駒也） ヒキデヨス（率出也） アガ、フコマヲ（我飼也） ヒトミツランカ（人見也）

凡御哥意者、間人皇后者、天皇之妻后也、以ニ皇后ヲ被レ寄レ馬也、皇太子率ニ被皇后ヲ向レ倭者、人定奉レ見良率之

由也
丸云、カナキツケハ馬ノ印也、カナヤキノ事

【カ】

一**カタハライタキ**　片腹痛ナレド「ハラ」トハヨマズ、「ワラ」トヨムナリ

一**カモ**ト云詞　カト云義也、「モ」ハ助字也

一**カケロフノ石**　岩トツヾクルハ、蜻蛉ノ居トツヾクル也

一**風シブク**ハ　シキリニ吹ヲ云、又カゼノ涼ヲ云、宗祇説

丸案ニ、涼心ニハ難レ用、タヾ風ノサラ〳〵トフカズ、シフクル心アリ、シフクルハ、シキリナル心ニ少叶ベシ、アマリニ衆々ナレバ人モ詞ノシフクルヤウノ心アリ

一**柏**　ミツハー・三角ー・三綱ー以上三名也、此外水柏ト云モ一説也、水ノ柏ニコトヽヘバ、シヅムニウクハナミダナリケリト云歌ヨリ云歟、コレモ俊頼ノ占逢事戀ニテ

　神風ヤミツノ柏ニコトヽヒテ立ヲマソデニツヽミデソクル　是三角柏也

村ー・朝ー・　只朝ノ柏也。　ホカシハトハ切タル根ヨリ出タル柏也。　ナラノハガシハ、ナラ柏ナリ。　イハトー　是ハ非樹也、岩ノカドノ白ヲ云

　吉野川イハト柏ヲコス浪ノトキハカキハニ我君ノタメ　定家

朝柏ヌルヤ河邊ノシノヽメニ人モアヒミヌ君ニマサラジ
ヌル、ト云説不レ用、寢也、草木モ夜ハヌルナリ

一香ゴメ　匂ヲコムル也

一カヒヤ　**後成説**　カヒヤ　**顯昭**

一カナシキニ　三色アリ。ワビシキ　面白キ　笑止

ワビシキ也　思ヤル苔ノ下ダニカナシキニフカクモ雪ノ猶ウヅムカナ

面白也　陸奥ノイヅクハアレド塩ガマノウラコグ舟ノツナデカナシキ

笑止也　袖ノ波ムネノケブリハタレモミヨ君ガウキ名ノ立ゾカナシキ

一カヒヤカ下　十代集ノ外口傳也

足曳ノヤマ田ノ庵ニヲクカビノ下コガレツヽ我コフラクハ
朝霞カヒヤガシタニ鳴蛙シノビツヽアリトツゲンコモガモ
鹿火屋ト書、又魚トラントテ作タルト清輔ハイヘリ、水ニカケツクリニスルソレハ
ヨハニタクカヒヤノケブリ立ソヒテアサギリフカシ小山田ノ原
他説不レ用、タヾ田ニ鹿ヲヨセジトテ草木ヲタクナリ、田守人サムサニ燒火也

一風マツリ　須磨ニテ、花ノ爲ニ源氏ノ祭給也、春ナリ

一カブシカタチ

一カマザクラ　一重櫻也

一皃ノ事　カコチ皃　ウラミカホ　ニクヒケシタリ、ヌル丶ガホ　シラズガホヨシ。玉葉第一ノ哥

オリ〱ハ思フ心モミユベキヲウタテヤ人ノシラズガホスル

一カ丶イノ祭ハ　筑波山ノ神事ニ男女不レ殘我人ノ女不レ云夜逢也、万葉ニアリ

一皃鳥　ウツクシキ鳥ヲ云、カホヨドリハフクロフノヲサナキ時ノ名ナリ、又世俗ニ、ソナト云鳥ナリ。或說ニ、ソナ鳥ハ、水ニ我カゲヲウツセバ魚ヲソレテウカビ出ルヲトル也

一鴈ハ　八月柳ノ末ニ風吹時始來也。鴈來花ト書テ「カマツカノハナ」ト枕草子ニアリ、此花ノサクトキ鴈ハ來ナリ、葉モエンドウニ似テ、藤ニ花ハ似タリ、カヅラノ有也

一カラストブ大ヲソ鳥ノマサテニモキマサヌ人ヲコロクトゾナク

「トフ」ハトイフ也、「テフ」ト同シ、非レ飛、鶏ハ吉事ヲ告ルモノ也

一河邊ニモ雪ハフレ丶シ宮ノウチニ千鳥ナクナリキン所ナミ　家頼（ママ）

「フレ丶シ」ハ「フルラシ」ナリ

一河内女　河内國ノ女ナリ、昔伊駒ヤマノ麓ニ貧女アリ、糸ヲソメテ世ヲ渡リシ也

一カケテト云詞ハ　春ノ始●秋ノ始ニ云ベシ、春ノ末秋ノ末ニハヨムベカラズト定家卿千五百番ノ判ニ書

レタリ、カケテハ兼テノ心也。或人不審シテ云、秋カケテ云シナガラモナド云モ、夏ノ末ニヨミタル哥ト云リ

丸云、ソレコソ秋ノ始ナレ、木葉フリシク時分ハ秋ノ末ノコトナリ、ヨク／＼可レ有二吟味一

一カタチノ小野　アキツノ小野也、カケロフノ小野モ同所也

　ミヨシノ、蜻ノ小野ニカルカヤノオモヒ乱テヌルヨシゾ多キ

顕昭云、アキツトヨムベシ、カタチハ非ナリ云々　俊頼

　ミヨシノヽカタチノヲノヽ女郎花タハレテ露ニ心ヲカルナ

コレモ「カタチ」ト点タル本ニ付テアヤマルナリ。催馬楽ニ

　フチフ野ノカタチガ原ヲシメハヤシイツキイハヒシトキニアヘルカモ

是ハ別所也

一カツマタノ池　能因哥枕ニハ、下總ニモ、美作ニモ入タリ

　カツマタノイケニ鳥ヰシ昔ヨリ世ハウキモノト思シリニキ

或説ニ、奈良西京薬師寺路也

万　カツマダノ池ハ我シル蓮ナシシカイフ君ガヒゲナキガ如シ

天武第七皇子、新田部親王、此池ヲミタマヒテ感心ノアマリニ皈テ語タマヘバ、婦人此哥ヲタハブレテヨミタマフトイヘリ、此池ニ蓮ナキニアラズ、此親王ニヒゲナキニアラズ、皆アルヲナシトタハブレタリ、右哥ヲ池

ニ水ナシ、蓮ナシト、人ノ云ハ不レ可レ然、我シル正義ナリ、藥師寺ハ天武皇后病ニヨリ、白鳳九年ニ造ラル、シカレバ此寺以前ヨメル哥歟、一說寺ノ邊ニアル池トイヘリ、良玉集云、モノヘ參ケル道ニ、昔ノカツマダノ池トテイヰノ跡バカリミエケルニ　道濟

クチタテルイヰナカリセバカツマダノ昔ノ池トタレカシラマシ

顯昭云、此哥モ大和トオボユ、美作ニテハ道ト云ガタシ

丸案ニ、能因ヒガゴトアルベカラズ、美作ニモ大和ニモ同名有トシルベシ

一カラ人ノ舟ヲウカヘテアソフ　三月三日曲水ニ浮舟古事文集ニアリ、万葉十七ニモアリ、又舍衛國說〔伽袖アリ〕河ニ、三月三日河邊ニテ逍遙スレバ諸罪ヲ滅云々。家持作

唐人ノ舟ヲウカヘテアソフテフケフゾワガセコ花カツラセル〔○ナ袖〕

一神ヨリ板

カミナビノ神ヨリ板ニスル杉ノ思ヒモスキズ戀ノシゲキニ

神ヨリ板トテ神ノヨリタマフ板有

一河ヤシロ

カハヤシロシノニヲリハヘホス衣イカニホセバカ七日ヒザラン

顯昭云、神樂謌ニ夏神樂ト云コトアリ、河ノ上ニ榊ヲ立棚ヲカキテスル。貫之哥ニ

・ユクミヅノ上ニイハヘル河ヤシロ河ナミタカクアソブナルカナ

又多忠節ガ哥ニ

ユフシデハ浪ニマカセヌ河ヤシロサカ木ゾ神ノシルシナリケル

江都督　六月祓哥ニ

カハヤシロ秋ハアスゾト思ヘバヤ浪ノシメユフ風ノスヾシサ

侍従入道重義歌ニ

河社サヽナミヲレバ六月ノアラブル神モコヽロユクラン

壬生忠峯ガ御屏風ニ、六月河邊ニ神樂スル所ニヨメル

ミナカミノ心ナガレテユク水ニイトヾナゴシノ神樂面白

奥義抄ニ、河社ノ事サマ〳〵ニ申メレド、皆ヒガゴトナリ、是ハ夏ノ神樂ノ事也、神樂ハ冬スルコトヲ、夏ナドスルトキハ、清キ川ノ邊ニテスルナリ、河面ニウヘ木四本ヲタテ、ソレヲ柱ニテシノ竹ヲ棚ニカキソレニ神供ヲ備フ、コレヲ川社ト云ナリ、サテ庭火ニハ此河ヤシロシノニヲリハヘノ歌ヲウタフナリ、コレ神樂譜ニミエタリ、江中納言集ニ云シ水ノ御馬ノ歸トカキテ

ホサハヤノシノヲ折ハヘホス衣シ水ノミヤノナガレタヘセデ

シミヅノ宮ハ八幡ナルベシ。玄旨法師ノ御相傳ニハ、社ノ字ハ示篇ニ土ナリ、神ヲアガメ申ニハ、土ヲタカク

ツキアゲ、ソコニ祠ヲ立祝申シテ、水ノフカミニオチアヒ、集タルトコロノ浪ノ音ノ、鼓ノ如クナル所ヲ川社ト云、ソレニ波ノ白絹ノヤウニツネニ白クカヽルヲ、七日ヒザラント云ナリ、七日トハタヾヒサシキコトナリ、コレ定家卿ノ説歟

丸案ルニ、此師傳ノ説ハ、シノニヲリハヘホス衣ノ歌ノ義ニハヨクカナヘリ、サレドモ奥義ノ説モ神樂ノ謌ニアレバ無實ナドオヒタル布ニ、マコトノ布ヲモホスニヤ、古哥共ニ夏神樂ヲスル證明白ナリ、可レ用レ之、但此上ニテ今一重タカキ口傳アリ

一カヘシモノ

アヅマゴト春ノシラベヲカリシカバカヘシモノトハ思ハザリケリ

コレハ中書王、琴ヲカリテツカハス、伊勢返シ

返テモアカヌ心ヲソヘツレバツネヨリコエノマサルナルラシ

カヘシモノトハ古今神アソビノ哥ノ中ニ、アヲヤギヲ片手●〔○絲カ〕ニ、マカネフクキビノ中山、ミマサカヤクメノサラ山

アサクラヤ木ノ丸ドノニワガオレバ名ノリヲシツヽユクヤタレゾモ

此歌御所ノカヘシ哥タリ、アサクラカヘス、或ハ吹返或搔ニ返糸竹ヲイヘリ、或催馬樂拍子ト云、古今ノ返シモノ、哥ハ、催馬樂呂律ノ哥ナリ、サレバカヘストハ催馬樂拍子ニ吹ナシ、引ナシテ、アサクラヲウタフナルベ

シ

一カツミ　綺語抄ノ芦花ヲ云ト申說不レ用、カツミハ菰也、花ヲバ花カツミト云也、伊勢ニテ芦ヲハマ荻ト云ヤウニ、奥州デコモヲ「カツミ」ト云ナリ、五月五日ニモカツミフキトテ、アヤメヲバフカデコモヲフク也。童蒙抄云、橘爲仲任ニコモヲフクヲ腹立テ、在廳ノ者ヲ召セバ、老人出來テ、イカデ年ノミヨリテカヽルコトハセサスルゾ、トイマシメケレバ、實方中將アヤメナクバ、カツミヲフクベキ由侍ケレバ、其例ト申、爲仲恥テ引入云々　以上万葉ニハコモトヨムハ多シ、カツミトハスクナシ

女郎花サク澤ニ生ル花カツミカツミモシラヌ戀モスルカナ

散木集云、花カツミト云ヲ、シラヌ人ノシリガホニヨミケルヲ

鶴ノヰル玉江ニ生ル花カツミカツヨミナガラシラヌナリケリ

一カゴト　一ニハカコツ、一ニハスコシ、一ニハチカヒ、袖中抄ニハカタノゴトクト云義ヲシルサル如何、イヅレモ其哥ニヨリテ叶ヤウニ用ヒカユベキナリ

アヅマヂノ道ノハテナルヒタチ帶ノカゴトバカリモアヒミテシガナ

コレハ帶ニハカゴト云モノアレバ序哥トヨムナリ。左傳曰、桓公之鉤ト有、帶ニ付タル物也

シルシナキ思トゾキクフシイネモカゴトバカリノチカヒナルラン

山田サヘ今ハカヘスヲチル花ノカゴトバカゼニ仰ザラナン　貫之

春日ヤマフモトノ小野ニ子日シテカゴトヲ神ニマカセテゾミル　俊頼

一カゾイロ

カゾイロハイカニアハレトオモフランミトセニナリヌアシタヽズシテ

民部大輔文章博士勅勘ノコトヲ日本紀竟宴ノ題ヲ給テヨムナリ、無名抄云、伊弉册尊ヒルゴヲウム、其形人ニ似タレドモ、フクサノキヌイトノヤウニテ、足モタヽズ、オキモアカラネバ、棹ナドニウチカケテ三年マデゾアリケル、朝綱卿公ノカシコマリニ、ミトセアレバ是ニタトヘテヨムナリ、父ハカゾ、母ハイロト、日本紀ニカヘ云リ、万葉ニハカゾイロ、又イロカ命、又イロカゾト逆ニモヨメリ。俊頼歌ニ

郭公ナガヽゾイロノ鶯ニマレニナクテフコトナヽラヒソ

一カヽフカヽヒ

ワシノスム、ツクハノ山ノ、モハキツノ、ソノツマヒトニ、ヒキヰキテ、乙女オトコノユキアツメ、加賀布嬬哥ニ、コトヅマニ、ワレモカヨハン、ワガツマニ、人モコトヾヘ、コノヤマヲ、ウシハク神ノ、ムカシヨリ、イサメヌコトヲ、ケフノミハ、目串モミルナ、コトモトガムナ

顯昭云、万葉云嬥哥者東俗語曰、加賀比云ヽ、今云、カヾヒトハ、男ニステラレタル女ヲ云、コレハ登筑波嶺爲嬥哥會ノ日作歌云ヽ

丸案ニ、「カ」トハ家室ヲ云、家室トハワガツマナリ、今世間ニ、家アルジノ女ヲ「カヽ」ト云モ家室ナリ、此ツ

クハノ神ノチカヒニテ、一年一度男女カノ山ニノボリ、自他ノ夫婦、メン〳〵ニ入交リ、ネタムコヽロナク、其夜遊ナリ、シカレバ家室ヲカヘテヌルユヘニ、カヾヒト云歟、男ニステラレタル女ヲ云トアルモ、コレヨリヲコリテ云ナルベシ、其夜ハ別夫トチギリヌレバ、ステタルト同ケレバ、其心ヲトリテ云ナルベシ　童蒙抄云、越前守仲實歌ニ

人コフルカヾヒモワヲバイトヒケリワシノケヽナクシラネコユレド

丸案ニ、此歌ノカヾヒ、男ニステラレタルヲヨメリ、ワハ我也、ケヽナクハ、カクナク歟、同意ニ万葉常陸防人哥云

ツクハネニカヽナクワシノネノマヲカナキワタリナンアフ事ハナシニ

丸案ニ、コレハカヾヒノ哥ニアラズ、仲實歌ノ本哥歟

一カヒノケ衣　サラス手作

カヒガネノ白キハ雪カイナオサノカヒノケゴロモサラス手作

顯昭云、コレハ風俗ノ哥ナリ、鶴ノ毛衣ハ、毛ノ白キヲ云

又万葉ニ、ワカケヨソヒノソラトヨムハ褻ノ衣也。イナオサトハ万葉ニ

ツクハネニ雪カモフルイナテカモカナシキコロガニヌヲサルトモ

是ハ常陸防人哥ナリ、似ニ風俗哥ニツクハネトアルハ、カヒガネ〔○ニト脱カ〕ヲケルニ似タリ、雪カモフルハ、

白キハ雪カニ似タリ、イナテカモハ、イナオサニ似タリ、カナシキ比ハ、カヒノケ衣ニ似タリ、ニヌヲサルカモハ、サラス手作ニ似タリ、シカレバイナオサハ人ノナト聞ルニ、此常陸ノ哥ニ、イナテカモトヨミタルハ、イナトカモト云心ハ、雪ノフルカ、又サモアラヌカト云心也、サラバ、イナハイナント云詞歟、オサハ長也、何コトニモオサト云コトアレバ、衣サラス人ニテアルベシ、万葉、武藏防人

玉川ニサラス手作サラ〳〵ニ何ゾコノコロコ、ダカナシキ

此下句、六帖ニハ昔ノイマニ戀シキヤナゾトアリ、武藏ニ兒玉（コダマ）郷ト云所ヨリナガレイヅル河ヲ玉川ト云、此所ニ布ヲサラスナリ、ヨキ布也、白縮布ト書、俗ニ手作布ト云ゾ、カナシキコロハ、イトヲシキ子ト云也、ロハ助字ナリ、ホサルハ、ホセルナリ、「サ」ト「セ」ト同音也、又六帖云

遠方ニ白キハナニゾイナヲソカシカヒノクサノサラス手作　〔キノカヒノ手古名ノ（夫木）〕

是ハ風俗哥ト云ナス歟、又僻事歟、シカヒノ草ト云句カヒノケコロモト大ニ違ヘリ、イナヲソハオサト同シ丸云、初ノ風俗ノ哥ヲ先（マヅ）ヨクハ註セズシテ、其次ニ常陸防人ガ哥ヲ出セリ、寫本書チガヘアル歟、サラニワケキコエズ、イナオサハ稲長ト書歟、田長ノ頭ナルベシ、人ノ名歟、所ノ名歟、未ν知、カヒノケゴロモハ、甲斐ノ毛衣ナルベシ、鳥獸ノ毛ニテヲル衣モアルトイヘバ、昔ハカヒノ毛衣ト云アリシト思ベシ、又常陸防人ガ哥ノ、雪カモフ、ルハ降フルカ也、イナテカモハ、顯昭ノ註ニテモ心ユカズ、カナシキコロハ能キコエタリ、結句ノニヌヲサルカモ、一切エシラズ、又註モナシ

丸、今万葉ノ本、手前ニナキ故ニ見ザルユヘ委不レ記

一カツシカハセ

ニホトリノカツシカハ〔○ワ〕セヲニヘストモ其カナシキヲトニタテメヤモ

顯昭云、下總カツシカト云所アリ、其ワセ也、ワセハ早苗ノ稲ナリ、中田（チウン）ハナカテ、晩田ハヲクテト云、ニホハ新取ナリ、「ホ」ト「ヒ」ト同音也、ニヘストハ、田舍ニ初テワセヲカリテ飯ニシテ、里隣ノ者アツマリクフヲバニヘスト云ナリ、贄ハクヒモノニ付タル名ナリ、公ニ奉ルモノヲモ御贄ト云、又私ニクヒモノスル所ヲモ贄殿ト云、但ニヘハ多ハ魚ニコトヨル名ナリ、魚入タル桶ヲバニヘ桶ト云、贄殿ト云モ、汁菜ナドスルトコロナリ、飯スルトコロハオホイドノトコソ申メレ、其ニヘノトキニ來ル人ヲバ内ヘイレネバ、サルトキナリトモ君ガ使ヲバイレントヨムナリ。無名抄云、ニヘストモトハ、春田作ラントスル時、万ニ物ヨキ人ノ、サハリナキヲ、イクタリトモ數ヲ不定シテ、ヨビアツメテ饗應シテ、年木ト云物ヲキラセテ、家後園ニ立ルナリ、其木ハホソ長ナル木ノ枝モナキヲ切テ、サヤ〔○キ袖〕ニチイサキカメニ水ヲ入テ、ヲトロト云モノヲクシテサキニユヒ付テ、家ノシリヘニ立テ、其ノ秋ツクリタル田ヲ、初テ苅テ、春切シ贄ノ人々ヲヨビアツメテ、門ヲサシテ、サハリ出來ヌサキニクヒノヽシル也、サアランヲリナリトモ、君ガ使ヲバカヘサデヨビ入ント、コヽロザシアルサマニヨメルナリ。私云、年木ハ賀茂ノ小屋ドモニゾ家毎ニ立侍ル、松ノ木ノホソクテ二丈バカリアルガ、枝ヲモ切テ、末計ニ葉付タルニテゾ侍。私云、俊頼隆源ガモトヘモノ申サントテ友々マカリケレドモ、

イタハル事アリトテ、アハザリケレバ塔障子ニ書付タリケル、俊頼

コリハテズニヘノハツカリ朝ニスル家ニモアラデ人カヘシケリ

返シ　隆源

ハツカリノニヘノヒルケノツカナリト穏カケゾスベキイカヾカヘサン

ヒルケハ費ノクヒモノ也、朝夕ノクヒモノヲバ、アサケ・ユフケト云ナリ、ツカナリト・ハ、時ナリト也、「ト」ト「ツ」ト「カ」ト「キ」同音也、ホカケトハ穏ヲクミ合テ具シテ、門ニモ倉ノ戸ニモ神ニヨセテ穏カケシテント云ル也、カヽル事ヲモシラズシテハ贈答ハ興ナカルベシ

丸、顕昭ノ註并無名抄ノ説ヲミルニ、其カナシキヲ戸ニタテメヤモトアルヲ、君ノ使トアリ、何ヲ以使トハ被レ註タルゾ、顕昭ハ定テ無名抄ノ如クカ・レタルベシ、コレハ我大切ニ思フ君ヲ、カナシキト云歟、若戀ノ哥ナラバソレナルベシ、但是ハ食物ノ事ヲヨメバ、此カナシキハ貧人ナルベシ、乞食ナドノアハレゲナルヲミテ、慈悲ノ念ヲ・コシテヨメルナルベシ、カナシキヲ使ト云ベキコト心ユカズ

一カタミ

マスカヾミカケテシノベトマツリサスカタミノモノヲ人ニシメスナ

詞云、時有二所レ幸娘子一寵薄之後、還二賜寄物一俗云二可多美一

又タガイヲカタミト云詞アリ、契キナカタミニ袖ヲシボリツ・ナドヨメル類ナリ、又籠ヲカタミト云、花ガタ

ミナドハ花縮ノ事也、此マスカヾミノ哥ノ「カタミ」ハ遺物ナドノ事ナリ、マツリサスハ奉ト云詞也、マタスト云詞ト同ジ

一カサヽギノユキアヒノ間

夜ヤサムキ若ヤウスキカサヽギノ行アヒマヨリ霜ヤヲクラン

顕昭云、此ユキアヒノマト云ニ付テ二義アリ、一ニハ鵲ノ橋ナリ、一ニハカタソギナリ。問答抄云、（詩哥論義）鵲ハアヤマリナリ、カタソギト云ベキ也、カタソギトハ神ノホグラノツマニ、刀ノヤウニテタテル木也、又ノ名ヲパチギ（チギ風木也）ト云、然ニ此歌或人云、住吉明神アマ下給ル時ニ作タル神殿ノ、久ナリテアハレタル故ヲ、公ニシラレ奉ラントテ、帝ノ御夢ニミセタマヒシ哥也。奥義抄云、哥論義ニ鵲ハ誤也トアリ、先達ノ事ヲ疑ハ心エヌコトナレドモ、コレハ鵲ナリ、書ニミエタルコトナリ、鵲ノハネヲチカヘテ、双ツラナリテ、橋トナルコトノアル也、カサヽギノヨリハノ橋トモ云ヘリ、詩ニ鳥鵲橋邊浪往來スト作レリ。忠峯

カサヽギノワタセルハシノ霜ノウヘヲヨハニフミワケコトサラニコソ

又曾丹哥ニモ

カサヽギノチカフルハシノマドヲニテヘダツル中ニ霜ヤヲクラン

又鵲ナラヌ鳥ニモ、万葉ニ

空ニトブ鴨ノ翅ノオホヒ羽ノイヅコモリテカ霜ノフルラン

此歌論義、コレノミナラズアヤマリ多カル文也、私云、哥論義ノカタソギ、奥義ノ鵲トモニイハレナキニアラズ、但七夕ノ牡〔〇秋カ〕ニワタス鵲ノ橋ニ霜イカヽト聞ユレド戀ノ哥ニヨメルニヤ、又孫姫式云、銀漢烏鵲之會橋、在ニ夜遊而降ニ風霜ハ、

夜ヤフクル衣ヤウスキ鵲ノユキアヒノハシニ霜ヤフリヲケル

今更ニ如此、ワレ或ハ鵲ト云說ニ付歟、六帖哥ニモ

鵲ノハネニ霜フリ寒夜ヲヒトリヤワガネン君マチカネテ

中空ニ君ハナリケン鵲ノ行アヒノハシニアカラメナセソ

此後哥ハ、七夕ノ心ナリ、又カサヽギノ橋ハ烏鵲ト書、ソレヲ近代ハカラスト、カサヽギトクチバシヲクヒチカヘタルヤウニテト書リ。又或物ニハ鵲ノユキアヒノ間トハ、暁ノ名ナリト云リ、イハレズ

丸案ニ、顯昭モ兩義ヲイダサレタレドモ、鵲ノ說ニハ古歌古詩殊ニ菅家ノ御作ノ孫姫式等ノ證多ケレバ、奥義抄ノ說ニ傾タマヘルトミユ

丸云、歌論義モ公任卿ノ作ナレバウタガフベカラズ、能々是ヲ思フニ、孫姫式ニアル上ハ鵲ノ橋ノ哥コト〲シク古キ哥也、此哥ヲ御夢想ニカタソギトヨミカヘ給シ也、トモニ古キ代ノ事ナレバ人ノ疑出來テ、一ツハアヤマリナルベシトオモヘリ、歌論義ニ或人ノ云トアリテ證文ナケレバ、イツノ帝トシラレヌ事ホイナキ事ナレド、公任卿日本一ノ博學者ナレバ、即此御筆跡ヲ證トスベシ、但鵲ヲアヤマリトノタマフコソ不審ニ侍レ、ア

ヤマリナラバ孫姫式ニアルベカラズ。菅家又ウタガヒ難シ、謂トアル哥書ヲ御覧ジテ。漢家本朝ノ古事シリノ公任、ソレハアヤマリ、カタソギノ說ヨシト定タマフホドノ事ナレバ、夢想ノ說モオボロゲノ事ニハ侍ラジ、兎角古事別々ニテ、哥モ別々ノ歟ト思ベシ、鴫ノ羽カキ、榻ノ端カキト兩說有ガ如シ、イヅレヲモ捨ベカラズ

一**カウテフサズ**

　ヒク網ノアミノウケブネ浪マヨリカウテフサズトユフシデ、カク

顯昭云、網引ニハカウテ●シモテトテ有リ、網ノ大綱ヲヒクニ、左ノ大綱ヲバ「カミテ」ト云、右ノ手ノ綱ヲ「シモテ」ト云、網ノウケ舟トハ、沖ニテ網ニ付タル舟ナリ、カウテフサズトハ、ツヨクヒクニハ、アコドモタフレ伏タルヤウニナリ引ナリ、スグニ立テヨハクヒケバカミ手モ、シモ手モ綱ユルビテワルケレバ、木ノサキニシデヲツケテヒケバカクナリ、タトヘバ上テモ●下テモカ●シコトハ同事ナリ、此歟ハカウテヲヨメリ、シデナラネド、アヤヰ笠ヲ木ノサキニカケテモカクナリ、　聲カヨハヌホドニ沖ニ出タレバカクスルナリ。　引網ハ、備後ニ在

丸云、カヤウノムツカシキ事マデ尋求メ、委シルシヲキ、今ノワレラニシラセ給、顯昭ノ御心タマヽ菩薩ニテコソ侍レ

歌林樸樕第八畢

【ヨ】

一ヨシノ、クズ　應神十九年十月朔、吉野宮ニ幸スル時、國樔人來朝シ、醴酒ヲ獻テ歌之曰

カシノフニ(所名)　ヨコスヲ(横臼也、略字)　ツクリ(造也)　ヨコスニ　カメル(釀也)　オホミキ　ウマラニ(甘也)　キコシモチ(聞持也、謂ニ聞食ニ)　ヲセ(飲也)　マロカチ(丸父)

今案、表ニ父姓ニ也。ウタヒ訖テ打レ口ヲ仰笑、今クスビト土毛(クニモノ)ヲ獻、哥訖テ口ヲウチ仰咲ハ此例也。古事記曰、吉野國主等云ヽ、又於ニ吉野之白檮上ニ作ニ横臼ニ而於其横臼ニテ酒ヲ作也

一賀哥(ヨロコビノウタ)

一ヨクタチハ　夜降ト書テ夜ノ更ル事也、クタチハ、モノヽ末ヘナルコト也、末ヘナレバ下ル故ナリ

夜クタチニネザメテヲレバ河乙女心モシノニナクチドリカナ

一蓬カ杣トハ　ヨモギハ大木ノヤウニ後ニハソダツモノ也

霜ガル、蓬ガ杣ノカレマヨリ雪ゲニ似タル多ノ若草

一ヨシエヤシ

ヨシエヤシキマサヌ君ヲイカヽセンイトハヌワレハ戀ツヽヲラン

夢ノゴトオモホユルカモヨシヱヤシ君ガ使ノマナクカヨヘバ

アラガエバ神モニクシトヨシヱヤシヨソフル君ガニクカラナクニ

天原フリサケミレバヨハフケニケルヨシヱヤシヒトリヌルヨハアケバ明ヌトモ

綺語抄ニ、ヲシエヤシハ男ヲ云、奥義抄ニ、ヨシエヤシハ男也、顕昭云、ソハナド云心歟、アラバアレト云心也

丸案ニ、ヨシヱヤシト云詞ノヒヾキヲ吟味スルニ、ヨシヤ・アシヤト云コト也、善悪ニカタツカネバ、サラバサテアレト云ヤフノ心歟。又。「ヨシヱヤ」トモヨメリ、「シヱヤ」トモ。「ヲシヱヤシ」トモ、イヅレモ「ヨシヱヤシ」ニ同ジ

一ヨリヘノ水　源氏ニ「ヨルベノ水」モ同事歟

サモコソハヨリベノ水ニ影タエメカケシ葵ヲワスルベシヤハ

奥義抄ニ、是ハ神社ニ瓶ヲ置テ、ソレニ水ヲ入、無實ヲヒタルモノハ、神水ノトテノム也、糺ノ神ナド、今モアリ。源氏ノ歌

神カケテ君ハアラガフ誰カサハヨルベニタマル水ト云ケン

古今ニ

神サビテフル江ニタマルアマ水ノミクサヰルマデイモヲミヌカナ

此哥ニ付、フルヘノ水ト云人モアリ
丸案ニ、是ハ別ノ事歟

一寄占ト書テ　　ヨツクトヨム。神ノヨリ給占ニコソ

一ヨコホリフセル

カヒガネヲサヤニモミシカケヽレナクヨコホリフセルサヨノ中山

サヤノ中山ハ遠州ニ在、師仲卿●俊成ハサヨノ中ヤマ、顯昭ハ遠州サヤノ郡ナレバ「サヨ」トハ云ベカラズ云
云、賴政ハサヤノ長山ト云リ、俊惠ハ石上フルノ長道トヨミシヲ、中〻ニトツヾケタル歌ハイカニトイハレテ
閉口シキ、サヨノ長山モコノ例也、教長●賴政ハサヤノ長山、師仲卿●俊成ハサヨノ中山トイハレキ
丸案ニ、古今ニサヤトアレバサヤノ部(ママ)ノ說備ナリ、サレドモ夜字ヲ「ヨ」トモヨミ、土民モ「サヨ」ト云モアレ
バ、「サヨ」モアヤマリニハアラズ、其上俊成ノヨミ給ヘレバイヅレニテモクルシカラズ、但ヨルノ用ニ立ルト
キハ「サヨ」可然、常ハ「サヤ」ニテヲクベシ。四郡ノ說ハ諸抄ニ不レ用、土佐記ヲヒケバ橫折說ヲ可レ用、ケヽレ
ナクハ、心ナク也

一ヨトテノスカタ

ワギモコガヨトデノスガタミテシヨリ心ソラナリ土ハフメドモ

顯昭云、夜ル戸ヲ出ル姿ナリ、夜戸出ヲ「ヨコデ」トヨミタル類聚古集ノ書ニ付テ、淸輔ヨマレキ、俊成モ百首

ニヨマレキ、如何、戸文字ノ音ハ「コ」也、上戸・下戸ナド云、訓ハ「ト」也、万葉ニ朝戸出トヨミタル歌アリ、凡万葉ニ此「戸」文字ヲ「コ」トヨメルコトナシ。崇徳院御製ニ

　タツノコガヨトデノスガタミテシヨリシエヤ命ハアフニカヘテン

丸云、タツノコハ、龍ノ御駒、タツト云女ノ名ナルベシ、又夜戸出ノコト、顯昭ノ說殊勝也、彼後撰・ミカノヨノ餅飯ハクハジワヅラハシキケバヨドノニ母コツムナリトヨメルモ、淀野ニヨセテ夜殿ヲヨミタリ、ヨトデモ夜ノ御殿ノ戸ヲ出ルコトナリ

一ヨコノウミ

　ヨゴノウミニキツ・ナレケン乙女ゴガアマノ羽衣ホシツランヤゾ

顯昭云、是ハ曾丹ガ三百六十首ノ中ニ、七月上旬ノ歌ナリ、昔近江ノヨゴノ海ニ織女下テ水アミ給ニ、ソコナル男ヌギヲケル羽衣ヲ取ニ、エノボリ給ハデ、妻ニナリ子ドモ生ツヾケ、年ゴロニナレド、天上ヘノボランノ志ウセズシテ泣クラス、此男ノ留主ニ、此子何事ニカク泣給ゾト云ニ、シカ〲ノコト、始ヨリ云ニ、父ノ隱シヲケル羽衣ヲトリ出ケレバ、悅テ飛上ケリ、ワレハオボロゲニテハ逢マジ、七月七日每ニ下テ此海ノ水ヲアブベシトチギル、其子孫今ニ有トナン、或人ノ申、河内國アマノ川ニコソサル事アリケレ、七夕ノ子孫今ニ河内ニ在ト申シカドモ、曾丹ガヨメルハ譜ナル事ニコソ、ウタガフベカラズ、近江ニモ河内ニモアリケル事ナルベシ。奧儀抄ニ

第五回配本「萬葉私考」一一四頁の處へ誤つて二一四頁を刷込みました。（二一四頁の位置には同版重復）玆に改めて一一四頁を刷りまして補訂致します。誠に恐入りますが、此面に糊して誤刷頁の上へ御貼付下さるよう御願ひ致します。猶同書末尾二二〇と有る丁附は三二〇の、此れは誤植でございます。併せて御訂正願上げます。

（刊行會）

カナハヌヲナゲキテヨメル也。サテ上二句ハ譬喩ニシテ序也。膝ニ伏ト云モ思妹ニヨセアル詞也。

○陸奥之吾田多良… 今按、事將成ハ言ナサンニテ、名ヲタテンカトナリ。

○南淵之細川山… 今按、弓束級ハ女ノ我手ニ入テ吾物トナルニ譬テ、ソレマデハ深ク忍ビテ人ニシラレジト自ヲ誓フヤウニヨメルナリ。級ヲ「マク」トヨメルハ未考ト代匠記ニモイヘリ。說文ニ級、絲次第也。又玉篇、階級也トアリ。コレラノ意マクノ義ニ少ハ通ズベクヤ、可更考。サテ伊勢カ小笠原カノ弓法ノ書ニ、弓ノニギリヲバツカトモ云トテ、引歌ニ、信濃ナルソノ原山ノ梓弓ヌシサダマリテツカ皮ヲマク。（イニ）ミチノクノ其家々ニタツ弓ノヌシサダマリテツカ皮ヲマクト云哥アリ。或人云。東國ノ俗ニ女ヲ產スレバ其家ニ弓ヲ製シ置テ、女長ジテ嫁ヲ許セルトキ、其弓ノ柄皮ヲマクトゾ。然ニ此事何ノ書ニ出タルヤ、右二首ノ哥モ作者モ時代モシラザレバ、取ニハ足ラザレ𪜈參考ニ錄シ置也。

○奧山之於石蘿生… 今按、恐常ハ「カシコケレド」トヨムベシ。思情ハ君ヲ思心ナリ。此哥モ上二句ハ譬喩ニシテ序ナリ。

○多隱春乃大野乎… 今按、多隱春トツヾクヿ、岡部氏云。多ハ万ヅノ物內ニ籠テ春ヲ得テハリヅルヨリ此コトバアリト。此說明也ト云ベシ。サテ此多隱ハ春トツヾク冠辭トミルベシ。冠辭考ニコレヲ擧ザルヿ可疑。哥ノ意ハ大野ヲ燒人ハ、吾ニツレナクテ吾言カクル事ヲ無ニナシ灰トナス人ヲ譬フル也。サテ此ツヾケヤウハハテナキ大野ヲアクヿナク燒ヨリ、燒不足ト云意ヲ起シ、ヤキタラヌト云ヨリ吾心燒ト云意ヲ興セルナリ。吾心燒ハ歌主ノ吾ナリ。

○吾屋前爾生土針… 今按、榛（ハリ）ノ木ハ其皮物ヲ染ルモノニテ、土針ハ草ニシテ物ヲ染ル色アルヿ同類ナルヲ以、

古モチギリテケリナ打ハブキ飛立ヌベシアマノ羽ゴロモ

飛立トハ此ヨゴノ海ノ事ヲヒキノセタリ

【タ】

一タマキハル　仁德五十年三月、河內人奏曰、於ニ茨田(カンノマタ)堤ニ鴈產(コウム)、天皇歌以問ニ武內宿祢ニ曰

タマキハル（玉城張也、褒レ物之辭）ウチノアソ（內朝臣也、武內也）ナコソハ（謂名也）ヨノトヲ人（世遠人也）ナコソハ（謂名也）クニノナガ人（國長人也、仕ニ數代聖朝ニ能知ニ國事ニ也）アキツシマ（秋津嶋）ヤマトノクニ、（日本國也）カリコムト（鴈生卵也）ナハキカルキ（名不聽也）

丸云、ナコソヲ名ト註セリ、如何、汝ナルベシ、ナハキカルキモ、汝ハカヤウノタメシヲ被レ聞歟也

武田宿祢答哥

ヤスミシ、（八隅知ナリ、四海八挺也、或說、昔御間城天皇遊ニ獵於那良山ニ時ニ有レ鹿、再度跪拜、天皇悲ヲ憐シ玉テ彼鹿ヲ、遂ニ不ニ射殺ヲ、故欲レ言ニ我君ニ之吮、有ニ此發語ニ、是息鹿也）ワガオホキミハ（言ニ代々帝王ニ也）ウベナ〳〵（宜々也、亦多多也）ワレヲ（〇ヲ脫カ）（我也）トハスナ（不レ問也）アキツシマ（秋津嶋）ヤマトノクニ、（日本也）カリコムト（鴈生卵也）ワレハキカズ（我不レ聽ナリ）

丸云、ヤスミシヽノ説ハ、八隅ノ説正義ナリ、或説ハ出處不レ委、又イブカシキ事モ侍。タマキハルノ事、袖中抄ニ顯昭ノ命トツヾキタル哥多イタシ、其中ニ

玉尅春内ノ大野ニ駒ナメテアサフマスランソノ草フケノ

舒明遊ニ獦シヨフ内野ニ之時、中皇命(ナカスヘミコトノ) 使間人連(マヒトノムラシ)老ヲ献スル哥、顯昭考、万葉長哥

靈尅(タマキハルウチノカギリハ) 内限者　南瞻部州人壽一百廿年

此註モ委ニヨセタリ、而ニ今タマキハルウチノ大野ノ哥ハ、命ニヨセタル事モナケレバ思ガタシ、是ハ別ノ事ニヤ、十節録ニ

取ニ齒尤ガ頭ヲ擣(ウツ)レ之ヲ今ノ毬杖(ギツチヤウ)是也、漢土年始用ニ件ノ事國中ニ無ニ凶事ニ云云　サレバ毬杖ヲ玉尅春(タマキハル)ト云也、

無明抄云、是ハ魂キハマリヌルト云事ナリ、又内ノ大野トヨビ玉キハルイハカキ淵ト云歌、玉ト云コトハ万ノモノヲホムルヲソユルナリ、是モ春ヲホメントテナリ、イハカキ淵ヲホメントテ也、コレヲ案也ハ〇アヂ袖」ワケテシラヌ人ハ命ヲヨムトオモヘド、サモツヾカヌ哥モアレバ可レ尋トゾ。近代ノ説、宇宙(オホソラ)ト書トイヘド、オホゾラノ大野トツヾケンモ心エラレズ

玉キハルワガヤノ上ニ立霞タチテモヰテモ君ガマニ〳〵

コレモ、玉ハホムル詞ト古人ノ註アレド、只命短我トツヾケタリ

マス鏡ミツトイハメヤ玉キハル石カキフチノカクレタルツマ

是モイハカキ淵ヲホムル詞ト無名抄ニアレドアシヽ、是ハ命ノ「イ」ノ字ヲトリテ、イハカキトツヽケタリ、此外ハ万葉ノ哥ドモイヅレモ玉キハルイノチトノミアレバ爰ニ不レ載レ之、コノ命トツヽケヌ哥ヨリ不審ヲコリテサマ〳〵ノ說ヲ付ラル、能々思案イタセバ、俊頼ノ無明抄ノ說モアヤマリニアラズ、其故ハ南瞻部州ノ說ハ内典ノ說ナリ、仁德天皇ノ御哥ハ、佛法此國ニ未渡先ノ歌也、此御哥ニタマキハル内トツヽケ給ハ、玉城張トモ、玉剋春トモカケ、以ニ珠玉ニ非體ヲキハメツクシタル内裏ト云詞ナルベシ、日本紀ノ中ノ哥ドモハ皆如レ此、万葉ニ到テハ命ノ極ルト云義ニトリナシテヨミ出タルトミエタレバ、玉キハルト云詞ハヒトツニテ、ヨミヤウニヨリ兩義アルト知ベシ、サレドモ當代ノ哥ニヨマンハ、祝言ノ所ニテハホムル心ニモヨムベカラズ、末代ハ才智ノ人ハ少ク、只命ノキハマル詞トノミオボエタレバ、人ノ耳ニ立ベシ、歌人ハサヤウノトコロノ用捨肝要トテ、伊勢物語ノヽフバカリノ哥ヲシルセリト玄旨法師ノ御講尺ニモ委宣給侍

一タキマチ　　呼嗜摩知、當麻ノ事也、タエマヂ也。　日本記第十二履中天皇ハ仁德ノ太子去來穗別天皇也、イマダニ即位ナキ時、仁德崩ズ、羽田矢代宿祢之女黒媛ヲ妃トセント定テ、住吉仲皇子ヲ遣シテ吉日ヲ告給、トキニ太子ノ御名ヲ冒テ黒媛ヲ姧シツ、是夜仲ッ皇子手ノ鈴ヲ忘テ歸ル明夜太子室ニ入帳ヲ開テ玉床ニ居ニ、床頭ニ鈴ノ音アリ、太子異テ、何ノ鈴ゾト問タマフ、黒媛云昨夜之モタマヘル鈴ニアラズヤ、何ゾ妾ニ問給フト云ニ、太子サトリ給テ、默シテ避也、爰ニ仲皇子畏テ太子ヲ殺ント密ニ興レ兵、太子ノ宮ヲ圍、時ニ平群ノ木莵宿祢・物部ノ大前宿祢・漢直祖ノ阿知ノ使主、三人太子ニ啓、太子醉テ起給ハズ、大前宿祢馬ニノセ

抱テ逃タマフヲ仲皇子不レ知、太子ノ宮ヲヤク、通夜火不レ滅、太子河内國埴生ノ坂ニテ醒タリ、難波ヲカヘリミ給、火ノ光ヲミ給大ニ驚テ急キ馳テ自ニ大坂ニ向レ倭、飛鳥山ニ至リ、小女ニ山口ニアヘリ、此山ニ人アリヤト問給ヘバ、兵多ニ侍ト云、ソレヨリメグリカヘリ、自ニ當摩徑ニ踰之、小女ノ言ヲ聆テ難ヲ免タリトオボシテ歌之曰

オホサカニ(大坂也)　アフヤヲトメ(〇ヲ脱)(遇ニ少女ニ也)　ミチトヘバ(路問也)　タヾニハ(直也)　ノラズ(不レ昇也、略レ保也)　タキマヂヲ(當摩路也)　ノル(昇也)

丸案ニ、光源氏物語ノ浮船ヲ匂宮ノ薫大將ニマギレヨバヒタリシハ、此黒媛ノ古事ヲフマヘテアラヌサマニツクリ出セシナリ、誠ニ藍ヨリモ青侍リ、彼物語ニ混本少モナキコトハカヽヌト云傳ヘタレド、慥ニシル人ナシ、紫式部ハ日本紀ヲ能シリタルニヨリ、日本紀ノ局トイハレシ人ナリ、又此御哥ノツヾキニ、自ニ龍田山ニ踰之、時有ニ數十人執レ兵ヲ追來者ニ、太子遠望之曰、其レ彼ノ來者ハ誰人ヤ、何ッ歩ヾ行急ナル之、若賊人乎云々、是ヲミ侍レバ、彼伊勢物語ノ風吹バノ哥ヲ盗人ノ事ニミルハ悪ト云説ハイハレズ、其イハレヌト云説ハ、顯昭古今ノ註ヲセラレシニ、此歌ニ到リ、是ヲヌス人ノ立ト云ハアシカルベシ、其故ハ万葉ニ、水底ノ沖ツ白浪立田ヤマイツカコエツヽイモカヘリミントモヨミタレバ、只立トイハンタメノ白波ナルベシトカヽレシヲ、定家卿サモアルベシト御同心アリシユヘ也、顯昭ハ日本紀ノ此所ヲミズシテ、白浪ノ立田トツヾケタルヲ万葉ノ哥ヨリ始リタリト思ヘリ、此万葉ノ歌ハ此日本紀ノ履中天皇ノ御詞ヨリヨミタルニヨリ、天下ニ盗人ノ事ト存ゼ

シヲ、世ヘダヽリ與風顯昭ノ万葉ヨリミ出シテ、此註ヲカヽレシヲ、定家モ初一念ニ尤珍ト思給ヘシトミエタリ、顯註密勘ニアリトモ混本ヲケガサバ、有常ノ娘ノ本意ヲ失ナレハ、今爰ニ書付侍ル、万葉ノ水底ノ沖ツ白浪モ、伊勢物語ノ風吹バノ歌モ、皆山賊ニヨセタル白浪ト心得タルガヨキ也、先哲ヲモドクニアラズ、タヾ其哥々ノ正義ヲ糺バカリ也、先哲靈魂アリトモ、丸ヲバニクミ給ベカラズ、誤ヲタヾスハ先哲ノ本意ナレバ、カヘリテホメ給ベキカトコソ

樸樕第九畢

歌林樸樕　第十

【タ】

一逹智門(タイチモン)

一淡海公(タンカイコウ)

一タナハタヲ人トヨミタル　赤人

ヒト、セニナヌカノ夜ノミアフ人ノコヨヒモアハネバヨフケ行カモ

一鷹馬　ソレタルタカニ付タルカラス也

一タハヤスキ　タヤスキナリ

一タクサ　多種ト書、多手向シタルナリ

榊葉ニユフシデタグサトリソヘテサユフサマデヤフシヲガムラン

一玉ユラ　日本紀ニ玲瓏ト書、一ハシバシ、一ハ命、又玉モユラハ日出心也、宗祇説ニ(〇之カ)丸案ニ、命ヲ云トアルハ魂ノユラグ事歟、ユラグトハ延心ヲモテバ云ニヤ、命ヲ云トハミエズ、玉モユラクト云モ、別ニ心ハカハラズ、「モ」ハ休字ニテ只玉ユラナリ、玉ユラノ露モ命モトヨメルモ露ニ付タル詞也、タマ玉ノユラメク也、玲瓏ノ心バカリナリ、ソレヲシバシノコトニモ又少久心ニ用也、ユラグ玉緒ナドハ久コ、ロ

也、命ノ延義ナリ

一タルヒハ　垂水也。タルミハ水ノヨドミニテアル所ヲ云。岩ソヽグタルミノ上ハ、水ノ音タルミテ深クアルヨト也。又此歌ハ播磨ノタルミ野也、ムサシノ明神ヨリタルミノ明神ヘ進ラレタル水ナリ、其水ノ上ニ野ノ歳也

立ヌル、ヤマノシヅクノ音タヘテ槇ノ下葉モ垂氷シテケリ

一タナヽシ小舟　小舟ノ棚トハ、ソバニ板ヲウチ、中ニスカキヲカク也

一玉柏　青石ヲホメテ云、又文アル蛤ヲモ云、又眞ノ柏樹ヲ云

玉柏シゲリニケリナサミダレニハモリノ神ノ住ワブルマデ

一玉クシゲ　曉ノ異名ナリ、非レ箱

丸案ニ、曉ハアクルモノナレバ、玉クシゲトタトヘタルゾ、後人ヲシテ異名トスルナルベシ、曉ヲ匣ト云ベキ道理無之

一タラチオハ父、タラチネモ同、タラチメハ母、又タラチネノオヤトツヾケテハ父母トモニ無二差別一オヤノ杜撰也

タラチネノオヤノイサメシウタヽネハ物思フトキノワザニゾアリケル

ト云古哥ニ秘説ヲ明匠ヨリ傳タリトテ、世上ニシル人アルベカラズト深ク信ズル人アリシヲ、サマぐ\執心シ

テ、或人相傳セシヲ聞シニ、人ノ子ノナクヲネイラセント、イタハリイサメテモネイラヌモノ也、戀ニモノ思フトキハネラレヌ事、其コノ如也云々

丸是ヲ聞テ、人シレヌ泪ヲ催シ侍ル、上古ノ人ノ說ニモアヤマリハアレド、カヤウニゲニモラシクシテ、事外邪ナル說ヲ求出ス師ノ世ニ出デ、愚ナル弟子ヲマドハスコト、末ノ代ノアサマシキ義ナリ、今ヨリ後ニモカヤウノヒガミタル惡知者、名ヲ取テ正理乱ベキ事アルベシ、右ノ說天下ニ人ノ用タル連歌ノ宗匠タリシ人ノ說ナレバ、聞人無明ニ信ヲヽコシテ一生秘藏セラレシ也、コレハ宰予晝イネタリノ本文ヲ以テ、ウタヽネヲ戒シ哥ナレバ何ノ秘事カ侍ベキ

一タチツクリ江　名所ニモアレドモ

　万代ヲ君ガ守トイノリツヽ太刀ツクリエノシルシト思ハン

太刀作得タルナリ、早苗ヲ　後賴

　ハツ苗ニウズノタマエヲトリソヘテイグシマツラントシツクリエニ

コレモ年作法得ン也、以上顯昭說

丸案ニ、九州ノ太刀ツクリ江ト云名所ヲ立入テ、江ヲ得ニ用タル歟ドモトキコエタリ、非ニ名所ニトバカリハ如何

一タルミノ上ノサワラヒ　播州播磨ノ境ノ垂水ト云名所也、明神アリ、エモイハヌ淸水ノ岩ニカヽル故

ニ、タルミト云ナリ、コレヲタルヒトアヤマリテ邪說出來也、其タルミノ上ヲバ、タルミ野ト云ナリ、ソレニ蕨ハ生也、岩ソヽグノ哥ハ、天智第三皇子、志貴王久身ノシヅミ給テ後、ヨロコビノアリシトキノ御作也、追号田原天皇

一玉ノムラ菊　義忠

ウツロヒテ庭面白キ初霜ニ同ジイロナル玉ノ村菊

顯昭云、大嘗會主基方、玉村ト云所ヲヨメルヲ、玉ハホメタル詞、ムラハ村薄ノ類ニシテ、小松重盛家ノ歌合ニモ百數ノ庭ニヨセテヨマレタル人アリ、公景ガ北野會ニ殘菊圖ニモ或人詠無レ謂事也丸案ニ、顯昭說モ一理ハアレドモ、當時ハヨミテモ不可苦、其イハレハ、此義忠ノ玉村ノ菊トハ聞ヨカラヌニヨリ「ノ」ノ字ヲ上ヘナシテ、而ハ非ニ名所ニヤウニ始テ玉ノ村菊ニ詞ヲコシラヘ給トミヘタリ、其故ニ常ニ咲タルヤウニ庭面白トハヨメリ、此詞ヲ賞メ世繼第十二卷ノ名トセル上ハ、名所ニナラズシテ菊ノ名ト成ト思フベキ歟

一タツカ弓

手束（タツカ）弓手ニトリモチテアサ狩ニキヽスタチイヌ多奈久良ノ野ニ

紀州雄（ス）山ノ關守ガ持弓也、弓ノトツカヲ大ニスル也、トツカ弓ナリ、「タ」ト同音也。万ニハ手束ト書、十束弓ト云心歟

キノ國ノ背弓雄ノナルヤモテシカトリナビクサカノ上ニゾアル

ナル矢ハ、カブラヲ云。又万ニ

南淵(ミナブチ)ノ細(ホソ)川山ニ立檀弓束(タツマユミユツカ)マクマデ人ニシラスナ

ユヅカハ、トヅカ也

一タマチハフ

玉チバフ神ヲバ我ハウチステ、シエヤ命ノオシケクモナシ

顯昭云、タマハ靈也、チハフハ、給ナリ。タマシヰヲ給フ神也、「チ」ト「タ」ト五音也、又長哥ニ

オトコ神モ、ユルシタマヘバ、ヲンナ神モ、千羽日タマヒテ、時トナク、雲井雨フリ云々

チハヒハ、チカフル歟、又神ニハ「チハヤ」ト云コトアレバ、神ノメグミヲ云歟

丸案ニ、右ノ推量モ未決、一ニハタマフ、一ニハチカフ、一ニハメグミ也、コレハ祝フ心歟、イキシチニノ五音ナリ、天ヨリウケタル玉シヰヲ、ヒサシカレト守リ祝給神ナルベシ、長歌ノチハヒ給フモ祝ニテ可レ然

一タノムノカリ　鴈ト狩ト二説ナリ、基俊ハタノモシノカリトテ互ニヨリアヒ、狩ヲシテ、其日トリタル鹿ヲ、ムネトヲコナヒタル人ニトラスルナリ、顯輔・顯昭ハ此義ニツク、鳴ト云詞ハ狩ヲ鴈ト取ナス也云々、

俊頼ハ万葉ニ

サカコエテアベノタノムニヰルタヅノトモシキ君ハアスサヘモガモ

万ノ田面ヲタノムト書テ此類也ト云リ
丸案ニ、根本タノモシ狩ト云コトアルヲ以テ、又田面ノ鴈ハウヘヲバヨミナシタルモノ也、サヤウニ厚キ作アル物也、二義アル哥ト心得レバ論ハナキ也、委伊勢物語講尺ノ時スマス事也

一タカセブネ　和名ニ艇トカケリ、川舟也、河瀬ヲワタリコス舟ナリ、日本紀〔○三代實錄ナリ〕光孝元年近江・丹波兩國各造高瀨舟三艘云々

一タノシキヲツメ

新シキ年ノ始ニカクシコソ千年ヲカケテタノシキ〔○ヲツメ脫カ〕

日本紀ニハ、下句カハレリ。顯昭云、古今オホナホ日ノ歌トテアリ、日本紀〔○續日本紀ナリ〕天平十四年正月十六日天皇御大安殿宴群臣酒酣奏五節田舞訖更令小〔○年アリ〕童女踏哥又賜宴天下有位人并諸司史生於是六位以下人等鼓琴云々

新シキ年ノ始ニカクシコソツカヘマツラメヨロツ代マデニ

シカレバ踏哥ノ心也。敎長卿云、神今食・新嘗會ナドモ、又諸社ノ祭ニモ庭火トテ左右衛門衛士薪ヲモテマイリテツム、コレヲ祝ニヨセテタノシ木ヲツメトハヨム也云々。私云、公事次第ハ雖知、但新ニヨセテ樂ヲツメトイハン事如何、隨而續日本紀ニハツカマヘツラメ万代マデニトコソ侍レ
丸案ニ、敎長卿說可然、日本紀ノ哥ヲ下句ヲ改テ、新ヲツメバタノシキヲツメト、後ニハウタフニヨリテ、

古今ニ入タルベシ、ツムト云詞、木ニコトヨラズハ何ユヘヲクベキゾ

一タマモカリシク

ウメルヲ、ヲミノ大君アマナレヤイラゴノシマノ玉藻刈食(カリシク)

顯昭云、タマモカリシ也、歟ニアラズ、食ニアラズ、タマ「ク」モジヲソヘタリ

住ヨシノナゴノ濱ベニ馬タテ、玉ヒロヒシクツネニワスラレズ

ハルヤマノサキノヲスグロニワカナツムイモガシラヒモミシクトモシモ

皆「ク」モジヲソヘタルバカリナリ

一タマクシ　付ミカクル

トヘカシナ玉クシノハニミガクレテモズノクサグキ限路ナラズトモ

日本紀公望註云、眞坂樹(サカキ)八十(ヤソ)玉籤(クマグシ)、問云、玉籤者是何物乎、答是坂樹也。俊頼齊宮內侍ニ相具シテイセニ侍ケル時、六條修理太夫ノ許ヘ送哥也、ミカクルハ、身隱也。堀河百首ニ、顯仲哥ニ、水ナクテヨメルコトアレドモソレヲバ不レ可レ用。良道歌ニ

水隱テスダク蛙ノモロ聲ニサハギゾワタル池(〇井手ᵒᵒ)ノ藻

又太神宮ニ榊串ニサス事アレバ「玉グシ」ト云ニテコソアレ、ヲシナベテ榊ヲ「玉グシ」トイハンハ如何

丸案ニ、公望、是坂樹也ト書タレバ、榊ヲ「玉グシ」トイハンモ難ナカルベシ、又身ガクレトモ俊頼ノ哥ヲ證歌

トシテ今ヨマンニ難ナカルベシ

一タラシヒメ

タラシヒメミフネハテケン松浦ノ海イモガ待ベキ月ハヘニトモ

万葉、新羅使肥前ニテ作也、息長足姫(イキナガタラシヒメ)ハ神功皇后也、舟ハテケンハ、出ケント云詞也、イツルヲ「ハツル」トヨメリ、但皆ノ哥ノ詞舟ヲヨスルトミエタリ

丸案ニ、舟ハツルハ出ルノ義、心エラレズ、ヨスル心ナルベシ、カヤウノ詞古哥ニアリトテモ、歌學ナキ大名ナドノ出船ニ「ハテ」トハヨムベカラズ、常世ハカリソメニモイマハシキ詞ハ人ノ嫌ト知ベシ、俊頼

偽ノチカヒナラネバ君ガ代ヲ大タラシヒメニ任テゾミル

一タフセ

カナハスハ田廬ノモトニ我セコハニフヽニエミテタチマセルミエ

タヽナラスイホシロヲ田ヲカリミダリ田廬ヲミレバ都コヒラル

タブセトヨムベシ、ニフヽハ、ニコラニエム也、艷然又莞字トモ書リ。顯昭云、フセヤト云ハ此義歟

一タマキヌノサイ〳〵シツム

玉ギヌノサイ〳〵シヅムイヘノイモニモノイハズキテ思カネツモ

玉ハホムル詞「サイ〳〵」ハ「サヤ〳〵」ト新絹ノナル音ナリ、「シヅム」ハ閑ニ居タリシ妹也

アリギヌノサヘ〳〵シヅミヤドノイモニモノイハズキテオモニクルシモ

アリギヌハヲリ衣也、「ア」ト「ヲ」ト同音也、サヘ〳〵・サマ〳〵同音也

命ヲモマタクシアラバアリギヌノアリテ後ニモアハザラメカニ

或說ニ、珠衿ハ棉ノ名ナリ、珠衣ト同、ホメタル詞ニアラズ、禁忌スベシ。顯昭云、アマリノコト也、万葉ノ哥ニ其心ミエズ

一タケクマ松

ウヘシトキチキリヤシケン武隈(タケクマ)ノ松ヲ二度アヒミツルカナ

顯昭云、陸奥武隈ト云所ニ二木アル松也、此哥ハ宮內卿藤原元良ガ陸奥ノ初位ニウヘテ、後任ニヨムナリ、其松野火ニ燒ケリ、其後満正ガ任ニウユ、其後孝義ガ切テ橋ニ作ル、其後失終云〻。能因ミチノクヘ二度ワタレリケルニ、後ノ度ハタケクマノ松モナカリケレバヨミケル

タケクマノ松ハ此度跡モナシチトセヲヘテヤワレハキツラン

橘季通朝臣ミチノクヨリ上リテヨメル

武隈ノ松ハ二木ヲ都人イカニト、ハヾミキトコタヘン

藤原元良舘ノ前ニ始テウヘシ松也、ミチノクノ舘ハ武隈ト云所ニアリ、タケクマノハナハノ松トヨメリ。重之

タケクマノハナハニタテル松ダニモワガゴトヒトリアリトヤハキク

武隈ノハナハトテ山ノサシ出タル所ノアル也、宮城野ニタケクマノ松モ侍ケレド今ハミエス、宮城野・武隈ノハナハ、舘ハ一所ナリ、元良ヨリ先ニハナカリシ松ナリ

丸案ニ、伊勢物語ニ宮内卿モチヨシトアル、モシ此人ニヤ、「ト」ト「チ」ト同音ナレバ、モチヨシト元ノ字ヲ云ケルニヤ、時代可勘

一玉カツマ

玉勝間アハントイフハタレナルカアヘルトキサヘオモカクレスル

顕昭云、ツマヲホメテ玉勝間ト云リ、玉之妻ト書ベケレド、磐ノ根ヲモ石金トカクナラヒニテ、万葉ノナラハシナルベシ

玉勝間安倍島山ノ夕露ニタビネシカネツナガキコノヨヲ

玉勝間島熊山ノ夕暮ニヒトリカ君ガヤマヂコユラン

此両首トモニ島ニカケタリ、イカヾツヾケタルニカ、又「ユフベ」ニカケタリ、下句ニタビネシカネツトモ云、又ヒトリカ君ガヤマヂコユラントイヘル、是ハ妻ノ事トモキコエズ、縦妻ノコトナルニテモ、初ノ句トコトハナレタリ、花カツミナドヨミヲクヤウニ、花カツマト云モノ、名歟、清輔モ妻ヲホメテ玉之妻ト云ニヤトバカリハ申テ、此哥ドモノ叶ハヌ由ヲバ不沙汰侍リ

丸案ニ、玉ハホメタル詞尤也、髮ヲホメテ玉カヅラト云リ、サレバ玉鬘ハ、頭ノ髮ノコトナレドモ、女ノ異名

ニモナリテ「玉カヅラ」トイヘバ女ノコト、ナルガ如ク、玉勝間モ玉之妻ト云說ニアラズシテ、タマ女ノ異名ニナルベシ、其故ハ、カツマタノ池ト云ハ、昔女ノカウガイヲ落セシ池ナレバ「カツマタ」ト名ヅクト云リ、カウガイヲ「カツマ」ト申ト侍ル、シカラバカツマダノ「タ」ノ字ハ、墮ノ字「オツル」ト云コト歟、女ハ頭ノカザリヲ第一トスレバ、カツマトイヘバ女ノコトニナル也、又嶋ト云枕詞ニシタルハ、海上ノ嶋ヲ女ノヒヅラユヒタルニタトヘテ、ワタツミノカザシニサセル白妙ノナミモテユヘル淡路嶋山トヨメル哥ニテ具合ベシ、カラノ西湖ノ中ニ、廬山ト云ヤマノミコトナルヲバ、西施ガ破瓜ノ年同ジト詩ニツクレリ、破瓜トハ瓜ノ字ヲ二ツニワレバ十八ニ成ル也、サレバ西施ガ十八ノ時ノカホニ似タリト云事ナリ、貴妃ノ方士ニアタヘラレシモカンザシ也、其トキ二ツニサキ分ツトアレバ、カシラツノ、ヤウニアルモノカ、シカレバカツマダト云モ墮ノ字ニ不及、カウガイノ名歟、「カツマ」ハ「カツマダ」ノ下略ナルベシ、顯昭ノ嶋ノ字タノ字ニ心ヲ付ラレシモ面白シ、自然ニ併ノ義ニ相叶歟、カンザシトハ髮ニサスモノナレバ「カミサシ」ト云コトナリ、サニテハアルマシケレド、万葉ノ哥二首嶋ト云字タノ字イヅレニテモアレハモシ髮ノウハサニ結ト云緣ニヲミタルニヤ

一玉カツラ

チハヤブルカモノ祭ノタマカヅラタエズ思ヘ（ヒ（補））ハアフヒナリケリ

顯昭云、玉カヅラハ玉楓也、玉葛・玉鬘ニマギレヌベケレバ、メヅラシサニ註シ侍ル

丸案ニ、此楓ノ字ハ如何、桂ナルベシ、四月申日山王祭アリテ、翌日酉日賀茂ノ祭アリ、山王祭ノ桂ト、カモ

ノ祭ノ葵ノ二種ヲ内裏ヘ奉ルト云ヘリ、山モ祭ノナキ年、カモノ祭バカリアルヲバ片祭ト云ト云〻。シカレバ桂ナルベシ、但此哥ノ玉カヅラハ葵鬘ナリ、又女ノコト也、其子細ハタヘズト云詞、鬘ニカヽリタル詞也、又逢日ナリケリトアルニテ戀ノ哥也、サレバ上ノ玉カヅラハ女ヲ云ナリ、惣別女ヲ玉カヅラト云也、女ハ髪ヲ本トシテ長カモジヲ入ル故ナリ、又葵ノ字ヲアフヒト名付事、カラノ古事ヨリヲコルナリ、葵ハ日ノ影ニツレテ廻ルモノ也、サルニヨリ合日ト云ナリ、ソレヲアヲイト云ツケタリ、合日ト云ガ本也、葵ニハ衆類多シ、此祭ノ葵ハ蘿葛也、日蔭草也、モロカヅラトモ云、又蜀葵・多葵ナド云テ花ノサク葵アリ、ソレモ歌ニヨメリト承ル

一玉ハヽキ

初春ノハツネノケフノ玉ハヽキ手ニトルカラニユラグ玉ノ緒

顯昭云、万葉第廿卷云、正月三日召ニ侍從竪子王臣等ニ令レ侍ニ於内裏之東屋垣ニ而即賜ニ玉箒ニ肆宴、于レ時内相藤原朝臣奉レ勅宣、諸王卿等、隨レ堪任レ意作哥并賦レ詩、仍應ニ詔旨ニ各陳ニ心緒ニ諸人哥未レ得。私云、此歌ハ家持也、玉箒給テ詩哥ヲ作トハアレド、何物ヲ玉箒ト云トハミエズ、シカレドモ哥ノ趣ハ蓍歟、又万葉群物哥中ニ、詠ニ玉掃・鎌丸・天木香・棗ニ哥

玉バヽキカリコカマヽロムロノ木トナツメガモトヽカキハカンタメ

常ノズイナウ「〇髓腦」ニハ玉バヽキトハ蓍也、井中ニハケフ草「〇底本「メド歟」の傍書あり」ヲ小松ニトリ加テ、正月初子ノ日、コガヒスルヤヲハケバ、ホメテ玉箒トハ云、此万葉ノ哥モ其心カナヘリ、禁中マデモ賞タ

マヘルニコソ、正月三日ノ宴トアレバ、初子ノ日ニテ在モヤシケン、次ノ哥ハ、カリコカマ、ロナドヲヨミタレバ、正月初子ノ日トハキコエズ、玉バ、キカリコカマヽロトイヘバ、著ト云草ト覺エタリ、イツニテモ人ノモトニ此物ドモノアルヲ詠イルベシ

丸云、此顯昭ノ注、更ニキコエズ、カリコハ物ヲニナフカルコト云物也、非レ草、カマ、ル(マヽ)モ草ヲ苅鎌也、非レ草、サレバ玉箒ハ只ツネノハ、木也、草ノ類ニテアラザルベシ、無名抄云、玉箒トハ著ト申草ニ、子日ノ松ヲ引具シテ箒ニ作テ、正月ノ初子ノ日、コカフヤヲコヤトゾ申ナル、其屋ヲ子午ノ年生レタル女ノ、コガヒスルモノヨキヲ、カヒメト付テ、ソレシテハキソメサセテ、祝詞ニ云哥ナリトゾ云傳タル、又昔京極御息所ト申ハ、時平大臣ノ御娘ナリ、志賀寺トテ驗者シタマヒケル所へ來リ給ケル道ニ、老法師御車ノモノミヲアゲテ、湖ナドヲ見タマヒケルニ、目ヲミアハセ奉リケリ、次ノ日杖ニスガリテ參、此由ヲ申上ケレバ、サル事アルラントテ、南面ノ日カクシノ前へメサレケリ、御簾ヲ少アゲテミエ給ケレバ、一時バカリ守テ、後ニ御手給ランフトテニギリテ後、スデニ本意トゲ侍リヌ、淨土へマイラバ必迎奉ラン、我年九十ニ及侍ナンズルニ、七十年ハヒトヘニ後世菩提ノ營ナリ、皆君ニ廻向シ奉ベシト云テ、ヨメル哥ナリ、御返事

　ヨシサラバマコトノ道ノシルベシテワレヲイザナヘユラグ玉ノ緒

トゾ被仰ケル、コレヲ聞テ悦ナガラ泣々皈ニケリ、能因故師大納言ニ語申ケル、此哥ハ万葉二十卷ニアレバ事外ノソラゴトニテゾ、ヒトヘニ物語ノヒガ事ト思ベキ〔〇ニ袖アリ〕、此哥アル万葉集モアリ、無本モアリ、由歟

ノミナラズ、今五十余首ナ〔〇ケ細アリ〕レバオボツカナシ、ユラグ玉ノ緒トハ命ト云事ナリ、サレバコノ御手ヲトリタルニヨリテ、シバシノイノチノビヌルニトヨメルナリ。顯昭云、是ハ家持哥也、上人詠ニ古歌ニ歟、但万葉ニ此哥ナキ本アルニヨリテ、ウタガハシキヨシ了簡由緒甚深也、童蒙抄云、田舎ノコガヒスル所ニ、玉ノヤウニ丸ナル實ナリタル松ヲ、箒ニツクリテ、正月初子ニハク也。奥義抄云、玉箒ヲバ祝ノモノニシテ、年初ニハ人モ先トルモノナレバ、命ノブルトヨメリ。綺語抄云、玉バヽキトハ、初子ノ日ノ松ヲ云ト云ゝ。今案ニ、サスガニ松トハ不レ覺、蓍ヲ松ニ取加ナレバ共ニ云ベキ歟、就中童蒙ノ丸ナル實ナル松ナレバ、玉バヽキトイヘル、如何トキコユ

丸案ニ、万葉ニナキ本アリトモ家持哥ナルベシ、スデニ此歌アル本ニ、委序書アル上ハ疑ナシ、其万葉ノ序ニ、天子ヨリ臣ニ下サル、玉箒ヲ、蓍ト云説アシカルベシ、或ハ年齢ヲヘキトイハヒテ卯杖ヲ給、卯月ノ旬ニハ扇ヲ給ヤウニ、年災ヲハラヘト云心ニテ、ウツクシキ箒ヲ昔信タリシ事アリトミエタリ、其哥ヲ又蠶養ノ者、コガヒノコヤヲハキソムル時ツケタルベシ、志賀寺ノ上人ノ事モ、能因ガ經信卿ニカタレル事ニヒガ事ハアラジ、殊ニミヤス所ノ返歌モアル上ハ不レ可レ疑、シカリトテ上人ノ詠トミルハ誤ナリ、万葉ノ古哥ヲヨミカケシナルベシ、此外玉箒ト松ヲ云ナド、云説、連歌書ナドニ多カキタレドモ、何ノ無レ詮事也。丸ガ爰ニ云如ク、ラチヲアケ可レ給

歌林樸樕第十畢

歌林樸樕　第十一

【ソ】

一ソヽノカシ

一ソガ菊　生スガヒニアルヲ云、又承和ノ菁黄ヲコノマセ給故、黄菊ヲ云、又十日菊也、用ニ此說一、ソガミサエダハ、汝ガ下枝也

一ソロヰ　不調不揃也

丸案ニ、ヰハ同ジヤウニ生イヅルモノナレバ、ソロフト云事ヨリ名付タルベシ、古說雖レ用

道ノヘニソロヰカリホス稻ウチヲノレカツ〳〵シクカトゾミル

一ソヾロ　不意也、スヾロ同詞也、辛ノ字ヲモ云、後成ノ哥ニ

ナニハ人アシ火タクヤニ宿カリテスヾロニソデノシホタルヽ哉

コレハ、スヾト云草、芦ニタヨリアレバカクヨメリ、ツネニソヾロトヨムベシ、スヾロトハ無用ト定家ノ說在之

一ソヾロク　コレモ「ソヾロ」ト同ケレドモ、少カハル也、ウゴク意也

三日月ノホノメク空ニ秋ヲミセテソヾロギワタル山ノ端ノ月

一ソヨヤハ　サレバコソ「ソヽヤ」ハ「スハヤ」ノ心アル也

一ソマ　万葉ニ、追馬・喚犬ト云、又馬犬トバカリモ云

一ソカ菊　顯昭云、黄菊也　ソガトハ承和ヲ云ナスナリ、此帝黄色ヲコノミタマヒケレバ、黄色ハ承和色ト云、サレバ黄菊ヲ「ソハキク」ト云ル本モアリ、深草帝黄菊ヲ賞翫シ給フニテモ、又惣ジテ黄色ヲ好給ニテモ、承和色ハ無レ疑候、季經〔○綱歟〕往來ニ非レ緋非ニ紫多ニ可レ云ニ承和色ニ云〻。俊頼云、承和帝一本菊ヲ好給、高ク大ニヒロコリタル菊ヲマイラセン人ヲ賞セン、ト宣旨アリケレバ、世ノ人イドミテ家毎ニ一本菊ヲウヘテ、名ヲ承和菊ト云ナリ、シガミサエダハ下枝也、コレハ美作〔濃歟〕國ノ詞トゾウケタマハル、ソガ菊ハ黄菊ト云人アレド、サテハ「ミサエ」トイハン何如トキコユ、一本菊ハ木ノヤウニ高ケレバ、シカミサエダナドカナカラン、村菊ノシカミサ枝ハ心エズ、ソレモ下枝ハアレド、上ノ枝ハ埋テミエジ、又土ニ付テ上ニアラン枝ニハヲトリナンモノヲ、猶黄菊トイハヾ黄ナル一モト菊トゾ云ベキヲ、サハエイハザンメリ、奥義抄ニミサエノ詞ニ付テ、一本菊ト云ベキニ非ズ、色ノテコラサハ照コキサマ也、シカミサエダハシヤガ下枝ト云ナリ。私云、黄菊・一本菊ハモトヨリ兩義也、サレド承和色ト云コトアレバ、黄菊ヲスグレタリトス

丸案ニ、俊成定家等モ承和色ノ黄菊トノミ心得給タリ、トミユレバ、今更義理ヲツクベキニアラズ、サレドモセウワヲ「ソガ」ト云ベキ五音ニモ不レ叶、イブカシキ處ニ、近代ノ書ニ、十日菊ト註タルヲミ侍、詩ニモ十日菊ト云題アレバコレ正説カト思侍ル、カラノ文ニモ古註ヲ新註ニテスツル例アリ、必古ヲ貴ビ今ノイヤシムベ

キニアラズ、古註ト云モ皆作者以後ノ推量ナレバ、其哥ノ義ニ不レ叶ヲバ不レ可レ用、マレニカヤウノヨキ新註アリトテ、後人古人ノ言語ニマサルニハアラズ、古人ノ先一義付タルヲミテ、其ニテ工夫シ出ルコトナレバ、新註ノヨキモ、只古人ノ力トオモフベシ、自慢ヲシテ古賢ヲ愚ニミオトスコトナカレ、十日菊ナレバ「カ」文字清テヨムベシ、十日ノ菊ノ詩ニ風光ハ必一夜ニヲトロフベシトアルニテ、此哥ノ下句ノコヽロモヨクキコエタリ、シカモサエダノイロノテリコキトヨミタルモ、彼詩ノ折残枝ヲメグルトアル詞ニカナヘリ、不レ可レ疑

一ソハカ

闇アリテ人ノマヰヅルクラマ山オコナフ聲ハソハカナリケリ

ソバカハ梵言ノ詞也、瑜祇經云、孫婆式云、致感三昧左供結之臨可知勸圓滿月北方森之切要勤　如本

一ソトモ

ワガヤドノ外面ニタテルナラノ葉ノシゲミニスヾム夏ハキニケリ

顯昭云、ソトモトハウシロト云事也　考ニ日本紀公望註ニ陽ハ南、影面、陰ハ北ノ○背(細アリ)面、案レ之南ハ日ノ影ノ面、北ハソムケル面ト云歟。又日本紀ニ山陰道ヲバ、ソトモノ道トヨメリ、シリヘヲ云、綺語抄ニハ、ホカト云コトナリ。古物云、下スノ家ニハ、シリヘノ門ヲバ「セド」ト云「ソ」ト「セ」ト同音也、又只「ソト」、モ云、四条大納言哥枕ニハ兩義アリ、一ニハ我家ノ門ヨリ外ヲ云、一ニハ我家ノセトナドヲ云、能因歌枕、家ノウシロ

ノ庭ヲ云、或物ニハ、山里ノ門ヲ云。古哥云

山カツノソトモガクレニコリツメル冬木モミエズ雪フリニケリ

古物云、是ハ門ガクレニ切タテタルトキコエタリ、又ナラノハノ哥ハ、門モシハセドナドキコエタリ。本院侍従哥

ワガヤドノソトモニ何カ思フベキイハデコソミメタヅネケリヤト

追注、此哥アラズ、ソトモノ證歟ニ、〔○上のアラズはこゝにうつすべきか〕書アヤマルノ本歟

吾宿ノソコトモナニカヲシフベキ　下句同

贈答讚恕哥也、以書失僻事由見也

丸案ニ、顯昭ハ日本紀等ヲ引出テ、北ウシロヲ云ト思定給ヘリ、山陰道ヲソトモノ道ト云ニ付テ、尤ナガラ、ソレハ僻ニナレリ、先山陽道ヲ面ニスレバ、ソレニ對シテ山陰道ヲソトモトハ云ヘリ、公任卿ノ兩說、能因ガウシロノ一說モ皆ヲシコメテ相タガハヌ心得ヤウ侍、イヅクニテモアレ、東西南北ニカヽハラズ、我居タル所ノ外ヲ云ト思ヘバ何ノ疑ナキ也

一ソツヒコマユミ　田上ニテ、サラノダケニ上リテ遊ケルニ、マユミノ紅葉ヲミテヨメル　俊頼

モヽツテノイソシノサヽフ時雨シテソツヒコマユミモミヂシニケリ

万葉云、百傳ノヤソノシマリ、モヽツテノイハレノ池、又山ノヘノイソシノミ井、此等ヲトリアツメテ、百傳

葛木ノ其津彦眞弓荒木ニモタノメヤ君ガワガナツゲヽン

ノ五十ジノササフト讀歟

トヨメリ。顯昭云、ソツヒコマユミハ、若所名歟、「コツヒコ」トモヨメリ、タトヒ眞弓ノ名ニテモ、葛木ニヨメリ、田上ニテ五十シノササフトヨミ、ソツヒコマ弓ト詠。頗以ニ任意一歟、可レ思レ之〱丸云、俊賴ノ歌ヲ心ニマカセテヨマレタリトソシリタル文脉也、而ニ「ソツヒコ」ハ「サツヒコ」ト云コトナルベシ、所スルヤウナル男ヲ、薩男ト云類ナリ、「サ」ト「ソ」ト五音ナリ、ソノサツオノ持タル眞弓ナルベシ、又「コツヒコ」トモ云ト侍リ、ソレハ其津彦ト万葉ニ書タルヲ「其」字ヲ「コ」ト釋ニカンナヲ付アヤマリタルヲ、後人糺明スルホドノ者ナク。古人トナレバイヅレモ物ヲシリタル人トヲヂヲソレテ云ツゲタルナルベシ、ソツヒコ名所ニテアルベカラズ、又葛木ニ限ルベカラズ、只薩彦トテサツオノ類ト心エテヲクベシ、然ハソツビコト「ヒ」ノ字ヲ濁ト顯昭シルサレタレドモ、「ソツヒコ」ノ正說未決人ノ淸濁ナレハ難レ用、惣別シラヌ事ヲモ淸テヨムハアヤマリニアラズ、シラヌコトヲ濁ハアヤマリナレバ、コレモ慥ナル證說未出之間ハ、ソツヒコノ「ヒ」ノ字スミテヨムベシ、カヤウニ書内ニ猶一義ヲ分別スルニ、ソツヒコトハ昔アリシ人ノ名歟、但「ヒコ」ハ引歟、モノヲヒキシロフト云トキハ、ヒコシロフト云也、「キ」ト「コ」ト同音ナリ、然ハサツオノ引眞弓ナルベシ、コレデ哥ノ心ヨクキコユルカト存候へ

一ツヽトマリハ　在口傳。　大方「ツヽ」ノ詞ハ万葉ニ「乍」ト云字ヲ書テ程ヲフル心アリ、其心ナキハアキ
簡トテ連歌師モキラフ也

思ツヽアケ行ヨハノ多ノ月ヤドルヤセバキ袖ノ氷ニ

此思ツヽ・歎ツヽノ類ハイヅレモ宵ヨリ曉マデ也、一年ヲクラス如クホドフル心アルナリ

一ツノサフル

角障經石村山ニ白妙ノカヽレル雲ハ星（○晴神）ニケル㲉

顯昭云、角ノ字ニ付テ、スミサフルトヨメルハ僻事ニヤ、石見國ニ「ツノ」ト云所アリトミエタリ、サレバツノ
ト云所ヲタチサヘテミセヌ石トヨメルナリ

石見ノ海角ノ浦廻ヲウラナシト人コソミラメ、ツノヽ里ミムナビケコノ山云々

石見ノヤ高角山ノ木ノ間ヨリワガフル袖ヲイモミツランカ

角障經石村モ過ズ泊瀬山イツカモコエン夜ハフケニツヽ

丸案ニ、右ノ說ゲニモナガラ、日本紀ヲミレバ。仁德天皇ノ御哥ニ

ツノサハフ　イハノヒメカ　オホロケニ

私記ニ曰、師說、昔孝靈天皇御代有ニ連牛一、欲ニ以テ角ヲ破レ堤、々ノ中ニ忽ニ有ニ磐石一、觸レ角ニ相防、仍遂不レ能レ壞、故ニ言ニハ嚴石ヲ一、先ツ引ニ此語ヲ一乎。ツノサハフハ角障也、万葉ノ人丸ノ歌モ、皆仁德ノ御哥ヨリヨミ出給トミエタリ、顯昭モ日本紀ヲバ委未ニ見トミエタリ、ミ給タラバ此御哥ヲモ袖中抄ニ出サルベキニ、曾以無ニ其沙汰一、但コノ尺日本紀モ丸イマダ作者ヲシラズ、ソレニ引タル私記ト云書ヲモ未レ知、孝靈ノ御代ノ說ノ出書シレヌ事也、孝靈ハ神武ヨリ七代目ノ天皇ナリ、日本紀ニハ連牛ノ事無レ之、サレドモ角サハフノ詞ノ意ニハサモアリツベシ、角ノ里ニサハルト云義、石見國ニカギルコトノヤウナリ、仁德ノ御哥ニ、石見ノ國ノ心ハナシ、山城ノ筒城ニテヨミタマヒシ御哥也、ソレヲ本哥ニシテ、人丸ノ時代ニ石村山等ニヨミタルトミエタルヲ、顯昭彼國ノ角ト云所ニ思ヨリテ了簡セラレシナリ、其内ニ角ノ浦ハ無ニ子細一、タカツノ山ハ高津ノ山ト書タルガ正字ナルベシ、高角ト云ハイカヾオモハレ侍、猶風土記ヲ尋ベシ

一ツラ〳〵ツバキ

河上ノツラ〳〵ツバキツラ〳〵ニミレドモアカヌコセノ春野ハ

顯昭云、列々椿ト云、ツラナル義歟、又本草ニ女貞ト云テ「タヅノキ」トヨミ、又「ツラツバキ」トヨメリ、コレヲ、シカヘシテ、ツラ〳〵ツバキトヨム歟

コセヤマニ「〇ノ袖」ツラ〳〵椿ツラ〳〵ニ思フナワガセコ、セノ春野ヲ

丸案ニ、女貞ハヤブ椿ト云物也、榊ニ似タリ、但榊ト同木歟、順ガ和名ニ龍眼木ヲサカキトヨム、賢樹ノ實ホ

ソ長クテ、蛇ノ目ニ似タル故歟、近年カラヨリマコトノ龍眼肉ノワタルヲミレバ、イカニモ圓テ龍ノ目ニ似タリ、昔ハ日本ヘワタラヌ故カト存ナリ、サテ女貞ヲ「タヅノキ」トヨムハ、龍眼ノミノナルユヘニヨマスル歟、コレヲ「ツラツバキ」ト云モ、椿ノ類ニツラナル義歟、葉ノ形小ケレドモ椿ニ似タリ、サレド此コセノ椿ハ、マコトノ椿ノ花ヲヨメリトキコユ、花カ木カノイクツモ見事ニツラナリタルヲ云ナルベシ

　百年ニ一トセタラヌツクモガミワレヲコフラシ俤ニタツ〔〇ミユ袖〕

袖中抄云、江浦草ト書海藻也、古池ナドニ生テ蒲ニ似タルナリ、ソレヲモ「ツクモ」トイヘド、ソレハワルキタトヘナリ、奥義抄ニ、古物語ニウミカキノ一アリケルヲ、物ドモアラソヒテ、年タカヽランモノクハント云ケルニ、九十九モト云テ蜘ノクラヘル事アリ、ソレヲ思ヘバ、クモトイハントテ、百トセニ一トセタラヌトハイヘリ、クモト云ニ付テ、ツクモカミトヨセタリ、古哥ノナラヒナリ、又此ツクモガミハ、ツクマノ神ニ侍リ、或チクマトモ云、同物語ニ云

　近江ナルチクマノ祭ハヤセナンツレナキ人ノナヘノ數ミン

其祭ニハ、神ノ齊トシテ、カノ國ノ女、男シタル數ニ、土鍋ヲ作奉也、今云、九十九モノ物語ニテ、此事ヲ釋センハ無下ノ事也、件事ハ、三十鷺・四十鴫・八十鳩・九十蜘　ト云ハ、始ノ文字ヲ取也、又髮ノワルキ俤ニ立ト云ナリ、ツクマノ神ニヨセタルトハミエズ

丸案ニ、海藻ニ「ツクモ」ト云アリテ、江浦草ト云、ソレニ似タルカミト云ル說、尤可ㇾ然、猶了簡スルニ、海

ニシラ髮ナド云白髮ニヽタル藻アリ、其藻ヲツグネタルヤウノ髮ヲ昔ハ「ツクモガミ」ト世上ニ云シトコヽロエテヲクベシ、九十九モノ目錄モ、百年ニハ少タヨリアル事ナガラ、此物語伊勢物語ヨリサキノモノトタシカニシレヌコトナレバ、業平ノコレヲトリテ、ヨマセ給タルト云難シ、モトノ詳共モ皆其昔ヲシラネバ推量シテ尺シタルコトナレバ、タシカナラザル義ヲバ皆不ㇾ可ㇾ信用ㇾ也、千歲過テツクル義ナリトモ、其理ニ徹セバソレヲ取用テ、心ヲナグサムベキ道ナリ、古人ニモ思チガヘノアヤマリハアルコトナレバ、必名匠ノ尺トテヒラ信ジニ信ゼンコトハ、愚ナルコトナルベシ

一ツヽリサセテノ蛬

秋風ニホコロビヌラシ藤バカマツヽリサセテフキリ〴〵スナク

顯昭云、ツヽリサセ、カヽハヒロハン、ト鳴ト世俗ニ云ナリ、「カヽ」トハ絹布ノヤレタル也丸云、地ヨハクキレテ、モノニカヽヘラヌユヘ歟

ソレヲ「〇ラ袖」ハ鞋ニ作ヲ、カヽハワラツト云、又足ナドフミ切タルニハ、其サイデノハシヲ繩ニナヒテ、火ヲ付、其袵ノクチヲアタヽムルヲバ「カヽハ火打「〇打袖ナシ」」ト云也、古髓腦ニ、蛬ノ名ハサセト云、ソレニツヽリサセソトソヘタル也、ツヽリサセト鳴ニハアラズ、後拾遺ノ序ニ、秋ノ虫ノサセルフシナクトカケリ、此兩義　イヅレニツクベシトモ定メガタシ。私案云、蛬ヲ「サセ」ト云「モナシ、コノ古今ノ哥ニテ云ニモヤアラン、只其故モナク、蛬ヲサセト云ベキニアラズ、今ノ古今ノ哥ニツヽリサセトヨメル兩義ナリ、前ノ義ニテハ

蛩ノツヾリサセト鳴ト云詞ヲヨメリ、次義ニテハ「サセ」ト名ヲ人ニイハル丶蛩ト云也、ソレヲツヾリサセトハソヘタルナリ

丸案ニ、ツヾリサセ、カ丶ハヒロハン、トナクヤウナレバ「サセ」ト云ニテヨク叶ヘリ、家持集ニ

　蛩ツヾリサセトハナキヲレドムラギヌモタル我ハキ丶イレズ

ムラギヌハ、一端ハ「一ムラ」二端ハ「二ムラ」トキヌヲバ云ナリ、此哥モナク聲ナリ、何ノ不審アルベカラズ

一ツム〳〵ト引

　相坂ノ關路ニケフヤ秋ノ田ノホサカノ駒ヲツム〳〵トヒク

顯昭云、「メ」ト「ム」ト同音也、ツメ〳〵トハ、ノドカナル心也、是堀河院百首、公實卿駒迎哥也、或本ニ、ツレ〳〵ト引トアリ、引ツレタルニヨセテ、ソレモノドカナル心ナリ

丸案ニ、ツメ〳〵トハ長閑ナル心トアリ、更心エラレズ、今ツメ〳〵トモノヲ云ナド云ハ、人ノ云詞ヲ理ヲタダシク云ヲ云ツムルヤウノコ丶ロモチニテ云ナリ、ノドカナル心ト云コト如何、只是ハツブナルベシ、秋ノ田ノ穗ニモ米ノ一粒二粒ノ便アリ、必ツブラシキモノナラネド、アラリト一ツ〳〵ミユルモノヲバ、粒々ト云説アリ、又ツレ〳〵モノドカナル心トアリ、コレモ心ユカズ、サビシキコトヲツレ〳〵ト云ヲ、モシ長閑トイヘルニヤ、引ツレタルニヨセテ、ノドカナル心也トハ如何、引ツレタルヲツレ〳〵ト云義不レ叶、トカクツレ〳〵ト引ノ本ハ異説タルベシ、ツム〳〵ヲツブ〳〵ト心エテヨクベシ

【ネ】

一ネスミツレ　ススミツレノ心也、忍々通フ心ナリ、但カヨハズトモ

トシヲヘテ君ヲノミコソネスミツレコトハラニヤハコヲバウムベキ

此哥ハ鼠ヲコメタリ、惣別鼠ト名ヅクルハ、人ノ寢スンデ後出ル故也、禮記ニ證文アリ云々、君ヲノミコソネズミツレハ、君バカリト寢住ツレ也、サレバ別腹ニコハウムベカラズト也

一ネシロタカヽヤ

川上ノネシロタカヾヤアヤナ（ニイ）／＼サネ／＼テコソコトニデニシガ

根白高萱歟、アヤニノ＼ハ、アヤナ歟、「ナ」ト「ニ」ト五音ナリ

ヲカニヨセワガヽルカヤノサネガヤノマコトヲ〔○ナ袖〕コヤハネロトヘナカ君〔○カモ袖〕

サネカヤハ、マコトノ萱歟、サテコソサネ／＼トハ詠歟

一ネヤハラコスゲ

ウナハラノ根ヤハラコスゲアマタアレバ君ハワスラレ〔○レズ袖〕我ワスラ〔○ル袖〕レヤ

顯昭云、ネヤハラコスゲハ所ノ名ニヤト申人アレド、根ト云文字ヲ書タレバ、根ヤハラカナル小萱ナルベシ、海ニ生タル萱ハ、其根シホニタマヽヨヒテ和ナルベシ

〔この處落〕ありと見ゆれど圖書館本は全く異本にて此條無ければ袖中抄に據りて補ふ〕

一ナラノワヰヘ

タルヒメノウラヲコグフネカヂマニモナラノワギヘヲワスレテオモヘヤ

顯昭云、「ナラノワギヘ」トハ奈良ノワイヘト云也、タシカニイハヾ「ワガイヘ」トイフベシ、ソレヲ「カ」ヲ略シテワイヘトイフ、「ワガ」ヲバ「ワ」トイフツネノ事也、ソレヲ「ワキヘ」ト云ナシタルナリ、催馬樂ニ吾家トイフ歌ヲバ「ワイヘン」トイフ、其歌云

ワガイヘハトバリ帳〔○ヲ脱カ〕モタレタルヲオホキミキマセムコニセムミサカナフ〔○イ本、ニナニヨケンアワヒサダヲカカセヨケムアリ〕

コノ「ワガイヘ」ヲバ禮事ニテ「ワイヘム」トイフ、歌ヲウタハントキコソサイハメ、ウタニモヨミ連歌ニモセンニハ「ワガイヘ」トコソハ申サメテト申アハセシ〔○以上補フ〕カバ貴方卿モ、尤トゾ申サレシ、或人ワイヘント、連歌ニシテトガメラレシコソ口惜カリシ、已上袖中抄

一ナリタツ

ナリタツニフナノリセント月マテハシホト〔○モ袖〕カナヒネ今ハコキコナ

顯昭云、熟田津ト書、但日本紀熟田津 此云儞枳拕豆、シカレバ万葉ニテモ「ニギタヾ」トヨムベキ歟、ナリタヅハ伊豫ノ名所也、コギコナハ許藝乞菜ト書、又柔田津トモ書、又熟田津ヲ「ムマタヅ」トモヨム同事也、

丸案ニ、燮ノ字ノ心ナリト云時ハ、菓ナドノヨクイロニナル義、柔字ノコヽロモ、ヤハラギ、ニコヤカニナル心ナレバ、モノヽ熟シテウメバ、ヤハラカニナル義ナリ、又熟ノ字ヲ「ムマタヅ」ト云モ、味ノムマクナル義ナリ、サレバ日本紀ノ「ニギタヅ」ト云ヨミ、混本ナルヲ、又所ノモノナド、ヲノヅカツ「ナリタヅ」ト云ツケタルニヨリ、万葉ノ作者、其名目ニテ「ナリタヅ」トヨメル歟、但後ノ点者日本紀ヲ不レ勘シテ所ノモノヽ云ニ任テカンナヲ「ナリタヅ」トツケタル歟

一ナツカリノタマエノアシ

　ナツガリノ玉江ノ芦ヲフミシダキムレヰル鳥ノタツ空ゾナキ

顕昭云、夏苅也、源重之ガ百首ノ内ノ哥也、同之

　ナツガリノ荻ノルフエモカレニケリムレヰシ鳥ノ空ニヤアルラン

芦ノ哥ハ夏ニヨメリ、荻ノ歌ハ秋ニ詠リ、鴈ハ胡國ヘ歸ルトイヘバ越中越後ナドニ留テ、夏ハ羽落ナドシテ草荻ノ中ニアル心ヲ、此二首ニヨムトミエタリ、玉江ハ越前ニアレバナリ、但万葉ニ

　三嶋江ノ玉エノコモヲシメシヨリヲノガトゾ思フイマダカラネド

此哥ニテ思ヘバ、玉江ハホメテ云歟、小野モ名所ナレドヨロヅノ野ニ付テアキツノヲノ、カリバノ小野ナド云ナリ、八十嶋モ別ノ所ナレド、ヤソシマカケテ、八十嶋メグリトヨム也。無名抄ニ、玉江ハ枝也、非レ江、夏ガリハ鴈也、又鹿狩等ノ説皆僻事トアリ。童蒙抄云、越前ノ玉江ハ、湖遠ク干潟ニテ有ニ、芦生ナリ、鹿ヲ狩オ

ロシテ、狩人ノフミシダクニヨリテ、ムレヰル鳥立乱ト云〻 綺語抄云、夏狩也、玉江ハ越前ナリ、其國ニテ狩シテ、玉江ノ邊ニオリヰテ、酒ナドタフベテソノトキニ詠タリケルニヤ、ムレヰル鳥ノ立ソラゾナキハ、其心ノワカル丶ヲバ村鳥ト云ハ、其心也トゾ有ケル、此歌等ノ鹿狩イハレズ、無名抄ニ雑ジタル如シ、此重之百首ハ、冷泉院東宮ノ御時、重之帶刀(タチハキ)ノ長(オサ)ニテ侍ナルガ、百日ノ暇ヲ給リ、奥州ヘ下向シテ、毎日一首ヅ丶詠テ、奉百首ナレバ、北國ニテ玉江ノ狩アルベカラズ、又初句ハ夏苅也、夏鷹ノアル事コ丶ヲニヾ

一ナカトミノフトノリゴト

中臣ノフトノリゴト丶イヒハラヘアガフイノチモタガタメニナレ

顯昭云、フトノリゴト丶ハ中臣祓歟、アガフ命ハ祈心也、「フト」ハユタカナル心「ノリ」ハ憲也、法也、ウルハシキ事也、万葉ニ家持造酒歌ナリ

一ナヅケモ

シカノアマノ礒ニカリホス名告藻ノ名ハツゲテシヲナゾ相ガタキ

顯昭云、部類名乘藻(ナノリソ)ノ中ニ此「ナツケモ」ヲ入タリ

アサリスト礒ニ我ミシ莫告藻ヲイヅレノ嶋ノアマカミ「〇カ神」ルラン

コレヲ 莫告藻トカキナガラ「ナノリソ」トヨメリ。漢語抄云、神馬草ナノリソ 莫鳴藻ヲバ「ナ丶ノリソ」ト讀ト云〻、サレバ莫告モ、ナノリソ同義也、又「ノ」ト「サ」ト「〇サト衍カ」「ナ」ト五音也 此名ヅケモノ哥ハ、名ハ

告テシヲトイヘバ「ナヅケモノ」トヨムハ、イハレタレド、コレモ「ナノリソ」ノ歌ニ入タレバ「ナノリソ」トヨムベキ義アリ、名ヲ告ル、名ノル同事ナリ、又

住ヨシノシキツノ浦ノナノリソノ名ハツゲテシヲアハヌモアヤシ

是モ、ナノリソト云テ、名ハ告テシヲトヨメリ、ナヅケモノトハヨマズシテ「ナノリソ」トヨムベキニヤ

ミサコヰル磯ベ〔○〕アライソ袖ニ生ル勿謂藻ノヨキ名ハツケズヲヤハシルトモ

シカレバ莫鳴・莫謂・莫告莫等皆「ナノリソ」トヨムベキ歟

丸、日本紀ヲミルニ、允恭天皇ソトヲリ姫ニ、ヒソカニアヒタマヒシ時、衣通姫ノ哥ニ

トコシヘニ君モアヘヤモヰサナトリウミノハマモノヨルトキ〳〵ヲ

時ニ、天皇ノ曰、コレ人ニキカセタマフナ、御アネ皇后ノウラミフカシ、トノタマヒシヨリ、時ノ人濱藻ヲ告能利曾毛ト号トアレバ、「ナヅケモ」ト云モ、人ニナツゲソト云義ナレバ、名ノリソト制シタルコヽロヒトシキユヘ、一草二名ナリ、顕昭法師日本紀ヲ見オトサレタリトミエ侍

歌林樸樕第十一畢

【ム】

一**ムマヒト**　馬人也、上古百濟ヨリ馬ヲワタス、貴人ナラデハ不乘ニヨリ、ムマ人トハヨキ人ヲ云ナリ。
又日本紀ニ、ウマ人ト云事有。仁德天皇、皇后ニ八田皇女ヲ納(メシ入)テ妃(ヒ)トナサント乞給ニ、ユルシ給ハネバ、天皇
歌曰

ウマヒトノ(今人也、私記曰、于摩(ウマハ)猶レ言レ今也)　タツルコタテ(言立也、言諸人並ニ兩妻ニ爲ニ世諺ニ之由也)
ウサユヅル(儲弦也、異說、惡讒也)　タエマツガンニ(絕間續也)　ナラベテモガモ(並也)

御哥意者、並ニ兩妻ニ寄ニ于儲弦ニ也、仍欲レ相ニ並妃ニ之由也、
丸云、三句目ノ「ウサユヅル」ト云詞ノ下ノ註ニ、儲弦也トアリ、何トモ愚意ニエシラヌ事也、カヤウノ註モ添〻後ノ人推テシタルコトナレバ、必信用スベカラズ、ヲサヘツルト云詞歟、其故ハ、八田ノ皇后ヲ納テ妃トナサントアリシニ、皇后ノ御無用トヲサヘツルニヨリテ、召入ネドモ、今世ノ人ノ立ル詞ニ、妻ヲ並持ト申諺ヲタテ、ヲサヘラレシ、斷絕ヲ又ツヾクリテ、又召入テ、ナラベソヒタキトワビゴトシ給哥歟、「ウ」ト「ヲ」ト「エ」ト同音也、皇后答歌曰

コロモコソ(衣ナリ)　フタヘモヨキ(二重吉也)　サヨトコヲ(佐夜床也)　ナラベンキミハ(並君也)　カシ

コキロカモ（賢也、呂ハ助語也）

御哥意者、並ニ兩妻之床ニ者、非ニ賢君ニ之由也。天皇又歌曰

ヲシテル（推シ出ス也、私記曰、難波之崎如ニ推出ニ也、欲レ謂ニ難波ヲ之發語也、万葉集 於志弖流夜（ヲシテルヤ）仁波）（丸云、万葉ニ押光・押照・忍照・臨照、カヤウニサマ〴〵書タレドモ、出ノ字未レ見、モシ推出ナラバ「テ」ハ文字濁ベシ、此註ノミナラズ、ナニハノ堀江ハセバキ故、ワレサキニト舟ヲシ出ニヨリテ、ヲシテルト云ナリ、サルニヨリテ、他ノ浦ニヨミテ、歌合ニモ難ゼラレシヨリ、難波ニカギル五文字也、ト顯昭ナドモ長々トカケル、堀江ヲホラレシハ、皇極天皇ノ御宇ナレバ、遙々後ノ事也、今仁徳ノ御哥ニミエタレバ、堀江ノ說ハ先不レ叶、ナニハト云名ノヲコリハ、神武天皇御東征ノ始、彼浦ニツキ給フニ、浪ノ花早シトノタマヒショリ、訛（アヤマリ）テ今ハ「ナニハ」ト云ナレバ、此ヲシハ潮ナルベシ、テルハ照光ナルベシ、サレバイヅクヨリモ潮ノテリヒカリ、浪早ヨル所ナレバ、ヲシテルナニハト此御歌ヨミ給ヒシトミエタリ、万葉ノ哥モ此御歌ヨリ出タリト知ベシ、「ヲ」ト「ウ」ト同音）　ナニハノサキ「○ノ脫カ」（難波崎也）　ナラビハマ（並濱也、名所也）　ナラベントコゾ（並床也）　ソノコハアリテ「○ケ紀」メ（其子在也）

御哥意者、古賢王聖主、如ニ難波並濱ニ並ニ納后妃ヲ之間、其皇子多々之由也。皇后答哥曰

ナツムシノ（夏虫也）　ヒムシノコロモ（火虫衣、謂ニ火取虫ニ也）　フタヘキテ（二重着也、言火取虫自多飛ニ入于火ニ、喩ニ重衣ニ也）　カクハ（如レ此也）　ミヤ（宮也）　タリハヤ（○紀ナシ）（邊也、略レ阿也）　アニ（豈也）

ヨクモアラ儒(非也)

御詠意者、召二納兩妻一之宮邊者、如二夏虫之入ㇾ火非ㇾ能之由也

丸云、カク宮ノアタリハアニヨクモアラズト云ハテニヲハワルキ歟、アニヨクモアラン、ト有テコソ能モアラント云心ニナレ、阿闍梨ト日本紀ニアレバ、「ス」トヨマンハ不ㇾ叶事也、サルニヨリテアラメ●アラヌナド●カンナヲ付タリ、コレハ宮邊ニハアラジ、身當ナルベシ、衣ナレバ身ニ當ルト云テ、皇后ニ御アタリハ畏ヨキ歟、ヨクモアラズト云心歟、ミヤタリハ御アタリノ同ヒヾキナリ、ミヤタリヤノ後ノ「ヤ」ハ「者」ノ字ノ心ナリ

天皇又詠曰

アサツマノ(朝妻也、私記曰、在二葎波一之地名也) サ(○避紀)カノ(所名ナリ) ヲサカヲ(小坂也) カタナキニ(片荷之薪也) ミチユクモノモ(路行者也) タグヒテゾヨキ(比吉也)

御詠意者、不ㇾ並二后妃一者、如二片荷薪之片方釣一、路行之一人者如二冷然一トシ可ㇾ思之由也、名所之中指二朝妻一ヲ以ㇾ妻寄二來于后妃一之義也

皇后遂聞不ㇾ聽、故默シテ之亦不二答言一

丸云、路行之一人ノ一ノ字不ㇾ用

一馬ノヤツ毛　雄略十三年三月、狹穗彦ノ玄孫齒田根ノ命、竊ニ奸二采女山ノ邊小嶋ノ子一ヲ天皇聞、以二齒田根

命ヲ收ケ付於物部ノ目ノ大連ニ、而使シメ玉フ責ニ讓。齒田根命ハ、以ニ馬八足太刀八口ヲ祓ニ除罪過ヲ、既而歌曰

ヤマノベノ(山邊也)　コシマコ(小嶋子也、以上采女之名ナリ)　ユヘニ(故也)　ヒトテラバ(人照也、言贖レ罪也テラフ)(丸云、人テルトハ身ノクモルヲハラス心歟、又アガナフハ、テラトモイヘバ、テラウコト共ナルベシ)　ムマノ(馬也)　ヤツケハ(八毛也、言八足也)　ヲシケクモナシ(不レ惜也)

一ムカサクル　(繼体天皇二十四年)武烈天皇御時、目頰子初到ニ任那ニ時、在レ彼鄕家等賜レ歌曰

丸云、此彼ハ任那ヲサス、鄕家ハ目頰子ガ古鄕歟、日本人ナルベシ、任那ノ者、和哥如何、王仁ハ日本ニ久アリシ故也、日本人ナラデハ此昔來ノ詞心得ガタシ、昔日本ヨリ我等ガ任那ヘ來シ也

カラクニヲ(韓國也、謂ニ任那ニ也)　イカニフコトカ[〇所](如何言事也、伊略也、一說歷レ事也)　メヅラコ(目頰子也)　キタル(來也)　ムカサクル[〇ヲ紀アリ]昔來也、左與レ志五音通)　イキノワタリ(壹岐渡也)

メヅラコキタル(目頰子來ナリ)

凡哥意者、目頰子過ニ古道ニ貴(分カ)到ニ任那ニ依ニ何事ニ哉之由、在レ彼之人贈ニ示之ニ也

一ムカツオ　皇極三年六月癸卯朔乙巳日志紀上郡言、有レ人於ニ三輪山ニ見ニ猿ノ晝睡ヲ竊ニ執ニ其臂ヲ、不レ害ニ其身ヲ、猿猶ヲ合眼歌フ

ムカツオニ(向峯也)　タテル(立也)　セラガ　ニコネコソ(能寢也)(丸云、セラガハ背等ガ不レ來歟、コ・ヘ未レ來ムカヒノ山ノ尾ニ立テ居ルワガセナラコソ、ト云詞タルベシ)　ワガテヲ(我手也)　トラメ(取

也） タガ サキテ（誰前來ナリ） キサテソモヤ（不來也）（丸云、タカサキテハ、セナト我中ヲ、タレカ遠去テ也、キサテツモハ、セナヲバ來ラセズシテ也、但タカサキテハ誰ガ先ニ來ル歟） ワガテ（我手也）

トラスモヤ（取也）

其人鶴恠猿啾放捨而去、此是經歷數年上宮王等、爲蘇我鞍作圍於膽駒山之兆也

或書云、万葉第七、向峯爾立有桃樹●向岳之若楓木

一ムハタマノヨル　雄略十三年九月、木工猪名部眞根、以石爲質、揮斧斲材、終日斲之不誤傷刃、天皇遊詣其所而恠問曰、恒不誤中石耶、眞根答曰、意不誤矣、乃喚集采女使脫衣裙而着犢鼻、露所相撲、於是眞根暫停、仰視而斲、不覺手誤傷刃、天皇因嘖讓曰、何處奴不畏朕、用不貞心、妄輙答、仍付物部使刑於野、爰有同伴巧者、歎惜眞根而作哥曰

アタラシキ（惜也） イナメノタクミ（猪名部工ナリ） カケシ（懸也） スミナハ（墨繩也） シカナケバ（無某也、言無眞根） タレカ、ケンヨ（誰懸也） アタラスミナハ（惜墨繩也）

凡哥意者、眞根依爲上手傍號惜申之也、天皇聞是哥、反生悔惜、喟然頽歎曰、幾失人哉、乃以赦使乘於甲斐黑駒、馳詣刑所、止而赦之、用解徽纒、復作哥曰

ヌハタマノ（私記曰、師說、烏扇之實也、其色黑、人喰之、或說鵜羽也、或說、夜之異名也、或說髮之異名也、言只欲讀黑之發語也） カヒノクロコマ（甲斐黑駒也） クラキセハ（鞍着也、言置鞍也） イノ

チシナマシ（命死也）　カヒノクロコマ（甲斐黒駒也）

凡哥意者、黒駒置レ鞍者、遅怠賞（〇分カ）頁根早被レ誅之由也、

裏書。烏玉之夜渡月・野干玉乃夜渡・烏珠之其夜・烏玉之夜乃・夜干玉之黒馬之來夜者・黒玉之夜…已上万葉

ムハ玉ノ夜ノ夢ダニマサシクハワガ思コトヲ人ニミセバヤ

顯昭云、コレハ天徳哥合ニ中務歌ナリ、判云、ヨルト云トキハ、ヌバ玉ト云、カキアヤマルトテマケズ　考ニ喜撰式ニ夜ヲバ「ヌハ玉」髮ヲバ「ムバ玉」ト云、判詞此義ニ付歟、万葉ニハ、或ヌバタマノヨルトモ、カミトモ、或ウバタマノヨルトモ、カミトモアリ、又夜ニモアラズ、髮ニモアラデ只玉ニヨセテヨメル哥

烏玉ノヒマヲ分ツ、ヌキシヲノ結ビテシヨリ後アフモノカ

万葉ニ、或烏珠・或黒玉、又鵜モクロキモノナレバ鵜羽ト云事歟、又野干玉・野玉・夜干玉・干玉（〇ト書如何）テモウハ玉トヨム、順和名ニ烏扇ヲ射干ト云、實ハマロク黒モノナレバカク書歟。又万葉ニ

川ノセノ石迹ワタリノ野干玉ノ黒馬ノクルヨハツネニアラヌカモ

黒馬ト云ハ、夜モ、髮モクロキヲハウハ玉トツヾクル歟。童蒙抄云、天德哥合ノ判ヲ引テ、是可レ尋事也、夜ナランカラニ、ヌバ玉ノ心叶ベシトモオボヘネト、村上聖主ノ御前ニテ、小野宮殿被申ケル事アダナランヤ。

顯昭云、此詞如何トキコユ、彼歌合ノ判ノ詞ハ、偏ニ喜撰ガ義ニ付テ、未レ考ニ万葉歟ニトキコエタリ

丸案ニ、天德ノ哥合ノ判ハ、小野宮實頼公也、然ヲ万葉ヲカウガヘ給ハズ、只喜撰式ノ義ニ付、ト顯昭ノカ、

レシハ、恐ラクハ了簡ノタラザル也、天徳ノ比ノ歌ノ、万葉ニウトキコトアルベケンヤ、又喜撰法師ガ万葉ヲシラズシテ、撰ニ式ヲ作ベキ歟、尤ヲロカナル歟、コレハ人ノネイリテミルモノナレバ、夢ニハヌバ玉、又疑ナドハクロキモノナレバ、ウバ玉トヲクガヨシト云事也、ウ・ク・ス・ツ・ヌ・フ・ム・ユ・ルヲ、イヅレモ同音ナレバカハラヌニヨリ、万葉ニサマ〲自由ニヨミカヨハセドモ、式ト定テモノヲ書カラハ、カヽル事マデモ糺明シテ書分テ、末代ニノコセシ也、万葉ニハ混雑シテアルヲ、喜撰ガタヾシテ書シ心ヲシロシメシテ、當ハキラハネドモ、歌合ノ始ナレバ、コレヲアヤマリト判ジタマフヲ、天子モ其心ヲシロシメシテ、アヤマリアラバ負ベシトノタマヒシ事ナリ、サレバ喜撰モ、小野宮殿モ、万葉ヲヨクシリタル上ニテノ御センサクカ、ト九ハ推量申候

一ムラサキノネズリノ衣

　コヒシクバトニヲ思ヘムラサキノネズリノ衣イロニイヅナユメ

顕昭云、昔紫ノ衣ヲキテ人トネタリケルニ、汗ニイロノカヘリテ、コロモニウツリタリケルガ、スリギヌニ似タルヨリ、人ニ逢事ヲバ、紫ノネズリノ衣ト云、又紫ノ根ノ色ノヨケレバ根ニテスルト云ナリ、柿ノ根スリト云モ同事也。童蒙抄、奥義抄等此兩義ナリ。綺語抄ニハ、紅・紫トモニ色カヘルベキモノニアラズ。私云、紅紫トモニ色カヘリテ物ニ移也、サタニ不レ及。又案ニ云、此物語ノ義ニアラズトモ戀ヲ忍ベキ由ニテ色ニイヅナトハ云ナリ。後拾遺ニ、小式部内侍ノ許ニ、一条前大政大臣始テマカリヌト聞テ。堀河右大臣

人シラデネタサモネタシムラサキノネズリノ衣ウハギニヲセン

返シ　和泉式部

ヌレギヌト人ニハイハン紫ノネズリノコロモウハギナリトモ

是等ヲ案ニ、タトヘバ本歌ハ古今ノネズリノ衣ハ色ニ出ナト云心バカリ也、ソレヲ物語ノ說ノヤウニヨマレタル也、事ノオコリハタシカナル證ナケレ共、和哥ノ事ドモハ皆々カクノミ侍也

丸云、飛鳥井蓮心院殿ヨリ、源尙長ト云人傳受ノ古今ノ註ニ、根ズリヲ用、寢テスルハ不用トアル本アルニ付テ、根ヲ煎ジテ染ルヲ「スル」トハイヒガタシ、忍ズリモ紋ニ忍ヲスリタルヲ云、秋萩ノ花ズリ衣モ、萩ノ花ヲ分入スリゴロモトナルヲ云、紫ノ根ヲバクダキテコソモノヲソムルニ、根ズリハ心エヌ詞ナリ、サレドモ染ヲモスルト云コトアリテ、タヾ紫ノ根ニテフカク染タル色ノ如ク、下ニ深ク思ヘト云哥ニモヤアルラン、サアラバ古今集ニ此歌忍戀ノ哥ノツヾキニアルベシトミルニ、古今戀ノ第三ニ、此哥ノ次ニ、名取河セヾノ埋木アラハレハイカニセントカアヒミソメケント　云歌アリ、シカレバ疑所ナク物語ノ寢テスリタル說正義ト存、根ノ字ハヲノヅカラ寢ノ緣語ナリト覺エ侍、顯昭ノ柿ノ根ズリト同事トイヘル事、歌ニアルコトニヤ、未知事也シブゾメナドヲ其比世俗ニ申ケル歟、ソレニテモ根ノ字不審、ヨシ〳〵ソレハトマレカクマレ、紫ノネズリノ事ハ寢テスル說ヲ可二信用一

一ムロノヤシマ

イカデカハ思アリトモシラスベキ室ノ八嶋ノ煙ナラデハ

是實方ノ哥也、此返歌

下野ヤムロノヤシマニタツケブリ思アリトモ今コソハシレ

中將ヨミテヲクリケル、夜女ヤガテアヒニケリ、ト六帖ニアリ、下野國ノ野中ニ嶋有、俗ニハムロノヤシマトゾ云、ムロハ所ノ名歟、其野中ニ淸水ノ出ル氣ノ立ガ烟ニ似タルナリ、能因ガ坤元儀ニミエタリ。又法性寺殿內大臣時哥合

タエズタクムロノヤシマノケブリニモナヲ立マサルコヒモスルカナ　攝津

判者基俊云、タエズタクムロノヤシマノ煙ニモトヨメル如何、室ノ八嶋ニ不レ絶火タクトハ何ニミエ侍ニカ、室八嶋云事ニアリ、一ニハ下野ニアリ、今一ニハ人ノ家ニアルカナヘニ室ヌリタルヲヨメリトゾ、或人ノ文ニミエタルハ、イヅレニヨリタルニカ侍ラン、タトヒイヅレニテモ不レ絶火タクト云事、未レ見、然バニヤ惟成歟ニモ

カゼフケバ室ノヤシマノ夕煙コヽロノウチニ立ニケルカナ

トヨメルモ不レ絶タキタル火トキコエズ、アサマノタケ、フジノ山ナドヲコソ烟タエヌタメシニハヨミフルシテ侍レ、此不レ絶タクヲ大ムネニテ此歌ニハヨマレテ侍ヌレバ、カク尋申也、ミタル所少テ、サヤウノコトヲマダミ侍ラヌニヤ、申ヤル方ナク。俊頼判云、左哥不レ絶タクト云ヘル事　僻事トモヤ申ベカラン、此ムロノヤ

シマハ、實ノ火ヲタクニハアラズ、野中ニシミヅアルイキノ立ガ煙トミユル也、ソレヲタクトイハン事如何、但實ノ煙トノミヨミタレバナドカサモイハザラン、哥ガラハアシクモミエズ

サラヒスルムロノヤシマノコトコヒニ身ノナリハテンホドヲシル哉

コレハ業基ヲ俊頼ノ哥也、竈ヲヨメリ、シハスノ晦日ノ夜田舎ノゲスノ竈ノ灰ヲサラヘテヲキテ、ソレガ消キエズサマニテ、次ノ年アランズル事ヲシルト云コト侍ニヤ

一ムヤ／＼ノ關　ウヤムヤノ一トモ。奥州ト出羽トノ中ニアリ、木茂テ行ニクキユヘニシヲリシテ行也

武士ノイヅサイルサニシヲリスルトヤ／＼鳥ノムヤ／＼ノ關

イヅサ入サハ、出サマ入サマ也、シヲリハ木ノ枝ヲ折アケテ通ルシルベトスル也、トヤ／＼トリハ名所カ、又鳥屋ニ鳥ノ歸方ニ入テサハクヤウノタトヘ歟、又ムヤ／＼ノ關ノ、入テ出ガタキヲ、鳥ヤノ鳥ニタトヘタル歟

一ムトナミ

何事ニコノムトナミハアヤカリテイトフ泪ノシノニチルラン

俊頼歌也、「ムトナミ」ハ妻ヲ云

歌林樸樕第十二畢

【ウ】

一ウダノチハラ　日本紀第三卷、神日本磐余彥天皇、神武御事　兄猾弟猾ハ菟田縣ノ魁師也、兄猾メスニ不來、弟猾ハ至ル、軍門ヲ拜シ告テ曰、臣兄兵ヲ伏シ作リ新宮ヲ施レ機饗タテマツラントス、天皇道臣命ヲ遣シ其逆狀ヲ察、道臣大ニ怒リ曰、虜尒ガ所レ造ノ屋ニハヲノレ居ヨトテ案劍彎弓逼オヒ入シム、兄猾イナブ處ナシ、ヲノレ機ヲ蹈テ壓死、ソノ屍ヲ陳シテ斬レ之、流ル、血沒レ踝故ニ号テ其ノ地ヲ菟田血原ト云、弟猾大ニ設ナ牛酒ニ皇師ヲ勞饗ス、天皇御謠之曰

于儾能多伽機珥辭藝和奈破蘆和餓末菟夜辭藝破佐夜羅孺伊殊區波辭區旎羅佐夜離固奈瀰餓那居波佐麼多知曾麼能未廼那鷄句塢居氣辭被惠禰宇破奈利餓那居波佐麼伊智佐介幾未廼於朋鷄句塢居氣儾被惠禰

是來目哥ト云

ウタノ（菟田也）　多カキ（高木也）　シキ（鴫ナリ）　ワナハル（繳張也）ワカマツヨ（我待夜也）　シキハ（鴫也、鼻軍也）　サヨラズ（ヨラザル也、サハ助言）　イスクハシ（不レ得レ救也、心ハ不レ達ニ本懷ニ也）　クシラ（鯨也、兄猾ヲ云也）　サヨリ（寄也、サハ助詞ナリ、心ハ兄猾ガ機ヲフムナリ）　コナミカ（前妻ヲ云）　ナコハ（女ノ通称ナリ）　サバ（詞也、如レ讀ニ加奈氣利ニ也）　タチソバノミノ（不ニ立副ニ之身也）　ナケクヲ（歎

也）　カケシ（懸也、加・古五音相通、言レ懸二兩妻一也）　ヒエネ（未レ詳也、詞與）　ウハナリガ（後妻ヲ云）
ナコハ（女通称）　サバ（詞也）　イチサケキミノ（逸早身也）　オホケクヲ（多也）　カケタ（懸也）　ヒエネ
（詞與）

御歌ノ意ハ、皇軍ヲ鴫ニタトフ、兄猾ヲ鯨ニタトフ、天皇ヲ後ノ妻ニタトフ、兄猾ヲ前ノ妻ニタトフ、兄猾機ヲマウクトイヘド、皇軍ハヨラズ、機ハ網ニタトフ、兄猾カヘツテ機ヲフム由也、菟田縣ハ兄猾ガ本居也、天皇征夷之、タトヘバ後ノ妻ヲ以寵シ、前ノ妻ヲ退シハ離別ヲ歎也、タチソハヌ身也、後妻ハ依二隨順一如二多立一ヲ副之身ハ、イチサケキ身ノ立ソフノ身、イチハヤキ心也、天皇於レ今者菟田縣ノ血ヲ、サムベキ也

一ウマサケミワ　日本紀第五、崇神天皇八年夏四月庚子朔乙卯、以二高橋邑人活日一、爲二大神之掌酒一、冬十二月丙申朔乙卯、天皇以二大田々根子一ヲ令レ祭二ツ大神一ヲ、是日活日自擧二神酒一ヲ、獻二天皇一、仍歌之曰

許能彌枳破（此酒）　和餓彌枳那羅孺（非二吾酒一）　椰磨等（大和）　那殊（私記曰、有二二義一一說猶レ言二倭國乎作成一ト、一那留、言在二大和國一也）　於朋望能農之能（大物主也、神名）　介彌之彌枳（神酒也）　伊句臂佐伊句臂佐（幾久也）

如此歌之ヲ、宴二于神宮一ニ、即宴竟之、諸大夫等哥之曰

宇磨佐開（甘美酒、言二旨酒一也）　彌和能等能能（三輪之神殿也）　阿佐妬耳毛（朝戸）　伊弟氏由介那（○耶紀ノ（出行）　彌和能等能度塢

於レ茲ニ天皇歌之曰
宇磨佐階瀰和能等能能阿佐妬珥毛於辞寐羅箇旃（雖ニ押開ニ也）　瀰和能等能度烏（三輪殿戸也）
卽開ニ神宮門ニ而幸行之、所謂大田々根子、今ノ三輪君等之始之祖也

第一ノ哥ハ、大物主ノミキヲ天皇ニ献也、イクヒサハ、神酒ノ歷年歟、又天皇寶算ヲ祝歟。第二ハ、ミキヲ美ナレドモツヰニ從ニ車駕ニ由也。第三、御哥ハ神酒ノ美ナルニヨリ、還幸ヲオシミ、三輪殿戸ヲヲシヒラキガタシ、ト名殘ヲオボス也

丸云、万葉ノ哥ニ、味酒乎三輪之祝我忌杉ナド云歌ノ註ニ、アチサケトカンナヲツケタルアリ、味酒ト書タルモ、ウマ酒ナルベシ、又三輪トツヾクルハ、酒ノモロミト云モノアレバ、三輪トウケタリトイヘリ、コレモ後人ノ古尺歟、既ニウマサケトモツヾケタレバ、只此大物主ニ奉リシ時ノ哥ヨリヲコル枕詞ナルベシ、又活日ノ哥ニカミシ酒トアルハ、昔ハ酒飯ノ米麴ヲモ齒ニテカミテ作シ故ナリ、藥方ニ㕮咀シトアルニ同

一卜部　ウラヘ°

一樹下集　洪橋源賢撰

一ウコノムマバ　右近馬場

一ウタカタ　水ノ泡ノ名也、浮テタエガタキモノト云コトヲ略シテツケタル名也、サレバウタカタ人ニアハデ消メヤモ、シバラクモト云事也、定家卿ノ寧ノ字ノ說モ、伊勢ガ哥ノ心ニノミ叶ヤウニセラレタリ、シバ

シト云事トコヽロエヌレバ、諸歌ニソムカズ、宗祇口傳ノ說ナリ

一ウキ　　ウキネト云ハ底モ水ノアタリモ水ニテアルガ、アシナドノ根ニトヂカラメラレテアル處ヲ云ナリ

　芦根ハフウキヲワタルトセシホドニ我身ノヤガテ沉ヌルカナ

一浦ノハツシマ　　名所ニモアリ、又浦ニ滿塩ノ引時、嶌ガミエテ、ヤガテウスルヲモ云

　思カネ浦ノ初嶋キテミレバ人モ渚ノアトノ白浪

一ウタヽ　　ウタテ、同。アマリニト云心ナリ、ツネニウタテシキト云ニハカハレリ、ウキコトニヨメル哥ナシ、但一首アリトヤラン。右祇說也

ウタヽハ轉字也、詩ニ多シ、イヨ〳〵ト云心ナリ、世上ノウキ事ヲウタテシト云心ニカハリテ、ウタテトヨミタル哥多シ、又カヨハセテ「ウタヽ」ヲ「ウタテ」トヨミタルモアリ、哥ニヨリテ可ニ分別一ウキコトニ非ズト一途ニオモフモ又アシカルベシ、根本詞ノヲコリヲタヅヌルニ「ウタヽ」ト云詞モ「ウタテ」ト云詞モウタテシキ心ヨリ始リタル也、物ニアキミチヌルハウキモノナレバ、イカナル事ノカサナルヲ、ウタテシキト思フヨリ、イヨ〳〵マス〳〵ト云義ニテ、ウタヽト云詞ハ出來レバ、ウキコトニ「ウタテ」トヨミテモ苦カラザルベシ、サレドモウキコトニ「ウタヽ」トハヨムベカラズ、コレハウタテノ事也

圖**一ウケラカ花**　　ヲケラトモ云、朮ト云

　ワギモコニアドカモイハンムサシノヽウケラガ花ノ時ナキモノヲ

俊頼長哥

ウケラガ花ノ、サキナガラ、ヒラケヌコトノ、イブセサニ

アサカヽタシホヒノユタニ思ヘラバウケラガ花ノ色ニ出メヤモ

童蒙抄云、トコナツニ花アリ、ツボミタルヤウゾサク也、集註尓雅云、花アリトイヘドヒラケザルガ如シ、サレバ時ナキモノトヲトヨメリ。本草云、朮ハ夏花開紫碧色也。又如薊花云〻、顯昭万葉ノ時キナキトイヘル相違歟

丸案ニ、非ニ相違ニ、万葉ノトキナキハ、ヒラクトキナキト云心也、コレヲミソコナヒテ、童蒙ニモ常ニ花アリト尺セリ、誤ナリ、只朮ハ夏花サク、咲テモヒラケヌヤウニミユル花ノ姿、色ハ紫碧、本艸如ト可レ知

一ウラヘカタヤキ

ムサシノニウラヘカタヤキマサテニモノラヌ君ガ名ウラニデニケリ

奥義抄云、公家ニ龜甲ノ御トト云コトアリ、ト部氏ノモノ、ハワカノ木ニテ、龜ノ甲ヲヤキテウラナフ也、又ソレガヤウニ鹿ノ肩ノホネヲヤキテ、占ヲスル也、万葉ニ、ムサシノトヨム、或物ニハ、奥ノエビスノ鹿ノ肩ノ骨ヲヤキテ占ヲスル。江都督哥

カグヤマノハヽカヽ下ニ占トケテカタヌク鹿ノ聲キコユナリ　ツマコヒナセソイ

童蒙抄云、昔天テル神、アメノイハヤニ籠シ時、思兼神天ノカグヤマノ鹿ヲイケナガラトラヘテ、其骨ヲス

キ鹿ヲバ放ヤリ、カゴ山ノハワカノ木ニテヤキ、太神ノ出マサンコトヲ占フ、思兼神ハ今ノト部氏ノ遠祖也、万葉式ニ、天香山・天ノ香具山・天鹿具山ト書。又顯昭考云、龜トニ五兆（コテウ）ト云事有、其中ニタメハ云字云々人ト云字〔〇タメノ字ハ人ト云字袖カクアリ〕ヲ書ト云々、仲實綺歌ニ

ハワカヒニチカヘルカメノウラグシヤタメトハシルハ君ガアヘルカ

ハワカビトハ朱櫻桃火、又櫻桃トモ云「タメ」ニハ「アフ」ト云コトアリ、相字ヲ書リ、龜ノウラヲバ「カメノマスラ」トモヨメリ、師時卿歌

思カネカメノマスラニコト・ヘバタメアヒタリトキクゾウレシキ

又万葉ニ

ト部ヲモヤソノチマタニウラドヘバ君ヲアヒミルタドキシラズモ

同長歌ニ、チハヤブル神ニモマクナ、ト部スヘカメモナヤキソ云々

一ウチ゚ノハシピメ　一禪御說「ヒメ」ヲ濁也

チハヤブルウヂノハシヒメナレヲシゾカナシトハ思フトシノヘヌレバ

・橋〔〇姫神〕大明神トテ橋ノ下ニオハスル神ヲ云、其モトヘ離宮ト申神ノ、毎夜通給、曉毎ニ河浪オビタヽシク立ト云傳、又隆緣ト云僧ハ、住吉神ノ宇治ヘ通給トイヘリ、宇治ノ橋ハ孝德ノ大化二年ニ道昭始造、住吉ハ神代ノ神也、但古今註ニ、ウヂノ玉姫ト註セリ、橋不レ造サキトモ申ベシ、奥義抄云

サムシロニ衣カタシキコヨヒモヤワレヲマツランウヂノハシヒメ

此哥ハ、橋姫ノ物語ニアリ、昔妻二人モタリケル男、モトノメノツハリシテ、七イロノメヲネガヒケリ、求ニ海ヘ行ニ、龍王ニトラレテウセニケルヲ、モトノメタヅネアリキケルホドニ、濱ベナル庵ニヤドリタリケル夜、此男此哥ヲウタヒテ海ベヨリ來ナリ、扨コトノ有樣云テ、アクレバ失ヌ、今ノ妻此コトヲ聞テ、行テ待ニ、又此哥ヲ誦テ來ル、ワレヲバ思ハデモトノメヲ戀ルニコソ、トネタク思テ、男ニトリカヽリタレバ、男モ我モ雪ナドノキエルガ如ニウセニケリ、世ノフル物語ナレバ委カラズ

一ウツタヘ

ウツタヘニアマタノ人ハアリト云ヲワキテワレシモヨルヒトリヌル

顯昭云、ウチハヘテ歟、「ツ」ト「チ」ト同音也、「ハ」ト「タ」ト同音ナリ

古今ニモ手ハフルトイフヲウツタヘニ人ヅマトイフハフレヌモノカハ

奧義抄ニ、ウツタヘハ浮タルモノヲ云トアレバ、此哥ノ心不レ叶

ウツタヘニ籬ノスガタミマホシミユカントイフヤ君ヲミニコソ

是等ニテ心得合スルニ、ヒトヘニト云心ニヤ

ウツタヘニ鳥ハヽマネドツナハヘテモラマクホシキ梅花カモ

此哥モ、心アレド詞不レ叶、又籬ノ姿ノハ、ヤスラフ心歟、但

ワギモコガヤドノ籬ヲミニユカンケダシ門ヨリカヘシテンカモ

ト云歌ノ返事也、ソレモ人ノユカリナルベシ

丸云、ウツハ打也、打トケ手ニテ、物ヲウツニアラズ、タヽウチヲク・ウチスツナド云詞也、「タヘ」ハ堪字也、サレバ不斷常住ノ心也、ヒタスラナル事也

一ウルマノシマ

オボツカナウルマノシマノ人ナレヤ我コトノハヲシラヌ良ナル

ウルマノ嶋ノ人ノ、コヽニ放タレ來テ、コヽノ人ノモノ云ヲキヽモシラデナンアルト云比、返事セヌ女ニ公任卿ノツカハセシ哥也

一ウレリメ

サカ殿ハケサハナハキソウレリメノモヒキスソ引ケサハナハキソ

コレハ神樂酒殿ノ哥也、賀茂ノミトシロニカタラヒニモ來ル女、イロドリタル、ミカハタ持テアルヲ、ルリメトソ申、ソレヲ「ウレリメ」トモ「ムレリメ」トモ云ニヤ、神田作ルモノヽ、食物モツヲ、ミカハタトハ云也、ムレリメハ、群女ト云心ナルベシ

一ウケフ

相オモハズ君ハアルラシウバ玉ノ夢ニモミエズ憂日干(手神)宿跡

顯昭云、ウケフハ日本紀ニ、或ハ祈ト書、或ハ誓ト書、祈狩ト書テ「ウケヒガリ」トヨメリ。古語拾遺云、誓槽、古語宇氣布禰、約誓之意云々、今云、ウケフネト云也、槽ムマフネ サカフネ

ミヤコヂヲトヲミヤイモガ此比ハ得飼而雖宿夢ニミエコヌ

サネカヅラ後ニアハント夢ニノミ受日ゾワタルトシハヘニツヽ

私云、此ウケヒテヌトヨメル哥、共ニ祈トキコエタリ、誓トテハ少タガヘリ

丸云、神ノイノルコトヲウケント誓給ヨリ、何ゴトヲモイノレバ、誓ノ字モ其理アル歟。但、伊勢物語ニ、昔宮ノ内ニテ、アル後達、局ノ前ヲワタリケルニ、何ノ仇ニカ思ケン、ヨシヤ草バノナランサガミント云、男

罪モナキ人ヲウケヘバ忘草ヲノガ上ニゾオフトイフナル

此註ニ、人ヲウケヘハ、呪咀シ、ノロフナリ、此哥ハ法花經普門品ノ呪咀諸毒藥所欲害其身者念彼觀音力還着於本人ノ心ト一禪ノ御說ナレバ、ウケヘハノロフ也、今川了俊ノ書ニハ、ウケヘト濁ペシトアリ、冷泉家ノ流ナルベシ、然ハ万葉ノ歌共モ、祈ヨリ猶、ノロフ心ニテヨクキコエ侍

一ウトハマ

ウトハマニアマノハ衣昔キテフリケン袖ヤケフノハフリゴ

昔駿河國ウト濱ニ、神女ノアマクダリテ舞シヲ、翁叟ノ學傳ヘテ舞ヲ、今ハスルガ舞トテ、アヅマアソビニスルハ是ナリ

一ウハヘナキ

宇波幣無モノカモ人ハカクバカリ遠家ヂヲカヘスト思ヘバ

顯昭云、ハヘナキト云詞ナリ、「ウ」ハ助也、ハヘ〳〵シト云ハ、ハヘアリトテホムル詞ナリ、此哥ハ湯原王贈ニ娘子ニ哥、（志貴皇子女ナリ）又

得羽重無イモニモアルカモカクバカリ人ノ心ヲツクスト思ヘバ

コレハ、家持贈ニ娘子ニ哥也

丸云、花ノ夕（ユフ）バヘナト云モ、モノヽハヘアルト云モ、榮ノ字也、サレバウハベモ「ウ」ハ上ノ字ナルベシ、打アフテ先氣バヘ・心バヘノナキヲ、ウハヘナキト云ベシ、ウチ任テイハヽ情ナシト云義歟

一ウツラ〳〵

撫子ガ花トリ持テウツラ〳〵見マクノホシキ君ニモアル哉

顯昭云、ツラ〳〵ト云詞歟、「ウ」ハ休字ナリ、倩ニハアラズ、コト心也、物ヲミルヲバツラ〳〵トミルト云ナリ、又アタラ〳〵トモ云歟、アタラト云ハ「アラタ」ニト云也、「ア」ト「ラ」ト「タ」ト「ツ」ト同音也。土佐日記ニ住吉ノ沖ニテ海ノアレケレバ、梶取ノスヽメニヨリテ、鏡ヲ奉ルニ、浪風シヅマリニケレバヨメル

チハヤブル神ノ心ヲアルヽ海カヾ（マヽ）ミヲ入テカツミツル哉

イタク、スミノ江・忘草・キシノヒメ松ナド云神ニハアラズカシ、メモウツラ〳〵、鏡ニ神ノ心ヲコソミツ

レ、梶取ノ詞ハ神ノ御心也ケリ、此詞ニテ心得合ベシ、是モ日モアラタニト云詞トキコエタリ、丸云、ウツラ〱ト云ヲ、一「ア」ト「ラ」ト「タ」ト「ツ」ト同音ナレバ、アタラ〱ト云義ハアマリノ了簡歟、只ツネニ無二他念一打マモル時ノ心ヲ、タレモ云ウツラ〱ニテ、土佐日記ノ詞ノ心モキコユルナリ、タトヘバネイラレヌ時、夢ニハアラデウツラ〱ト、目ニモノ、面カゲヲミルヲリノ心ヲ云モ同事也、現ノ字ヨリ出タル詞也

歌林樸樕第十三巻畢

歌林樸樕　第十四

【ヰ】

一ヰサナトリ　允恭天皇幸ニ於茅渟宮ニ衣通郎姫歌

トコシヘニ(鎮也、常也、略ㇾ奈)　根ミモアヘヤモ(君遇也)　ヰサナトリ(謂鯨取也、師説曰、古語、異舍者鯨也、漁ニ彼魚ニ之条大事也、邂逅也、仍喩ニ希有事ニ也)　ウミノハマモノ(海淡藻也)　ヨルトキ〳〵ヲ(寄吃々ナリ)

吃天皇謂ニ衣通郎姫ニ曰、是歌不ㇾ可ㇾ聆ニ他人(アタシヒト)ニ、皇后聞(キヽタマハヾ)、必大恨(ウラミタマハン)、故吃ノ人号ニ濱藻ニ謂ニ奈能利曾毛(ナノリソモ)ニ、几哥意者、常欲ㇾ奉ㇾ遇、如ニ濱藻之寄ニ、時々有ニ臨幸ニ戀慕之由也

万葉七

キノフコソフナデハセシカヰサナトルヒヂキノナダヲケフミツルカモ

万葉九

トコシヘニ夏冬マケヤ裘

一ヰテ゜　朝東風ニ井堤コス浪トヨムハ、堤ノ水入ル水門ナリ

一ヰ　宗祇云、ツヽ井ハ、竹ヲソコヨリメグリ立ルヲ云、ツヽミ井モ同

丸案ニ、筒井ト云ヨリ此註アル歟、只桶ヲ以石クラノ代ニコシラヘタル井ナルベシ、ツヽミ井トハ除夜ニ麪子ノ麪ヲ、井ノ半ニオロシ、井ノクチヲフサギテ、元日ニヒラク、其間ヲ云歟、アガタ井ハ、メグリニ石ヲタヽム、志賀ノ山ニヨメリ、岩「〇井此カ」ト同、イサラ井ハ、淺井ノ水ノ少ヲ云、イサラ小川ト同ジ

丸案ニ、イサラ小川ハ細小川ト云、雨後ナドニ俄ニナガル丶水歟、エノハ井ハ、トヨラ寺ノ西ニアリ、榎木ノ下ニアリ

古郷ノ榎ノハ井清水ミクサヰテ月サヘスマズナリニケルカナ

此歌ヲミレバ、カナラズ名所ナラネドモ、榎木ノ下ノ井ヲ、エノ葉井トヨム歟

一ヰモリノシルシ　付ヌグ沓ノカサナル

ヌグ沓ノカサナルコトノカサナレバヰ守ノシルシイマハアラジナ

法華經玄賛六云、守宮ノ以レ血塗ル女人ノ臂ニ必有ニ私ノ情一、洗レ之不レ落可ニ以テ守レ宮。コレハ肉ニシツミ入テ、上ハ失ト云コト也、外典ノ博物志ノ說トウチギヽハカハレドモ心ハ同ナリ

忘ナヨタブサニ付シ虫ノ色ノアセナバ人ニイカヾコタエン

返シ

アセヌトモ我ヌリカヘシモロコシノ井守モマモルカギリコソアレ

無名抄云、女ノミソカゴトスル折ニハ、沓ノヲノヅカラ重テ、ヌギヲカル丶ナリ。童蒙抄云、ヌグ沓ノ歌ハ一

条院御時、或人ノメニヨンデトラセケル歌也

一井テノ玉水

ヤマシロノ井デノ玉ミヅ手ニ結ビタノミシカヒモナキ世ナリケリ

顕昭云、ナラへ行道ニ、井手ノ水トテメデタキ水道ヅラニアリ、コレヲ玉水トモ、玉ノ井トモ云、ソレヲ手ニテノムト云コトヲ、人ヲタノムニヨセテヨムナリ、此歌ハ井デニテ契レル伊勢物語ノコトヲ、タレカ語ケルニヤ、若大和物語ニ書サシタル事ハコレニヤ、極テ不定ノ推量ニテハアレド、事ノホド相似タルナリ、而ニ俊成卿

トキ返シ井デノ下帯ユキメグリアフセウレシキ玉川ノ水

トヨメルハ、大和物語ノ心也、サレド此物語ハ書サシタレバ、ユキメグリテアフ由モナキヲ、サモアリスベキ事ナレバ、アヒタル定ニヨミナシタルニヤ、又玉川ノ水トアルニモ如何トキコユ、井ヂノ川ナミトヨミ、玉水トヨミタル哥ドモヲ取合ヨメルニヤ

此集ニ、昔大和物語ノ説ハ、伊勢物語ノ以後、業平ノ哥ヲ以テ作出タルベシ、大和物語ノ古サヲ見、業平ノヨメルニハ非ジ、ソノユヘハ、大和物語ニ云、昔田舎人ニアリケル人、勅使ニ下リケリ、井手ト云ワタリニ…トアリ、シカレバ、平安城ヨリ大和へ下ルトミエタリ、伊勢物語ニハ、ナラノ京ハハナレ、此京ハ人ノ家マダサダマラザリケル時ニ、トアレバ業平ノ時分ニ古事ニ取用ラルベキイハレハナキナリ

一ヰナノ水ウミ

大海ニアラクナ吹ソシナガ鳥イナノ水ウミ舟トムルマデ

顯昭云、湖ハ近江、其外ヨゴノ海トテ別アリ、信濃ニ諏方ノウミ、越中ニフセノ海アリ、攝州ヰナ野ニ湖ナシ、コヤノ池コソ侍レ、是ハ湖ノ字ヲ書チガヘタルベシ、二条院御時或人湖上月ト云題ニテ、井ナノ水ウミトヨメルヲ、其坐ノ哥仙達モトガメラレズト承レ、口惜事ナリ、仍シルシ付侍也

【ノ】

一野中ノシミヅ　古今

古ノ野中ノ清水ヌルケレドモトノコヽロヲシル人ゾクム

能因哥枕ニ、野中ノシミヅトハ、モトノメヲ云

イニシヘノ野中ノシミヅミルカラニサシグムモノハナミダナリケリ

モトノメニカヘリスムトキヽテ

ワガタメハイトヽアサクヤナリヌラン野中ノシミヅフカサマサレバ

拾遺ニ、フルクモノ云ケル人ニツカハシケル、元輔

草ガクレカレニシ水ハヌルクトモムスビシ袖ハイマモカハラズ

同集ニ、ケサウスル女ノ、サラニ返事モセザレバ、實方中將

ワガタメハ玉井ノシミヅヌルケレド猶カキヤランサテモスムヤト

コレラ皆、古今ノ哥ヨリ出タリ。和語抄ニハ、野中ノ清水ハ河内國ニモアリ。奥義抄ニ、此水ハ播磨ノ印南野ニアリ、昔ハメデタキ水ニテアリケルガ、末ニハワルクナリテ、人ナドモスサメヌヲ、昔ヲキヽツタヘタルモノ、尋テミルニ、キタナゲニナリテアリケレドモ、イカデカノマデスギントテ、ノメリケル事ヲヨメルトゾ申メル、コレヨリモトヲシレル事ニ云傳タルナリ、今ハカタモ侍ラヌニヤ

一野守ノカヽミ

箸鷹ノ野守ノ鏡エテシガナオモヒ思ハズヨソナガラミン

顯昭云、雄略狩ヲコノミ給フ、御鷹ソリテミエズ、野守ヲメシトハルヽニ、アリ所ヲ申ス、イカヽシテ知ゾトノタマヘバ、此野ノ水ニウツリ侍ヨシヲ申ト云傳タリ、無名抄ニハ天智天皇トアリ〔〇イヅレトサダメガタケレド、古ヨリオホクハ雄略トカケリ、又袖アリ〕彼天皇狩ヲ好給由、國史ニミエタリ、又徐君ガ鏡ハ人ノ心ノ中ヲテラシケレバ、世コゾリテホシガリケリ、コレ更ニ我持トゲジト思テ、塚ニ埋テケリトゾ、匡房ハ被申シ、イヅレカ實ナラン、トカケリ。奥義抄云、ソレニテハ箸鷹ノ野守ノ鏡ト云ベキユヘナシ。私云、徐君ガ鏡ノ事可レ考之。或古抄云、此事ハ本古哥二首也

ハシタカノ野守ノカヾミエテシガナ戀シキ人ノカゲヤウツルト

東路ノ野守ノ鏡エテシ哉思ヒオモハズヨソナガラミン

是ヲ一首ニ書リ云ゝ。今案ニ徐君ガ鏡ナラバ、箸鷹トハイハデ、東路トテコソハアラメ、東路トサスコトハ、野トツヾケン料也、東ハ野多故ナリ、但憾ミエタル事ナケレバ、箸鷹ノ野守ノ鏡トイヘルアシカラズ、又或抄云、野ヲ守リケル鬼ノモタリケル鏡ナリ、人ノ心ノ中ヲテラシ、イミジキ鏡ト聞テ、國王ノメスニ鬼惜ケレバ、野ヲヤキハラハントシタマヒケル時ニ奉云ゝ。私案、載記ニ云、秦始皇帝即位三年ニ夜ル有レ鬼而與二一鏡一也、径（ワタリ）三尺也、有ニ病人一以レ鏡祭、病人之腸六腑五臓皆見知ニ病在所一也、始皇崩後鏡忽然トシテ而亡（ウセヌ）也。又西京雑記云、高祖初メ入ニ咸陽宮ニ周行ニ府庫ニ有ニ方鏡一、四尺九寸、表裏有レ明、人来照レ之影倒見、以（○手袖アリ）掩レ心而来即腸胃五臓歴然トシテ無レ礙（○礙袖）人有レ病則掩レ心而照レ之、即知ニ病所在一又女子邪心有則膽張心動、秦始皇帝常以照ニ宮人ノ膽ニ云ん。今案ニ、両説相違載記ニハ鏡モ與ニ始皇ニ共亡乎、雑記ニハ高祖入ニ咸陽ニ見鏡云ゝ、又鬼ノ帝ニ奉事ハ同ケレド、詞ノ次第不レ同。又綺語抄云、曾文ガ破鏡ノ事ニテ尺タリ、ソレハ鵲鏡ナリ、ハシダカト云ベカラズ、或タカタヌキヲ野守ノ鏡トハ云ナリ、タカヲソラシテハ、タカタヌキヲ目ニアテ、ミレバ其ユルト云ゝ。今案云、サラバ野守ト云ベカラズ

丸云、顯昭ハ雄略天皇ノ水鏡ノ説ヲ信ゼラル、トミユ、俊頼ノ無名抄ニハ、天智ノ時トシルセリ、國史ニモ天智ノ狩ヲ好ゝマフトコソノセタレ、（○こゝの記事によれば前文の袖中抄による補入は不用かし）鏡ノ事ハナシ、

サレバ日本紀ニモノセズ、此說ハ、此哥ヨリ作出セル事トミエタリ、又始皇ニ鬼ノ奉シコトハ證文明也、高祖ノ咸陽宮ニテ得給鏡モ文明也、此則始皇ノ崩時失シ鏡ガ咸陽宮ニアリシナルベシ、又徐君ガ鏡ノコトハ何ノ書ニアルトハミエネドモ、大江匡房大才ノ人ノ書ヲクコトナレバ、ウタガフヘカラズ、コレヲ丸ハ信用ス、徐君ガ死骸ヲ守ル鬼ヲ野守トサスベシ、塚ハ野ニアル故ナリ、推スルニ始皇ニ獻ゼシモ此鏡ナルベシ、人ノ死タル魄ヲ鬼ト云コトハ分明ナリ、又箸鷹トヲクコトハ、野トイハンタメナリ、其上狩ニハ獲物ヲセンニスルコトナリ、サレバ鳥ヲウルヨリモ、野モリノモチタル鏡ヲ得テシガナ、トネガヒタル哥ナリ、思フカ、オモハヌカノ、君ガコヽロヲミントヨメル也、何不審モナク、徐君ガ鏡ヲ野守ノ鏡ト云、匡房ノ說ニ付ベシ、水ニ影ノウツルホド、マノアタリニアル鷹ヲ、行幸ノ供奉ノ者ドモミツケズト云事ナカルベシ、コレハ淺ハカナル作事トキコユ

【オ】

一尾代　雄略崩シ、新羅ヲ征ズル將軍吉備臣尾代吉備國ニ過レリ、所率五百ノ蝦夷等、天皇ノ崩ズルヲヨキ時トテ聚結テ傍郡ヲ侵ス、於是尾代戰ヒ丹波國浦掛水門ニ追カケ盡ニ殺之、立レ弓執レ末而歌曰ミチニアフヤ(道遇也)　オシロノコ(尾代子也、自稱也)　アメニコソ(乎也)　キコエズアラメ(不レ聞在

也） クニ、ハ（國也） キコエテナ（聞也）

是天皇崩之間、不レ能ニ奏聞一之故歟

一両影　三アリ、一ハ、其モノヲミル心、二ハ、其物ニ似ル心、三ニハ、ソトバカリミエタル也、宗祇説

ミル心　俤ハ身ヲモハナレズナレ〳〵テワカル、方モ白河ノ關

以タル心　秋ノ名殘ナガメシ空ノアリ明ニ俤近キ多ノ三日月

卒度計ノ心　ヨシサラバトハズハトハズアリモセデ俤バカリキテカヘルラン

一百姓（ヤホタカラ）

一御侍讀（コシトク）　天子ノ御モノヨミノ師也

一女藏人（オンナ）

一尾上　尾スヂトテ、嶺ノハシリタルヲ云

一老サヒ　老テ若ヤグ事也

一オボロ舟　仁德ノメシタル舟也、オボレタル古舟也

一オホヤケニユルシ給ヘル今吃（〇夜カ）ノミノマン酒カモチリウスナユメ

昔京中酒ヲ制シ給シニ、一二人モユルシ給ヘル時ヨミシ哥也

一翁サヒ　男サヒモ同。オキナスサビ也、手スサビナドノ如ク、タハフル、心ナリ、取蛇尾（スサミ）ト書。万葉ノ

長哥ニ

マスラオノ男サビストツルギダチコシニトリハキサツ弓ヲタニギリ持テ

又清見原天皇幸ニ吉野河ニ琴引給時、神女天降テ舞歌ニ云

乙女子ガ乙女サビスモカラ玉ヲ袂ニマキテ乙女サビスモ

仙覚抄ニハ、乙女サビスモソノカラ玉ヲトアリ、違ニ日本紀ニ也。無名抄ニハ、翁サレト云詞ナリ。童蒙抄ニハ翁アソビ也。又法性殿哥合ニ、殘菊ヲ基俊

ケサミレバサナガラ霜ヲイタヾキテ翁サビ行白菊ノ花

俊頼判云、翁サビ行ト侍事ヽシカニシラヌコト也、只フルキ哥ニツキテ心ヲ得ルニ、翁サビトイヘル事ハ翁サレトイヘルコト、ゾ承ヲキヽタルニ、是ハ此心ニハ違ヘリ。又万ニ

ハリ袋コレハタバリヌ布袋イマハエテシガ翁サビセン

基俊歌ハ、神サビ●浦サヒ、サビシキ方ノ詞也、行平ノ翁サビ人ナトガメソノハスサビ也丸案ニ、翁サビト云詞ヲ今ヨマンニ、基俊ノ哥ノ如ニヨマンハアヤマリニナルベシ、俊頼ノ判道理至極歟

一大原　後拾遺云、三条院御時、大甞會御撰ナド過テノ比、雪ノフリケルニ、大原ニ住侍ケル小將井ノ尼ノ許ニツカハシケル　　伊勢大輔

世ニトヨムトヨノミソギヲヨソニシテヲシホノヤマノミユキヲヤミン

返シ　小將井尼

小塩ヤマ梢モミエズフリツミシコヤスペラギノミユキナリケン

顯昭云、少將井尼ハ、北山スミヤク大原ニスムナリ

大原ヤ小塩ノ山ノ小松原ハヤコダカヽレ千世ノカゲミン

コレハ、左大臣ノオノコヽ女子カウブリシ、モキ侍リケルニ、貫之ガヨメル、西山也、西ヲ北ノ大原ヘヨミヤルハ僻事也、サレド伊勢大輔ガ詠ヲ、通俊卿●後拾遺ニ入、又難後拾遺ニモ不レ難シカレバ大原ト云詞ニ付テカヨハシテ詠歟、サラバ大原トコソヨマメ、小塩ノ山ヲバ可レ詠モアラズ

丸案ニ、大原ニ住侍ル小將井ノ尼トアレバ、北山トハカヽズ、サレバ西ノ大原ニスミケルナルベシ、人ノ一生ノ内ハ住所不定者多ケレバ、必北ヤマニノミ住ント思ベカラズ、此哥ヲトリカハセシ時ハ、西ヤマニアリシトミルベシ、小シホノ西ニアル事ハ、犬ウツワラハモ知事ナルニ、ヨミマガフルコトヤハアルベキ、縦女ドチノハカナキスサビニヨミマガヘタリトモ、西ヤマニアリシ時ト定ベシ

一オホヲソ鳥

鳥テフオホヲソ鳥ノマサデニモキマサヌ君ヲコロクトゾナク

顯昭云、万葉東哥不レ知レ國歌ナリ、アツマニハ鳥ヲオホヲソ鳥ト云、モノクヒキタナシト云心也、マサデニキトハ、マサニモト云也、「テレ」トハ万葉ノ詞ニクハヽレル詞ナリ、コロクト云モ、アヅマ詞ナリ、人ヲコヨカシ

ト云ヲバ、コロクト云也、「コ」ハ「コヨ」ナリ、「ロ」ハ詞ノ助ナリ、「ク」モ助ナリ、万ニ人ノコヲモ「コロ」トヨメリ、山ノネヲモ「ネロ」トヨメリ、サテ鳥ノ「コカ〱」トナクヲバ、コロクトナクト云也

丸案ニ、只「コロク」ト鴉ノ啼也、コカト云ヲ助字ヲ入云義不レ叶、マサテモト云詞、ワケキコエズ、マサテモト云コト歟。万葉酒篇十哥ニ

　トコヨベニアラマシモノヲツルギ太刀ワガ心カラヲゾヤコノ君

コレモヲゾヤハ、キタナキノ詞也。無名抄ニモ

　鳥テフオホヲソ鳥ノ心モテウツシ人トハナニナノルラン

此歌ハ、伊勢ニテアル家ニ、烏巣クヒ雄烏コロサレ、久ミエザレバ、嶋カイゴヲステ、、他ノ男ガラスト相具シアリキテ、カイゴクサリケルヲ、主ノ郡司ミテ道心ヲコシ、法師ニ成リケル、ソレヲヨメリ。童蒙抄•與義同レ之。日本紀（〇紀衍カ）靈異記云、子モチ鴉ノ雄ノ死タルニ、コト雄ヲマウケテ、カイゴヲクサラカスヲミテウンジテ、和泉ノ者出家シ、行基菩ノ弟子ニナリ、淨土ニ生ヘキ由契ケルガ、サキザマニハカナクナリケレバ

　行基菩

　鳥テフオホヲソ鳥ノ事ヲミテ友ニトイヒテサキ立イヌル

此入道、法名信厳トゾ云ケル、此歌ヲ本文ニテ現人ノ哥ヲヨム歟、和泉國ノ拯ヲ、伊勢ノ郡司ト書違歟

丸案ニ、凡鳥トテ、ホメタ事ニイヒタル古事アリ、カラスモイヤシキモノナレバ、ホメヌ鳥ト云コトナリ、ヲ

ソヤ此君ノ「ヲソ」ト同ト云説相違ナリ

一オホヨソ衣

宮人ノオホヨソゴロモヒザトヲシ雪ノヨロシモオホヨソ衣

是ハ神樂ノ宮人ノ哥也。古語拾遺ニ、崇神天皇ハ人皇十代ニ當リオハシマス、漸神代ニトヲザカリ給ニヨリ、三種神器ヲ恐タマヒ、新ク作リ、モトノヲバ天皇第三ノ皇女。豐鍬入姫命ヲ奉レ齋焉。大和國笠縫ノ邑ニ礒城神籬立奉レ遷祭レ之夕、宮人皆參終レ夜宴樂。哥曰

美夜比登能於保與須我良尒伊佐登保志由伎能與保(○侶カ)志茂於保與須我良尒

今俗哥ニ、オホヨスガラヲ、オホヨソ衣トウタヒ、イサトヲシヲ、ヒザトヲシトウタフ也、凡衣トハ、ナベテノ衣也、短ニヨリテ膝マデトヾカヌヲ、ヒザトヲシト云ナリ、雪ノヨロシモハ雪ノ夜ナリ、「ロ」ハ助字也

一オホロノシミツ　古今

大原ヤ朧ノ清水世ニスマバ又モアヒミン面ガハリスナ

山城ノ大原野ニアリ、良暹ガ山莊ノ邊ニアリ云々。後拾遺良暹法師、大原ニコモリヰヌト聞テ　素意

ミクサヰシオボロノシミヅ底スミテ心ニ月ノカゲハウカブヤ

返シ

ホドヘテヤ月モウカバン大原ヤオボロノシミヅスムナバカリニ

顯昭考、伊勢物語云、男女ヲヌスミテ行道ニ、水アルトコロニテ、男ノマントヤ思ト、ソニ、ウナヅケバ、手ニムスビテノマス、サテヰテノボリニケリ、●男〔○女カ〕ハカナクナリニケレバ、モトノ所ヘカヘリ行ニ、カノ水ノミシ所ニテ

大原ヤセカ井ノ水ヲムスビアゲテアクヤト、ヒシ人ハイヅクハ●〔ニ袖〕

又神樂取物ノ中ニ拔哥

大ハラヤセカ井ノ水ヲヒサゴモテ鳥ハナクトモアソビテユカン

又能宣ガ伊勢ヨリノボルニ、京ニテ尋ント思フ女ノ、相坂ノ關ニアヒタリケルヲ、タヅネケレバ、男ニツキテ東ヘマカリケレバ、ヨミテ遣シケル

行末ノイノチモシラヌ別路ハケフ相坂ヤカギリナルラン

女ノ返事ニ、隴ノシミヅト申セトナン云ケル、是ハ古今ノ又モアヒミンノ哥ノコヽロナリ

一オロノハツオニカヽミカケ

ヤマ鳥ノ乎呂ノ波都乎ニ加賀美カケトナフベミコソ何ヨソリケメ

顯昭云、古來二樣ニアリ、一ニハ山鳥ノ、鏡ニ影ノウツレルヲミテ舞、一ニハマコトノ鏡ニテアラズ、山鳥ハメオ一處ニネズ、ヤマノ尾ヲ隔ヌル、曉雄ノハツ尾ニ、雌ノ影ノウツルヲミテナケバカク云也、此二義ノ中ニ、先ノ義ニテハ、尾ニ鏡カケガタシ、後義ニテハ「オロ」ハ雄也、「ロ」ハ助字也、後ノ「ハツオ」ハ「ナキ尾」ナリ、

鳴尾ハ始ニ生レバ「ハツオ」ト云也。私云、尾ニ暎影ノウツランコト無ニ證文一、又田舍ノ者申ハ、雄雌一處ニ伏云ミ、鏡ヲカケテ舞事アレバ、ソレニヨセテコソ、カヾミカケトハ云ベケレ、「オロ」トハ雄ナリ、次ノ「ハツオ」ハ尾ニアラズ、ソレモ尾字ハカヽズ、乎字ヲカケバ雄ナリ、「ハツ」トハ初ニ非ズ、友ヲハナレタレバ獨アル鳥ヲ「ハツオ」ト云ベシ、鞍ヲカヌ馬ヲ「ハツセ」ト云ガ如シ、尾ニハカケネド、カタハラニカクルヲ、鏡カケト云ナリ、万葉ニ尾トヨムトキハミナ尾ノ字ヲ書リ、此哥ニハ二所ナガラ乎字ヲ書ナリ。無名抄、昔隣ノ國

ヨリ、ヤマ鳥ヲ奉、鳴聲タヘニシテ聞者愁ヲ忘ルト云リ、帝ヨロコンデカヒ給ニ、鳴コトナシ、此鳥ナカセタラン女御ハ后ニタテン、トアレバ、アル女御、友ヲ離テナカヌナメリ、ト鏡ヲ籠ノツラニ立、ヨロコベル氣色ニテ、尾ヲヒロゲ、カヾミニアテ、ナクコトシゲシ、サテ立后アレバ、カタヘノ女御ネタミソネムト云ヘリ。

童蒙抄　六帖哥ニ

ヒルハキテヨルハワカル、ヤマ鳥ノカゲミル時ゾネハナカレケル

ヤマドリハヨル獨ヌル心ヲヨメリ、影ミルトキ音ヲナク心ハ。異苑曰、「○山〔雞カ〕」鷄愛ニ其毛羽一、映レ水則舞、魏武帝ノ時、南方ヨリ獻レ之、公子蒼舒令ニレ人取ニ大鏡一着ニ其前一、山鷄鑒レ形而舞テ不レ止。奥義抄云、ナキヨソリケメトソアラント思フニ、何ヨソリケメトアリ、オボツカナシ。私云、無名抄ニハ實ノ鏡ノ事ヲノミ書テ、尾ニ影ノウツル事ヲハイハズ、俊頼哥云

ヤマ鳥ノハツオノカヾミカケラレテカゲヲダニミヌ人ゾ戀シキ

此歌ハ尾ニ影ウツル心歟、無名抄ノ後ニ、此義ヲ聞ニヤ、又愚案ノ如ク、マコトノ鏡ノカケタルニタガハヌ心ヲ存歟、オボツカナシ、又ヨソリハヨル也、ヨソルトモヨサレトモヨメリ、トナフハ鳴也一

ニヒタヤマネニハツカナクワニヨソリハシナルコロハアヤニ悲モ

ニヒタ山ニハツカズ我ニヨリテ悲ト也、ハシハ山ノ外ト云心歟、ネハヤマノ高ネナリ、ワハ我ナリ、題義抄ニ、ナキヨソリケメ、トコソアラメトアルハ、ヨク此哥ノ心ヲオホメケル詞ナリ、ニヒタ山ハ、上野新田山也、ヲニヒタ山ハ小新田也、ハツセヲ、ヲハツセト云ガ如シ、而ヲカナニ付テ、鬼ヒタヤマト云ハ口惜ナリ、

又此山鳥ノカヾミハ、鸞鏡ト云コトニモ紛ヌベシ。六帖云

鬭資玉臺ニ一鸞ハ懸レ鏡以テ照ス之、鸞覩ニ其形一乃ナ鳴テ而舞フ云々

丸案ニ、両義之内、無明抄ノ説ヨキヤラン、八雲御抄ニモ其義ヲノベ給リ、然ニ「何ヨソリケメ」ヲ「ヨル」ト云心ニテ哥ノ理ヲ聞ニ、サラニ心不レ落、トナフハナク事ナレバ、ナクベク何ヨリニケン、トハイマダナカメヌ事也、君ガソバヘ泣ヨルコトヲ、ナニシニヨリタルゾト云ヤウニキコユ、丸云、存ハ「何ヨソリ」ハ「ユスリ」ナルベシ、五音通ナリ、「ユスル」ハ造作振動スル心ナリ、我今君ヲヘダテ、ヒトリヰテ、カクバカリ泣安ニ、昔ノ山鶏ハナニユヘニナカズシテ、寓中ユスリテナカセタクセラレケル事ヨ、ト云義カトコソ存候へ。丸ガ門生ハ此義ヲ以、此哥ヲ吟遊スベシ

一オハナ　オバナトハ薄ノ穂ヲヨメリ、万葉ニ尾花哥多也、大ヤウハ薄トヨメリ

サヲシカノ入野、薄初尾花イツシカイモガ手枕ニセン

コレハ皆ニ薄ナリ、又馬ニ尾花アシゲトヨム、芦毛ニ取テ白ミタルヲ云也、サレバ芦ノ穂ヲモ尾花ト云。又醫書ニ蘆蓬葦トカキテ「アシノオバナ」トヨム、蘂也

丸案ニ、尾花トハ薄●芦ノ穂ニ出タルヲ云ナレバ、カナラズ尾花ト云草アリト思ベカラズ、又薄ニカギルト思ベカラズ、荻ニテモ何草ニテモ獣ノ尾ノヤウニ、ナガク穂ニ出タルモノヲ云ト心得侍ベシ

一オホ、シク　　イホ、シク　　イフセク

コモリノミヲレバ欝悒(イフセク)ナグサムト●ハシキヤシ翁ノウタニオホ、シキ●國トヲキ道ノナガテヲイホ、シク●欝悒ト書、欝字ハ「ムモレタリ」トモヨメリ

丸案ニ、万葉ニ欝ノ字ヲイブセシトモヨマセタリ、イブセキハムサキ心モアリ、欝ハ病ノ名ニモ氣欝ナドアリ、氣ノフサガリテ、ハレヤカナラヌ心也、オホ、シクモ、イホ、シクモ皆モノ、ウチオホヒフサガリテイブセク、ハレヤカナラヌ心アリ、ツネニ人ノウツタウシキト云モ、欝字ナリ、サレバオホ、シキモ、モノ、ウヘニオホヒタルヤウノコ、ロトシルベシ

一オホノヒ

ハシキヤシマヂカキコトノ君ミント大能備ニカモ月ノテリタル

顯昭云、オホノビトハ、オホノ〔〇サ袖アリ〕ヒト云詞歟

丸云、此註書アヤマリ歟

又只ノサヒト云詞モアリ

丸云、只ノ字如何、モシ大ノ字ノ書誤歟

オホノサヒヲ「サ」ノ字ヲ略タル歟。オホノサハ、大ヌサト同詞ナリ

大ヌサノヒクテアマタニナリヌレバタエヌモノカラウレシゲモナシ

是ハ秡ノ大ヌサニソヘテ、オホヌサト云詞ヲ思ヘル也、或書ニ云、オホノビニトハ、ユタカニシヅカナリト云也

丸云、ハシキヤシノ哥ノオホノビハ大ナル日ナルベシ、日光ノ如月ノテリタル也、註ニアル「オホノサヒ」ト云コト未レ知、オホノサハ「ヌサ」ナルベシ、オホノビノ事トハ各別ノ事也、爰ニ引ベキコトニアラズ

一大空ニ我袖ヒツ

後　大ゾラニ我袖ヒヅトアラナクニカナシク露ノ命ヲクラン

顯昭云、ウチマカセテハ袖ヲ水ニヒタスヲヒヅトハ申ス、古今ニモ袖ヒヂテムスビシ水ト云モタガハズ、末ニ露ノ命ヲクラント云ハ、上句モ水ニヒタリヌル事ヲ思ヘルニヤ　一義ニ云、大空ニ我袖ヒヅト云ハ、水ト云心ニカヨヘリ、私云、水ト云コトハ、云カクベカラズ、万葉長歌

朝露ニモノスソヒチツ（ヽヅチヵ）夕露ニ衣テヌレテ云々

丸云、右ノ註ドモ尤相叶ヘリ、我袖ノ人ニカハリテ露ケキハ、イカナル事ゾ、水ナキ空ニテ、ヒタシタルト云義モナキニト云義也、又天日ニモ我泪ハ干ツ、ト云事ハナク、イツモヌル丶ヲ、別テ露ノヲクト云義モアリ、但ヒタスノ義モステガタシ、「ヒタス」ト「ホス」トノ兩義ヲカケテ、ヨミタルニヤ、可レ隨ニ好所一

一オホアラキノ時

皇ノ御コトカシコミ大荒城ノ時ニハアラネド雲隱マズ

万葉第三、神龜六年己巳左大臣長屋王賜レ死之後、倉橋部女王ノ作哥也、名所ニ大アラキノ森ト云コトアリ、此歌ハ詞ニ長屋王賜レ死トアリ

丸案ニ、アラカキニ同ジ、大アラカキノ下略歟、葬禮場又ハ墓所ナトニ、新キ垣ヲスル也、又カラニハ、人ノ死ダル家ニハ、カリモカリヲユフト也、三日死人ヲ不レ出不レ葬ハ、モシ蘇生スルコトモヤト云義ナルベシ、是モ道ナリ、日本ニハ、サヤウノ道ナシ、頓死ナドヲバ、カリモカリヲ先ユフベキコトナリ、殯(カリモカリ)ト書ナリ、此儀ニテモアルベシ、イカサマ「大アラキ」ト云詞ハ哀傷ノ詞ナリ、森モ昔葬礼ナドアリテ、大荒垣ヲユヒタルユヘ歟、木ノ字ヲバカヽズシテ城（作者ノ心也）字ヲ書ナリ、墓ハ奧城ト書テ、オクツカトモ、オキツキトモヨメリ、奧都トヲカケリ、サレバ大アラキハ、大ニアラキツカトモ云ツベシ、大アラキノ時ハ死スル事ヲ云コト掲焉也、又ヨミヤウノ口傳、カンナニハ「オホアラキ」ト書トモ「オホ」トヒカズシテ「オアラギ」トヨム也

歌林樸樕第十四畢

歌林樸樕　第十五

【ク】

一クシノカミ　日本紀　神功皇后　十三年二月朔甲子、武内ニ命ジテ、太子ニ角鹿笥飯大神ヲ令レ拜、癸酉、太子角鹿ヨリ至リマス、是日皇太后太子ニ於大殿宴シ給フ、擧レ觴テ太子ニ壽シ給フ、歌テ曰

コノミキハ(此酒)　ワガミキナラス(非ニ我酒ニ)　クシノカミ(奇神也、私記曰、奇異之義也)　トコ世ニイマス(坐常也)　イハタヽス(石立也、私記曰、言如ニ石之立ニ)　スクナミカミノ(私記曰、少彦神是造酒神也、今有ニ其遺迹ニ云々)　トヨホキ／＼(豐祝々也)　モトメ[〇諸紀]シ(求)　カムホキ(神祝)　ホキクルホシ(祝來欲)　マツリコシ(祀來)　ミキゾ(酒)　阿佐孺(合ナリ、私記曰、師說、阿布佐須)　塢齊(私記曰、師說、欲(〇飲カ)也)　佐々(謂レ樂也、万葉ニ、神樂トカキテ佐々樂浪トヨム)

丸云、阿佐孺塢齊佐々、イヅレノ本ニモ点セズ、愚案アサズハ、アフラサズ歟、塢齊ハ詳ニ欲也トアレバ此酒ト云モノハ、過ヌヤウニシテホシキモノ也ト云義歟、サヽハ、樂ヲ云トアレバ、神代カラタノシキコトヲバ「サヽ」ト云トミエタリ、御哥ノ意ハ、蓬萊ノ酒ヲスヽメテ、太子ノ上壽ヲコトブキタマフ也、武内宿禰爲ニ太子ノ答歌之曰

コノミキヲ　カミケンヒトハ(釀人也、上古作レ酒曰レ釀)　ソノツヽミ(其鼓也)　ウスニタテヽ(立臼也、私

記曰、古時臼邊立レ鼓、以二其鳴聲一助二杵哥一也） ウタヒツヽ（歌也） カミケメカモ（醸也） コノミキノ（此酒也） アヤニ（褒美詞也） ウタ（轉也） タノシキサ（樂也、古事記、陁怒斯佐佐）

古事記曰、此者酒樂之歌也、

凡御歌意者、褒二樂彼酒一也

一クハシメ

七年九月（繼體天皇）勾大兄皇子親聘二春日ノ皇女一、於是月ノ夜清談不レ覺天曉、斐然之藻、急チ形二於言一乃口唱曰 ヤシマグニ（日本物名也） ツマヽギカネテ（妻覔加爾也、難レ覔、丸云、マキカネハマウケカネ歟） ハルヒノ（春日也） カスガノクニニ（春日國也、言二大和國一也） クハシメヲ（妙女也、私記曰、師說、妙女ナリ、丸云、委キ女ナルベシ、万ヅタラヒタル義歟） アリトキヽテ（在聽也） ヨロシメヲ（宜女也） アリトキヽテ（在聽也） マキサク（披割也、私記曰、檜乃板戸之發語也、言眞木乎佐介利） ヒノイタトヲ（檜板戸也） ヲシヒラキ（押開也） ワレイリマシ（吾入坐也） アトヽリ（跡取也） ツマトリシテ（妻取也） マクラトリ（枕取也） ツマトリシテ（妻取也、丸云、衣裝ノ爪ヲ取也） イモガテヲ（妹手也） ワレニマカシメ（令レ纏レ吾也） ワガテヲバ（吾手也） イモニマカシメ（言互入手枕也）

〔○此所脱落〕

一途ニヤフランハイハレズ。古語拾遺ニ豐旗雲ハ海ノ雲ノ古語也、瑞應圖云、豐旗雲者瑞雲也、帝德ノ至時出

現也、雲ノ勢ハ似レ旗也云々、又源重之コロシタル蜘ノ、ケザマニ伏タルニ、風ノ吹ケレバ、生タルヤウニハタラケルヲミテ

サヽガニノ蜘ノハタテノサハグカナ風コソクモノ命ナリケレ

コレハ各別ノ事也

一クレハトリ　クレハクレシ　アナハトリ

クレハトリアヤニ戀シクアリシカバ二村山モコエズナリニキ

後撰ニ、在原諸實、勅使ニテ東ヘ下ルトキ、女ニイヒ契テ出立、後ニ召カヘサレ、京ヘノボル、女悦テトヒニツカハスニ、クレハトリト云アヤヲ、二ムラツヽミテツカハストテ、ヨメリトイヘリ、クレハトリ綾ノ名也、又呉王ノ〔（）アタヘタル袖ノアリ〕四人ノ工女ト云ハ、兄媛（エヒメ）・弟媛（オトヒメ）・呉織（クレハトリ）・穴織（アナハトリ）也、二村ハ尾州ニアリ、端モ尺モ「ムラ」トヨメリ、又童蒙抄云、公望作歟、應神天皇三十七年春二月朔遣二阿知使主都加使主於呉一令レ求二縫工（ヌヒメ）女一、爰二阿知ノ使主等渡二高麗國一欲レ逢二于呉一、則至二高麗一更不レ知二道路一、乞二知レ道者於高麗一王乃副二久礼波・久礼志二人一爲二導者一、由レ是得レ通レ呉、々王於レ是與二工女兄媛・弟媛・呉織・穴織四人一云々委見二日本紀一此工女ヲバ「ヌヒメ」トヨメレド、只モノヲヌフニハアラズ、女ダクミニテ、キヌアヤヲオル也

ナドテカクツレナカルランアナハトリアナアヤニクノ君ガコヽロヤ

ヨヲコメテ春ハキニケリ朝日ヤマクレハクレシノシルベナケレバ

又クレハトリト秤ヲ云、古歌ニ

クレハトリワレヲナヽメニタノメツヽサヤカニ君ハ我ヲハカルナ

權衡ト云テ「カラバカリ」トヨム、斤ヲモシトヨム

一クメチノ橋

埋木ハ中ムシバムト云ナレバ久米路ノハシハコヽロシテユケ

能因歌枕ニ、信濃ニ在トテ此哥ヲ出セリ、神樂謌云

カツラギヘワタルクメチノツギハシノコヽロモシラズイサカヘリナン

又岩橋トモヨメリ

一クス人

クズヒトノワカナツムラン司馬ノ野ノシバシバ君ヲ思フコノゴロ

帝王系圖云、應神天皇十九戊申十月、吉野國樔(クス)奉ニ醴(コサケ)天皇ニ歌之訖テ打レ口作(ナス)レ咲ヲ。万葉抄云、吉野ノ奥ニクズ人ト云、エビスノ公ニモシラレ奉ラデカクレテアリケルヲ、神功皇后又淸見原ナドノオハシマシケルニ、ミツケラレマイラセテ鮎ト云魚や、又若藥ナドヲマイラセタリケルニ、ソレヲ召タリケルヲミテ、悦テ口ヲタヽキテ笛ヲ吹ケリ、サレバ若菜ツムトハ云ナリ、今モ節會ニ必參テ、ワカナヲ參スル也、顯昭云、神功皇后并淸見原ハ僻事也、應神天皇也

丸云、神功皇后ト應神ハ同時ナレバサモアリヌベシ、淸見原ハ遥ニ後ナレバ如何ト思ハルレドモ、ソレニ圓宰ヨリウチ絶テ、マイラヌコトモアルベキヲ、天武彼山ニオハセシカバ、又其時ヨリマイリナレタルベシ

一クヾツ

シホカレノミツノアマメノ久具津モテ玉モカルランイザユキテミン

ワラニテ袋ノヤウニアミタルモノナリ。童蒙ニ、カタミヲ云トアリ、僻事ナリ、シホガレハ塩ノヒタル義歟、アマメハ海人女也

一クシロ

ワキモコハクシロニアラナン左手ノワガ奥ノ手ニマキテコマシヲ

顯昭云、クシロハ鋺ト書、內典ニハ在ヲ指上ニ名レ鏃ユヒマキ、在ヲ臂上ニ名レ鋺ヒチマキトイヘリ、シカラバ手ノクビニアランヲバタマキト云ベシ、又鋺ヲバカナヤキトモヨメリ、和名ニハ農耕具ニ入タリ、部類万葉ニハ櫛ノ歌ニ入タリ、六帖ニモ同、コレラハクシロヲシラズシテ偏ニ櫛ト存歟、丸云、タマキハ手ニ卷ト云ヨリ付タル名ナレバ、ヒヂニ入タルカネ歟、クシロハ櫛代歟、カシラノカユキ時カクベキ用ニ、ユビニハメタルカネナリ、サレバ金篇ニ爪ト書リ、イヅレモ女ノ手ノカザリニコシラヘタルモノ也、カネニテコシラヘタル輪ナレバ、指●臂ニ入ルヲ卷ト云ナルベシ、ワガ奥ノ手ト云ハ、男ノ小指ナルベシ、大指ヲ端ニシテ、小指ヲ奥ニシタルナリ、左ト云ハ人ニミセジノ心歟、左手ハ用ニナキモノナレバ、袖ニ引コ

ミテモ在モノ也、又右ヨリアカリタレバ、女ヲ賞翫シテモ左ト云歟、又女ノヤウニ右ニハ卷ニクキユヘ歟、又男ハ惣別左ニアツル也、陽ナリ、女ハ右ニアツル陰ナリ、サレバ男ナレバカヤウニ云歟、農具ニモ用ニ立事アルベシ、部類万葉●六帖ノミタテモアシカラズ侍リ

一クモトリノアヤ

雲鳥ノアヤノイナウシ●（〇モ神）オモホヘズ君ヲアヒミテサダノヘヌレバ

顯昭云、雲鳥ノアヤトハ雲鶴ノ文ノ綾也、「ト」ト「ツ」ト「ル」ト「リ」同音也。百詠註云、有二雲鶴綾一也云々

此歌ハ大和物語ニ、クモトリノ文ヲヤ染ベキ、トアル返事ニヨメリ

丸云、尤鶴ナルベケレド、雲鶴トハツヾケワルキニヨリ、トリトヨメル歟、五音ノ事マデハアマリニヤ、殊更物語ノ詞、必鶴トミエズ、何ニテモ雲ト鳥トノ文ヲコノメト云シ返事ナレバ、只雲鳥トヨミタルナルベシ、其故ハ惣別ノ綾ノ紋ノ鳥種々アリ、鶴ニ不レ限歟

歌林樸樕第十五卷畢

歌林樸樕　第十六

【ヤ】

一八雲立

夜句茂多兎　伊弩毛夜覇餓岐　兎磨語味尓　夜覇餓枳薙倶盧　贈迺夜覇餓岐廻

日本紀、神代上云、素戔嗚尊ハイヅモノ國簸ノ川上ニアマクダリマス時ニ、人ノナク聲アリ、翁ト老婆ト中ニ少女ヲヽク、何モノゾト問給、對曰、ヤツガレハ是國神也、脚摩乳・手摩乳・稻田姫ト申、ワレラガコ八人アリシヲ、毎年八岐大蛇ニノマル、今此ヲトメノガルベキヤウナキユヘニナク、尊ノ曰、ワレニ得サセヨトテ、稻田姫ヲ立化奇湯津爪櫛トナシテ御髮ニサシ給フ、八醞ノ酒ヲ醸シ、八間ヲ作リ、各一ノ槽ヲ置、時ニ頭尾各八岐アリ、目ハ赤酸醤ノ如クナル大蛇ノ、背ノ上ニ松柏生タルガ八丘八谷ヲハヒワタリ來、此酒ヲノミ醉テネブルヲ、尊十握ノ劔ニテキル、尾ニ到テ劔少カケヌ、故ニソノ尾ヲサキテミ給フニ、一ノ劔アリ、是草薙劔也、然後ニ出雲之淸地ニ到テ曰、吾心淸々シトテ、ソコニ建ㇾ宮ヲトテ右ノ歌アリ、是三十一字ノ始也、吉田ノ二位殿ト、幽齋法印トハ御イトコナリシ故ニ、吉田ニ隨神庭トガテ御休所ヲ立給フ、丸モ御ツレ〴〵ノ時、哥ヨミナラハントテ、二位ドノヽ御弟ニ神龍院トテ禪僧ノオハセシヲカタラヒ、山中ニ一間ノ方丈ヲタテ、百日コモリ居侍シ、アル雨ノ日、御兩人シメヤカニ御物ガタリノ次、丸ニ向ヒ、二位殿ノ給フヤウ、當家ヲアダニ思ナ

ヨ、八雲神詠ノ口決ハ、定家卿モワレラガ先祖ヨリ相傳シテ、定家ノ御奮跡今ニアリ、ト御物語アリシヨリ心付テ、サテ神詠ノ口決ヲキハメ、和歌三神并ニ人丸ノ正躰等ヲ明ニ傳ヘオホエ侍リ、恐多キ中事ナガラ、當時カヤウノ奥義ヲシロシメシタル衆ハ稀ナルベキカト存、丸ガワカキコロノ衆ヲ、ソレヨリ以前ノ衆ハ、道ト名ヲバオシマズシテ、藤ヲノミオシムトワラハレシ、今比ハワラフ人モナシ、此國ニ生レテ和謌ヲ心ガケザランモイヤシキ事也、和歌ヲ心ニカクル人ノ、此神詠ノ口決ヲシラザランハ、タトヘバ釋門ニ入人ノ、大乘抄典ヲヲロソカニ思フガ如シ、釋門ニ入ハ何故ゾ、成佛センガタメナラズヤ、成佛ハ實相ニキハマレリ、實相ハ法花ニアカセリ、實相ノ外ハ皆是魔事云々、サレバ實相ノ理ヲ知カ、シラズトモ信ズルカ、此二ノ外ニテ成佛ハナキニ極レリ、又此神詠ヲ如レ形モ不レ知ハ、三十一字ノ妙理ノ雑躰ニスグレタル道理ハ知ガタカルベキ義ナリ

一ヤスミシシ、　雄略天皇五年二月、葛城山ニ狡獵シ給フ、靈鳥ノ大サ雀ホドニテ、毛ノ長サ曳レ地、忽ニ來リ鳴曰、努力努力、俄而見レ逐嗔猪、草ノ中ヨリ暴ニ出人ヲヽフ、獵徒縁レ木ニ大ニヲソル、舎人ニ詔シテ曰、猛獸人ニアフテハ止、射トラズシテ刺ト、舎人憶病ニシテ失色、木ニノボル、猪天皇ヲ欲レ噬、天皇用レ弓刺止、擧レ脚フミ殺ツ、コヽニ狩ヤンデ、舎人ヲキラントアル時、舎人臨レ刑而哥曰

ヤスミシヽ、(八隅知也)　ワガオホキミノ(我大君也)　アソマシヽ、(謂射也、又遊也)　シヽノ(猪ナリ)　ウタキ(憶也)　カシコミ(畏ナリ)　ワガニゲノボリシ(我逃昇也)　アリヲノ(師説云、山尾也)　ウヘノ(上也)　ハリガエタ(所レ登之波利乃木枝也)　アセヲ(在ナリ)

皇后キコシメシ　カナシマセ給テトヾメタマフ、天皇ワレニクミシ給ハズシテ、舍人ヲ顧ミタマフトアレバ、皇后對テ曰、人皆陛下ノカリヲ好ヲ不可ナリト云、今嗔猪ノ故ヲ以テ舍人ヲ斬タマハヾ、豺狼ニ不レ異ト、天皇同車シテ呼ニ万ッ歳ニ曰、樂人皆獵ニ禽獸ヲ一、朕獵ニ得ニ善言ヲ一而皈ル

一ヤマトヘ　日本紀十五卷、白髮天皇（清寧ノ御事）崩、皇太子億計王（後ニ仁賢天皇ト云弟ハ顯宗也）、弘計ト讓レ位、久而不レ處、由レ是姉飯豐青皇女、於ニ忍海角刺宮ニ臨レ朝秉レ政、自稱ニ忍海ノ飯豐青尊ト一當世詞人歌曰

ヤマトヘニ（日本邊也）　ミカホシモノ（見欲物也）　ヲシツミノ（忍海也）　コノタカキナル（木高ナリ、言不レ能也、今世謂ニ不レ能之振舞ヲ一曰ニ木高ト一此因緣歟）　ツノサシノミヤ（角刺宮也）

十一月、飯豐青尊崩、

凡哥意者、飯豐尊之臨レ朝秉レ政不レ能之由也

一ヤツラノマヒ　日本紀第二十四、皇極天皇元年、蘇我大臣蝦夷立ニ祖廟於葛城高宮ニ一、而爲ニ八佾之儛ヲ一作レ哥曰

ヤマトノ（大和ナリ）　ヲシノヒロセヲ（忍廣瀨也、所名ナリ）　ワタラント（渡也）　アヨヒ（歩也）　タツクリ（手作也）　コシツクラフモ（腰作也）

凡歌意者、只造ニ祖廟ニ之由也、歩手作腰作者、集ニ人民ニ之義也

丸云、コレハ祖廟ヲ作ハテヽ、其供養ニ八佾ヲマハスル哥ナレバ、廟ヲ作ル事ニテハアルベカラズ、タヽ忍ノ

ヒロセヲ、ワタラントスルモノ、、ナリフリヲツクロヒ、ヨシヲスル躰ヲ哥ニノベテ舞スルコトナルベシ、アヨヒハ足ノフリ、タツクリハ手ノフリヲ面白ヤウニワザトツクル躰、コシツクラフハ、腰ヲシホラシクフル也、ツクラフハ作リフル也、八佾舞ハ論語ニミエタリ

一八十行（ヤソノチマタ）

一ヤマシロノヨトデ　夜戸出ヲ、淀ニ云ガクル也丸云、テノ字濁ベシ

一山サツ　狩人也

一ヤツカサ　後撰ニアリ。　ヤツハ谷、カサハ山也

一ヤタケノ雉ハ　八峯ノ雉ト同。八峯ニ名所也、又弥タケキ雉ヲ云、雉ハ春ハタケキモノ也、衆鳥ヲキ、ストヨム事無ニ正説一

一山カツラ

マキモクノアナシノヤマノ山人ト人モミルガネ山カヅラセヨ

是ハ古今神遊ノ哥ノ中ニ、トリ物ノ哥也。ヤマカヅラトハ、神樂スルニ、マサキカヅラニテ頭ヲユフヲ云ナリ日本紀ニハ、以眞坂樹爲レ鬘ト云。古語拾遺ニハ以ニ眞辟葛一爲レ鬘ト云々相違、賢木ヲカヅラニセンコト枝ヲ折カザスベキニヤ。又神樂譜ニハ、トリモノヽ中ニ、葛ノ哥、本ニハ此事ヲ云リ、但歌ニ

ワギモコガアラシノヤマノ山人トヒトモシルベクヤマカヅラセヨ

マキモクノ穴神ハ大和、アラシノ山ハ山城也、近代不レ用ニ葛歌ニ、用ニ庭火ニ此後哥本末共用レ之

ミヤマニハ霰フルラシ外ヤマナルマサキノカヅラ色付ニケリ

但八播御神樂ニハ、取物九ヲ皆捧テ廻テ、別ニ葛ヲウタフトナン、又ヒカゲニテ冠ヲユフト申。綺語抄云、曙ニ立雲ヲ山カヅラト云、今云夜ノアクルホドニ、立ノボル雲ガ、カヅラノハナル、ヤウナリ。奥義抄云、人モミルカネハ風俗ノ詞也、ミルベクナド云心也。敦長卿云、アナシノヤマノ木ヲ取テ、庭火ニタキ、諸社ノ祭ニモ準ル、主殿寮ノ沙汰ナリ、此木取人ハ、カツラユフト云モノヲ、額ヨリウシロニ引マハシテ結也、大方諸社ノ祭ノ上卿弁ナド、供ニ神物ニ時、皆此ユフヲシテ、額ヲユフ、敬畏トテカクスルナリ、帝モ神ワザノ時ハ、御冠ヲユハセオハシマス也、神ワサトハ、神今食・新嘗會ナドニ帝ミヅカラ神供ヲソナヘオハシマス也、近代此事稀也、又ユフカヅラト云ニ、文時歌ニ

ヒホロギハ神ノ心ニウケツランニラノタカネニユフカヅラセリ

此歌ヲ順聞テ、何トヨマレタルトオボメキケルヲ、文時聞テ、順ノ主ミ〔〇エ勅〕シラジトゾ　ウナツキケル、古六条左京兆ハ、ミワタセバ神ノヒホロギトキテケリトゾ、此上句ヲバ被申シ、コレハ神祭ノ心歟、又古歌枕ニ、神マツラントテ椎柴折ニ行人ノ、ユフカケタルヲ、ヤマカヅラト云、昔ハ賢木ナドヲ取ニ行ニ、椎柴ヲモ取ニヤ

一ヤカタオノ鷹

ヤカタオノ鷹ヲ手ニスヘミシマノニカラヌヒマナク年ゾヘニケル

顕昭云、鷹ノ相経ニハ屋像尾・町像尾ト二ノ相アリ、屋ノ棟ノヤウニ、サガリフニ切タルト、田ノ町ノヤウニ、横ザマニ切タルト也、或人矢ノ尻ノ、町ト云モノ、ヤウニ、尾ノ中ノクキノ、マダラナルヲ畫ニ書テミセケレドモ、クキバカリニテハアルマジ、尾ノフノ紋ナルベシ、万葉ニハ矢形尾ト書、サガリフ同、或歌ニ

モガミヤマスカケシ日ヨリ心シテオホシタテタルヤカタオノ鷹

一山タツ　山タツネ

君ガユキケナガクナリヌ山多豆ノムカヘカユカンマチニハマタジ

山多豆者、是今造木者云々。綺語抄、山ニ木作モノヲ云。童蒙抄、山タヅトハ杣人ヲ云。此外、タツキハ、テヲノ、ハノヤウナレバ、ヨコサマニ木ヲキレバムカヘト云。又万葉ニ、山タヅネムカヘカトカヘタル哥アリ、一説ニ杣ヲ作ヲキテ、一二ケ月モ有テ取ニ入ヲ、尋ト云説アレドモ、皆不レ叶、ヤマタヅネモノト同音ナレバ同事歟

丸案ニ、ヤマタヅハ今木造者トアレバ杣人ナルベシ、サレドモ、山タヅト云ヘバ、必ムカヘトヨメバ、山タヅト云テ木ヲキル器モアルトミエタリ、ヲカナト云ノコギリハ、前ヘヒカンタメニ、サキヘ刀ヲヤルモノナリ、ソレヲムカヘニト云詞ノ枕詞ニシタルトミエタリ、君ガユキハ、イニテ也、ケナガクハ、久ナリヌナリ

一ヤソシマ

ワタノハラヤソシマカケテコギ出ヌト人ニハツゲヨアマノツリ舟

顯昭云、二ノヤウアリ、一ニハ出羽ニヤソシマト云所アリ、一ニハアマタノ嶌ヲ云、中ニモ此歌ハ篁隱岐ヘ被流トキニ、アマタノ嶋々ヲカケテコギ出ト也、但歌論義ニ難ジテ云、多カル事ヲイハヾ、千嶌トモ、百嶋トモヨムベシ、何云ニ八十嶋ニ矣、答云、千嶋●百嶋トヨムコトモアリ、又ヤツハ陰ノ數ノキハナレバ、万ノモノ、歌〔〇數ｶ〕ニハ八トヨメリ、又ヤシホノ衣トモ、霜八度ヲクトモ云也、又ヤソノツヾキ●ヤソノ舟津●ヤソノチマタ●ヤソノ氏人●ヤソノクマワ●ヤソ國●ヤソセ●ヤソノシマワナドヨムナリ、又算術ニモ、九々八十一トテ、八十ヲ多カル數ノ始ニモスルナリ、万葉ニ

ウナバラヲ八十嶋ガクリ（メトアルハヒ也）キヌレドモナラノミヤコハ忘レカネツモ

此哥ハ、備後ノ木講郡（備後ニ此郡ノ名未見）ニテ作ナリ、コレハアマタノ嶋ナリ、カクリハ、メグリト云詞カトイヘドモ、カクレト云コトナリ、「レ」ト「リ」ト同音ナリ、又嶋ガクレト云モ常ノ事ナリ、又

ヌハ玉ノヨワタル月ハハヤモ出ヌカモ、ウナバラノヤソシマノウヘニ〔〇イ脫ｶ〕モガアタリミン

此歌ハ豐前國下毛（シモツケノ）郡作ナリ、是モアマタノ嶋ナリ、上總防人哥

百クサノミチハキニシヲ玉サカニヤソシマ過テワカレカユカン

丸案ニ、此百クサハ非レ草、只色々ノ路次也、白種ト書ベシ。又拾遺集云

百シキノ大宮ナガラヤソシマヲミルコヽチスル秋ノヨノ月

院百首、紀伊公、月哥云

秋ノヨノ月ヲ湊ニナガムレバヤソシマメグリミル心スル

代初ニゾヤソシマノ使トテ、内ノ御乳母タチテ、ヤソ島メグリト云コトハ侍、ソレモ嶋々ニテ祓スベキヲ、住吉ノ濱ノコナタニテ、西ノ海ニムカヒテ、諸ノ嶌々ノ神ヲ祭ト云リ、或書ニ風土記ヲ引テ云、堀江ノ東ニ八十(ヤソ)頭(ツ)嶋(シマ)ト云所アリ、ソレハ昔女人兒ヲ思テ、其江ニテ網ヲカケテ鳥ヲトリケルニ、水鳥ノ七十八カヽリテ飛ナルニ、此網ハリケル女モ、引上ラレタリケルニ、共ニ江ニ落テ死ニケレバ、鳥ノ頭七十八、人ノカシラニクハヘテ、八十頭有ケレバ、ヤソツ嶋トハ云ト侍レド、タシカニハ不レ知、コレハ一所ノ名ニモアリヌベシ、其所ニテ祓ヲスレバ、ヤソシマノ祭ト云ト申事モアレド、猶嶋々ノ神ヲ祭ナルベシ、又万葉ニ

ヤソシマハナニハニツトピフナカザリアガセンヒロヲミモヒトモガモ

コレハ、相撲防人哥也、日本國ハ、八十ナケレド、如レ此詠リ、「ヒロ」ハ「日」ナリ、「ロ」ハ休詞ナリ、ミモ人ハミシ人モナリ

一ヤマノトカケ

アシヒキノ山ノ跡隱ニ鳴鹿ノ聲キヽツカモヤマ田モルスコ

顯昭云、アトカクレト讀リ、ヤマノカケト云歟、又万葉ニ

モノ、フノイハセノ森ノホト、ギスイマモナカヌカ山ノ常陰ニ

コレハ常ノ影ト書リ、鹿モ郭公モ、トコトハニ鳴モノニアラズ、只ヤマノフモトナド可二心得一、哥心モ、二首ナガラ常ニナクベシ、トヨメルトハキコエヌニヤ

丸云、戸陰・外陰ナド書タル歌書多皆不レ可レ用、万葉ニハ跡隠・常影トカケバ文字ニテ書トキハ、カヤウニ書ベシ、コトナル文字ニテ書事、末代ニ堅スベカラズ、サテ此跡ノ字ニテモ、義ハノベラレズ、常ノ字ニハ叶ベキ義有、山ハウゴカヌモノナレバ、トキハナルカゲト云心歟、サレドモ影ノ字ヲ書タレバ常ノ字モ、タヾカリニ用タルベシ、陰ノ字ハハタラカズ、陰ナレバ山陰ナドニカク「影」ノ字ハ、ウゴクカゲナレバ、日月ナドニ用、サヤウノコトモタヾサズ書タレバ、常ノ字アリトテ、トキハト云心モナキヤラン、跡ノ字ヲモカキタリ、シカレバ「トカゲ」ト云ハ「常」ニテモ「跡」ニテモナクテ、別ノ詞ナルベシ、只トアルヤマノカゲト云心ナルベシ、トアル・カクアル・トシテ・カクシテナド、云詞ノ類ナルベシ、所ヲサシサダメズ、ヒロクサシテ云時ノ詞歟、又トヲキ陰ヲ云ベキ歟、鹿ノトゴエナド、ヨメルハ、遠キ聲ナリ、右ノ郭公ノ哥ニモ、鹿ノ哥ニモ、トヲキ山陰ニテヨクカナヘリ、サレドモ　丸ガ分際ニテ定ガタシ、後ノ君子ヲ待、タシカナル證説不レ出之間ハ先コレニテヲクベシ

一山サクラ戸

足曳ノ山櫻戸ヲアケヲキテワガマツ君ヲタレカトヾムル

顯昭云、櫻ノ木ニテ作タル戸ナルベシ、槇ノ戸・杉ノ戸・松ノ戸ナドノ如シ

丸云、或説ニハ櫻ノ咲タル家ノ戸トモアリ、必其モノヲ板ニハガネドモ、禁中ニモ萩ヲ植タルトコロニアルヲバ萩ノ戸ト申、或ハ藤ノサク門ヲバ、藤ノ門トモイヘバ、櫻ノアル栖ヲサクラ戸トモ云ベキ也、サレバ兩説トモニ難捨侍ベリ

一ヤヨヤマテ

ヤヨヤマテヤマホトヽギスコトヅテモ〔○ン袖〕我世ノ中ニスミワビヌトモ

顯昭云、ヤヨヤマテハ、シバシマテト云詞ナリ。敎長卿云、八夜也、久事ニハ七夜・七日ト云ヲ、是ニモ過テ、八夜ト云ナリ、シテノヤマニアラン父母ニ、コトヅテント云ナリ。私云、此哥ハ猿丸集ニ有、詞書、アダナリケル女ニ、モノヲイヒソメテ、タノモシゲナキコトヲ云ホドニ、ホトヽギスノナキケレバトアリ、人ヲウラミテ、ヤマヘイリナントト〔○オモフ歟袖アリ〕

丸云、猿丸集ノ説尤正義ナリ、サレドモ「ヤヨヤ」ト云詞ハ、郭公ニ「ヤレマテ」ト云詞ナルベシ

歌林樸樕第十六巻畢

歌林樸樕　第十七

【マ】

一マソカ　マサヒ

推古天皇廿年正月朔日、置レ酒宴ニ群卿ニ是ノ日、大臣上壽歌曰、蘇我馬子宿禰

ヤスミシヽ(八隅知也)ワガオホキミノ(我大君ナリ)カクレマス(隱座也)アマノ(天也)ヤソカキ(八十垣也)イテケヽス(不ニ出立ニ也)ミソラヲ(御虛也)ミレバ(見也)ヨロツヨモ(万代也)カクシモカモ(如レ此也)チヨニモカクシモカモ(千世也、如レ此也)チヨニモカクシモカモ(重句也)カシコミテ(畏ナリ)ツカヘマツラン(仕奉也)ヲロカミテ(拜ナリ)ツカヘマツランウタツキマツル(私記曰、言獻ニ此哥ヲ且加之津支奉也)

丸云、ウタツキマツルハ、歌ヲツヽケ奉仕歟

天皇和曰

マソカヨ(眞蘇我也、大臣之名)ソカノコラハ(蘇我子等也)ウマナラバ(爲レ馬也)ヒムカノコマ(日向駒ナリ、駿駒也、私記曰、日向國出ニ千里之馬ニ)タチナラバ(爲ニ太刀ニ也)クレノ(吳也)マサヒ(私記曰、良劍之名也)ウヘシカモ(上也 謂ニ先代ニ也)ソカノコラヲ(蘇我子等也)オホキミノ(大君也)ツ

カハスラシモ（仕也）

凡御哥意者、以ニ蘇我大臣一、或喩ニ駿駒一、或寄ニ良劔一、褒ニ美之一云々、然者先代之聖主召仕之由也

一待烏（マチガラス）　狩ニ烏ノアレバ鹿ノトラルヽナリ

一マヤハ　眞木ニテ作家ナリ　モヤ同。「マミムメモ」ノ五音通ナリ

アタラ夜ノマヤノアマリニナガムレバサクラニクモルアリ明ノ月

今夜ダニモヤノ中ノ戸引立テマハユケレバノ一コトハウシ

右宗祇ノ說也

丸案ニ、世上ニ心エタルハ「マヤ」ハ雨下ト書テ兩方ヘアマヲチノアル屋作ヲ云、「モヤ」ハ母屋トテ中ニアル屋也、孫廂ナドヽ云名モ此母屋ニ付テノ名トイヘリ、此宗公ノ說ニ、大ニカハレリ、アツマヤトハ東國方ノ屋作ヲ云、四阿ト書テ、四方ヘアマヲチノアルヲ云、「マヤ」トハ雨下ト書テ、二方ヘ軒ノタルヽヲ云トイヘドモ、東ヤノマヤトツヾケタ哥ヲ思ヘバ、四方作ニシテ、二方ハ軒タレテ雨ヲチ、二方ハ軒ナクシテアマヲチナケレバ、アヅマヤノ內ニアルマヤナルベシ、眞木ニテ作說難レ用

一マトリ　鵜ノ異名也、嶋津鳥ヲ「シ」ノ字「ツ」ノ字ヲ略歟

眞鳥スム卯名手ノ森ノスガノネヲキヌニカキツケテキセンコモガモ

一マヒナシ

春サレバ野ベニ先咲ミレドアカヌ花、マヒナシニタヾナノルベキ花ノ名ナレヤ

顕昭云、幣字ヲ万葉ニ、マイハセントモ、マイナシトモヨメリ

アメニマス月ヨミ男マヒハセン今夜ノ長サイヲヨツキコソ

我宿ニサケル撫子マヒハセンユメ花チルナイヤヲチニサケ

顕註密勘ニ、定家卿此マヒナイノ説ヲ聞テ、主ノ家ノ花モ云ナシト云説ハアヤマリナリ、コレヲシラズシテモトアヤマリテヨミシヨト、後悔ノ詞アルヤウニ覺侍

一マクカタ　齋宮女御集云

マクカタニアマノカキツムモシホグサ煙ハイカニタツヤタヽズヤ

顕昭云、マテカタハ、マテトルトキコエタリ、マクカタトハ何ヲマクトモキコエズ、塩燒コト、キコユ

イセノウミノアマノマテカタイトマナミナガラヘニケル身ヲゾウラムル

シホノヒタル潟ニテ、マテカリニテマテヲ引出シトル也、鍬叉フクセニテ沙ヲカケバ、マテ汁ヲ吐出スナリ、「マテカリ」トハカネノ細ヲ二マタニツクリ、竹ヲ柄ニスルナリ、夏ハマテヨコサマニ成テアレハトラレズ、春秋冬ノミトル也、マテハタテサマニ穴ニアル也、キハメテイトマナクウルサキ也。和泉式部哥云、　[illegible]鏡集ニ入ル。伊勢室山入道撰ス、入ニ馬蛤甲虫ノ類ニ

ヨサノウミノアマノアマタノマテカタニオリヤトルラン浪ノ花ナミ

一說カタハ非レ形、潟ト書。奥義抄云、アマハシホヤクトテハ、塩干ノ潟ノスナゴヲトリテ、ス丶ギアツメテ、其汁ヲタレテ〔〇ヤクナリ袖アリ〕、サテ又其スナゴヲバモトノ潟ニマキ〳〵スルヲ、アマノマク潟トハ云ナリ、塩干ノ〔〇マニ袖アリ〕急イトナメバ無レ暇事ニヨセテ、イトマナクテ、久間ザリケレバ、身ヲ恨トヨメリ此折ノ心ナレバ「マテカタ」ニハ非、「マクカタ」ヲ本トス、齋宮女御集ノ哥モ「マクカタ」ナリ、サレバ兩說トモニイヅレモステガタキニヨリ、古人モ是非ヲサダメズ、用來ナリ

一マツラサヨ姫　ヒレフリノミネ

トヲツ人マツラサヨヒメツマゴヒニヒレフリシヨリオヘル山ノ名

松浦サヨ姫ハ、大伴佐提比古ガ妻也、勅使ニテモロコシヘワタルヲ、高山ニノボリテヒレヲヌギテ招シヨリ、此山ヲヒレフリノ峯ト号ス。帝王系圖云、欽明廿三年八月、遣ス下伐ニ新羅ニ大使、大伴ノ狹手彦連上領ス數十万ノ兵ヲ。又肥前國風土記云、昔武小廣國押楯天皇之世大伴ノ狹手彦連渡ル二百濟ニ之時、到ニ此村ニハ、又考ルニ遣唐使佐手彦〔〇袖ナシ〕丸記ヲ云、天平勝寶元年四月二日進發、同二年九月十〔〇廿袖〕四日歸ニ着紀伊國ニ云々。今案ニ万葉所レ載大伴佐提比古、今大伴左手丸同手〔異袖〕如何、サテヒコハ宣化二年以前也、サテ丸ハ天平勝寶元年也、帝王系圖ハ欽明御宇、遣ニ新羅ニ肥前風土記ニハ宣化御宇渡ニ百濟ニ、サテ丸ハ遣唐使云々。童蒙抄云、肥前國風土記云、昔武小廣國押楯天皇之世大伴狹手彦連伊〔任袖〕那國ヲシヅメカネテ、百濟ヲスクハン爲ニ、詔ヲ奉リテ此村ニ到ヌ、即篠原ノ村弟日姫子ヲメトシツ、其形人ニ勝レタリ、ワカレサル日、鏡ヲ婦ニ與フ、婦別ノ悲

ヲイタキテ、クリカハヲワタル、與ル所ノ鏡ヲイダヒテ川ニシヅミヌ、コヽヲ鏡ノワタリト云、狹手彦連舟ヲ出シテ去時、弟日姫子コヽニノボリテ袖ヲモチテフリマネク、此故ニ袖フル嶺ト云ヽ。此狹手彦事コレカレ遑タリ。又筑前國風土記ウチアケノ濱ノ所ニ云、狹手彦連舟ニ乘テ海ニトヽマリ、ワタル事ヲ得難シ、爰石勝雅「〇推袖」ヲ云、此舟ノ不行事ハ、ヰテ行トコロノ妾 字那古君ヲ海神ノシタフ故也、于時連、妾ト相ナゲク、●皇命ヲカロシメン事ヲ恐テウツクシビメヲイダキテ、コモノウヘニノセテ波ニハナチウガブト云ヽ、是又コト妾ヲ伴テ海ヲワタルトミエタリ

丸案ニ、カヤウノコトハ説々多物也、イヅレモタシカナル本文ナレバ、欽明ノ時モ、宣化ノ御宇ニモ渡海アリトシルベシ、作平比古モ、狹手彦モ、カキヤウハカハルトモ、大伴氏ノ連ヒトツナレバ、同人トシルベシ、佐手丸ハ其裔孫歟、二百十余年後也、姫ハマツラサヨ姫ト、弟日姫ト、那古君、各別ノ名ナレバ皆別人トシルベシ、哥ヲヨマンニハ、万葉ニアル、山ヘノボリシサヨヒメヲ正義トスベシ

ウナバラノ沖ユク舟ヲカヘレトカヒレフラシケンマツラサヨヒメ

松浦ガタサヨヒメノコガヒレフリシヤマノ名ノミヤキヽツヽヲラン

音ニ聞目ニハマダミヌサヨヒメガヒレフリキトイフ君マツラヤマ

一マシラヘノタカ

枕ツクツマヤノウチニトグラユヒスヘテゾワガヽフ眞白部ノタカ

「部」ノ字ヲ「フ」トヨムベシ、只「シラフ」ナリ、「ヘ」ト云コトアルベカラズ、シラフノ中ニ、ヨクシロミタルヲ「マシラフ」ト云ナリ。綺語抄ニ目ノ毛ノ白也。童蒙抄云、マシロトハ、目ノウヘノ白ヲ云、万葉ノ題ニ詠ニ白大鷹ニ歌トアリ、雁之路ト書テ正字モミエズ

ヤカタオノ雁之路ノ鷹ヲヤド・〔〇ニ釉〕スヘテカキナデミツ、飼クショシ〔〇モ釉アリ〕

丸案ニ、綺語・童蒙ノ心ナレバ、惣身ノ色ハ何色ニテモアレ、目ノ上毛ノ白ヲ眉白ト定タリ、是ハ不レ可レ然歟、万葉ニ既ニ詠ニ白大鷹ヲトアルウヘハ、惣躰ノ白ヲ云ベシ、目ノ義不レ可レ叶、マシラヘモ・マシラフモ同尋トミユ

一マシコ

ツビシラニマシコナ・キソ足曳ノヤマノカヒアルケフニヤハアラヌ

寛平法皇、西河御幸ニ、猿叫レ峡ニト云題ヲ躬恒ガ詠ナリ、マシコ万葉ニ「申」ノ字「マシ」ト云詞ニツカヘリ、マウシノ中略ナリ、則日ヨミノサル也、マシコハ猿ノ子歟、「マシラ」ト書本モアリ、マシコハ小鳥ノ名ニマギル、間、マシラマサルト云人モ侍、猿ニハ異名多也、或タカト云、日吉社ニハ「タカノミコ」ト云、匡房ハ「イソノタチハキ」トイハル、俊頼

タカノ御子イトモカシコクミマシケリサルマルヲシト〔モ釉〕引タテ・トヤ

一マタス

アキツバニ匂ヘル衣我ハキジ君ニマタセバヨルモキナマシ

マタセバト八峯ト云詞也、古語ニ「タスケマタス」ト云モ「助奉」ト云詞ナリ、万葉ニ云

ワガキヌヲカタミニマタスシキタヘノ枕ウゴカズマキテサ丶マセ

マスカヾミカケテシノベトマツリサスカタミノモノヲ人ニシメスナ

マツリサストマタスト同詞ナリ

一マユトジメ　後拾遺ニ、前伊勢守義孝ガ宇治前大政大臣ノ、驛ノ長ニ下ルト聞テ、東尾座主教圓ヨミテツカハス歟

古ノ眉トジメニモアラネドモ君ガミマクサトリテカフカモ〔○トカ袖〕

催馬樂呂哥ニ、ミマクサトリカヘマユトジメ、戸自ト云事ハ女官也、又司ナラネド、老女ニモ若女ニモアレバ、マユトジメモ女タルベキニ、ミマクサトリカヘ、トウタフハ、若舍人ガ妻ニヤ、オホミキワガセマユトジメ、トモウタヘリ、又或本ニ「マユカキトシ〔○メ袖アリ〕」ト書リ

【ケ】

一玄上　琵琶ノ名也

一賢聖ノ障子

一曉月房ハ　浄土宗也、俗名、爲守、爲明ノ同胞也

一ケリト云詞ハ　シカトモノヲオトシツケタル義ニ云

一ケラシハ　疑心也。今連歌ニ「ケリ」ト云詞ト同故、ランニキラハズト云ハ僻事也

一ケフノホソ布

ミチノクノケフノ細布ホドセバミムネアヒガタキ戀モスルカナ

顯昭云、狭布ト書テ、ヤガテ聲ニ「ケフ」トヨムナリ、訓ニホソヌノトヨムナリ、其聲・訓ヲ合テ「ケフノホソ布」ト云也、サレバ胸アハヌヨシヲヨムナリ、「ケフノセバヌノ」トモヨメリ

石文ヤケフノセバヌノハツ〲ニアヒミテモ猶アカヌケサカナ

卯花ノサケル垣根ハ乙女子ガタガタメサラスケフノ布ゾモ

綺語抄云、陸奥ノ御調物ニ、狭布トテ、ハタバリセバク、イヤシキ布アリ云々。無名抄云、此ケフノ細布ト云ハ、ミチノヲクニ、鳥ノ毛シテ織ケル布ナリ、オホカラヌモノシテ織布ナレバ、幅モセバク、ヒロモ短ケレバ、上ニキルコトハナクテ、小袖ナドノヤウニ下ニキル也、サレバ、セナバカリヲカクシテ、ムネマデハカヽラヌヨシヲヨムナリ。奥義抄云、ミチノクノケフノ郡ヨリ出タル布ナリ。私云、鳥ノ毛テヲルラン事、サモヤ侍ルラン、或物ニ書テ侍ルハ、件ノ布ハ、兎ノ毛ヲ、モノヽフタニ入テ、尻ニホソキ穴ヲアケテ、ソレヨリ亭ヲ

トヲシテ引出バ、ソレニ兎ノ毛ツキテ出ルヲ、ヒネリツケテヲル布ナリ、ウルサク、ワヅラハシキモノナレバ、セハク細キナリ、タテニハ例ノ苧ヲシテ、兎毛ヲバヌキニスル也。又武則眞人哥云

　シヅノメガシヅハタ布ノヌキニウツウノケノヌノ、ホドノセバサヨ

此哥モ定説シリガタシ、カヽル事ハ、其義イハント思フ人ノヨムコト也。又奥義抄ニ、ケフノ郡ヨリ出クル布ト侍ル、ミチノクノウチニ、「ケフ」ト云郡ナシ、トフノスガ薦モ、トフノ郡ヨリ出トアレドモ、サル郡ナシ、シノブモヂズリノミゾ、シノブノ郡ハタシカニ侍ル、能因二度奥州ヘ下リ、又出羽ヘモマカレル由ミエタルニ、錦木・ケフノホソ布ヲ詠タレバ其サマハ委キ、ワタリテ侍ケン、サレドケフノホソ布ノ事、委註ヲカネバ曲ナシ、人々トカク申ニコソ

【フ】

一フグルマ
一風月（フウゲツ）
一風流（フリウ）
一風俗（フゾク）

二日ノ月　初戀ニテ戀鎖

アルカナキカ心ノ末ゾアハレナル二日ノ月ニ雲ノカヽレル

一フシノナル澤　ナルサノ說不ㇾ用

サヌラクハ玉ノ緒バカリコフラクハフジノタカネノナル澤ノゴト

顯昭云、富峯ニ大澤アリ、其水ト火ト鬩シ烟ト水氣ト和シテ立ノボル、火モエ水ノワキカヘル音タエズ、其ヲ或人フジノナルサトヨマレタリ、如何ト申シヲ、庶〔廣袖〕言ト云人コレハフジノヤマヨリ、砂フルコトアリ、其ナル音ヲ鳴砂ト云ト云シカド、万葉ニタガヘリ、作者ハヒガゴトヨミテケリト申サレケルトゾ、俊頼、法性寺殿ニテ紅葉ヲ

雲ノヰルフジノ鳴澤風コシテキヨミガセキニ錦ヲリカク

万葉ニ

マカナシミヌラクハシケラクサヌラクハイヅノタカネノナル澤ノゴト

又一本ニ

アツ〔○サヌ袖〕ラクハ玉ノ緒シケヤコフラクハフジノタカネニフル雪ノゴト

一冬嗣　嗣字大臣ノ名ニアルトキ「ツグ」トハヨマヌ習ナリ

一フシミノ田井　山城ノ伏見ニヨミナラハセリ、伏見修理太夫俊綱朝臣、伏見ノ田哥作テウタハセタルユ

へナリ、万葉ニモ、山城ノ伏見ノ田井ヲヨミタル歌

　巨椋ノ入江ヒヾク也射見人ノ伏見ガ田井ニ鴈ワタルラシ

宇治河作云々、又巨椋ハ宇治ニ「ヲクラ」ト云所アリ、イメ人ハ夢人也、サテフシミトツヾクルナリ

一フシハシリ

　ホノミテモメナレニケリナキクカラニフシハシリコソシヌベカリケレ

顕昭云、「フシ」ハ「フス」イヌル也、ハシルハ、ネテ又ヲクルナリ、ゲスノ詞ニ、フシハシリナルヲリノ事ナリ、

万葉ニ

　フシヲキテ我ハコヒノムアザムカズタヾニゾ行テアマヂシラシメ

此フシヲキテモ、フシハシリト同心也

丸案ニ、此フシオキテハ只起臥也、フシハシリハ、タトヘバ、ワカキモノナドガ、親方ノ御用ナラバ、ヨル夜中ノ御用ニカケハシリ、手足ノ奉公イタスベキト云ヤウノ事ナルベシ。一説ニ、フサレヌ所ニモ伏、急用ニハ、ユカレヌ所ヘモ走アリカント也、一説ハ、フシハ寝テ身ヲ安休スル時ナリトモ、ヲキテ馳走可申ト也、一説、フシハ「ヨル」ニカヽリ、「ハシリ」ハ昼ニアテヽ、夜昼ノ御用ヲキカント云コトナリ、イヅレニテモ總ノヤツコト成リテ、君ニ手足ノ奉公ヲ仕タキトナリ

歌林樸樕第十七巻畢

【コ】

一コモリクノハツセ　雄略六年二月、遊ニ于泊瀬小野ニ、觀ニ山野体勢ニ、慨然興レ感歌曰

コモリクノ（籠國也、言奥區也）ハツセノヤマハ（泊瀬也）イマタチノ（今時也、言絶妙之義也）ヨロシキヤマ（宜山也）ワシリデノ（趍出也、言奇巖佐石時立也）ヨロシキヤマノ（宜山也）コモリクノ、ハツセノヤマハ、アヤニ（綾ナリ、丸云、奇妙）ウラグハシ（麗也、加ニ久字ニ也）アヤニウラクハシ

於是名ニ小野ヲ曰ニ道ノ小野ト

裏書云。隱乃口泊瀬山・隱國乃泊瀬山・隱久乃始瀬山・立之妙山劔。以上万葉

丸云、サシクチセバキ所ナレバ、コモリクト云トイヘバ、籠國トハ不レ可レ然歟、又コモリ江トヨミタルモアルト云々、ソレハ「口」ト「江」ト文字ヲミアヤマレルカト云説アリ、サレドモ、古ヘ觀音ノ淨土ニテ、海邊タリシユヘ、アマ小舟トツヾクルト云リ、其時ノ舟ガト・マリ、ヤマトナリタルニヨリ、トマセトモ書トイヘリ、又カクラクノハツセト云モ有、極樂ト云義トイヘリ、又此川ノ瀨百瀨アリ、其最初ノ瀨ナレバ「ハツセ」ト云モアリ、サアレバ舟ノハテタルト云説ハアヤマリ歟、此雄略ノ御トキハ、佛法ワタラヌ以前ナレバ、タヾ隱口ノ説ヲ先正義トスベシ、サテ佛法渡リテ、權化ノ人出テ、劫初ノコトヲイヒノブルニ、ゲニモラシキ事ノミアルニ

ヨリテ、サマ〲ノ義モ出來ナリ、其邪正ハ後人ノコヽロニテ分別シテ、スツベキヲハスツベシ、先ヒロク聞ベキ也

一**コダチウスケド**　日本紀二十三卷、舒明ノ御時、軍至テ乃令ニ來目物部伊區比ヲ以絞レ之、父子共死ヘ、乃埋ニ同處ニハ、唯兒子毛津逃ニ匿于尼寺瓦舍ニハ、即姧ニ一二尼ヲハ、於レ是ニ一リノ尼嫉妬ミテ令レ顯、圍レ寺將ニ捕ヘント、乃出之入ニ畝傍山ニハ、因以探レ山ヲ、毛津走テ無レ所レ入、刺レ頭而死ニ山ノ中ニハ、時ノ人歌曰

ウネビヤマ（畝傍山也）　コダチウスケド（木立雖レ薄也）　タノミカモ（憑ナリ）　ケツノワクゴノ（毛津稚子也、稚子者男子之通称也）　コモラセリケン（籠也）

一**コザルコメヤキ**　皇極二年、蘇我大臣入鹿獨謀、將下廢シテ上宮王等ヲハ、而立テ古人大兄ヲ爲シトヲ天皇ト上、于時童謠曰　欽明天皇之皇子也

イハノヘニ（岩野邊也）　コザル（小猿也）　コメヤク（籠燒也）　コメダニモ（籠也）　タキテ（燒ナリ）　トヲラセ（融ナリ）　カマシヽノ（山羊也）　ヲヂ（叔父也）

以上日本紀ノ本文

時ノ人說ニ前ノ謠之應ニ曰、以ニ伊波能杯你ヲハ、而喩ニ上宮ニ、以ニ古佐屢ニ而喩ニ林臣ニハ、（林臣入鹿）以ニ渠梅野倶ヲ而喩ニ燒レ上宮ニハ、以ニ渠梅多你母陀擬底騰裒羅栖柯麻之之能鳴賦ニ而喩ニ山背王之頭髮斑雜色似ニ山羊ニハ、又曰棄ニ捨其宮ニ匿ニ深山ニ相也

以上釋日本紀ニミユ、出所未レ知、日本紀ニハ無之

丸云、前後日本紀ヲミテ、心ヲシルベシ、イハノヘ野邊ナルベカラズ、只岩ノ上ナリ、小猿ハ蘇我臣ガ息人鹿歟、イハノ上ハ、ウゴキナキヤマトシマ根ヲ云ナルベシ、今智惠モナキ小猿ガ一疋キテ米ヲ燒、西道(悪カ)ヲ恣ニスル躰ナリ、其悪行ナリトモ、セメテ末トヲラセヨ、トテモトヲルマジキゾナリ、カマシ、ノヲチ、コレラモ皆猿ノ類ノ獸ニ、ソノトキノ佞臣ドモヲサス歟、羚羊ハ角ヲ岩ノカドニカケテネブルモノナリ、アヤウキコトヲナスモノナリ、コレヲ入鹿ガ一類ヲサスナリ

一**久我**(コガ)　「クヽ」トハヨマズ

一**弘徽殿**(コキデン)　カンナニハ「コキデン」ト書ルモ、ヨム時ハ「コウ」ト引ベシ

一**崑崙**(コンロン)　南海佛逝羅國ニアリ。此國ノ人ノ躰ヲ摸セル舞ナリ、十妓樂ノ中也、興福寺ノ佛生會ニ舞ナリ、但口傳ニ「クハンロン」ト云々

一**木間**(コノ)**クヽタチ**　鳥ノ、木ノ間ヲククマリタツ也

一**コノテ柏**　柏ノ若葉、兒ノ手ニ似タル、能因ガ説ヲ用、大トチ、男女郎ノ説ヲハ堅不レ可レ用

ナラヤマノコノテ柏ノ二オモテトニモカクニモネヂケ人也「〇哉袖」

ソノカミノ思(ナイ)ヒ〳〵ニ神ヤマノコノテ柏ヲ手ゴトニゾトル

万葉抄云、寛永大和守ニテ下ルニ、ナラ坂ノホドニテ、白花ノ多サクヲ、馬ヲトヾメテ國ノ舎人ガ供ニ間ニ、

大トチト中モノナリ、此國ニハ、コノ手柏ト云ト申、女郎花ニ似テ、花ノシロキナリ、サレバ、男ベシトモ云歟、葉ノ兒ノ手ニ似タレバ、コノ手柏トモ云

　秋ノ野ニ今コソユカメ武士ノオトコヲミナノ花ニホヒミニ

但大和國ノ風俗ニテト云ハ、偏ニ此ナラヤマノ哥ニ付テ作出タルモノガタリ也。万葉ニ、下總防人歌ニ

　チハノヌノコノテ柏ノホヽマレル〔○ト袖〕アヤニカナシミオキテタカキヌ

千葉ノ郡ハ下總ナリ、ホヽマレルハツホミタルナリ、チバノヌトハ野ト云コトナリ。能因歌枕ニ、柏ヲバコノテガシハト云、又ヤヒラデト云、江淮士有成法師云、青柏也、四月ノ神祭ニ入

一コトノシタヒ

　琴トレバナゲキサキダツケダシクモコトノシタビニイモヤカクセル

琴ノ腹ノ中ヲ、樋ニ似タレバ云ナリ

一コトハタナヽリ

　芦垣ノ末カキワケテ君コユト人ニナツゲソコトハタナヽリ

顯昭云、棚利ト書、タナヽリトハ、ツネナリト云歟、「タ」ト「ツ」ト「ナ」ト「ネ」ト同音也、又「コトハタナシリ」トカケル本モアリ、ソレナラバ事ハ常ニ知ト云ベキ歟。童蒙抄云、コレハ、催馬樂ニ、芦垣マガキ、カキ分テ、トウタフ心ヲ讀リ、サテ人ニナ告ソ、事將(ヘシ)ナシリト也、「ナシリ」トハ「ナシリソ」トナリ。私考、催馬樂

「棚利レトカケルヲ、事将ナシリ、トヨマンコト如何。
丸答ニ、右ノ說ドモ不レ叶、コレハ言ハ見世棚ノ利ノヤウナルモノナリ、德トラントテハ、イツハリヲソヘテ
トリチラスナリ、シノバズシテ、公界ヘヲシ出スヲ、ミセ棚ニタトフル也

一ゴウシ　困也

一小トリツカヒ　相撲ノ人ヲ諸國ニメサル、使ナリ
丸云、ツヲ濁、カヲ淸ベシ〔○按云。此說と濁点あはず、寫誤か〕

一古幣

一コモチ鳥　夏也

一心アヒノ風　艮ノ風也、奧州ノ詞ナリ

一コノモカノモ　家成卿歌合、落葉歌ニ　大宮右衛門督
モミヂバ、今ハ梢ニアラシヤマコノモカノモニチリシキニケリ
基俊判云、嵐山ノコノモカノモ僻事ニコソ侍メレ、只ツクハネト云山ノミコソ、カクヨミテ侍レ、彼山ハ面侍ナレバ、此面彼面トヨミ侍ナリ、面ハ古今ニ、ツクハネノコノモカノモニカゲハアレド君ガミカゲニマスカゲゾナキ　仍右爲レ負、依レ之二条院ノ石上御會ニ有二此沙汰一、顯兼俊成等皆存二基俊之說一、而ニ淸輔云、假名序云、天ノ河ノコノモカノモ、ミギハ鵲ノヨリハノハシワタシ云々、天河猶如レ此、況他ノ山ヲヤ哉、其時諸人

閉ㇾ口畢ヌ、顯昭又考、躬恒ガ子日序云、小松ヲ引、ワカナヲソヘマセ給フ、コノモカノモニ、行カヒ行カヘリ云〻、又仲實序云、トナセノ瀧、コノモカノモアシノハナミ云〻

丸云、基俊大河ノコノモカノモ、躬恒ガ子日序ナドヲミズシテ、古今バカリミテ難ズベキコトナシ、ソレラヲモヨク知タルウヘニ、此詞ツカフベキ所アルベシ、ツカハヌ所アルベシ、ツクハヤマハ殊本シゲ山ニテ、方々ニ面アリ、ノボル道モ多ニヨリ、古歌ニヨマレタリ、其外ノヤマニハ、哥仙ノモチアツカハヌ詞ナルニヨリ、嵐ヤマナドノ小ク、淺キ山ニ不ニ似合ニト云難ナリ、ツクハ山ノ外ニハヨマヌ事ト申サレタルヤウニ諸人心エテ、基俊ノアヤマリノヤウニ他門ニ云ナスナリ、基俊ノ判、正理ナル故ハ、ツクハ山ノ外ノヤマノ哥ニ無ㇾ之、或子日スル靈野、或銀河沙濮三千界、哥ニモ湊八十アリナド、ヨメル、アマノ川ニコソ、故人モコノモカノモトハ書ケレ、シカルヲ石上ノ御會ニ、清輔ノエタリカシコシト天河猶如ㇾ此、イハンヤ他ノ山ニオイテヲヤト、ノタマヒシコソ、アサマシケレ、サラバナド其座ニアリシ範兼・俊成等ハヲシ返シテ、清輔ヘ申サレザリシト思ヘドモ、當坐ニ至リテ、此基俊ノフカキ心持不ㇾ出歟、又清輔ノ淺智ヲアサマシク思テ、ワザト云キカセズシテヲケルカナルベシ、ヨシ〳〵ソレハトモアレ、カクモアレ、山ニモアラヌ所ニ書ル、此面彼面ノ詞ヲ以テ、基俊ノ判ヲカヘリテアヤマリト思ベカラズ、今丸ガ爰ニ委カクハ子細アリ、此顯昭ノ書置タマヘル袖中抄ヲミテ、其後ノ諸哥師・歌ヨミモ、コノモカノモト云詞ハ、イヅクニモ不苦トコヽロエテモチユルニナレヽバ如此申ナリ、向後ワレラガ門流、カヤウノ詞ヲムサト不ㇾ可ニ用給ニ者也

一コシアメ

久カノハニフノコヤニコシ雨フリ床サヘヌレヌ身ニソヘワガイモ

顯昭云、小サメ也、万葉ニ霢霂（イソ）（〇霢霂神霡霂神イ）ト書、無名抄ニ「コシ雨」ト云ハイタウフリヌレトヲリテ、ハカマノコシナドヲヌラスヲ云。雨中草茶ヲ、俊頼

タレトミテ忍ガリセンツレ〴〵トコシアメフリテ草咲野ヲ

此人「腰雨」ト被レ執ニヤ

丸案ニ、顯昭ノ說尤可然、俊頼ノ腰ノ說、不レ可レ然、但顯昭モコシ雨トヨミテ「小サメ」ナルベシ、「シ」ハ休字ト心エラレタリトミユ、今ヨク分別スルニ、タトヘバ昔ノカンナノ書ヤウニ、メウホウレングエキヤウ、トツケテ、「レンゲキヤウ」トヨム如ク、コシアメト書テ「コサメ」トヨムベシ、ヒサメ●ハルサメ●ムラサメ、皆ワランベナドハ「シヤメ」ト云ナリ、例セバ沙弥ヲ、呉音ニ「シヤミ」ト云ガ如シ、「サ」ト「シヤ」ト同ジヒヾキニ行ナリ。霂（之戎切、之成切）霡（カヤウニモアリ）。此ヨミハソヽグトモ、ナガアメトモ付タリ、又久雨トモアリ、霂（扶尤切）雨雪貝トアリ。万葉ニ此兩字ヲ書タルヲ、コシ雨トカンナニツケタルハ、尤キコエタルコト也、而ヲ「コサメ」トヨムトハシラデ「コシ雨」ハ微雨也ト註セラル、少トヾカザル歟、霂字ヲ「ソヾグ」トヨムニ付テ微雨ト云歟

丸存ハ聊カハリメアリ、ソヽグハ、コマカナル心ナリ、少フル雨ニアラズ、春雨ハコマカニフリテ、晴カヌル

ニヨリ、此字ヲ長雨・久雨ト注アリ、サルホドニ「コサメ」トヨミテ、ハルサメト同ジモノト心得ベキ歟、カンナニ「コシアメ」トアルヲモ「コサメ」トヨミテ可レ然也、カヤウノモノ、名ニ、休字ノ「シ」文字アルベカラズ、又休字ナラデハ「コシ」ト云ベキ義ナシ、上代ノ口傳、顯昭ノ比ニモハヤウセテ、カヤウノアヤマリ多出來トミエタリ、後頼ノ歌ハアヤマリナリ、カヤウノ事ドモニコソ、基俊ハ散々ニ申サレタレ、少モ同醫ノネタミニアラズ、シラザル事ヲモ、ムザトヨミチラス、道ノ魔障トソシラル、歌ヲ下手トハイハザリシトミエタリ

一コヒヂ

五月雨ニ苗引ウフル袂「タゴ袖」ヨリモ人ノ戀路ニワレゾヌレヌル

顯昭云、順和名云、泥字「コヒヂ」トヨムナリ、ソレヲ戀路ニソヘヨムナリ、サレバ袖ヌラストモ、オリタツトモ皆泥ノ心ヲヨムナリ、而ニ近來ノ人、偏ニ戀ノ路トソヘテ、水ニヨスル心ヲワスレタリ

丸云、此顯昭說ハ不レ可レ然、童蒙抄ニ、「ヒヂ」ト泥ヲイヘバ戀ヂニヨソヘタル也、此說正義ナリ、古歌ニモ水ニヨセズシテ

逢コトヲイナオホセ鳥ノヲシヘズバ人ハ戀路ニマドハザラマシ

泥ヲバ「ヒヂリコ」ト云、惣別「ヒヅ」トハヒタルコトナリ、ヌル、義ナリ、サレバ土ノヌレタルヲ「トロ」トモ「ヒヂリコ」トモ云ナリ、袖ヒヂテナド、ヨムハ、泥ニ非ズ、タヾヌル、由ナリ、泥ヲ「ヒヂ」ト云ヨリ、戀路ニトリナシテヨミナラハシタル也、シカルヲ顯昭ハ「コヒヂ」トハ泥ノコト也、ソレヲ戀路ニヨマンナラバ水邊ヲ

カヾヘヨ、無ニ水邊之詞ニバアヤマリトイヘリ。丸存ハ、戀ノ歌ナレバ戀路ヲ正躰ニシテ、泥ヲカリニヨセタル
モノ也、モトヨリ戀路ト云詞ノアルニヨリテナリ

一コスノキケキ

玉々レノ小簾ノ寸鷄吉ニ入カヨヒキネ、タラチネノ母ガトハ〔〇ン釉アリ〕ハ風トマウサン

顯昭云、「キケキ」ハ「シケキ」ト云詞ナリ。万葉ニ

ムサシノ〔〇ノ既ヶ〕ヲ具キ我キケシ立別イニシ宵ヨリコロニアハナフヨ

此「キケシ」ハ「シケシ」ト云歟、東國ノ風俗ノ詞トミエタリ。俊頼歌云

トシフレドコスノキケキノ絕マヨリミエシシナヒハ俤ニ立

丸案ニ、東詞ノ「キケシ」ハサモアルベシ、コスノキケキヲ「シケシ」トイハン事心エ難シ、寸鷄吉ノ「寸」ノ字ハ
一寸二寸ノ寸也、馬ナドノイタキト寸尺ニ用字ナレバ、寸隙歟、サアレバコスノヒマノ絕間歟、カケナラベタ
ルミスノアハヒノ事ナルベシ

一心アヒノ風　催馬樂ニアリ

道ノロタケフノコフミ〔〇ニヵ〕我ハアリト親ニハ申タベ心アヒノ風

一譚ノ云、道ノロトハ越前國ヲ云、心アヒノ風ハ、風ノ名ナリ

丸云、越前・越中・越後ヲ三越路トイヘバ、路ノクチハ越前ナリ、此哥ヲ陸奧ノト書アヤマレル書アルニヨ

リ、古來不審ヲコルユヘ、今コヽニ記ス、無名抄云、女ノスヽミアヘランナトニヨムヘシ、俊頼朝臣

　心アヒノカゼホノメカセヤヘスカキヒマナキヲチニ立ヤスラフト

八雲御抄ニモ、風ノ名トノミアリテ、イヅ方ヨリ吹トハミエズ、心アヒノ風ヨリ遙ニ先ニ、イカホ●アユ東風ト書リ、是家持、越中守時作歌也、コレ北陸道ノ詞ナリ。カヤウニアレド、アユノ風ト、心アヒノ風トハ別々ニ上タレバ、混亂シガタシ

丸案、是ハ人ノフケカシト思フ時、吹風ヲ云カト思ハレ侍

【エ】

一エサルトキナキ

　沖ナカノエサルトキナキ釣舟ハアマヤサキダツ魚ヤサキダツ

顯昭云、朗詠庚申ノ題ニ入リ、カノヘサルヲカクセリ、スナドリニ獵ノ叶ヲバ獲（エウル）ト云也、世俗ニモ、エントテヤハ狩ハスル、ト云ハ必シモエサラン事ヲ云ナリ、ソレヲ視テ不レ獲時ナキトハ云ナリ、コレヲアシク心エテ、江去時ナキトヨムハ僻事也

【テ】

一テルサツ

テルサツガ手ニマキモタル玉モガモ其ヲハカヘテ我玉ニセン

人ノ名歟、但薩雄・薩弓ノ薩字ヲ書タレバ、武モノヲ云ナルベシ、タマキトテ、ウルハシキ玉ヲ手ニ卷タル也、テルハホメタル詞歟

ニヒムロノ蹈靜子（フムシヅケコ）ガ手玉ナルソノ玉ノゴトテリタル君ヲウチニトマウセ

フムシヅケコ、テルサツナド云人有ケルナルベシ

歌林樸樕第十八卷畢

歌林樸樕　第十九

【ア】

一アモナルヤ

阿妹奈屢夜　乙登多奈波多廼　汙奈餓勢屢　多磨廼彌素磨屢廼　阿奈陀磨波夜彌　多尓輔拖和拖羅須　阿泥素企多伽避顧禰

アモナルヤハ、天ニ在也、ミスマルノトハ、玉ノ御統ナリ、アナタマハヤミハ、穴玉早也、タニフタワタラスハ、谷二也、ワタラスハ、ワタル也

日本紀神代下云、天照太神天稚彦ニ勅シテ曰、豐葦原ノ中國ハ、是吾王タルヘキ地ナリ、オモンミルニ、殘賊强暴アシキ神アリ、汝先ユキテ平ヨトテ、天ノ鹿兒弓天ノ眞鹿兒矢ヲタマフ、天稚彦降來リ國神ノ女子ヲ娶テ、八年マデ報命セズ、太神思兼神ヲ召テ、其不來ノ狀ヲ問給、思兼神ノ云、先雉ヲツカハシテトヒ給ヘトアリシカバ遣ス、其雉ノ天稚彦ノ門ノ前ノ湯津松樹ノ梢ニシテ鳴テ曰、ヤトセノ間何ノ故ニ復命セザル、時ニ國神ニ天探女ガ云、此雉ノ聲アレハ、コレヲ射タマヘ、則天稚彦、太神ノタマヘシ弓矢ニテキル、其矢雉ノ胸ヨリトヲリテ、太神ノ御前ニ到ル、太神コレハワガ天稚彦ニトラセシ矢ナリ、乃チ取レ矢而呪之曰、モシ惡心ヲ以テ射バ、スナハチ天稚彦ニアタレ、平心ヲ以テキバ、ツヽガナケン、トテカヘシナゲタマフ、其矢高

胸ニ當テ死ス、時ニ天稚彦ノ妻子、アメヨリ下テ屍ヲ天ニ上セテ喪屋ヲ作リ、殯シテ哭、天稚彦ト友善味耜高彦根天ニノボリ、喪ヲ弔、此神ノ形、天稚彦ニ似タリ、其妻子ヨロコビテ、ワガ君ナリトテ狩衣帶ニトリツキ、ヲシハナタレザルニヨリ、高彦根イカリキ、我ヲ死人ニアヤマツヤトテ、劒ヲヌキ喪屋ヲ切タヲス、其屋オチテ山トナル、コレ美濃國喪山是也、高彦根ノ光儀華艶、二ノ岳、二ノ谷之間テリカヾヤク、ユヘニ喪ニ會者、右ノ哥ヲヨムト云々、或云、味耜高根彦ノ神ノ妹下照姫ノ哥云々

又哥之曰

阿磨佐箇屢、避奈菟謎廼、以和多羅素西渡、以嗣个播箇拖輔智、箇多輔智尒、阿彌播利和拖嗣、妹慮豫嗣尒豫嗣、以嗣个播箇拖輔智

アマサカルハ、逆也、下也、離也、ヒナハ、夷也、ツメハ、着也、イワタラスハ、得ワタラス也、アイウエオ五音也、セトハ、エワタラストイヘドモナリ、イシカハカタフチハ、石川片淵也、メロハ、妻也、「ロ」ハ助詞ナリ、ヨシハ、吉也、ニヨシハ仁吉也、此哥書紀ノ如ハ、下照姫ノ哥トアレドモ、歌ノ心ヲ案ルニ、高彦根ノイモウトノ下照媛ヲ、他ヘクダシテ妻ニセントテヨメル哥ナリ、天ヲ以テ華トシ、他ヲ以テ夷トセリ、此兩首哥辭、今号ニ夷曲ト

丸云、釋日本紀ニ、右ノ如ク、後ノ哥ハ下照姫ノ作ニハアラズトイヘルハ、哥ノ中ニメロヨシトアル詞ヲ以テイヘルカ、婦人ノワレトメロカタメニ、石川カタフチハ、ヨキトコハルマジキニアラズ、日本紀ニ、又哥之

曰トアル上ハウタガフベカラズ、先ノ哥モ、古今ノ序ニ下照姫トアレバ、始ノ說不レ可レ用、兩首トモニイモウトノ兄ニメデ、ヨメルトミエタリ、天稚ノモヤヲトムラヒニ天ヘノボルトアレハ高彥根ハ地ノ神トミエタリ、サレバ下照姫モ地ヘオリテ、兄トスマント云、後ノ哥ノ心ナルベシ

一**アハフニハケミラヒトモト**　日本紀第三、神武長髓彥ト戰、カツコトアタハザレドモ、昔孔舍衛ノ戰ニ五瀨命矢ニ中テ薨コトヲツネニウラミ、究誅ト思シテノ御謠ニ

彌都彌都志(滿々也)　俱梅能故羅餓(來目子等)　介菁茂等珥(垣下也)　阿波赴珥破(粟畠也)　介彌羅(大蒜也)　毘苫茂苫(一本也)　曾迺餓毛苫(其下也)　曾彌梅(其妻ナリ)　屠那藝屋(緊也)　于苣屋之夜莽務(緊止也)

又

彌都彌都志　俱梅能故羅餓　介菁茂等珥　宇惠志破餌介彌(薑也)　句致(口也)　弭比俱(疼也)　和例破(我也)　浣輸例儒于智屋之夜莽務

丸云、アハフハ粟畠ト註ス、粟生也、蓬生・葎生ノ類ナルベシ、御歌ノ心ハ、下彌心ニタガフ時、妻ヲ打擲スルヤウニ、長髓彥ヲウツベキ由也、粟畠・蒜下ハ其居所ヲ称ス、几卑ノ義也、後御哥ハ、薑ノ口ニ久ヒラ、クガ如ク、五瀨命ノ矢ニ當シコトヲ、御心ニワスレネバ、戰ヲキハメタマハン由也

一**アソサカ**　日本紀第九、氣長足姬尊　神功皇后、武内宿禰、和珥臣祖武振熊ニ命シテ、忍熊王ヲウ

タシム、是ハ應神天皇ノ別腹ノ兄也、武内山背ヨリ出、菟道ニ到テ河北ニ屯、忍熊王ニ出レ書ヲ（○營カ）熊之凝
ト云ワガ軍ノ先鋒ヲスヽメテ、高唱哥曰

ヲチカタノ（水表也、謂陽ニ江河潮水ニ之所也）アラヽ（荒也）マツバラ（松原）マツバラニワタリ行テ（渡）ツクユミニ（槻弓也、久与レ伎五音通）マリヤ（曾矢也、称ニ末利矢ニ者、甲冑之間曾伊礼加久須也、今世古津方伽波麩）タグヘ（謂具也、弓女レ箭乎取具之義也）ウマ人ハ（馬人也）ウマ人トチヤ（等也、奴与レ多五音通）イトコハモ（従父兄弟也、武内与ニ熊凝ニ者共臣下也、親昵之由也）イトコドチ「○イサアハナ、ワレハ、タマキバル、脱カ下の注は、阿曾云々の注に續くべきか」（我所レ陳之字縣者、爲ニ勝地ニ之由褒美也）ウチノ（宇治）アソカハラノチハ（阿曾所名也、河原地也）イサコアレヤ（砂在也、言如レ張レ未有レ沙也）イサアハナ（謂合也）ワレハ（我也）

哥意、ワガ陣ヲトルハ勝地也、武内トタヽカハント也

時武内三軍ニ号令曰、各弦ヲ髪中ニカクシ、木刀ヲ佩リ、皇后之命ヲ擧テ、忍照王ヲ誘曰、吾天下ヲ勿貪、タヾ懷ニ幼主ニ君王ニシタガハンモノナリ、豈距戰ヤ、願ハ其弦ヲタチ、兵ヲ捨テ、与連和焉トテ、斷レ弦ヲ解レ刀ヲ河水ニ投入、忍熊王其誘言ヲ信テ、悉解レ兵斷レ弦河水ニ投、爰武内弦ヲカケ、眞刀ヲハキ、河ヲ度テスヽム、忍熊王退ク、武内追之逢坂ニテ破ツ、故其處ヲ日逢坂、サヽナミ栗村ニ及多キル、血流溢、故コレヲ惡テ今ニ至迄栗村ノ菓ヲ御所ニ不レ進、忍熊王無レ所レ入、五十狭宿禰ヲ喚テ歌曰

イサアギ（欲レ謂二五十狹茅一之發語也）　イサチスクネ（五十狹宿禰也）　タマキハル（玉城張也）　ウヂノ（宇治）　阿曾餓（河名）　カブツチノ（劔名）　イタデ（痛手也）　オハズハ（不レ負者也）　ニホトリノ（水鳥ナリ、倍与レ沒五音通）　カヅキセナ（沉也、言如レ鳥之可レ入レ水也）

共沉二瀬田濟一而死之、于レ時武内歌曰

アフミノミ（近江海也）　セタノワタリニ（勢多）　カヅクトリ（沉鳥也）　メニシミヘネバ（目不レ見也）イキドホロシモ（不レ知二行處一也）

於レ是探二其屍一而不レ得也、忍熊王ヲ鳥ニタトフ

數日之後ウチ川ニ出、武内哥曰

アフミノミ　セタノワタリニ　カヅクトリ　タナカミスギテ（田名上河与二宇治河一一流ナリ）　ウヂニトラヘツ（於二宇治一囚之　一本治作レ道）

忍熊王ノ屍ヲウヂニテトリ得ルト也

丸云、タマキハルヲ、勝地ノ詮如何、只ウヂノ枕詞ナリ、又イキドヲロシモノ詮ソ、不レ知二行處一ト付タリ如何、コレハ忍熊王ノ屍ヲ末レ見ハ、イキドヲリテ思フト云心ナルベシ、欝憤ノ字ナリ

一アシピキ　日本紀十三卷、履中（允恭）天皇廿三年春三月、木梨輕皇子ヲ立テ爲二太子一、容姿（カホノカタキラノーシ）佳麗、同母ノ妹（イモト）輕大娘皇女（カルノオホイラツヒメノ）亦艷妙（カホヨシ）也、太子ツネニ念（オホスヽアハシメント）レ合　罪ヲ畏テ默ス、然ニ感（メテタマフヽコヽロ）情スデニ盛ニシテ死ベクナリヌ、徒ニシ

ナシヨリハ、罪アリトモトテツキニアヒテ思事少ヤム、因似歌曰

アシヒキノ(足引也、私記曰、言山行之時、引レ足而歩也) ヤマダヲツクリ(作二山田一也) ヤマナカミ(山中也、欲レ謂二下樋一之発語也) シタヒヲ(土下度樋也) ワシセ(謂度也、或説謂二移走一也) シタナキニ(下泣也、言忍泣也) ワガナクツマ(言軽皇女戀也) カタナキニ(固片泣也、或説、不レ流レ涕而泣也、或説、獨泣謂二之片泣一) ワガナクツマ(我泣妻) 去(コゾ)夫(コソ)曾(其義未レ詳、或説、重點也、至誠心之由、私記曰、舊伽謂二与倍一、古曾、案、古事記作二許存許曾婆一、又案、舊音存以及、礼云、進レ戈者前二其鐏一、鐏文曰、鐏存下云) ヤスクツヤフレ(安觸也)

凡哥意者、如下通二下樋之水一忍戀之心、密通之後、聊休之由也

丸六、源氏物語ノ句宮ノ、女一ノ宮ニ心ヲカケ給シハ、是等ヲ下ニアテ、書與、【頭注〇但同母妹トアルハ皇子ノ誤ナリ】又足引ノ山ノ説、皆私記ノ義正説タルベシ。芦ヲ引テツミカサネタルガ山トナルト云説如何、闇日本モアシ、、山ハ成劫ノ泥ノ波ノチカタマリタル形也、又一角仙人ノスベリタルハ經説ナリ、允恭ノ御時イマダ聖教ハワタラヌニ、此哥ニアルベキ義ナシ、日本武尊ノ、御足ヲイタミタマヒシ説、更ニアタラヌ事也、此山ヘノボルニハ平地ヨリ歩ニクキヨリ、足ヲ引トアル義ヤス／＼トキコエテ可レ然、猶愚案ヲメグラスニ、ヤマト、ハ、山ノ跡也、上古ハ山ニ住タルニヨリ、人ノ足跡多アルニヨリテ、日本ヲ「ヤマト」、云トアレバ、必足ヲ引ツル事ヲ云ト心ウルヨリ、只足跡ノ多引山トミテ甚可レ然也、又此哥ニ「ヤマナカミ」ノ注ニ、山中トアリ、

コレハ山永ミナルベシ、「ワシセ」ハ走カスノ說マサルベシ、カタナキハ片戀ノ心ニ、ワレノミナクノ義マサルベシ、コソ〳〵ハ、ツネノテニハノ「コソ」ナルベシ、ヤスクツヤフレハ、大娘皇女コソ安ク、ツヤ〳〵月日ヲフレ、ワレハ片泣ニ泣ト云、一首ノ心ナルベシ

一アマトフカル　允恭天皇廿四年夏六月、御膳羹汁凝以作レル氷ト、天皇アヤシミ給フ、卜者ノ曰、內亂ノ、親々相奸乎、時ニ木梨輕太子ト輕大娘ノコトアラハル、太子ハ儲君ナレバツミスルコトヲエズ、皇女ヲ伊豫ヘ流ス、時ニ太子哥曰

オホキミヲ(大君也、謂ニ皇女ニ也) シマニ(伊豫嶋也) ハフリ(葬也、言ニ配流ニ也、私記曰、古謂ニ配流ニ爲レ葬、或說、遠流同ニ死罪ニ故也) フナアマリニ(二餘也、離与レ多同響也、兩度也) イカヘリコンゾ(生反來也) ワガタ丶ミ(我疊也) ユメ(努也) コトヲコソ(別也) タ丶ミトイハメ(疊言也) ワガツマヲ(我妻也) ユメ(努力也)

凡歌意、輕皇女配流ト云トモ獨カヘリ來ベシ、其間皇女トネタル疊ヲバ他人ト敷ベカラズト云義也

裏書云。吾疊三重乃凉之礒裏尓如是鳴跡鳴河蝦可物

又歌曰

アマトブ(天飛也) カルヲトメ(輕乙女也) イタナケバ(痛泣也) ヒトシリヌベミ(人可知也) ハサノヤマノ(名所也) ハトノ(鳩也) シタナキニナク(下泣也、謂ニ忍泣ニ也)

哥意者、皇女遠旅之間、涕泣之聲高者、若ニ人聞レ之驚ニ心歟、如ニ彼山鳩ニ可ニ忍泣ニ之由也
丸云、此心ヲカクル人ノアランカト云詞如何、アマトブカルトツヾクルハ、鳩ヲカケタル也、イタナケバ、輕
乙女ノ痛泣也、此泣ヲ悲ク思ヘドモ、ワレモサヤウニナカバ人ガシランナト思ヒテ、ハサノヤマノ鳩ノ如ク、太
子モトニナクト云心ナルベシ、幡舍ノ山、國未勘
[illegible]云、天飛也輕路者・天翔輕路從・安陳等夫也鳩ヲコレラ万葉ノカキヤウ也、日本紀ニハ阿摩陀箇
一アキツ歌　雄略四年秋八月、吉野宮河上小野ニ御狩ニ行幸、虻來テ天皇ノ臂ヲクラフニ、蜻蛉忽然ト來
テ其虻ヲ將去、ヨロコビ給テ群臣ニ哥ヨメトアレ共、蜻蛉ヲホムル哥タレモエヨマザリシニヨリ、天皇口号曰
ヤマトノ（大和也）　ウムラノタケニ（嶺也、名所也）　シ、フスト（鹿臥也）　タレカ（誰也）　コノコト（此
事也）　オホマヘニ（御前也、謂ニ天皇ニ也）　マウス（奏ナリ）　オホキミ（大君也）　ハフコヲ（昆見也、言以
レ[illegible]見ニ也）　キカシテ（聽也）　タマ、キノ（珠蒔也）　アクラニ（胡床也）　タ、シ（立ナリ）　シヅマキ
ノ（施[illegible]ハ卑也、以如ニ[illegible]ニ發威之胡床也）　アクラニ（胡床也）　タ、シ（立也）　シ、マツト（鹿待也）
ワガイマサバ（我居坐也）　サヰマツト（猿猪待也、師說、古語呼レ猪言ニ佐井ニ）　ワガタ、サハ（我立也）
タクフラニ（竹原也、俱与レ加五音通也　符与レ波又五音通）　アブガキツキツ（虻來來也）　ソノアブヲ（其
虻也）　アキツ（蜻蛉ナリ）　ハノクヒ（早嚙）（丸云、蜻蛉羽ノ嚙歟）　ハフムシラ（昆虫也）　オホキミニ
（大君也）　マツラフ（謂レ仕也）　ナガ、タハ（名形也）　ヲカムル（置也）　アキツシマト（秋津以ニ日本ニ也）（一

本ハフムシモト云ヨリシモヲカヘタリ）　カタノミト（如レ此能美也）　ナニ（名也）　オハソト（負ナリ）　ソラミツ　ヤマトノクニヲ　アキツシマト（虚見日本國、於秋津嶋也）　イフ（称也）

因讃ニ蜻蛉一、名ニ此地ヲ爲ニ蜻蛉野一

凡御哥意者、君臣出ニ狩場一、君者立ニ玉床ニ臣者居ニ卑床一、（志津蒔胡床是也）蜻蛉之嚙レ虻之条、昆虫モ驅ニ皇威ニ之間、讃ニ蜻蛉之有情一、欲レ傳ニ名ヲ於後葉ニ之由也、仍号ニ其地ヲ於秋津野ト

丸云、或書ニ、昔神武天皇富士山ニノボリミタマヘバ、東ハ廣ク、西狭ク、艮ヨリ坤ニヨコタハリテ、蜻蛉ノ形ニ似タルニヨリ、日本ヲ秋津嶋ト号トミエタリ、此虫ヲトンバウト云モ、東方ト云心ト云々、今爰ニ雄略ノ御哥ニハ、ヤマトノ國ヲ、アキツシマトイハントアレバ、日本ノ名ヲアキツシマト云ハ、是ヨリ始トミエタリ、サテコソ、其所ヲアキツ野ト云ト有、然バ神武ノ富士ヘノボリタマヒテ、付給ト云説、出所不レ諳、向後不レ可レ用之乎、但仁德ノ御哥ニ、秋津嶌ト日本ヲアソバシケリ、雄略ヨリ先皇也、シカレバ只今ノ蜻蛉ヲホメ給テ、日本第一ノ虫ノシワザトホメタマフニヨリ、其所ヲ只秋津嶋トイヘ、トヨミ給シヨリ、此野ノ名トセルナルベシ、出所ハ未レ見トイヘド、秋津嶌ト日本ヲ云事ハ、蜻蛉ニ似タルノ説、正義ナルベシ

一アハレイカニ草葉ノツユノコホルランアキカセタチヌミヤキノヽ原

此義マチ〳〵ナレド、只今ミン跡ノ草花ノ露ヲ、コボルラントヨメリ、此外不レ用　ヤガテ冬ノ來ラントシルノ心也

一アケノソホ舟　宗祇云、新キ舟ハ久ナレバ赤色ソフ物也トアリ、例ノツカヒ太刀ノ說ナルベシ
丸案ニ、丹ヲヌリタル舟也ト云說可レ用、「ソホ」ハ「ヨソホヒ」ノ上略也

一アマノコハ　寄二遊女一戀ニヨム也
白浪ノヨスル汀ニ世ヲスグスアマノコナレバヤドモサダメス
タレトナクウキネヲシノブアマノコモオモヘバアサキチギリナリケリ　家隆

一アフサキルサ　宗祇云、右樣左樣ト云
春ハタヾヤマヂヲ行モ野ヲ行モ花ゾニホヘルアフサキルサニ
一說、往樣來樣ト云心云々

一アサナケ　「ナ」ハ添字也、又愚句ニ（宗祇ノ事也）
朝ナケニサシソフ春ノ光哉トシ侍ハ、春日ノ末社ニサナケノ御社ト申、左投ト云ヲ立コメ侍

一アサニケニ　朝尓食ト云、朝ノ食・夕ノ食也、「ケ」ハ器ノ字歟、器トイヘバクヒモノ、事ニナル也、家ニアレバケニモル飯ヲ、笥ノ字カリテカケドモ、正字ハ器ノ字ナリ、誰モ朝夕食ヲバタヤサズ、故ニ必食ノコトナラネドモ、常住ノ事ニハ「アサニケニ」ト云詞ヲ用ナリ。万葉ニ
イカナラン日ノ時ニカモワギモコガモ引ノスガタアサニケニミン

一アフナ〳〵　ヤウ〳〵ト云義ナリ、又アラウヤ〳〵ト云義モアリ、是宗祇ノ說也

丸案ニ、是例ノツカヒ太刀鞍、只常ニ伊勢ニテ沙汰スル如ク、懇ニト云心也、定家卿「フ」ノ字ニ濁ヲサヽル、シカレバアフナ〳〵トヨムベシ、懇ノ心ヲ「アフナ」ト云ベキ義ナシ、アブナキト云詞コソ懇ニハヨク叶侍レ、アヤウキ事ヲバ、ソサウニ人ノエセヌモノ也、唱テモ濁タルハキヽヨキヲ、末代耳イヤシクテ、結句アシキヤウニ思テ、清テヨミ来レリ、定家卿　聲ヲサシタルコトナレバ、向後ハ「フ」ノ字濁テヨミ侍ベシ、キヽナレタラバアフナ〳〵一段ヲコナルベシ

一アマゾヽキ　シゲクフルヲ云、祇説ナレドモ不レ叶、今川了俊説ニハ、水ノウヘヽフル雨ノトハシルヲ云ヤウニ侍歟、ソレモ不レ叶、タヽ灑ト云字ニテ、水ソヽゲナド同心ナリ、雨ノフル時ナリ

一アナジフク　大和ノ穴師山ニ吹風也、アナシト云風ノ名ニナル也、巽カラ吹風ヲ云也

一アタラ夜　新夜又惜夜也、オシム心也

一アマサカル　筑前國ニアマザカルト云名所モアリ、惣別ハヒナノ枕詞ナリ、天サガルトハ天ヲトヲクミレバ下ヘサガリテミユルト云心、又天離トカケバ「カ」ノ字ヲ清テ遠ザカル天ト云心、正義也

一アチムラ駒

ヤマノハニアチムラ駒行ナレド我ハ左夫思惠君ニシアラネバ

白駒ノ日ノカゲトテ日駒ニタトフル例ニテ、此哥山ノハニ日影ハ出行ドモ、君ト居ザレバ我ハサムシト云義ナリ、奥義抄ニハ、山ノハニアヂムラ駒ハアルナレドワレハサムシモ君ニシアラネバ、カヤウニ古ヨリアレド、

袖中抄ノ顯昭說尤ナリ、驗ノ字ヲ「サハギ」トヨムベシ、左夫思惠ハサヒシトナリ、アヂノ村鳥ハ多サハゲドモ
ワレハサビシト也、騒ハヒガゴトナリ

一梓弓末中一伏三起　暮三伏一向夜ヨ　丸云、弓ハ末ヲイハンタメ、三伏一向夜ヲツクヨトヨムハ、小兒ノ、竹ニテ、ツキト云コトヲスルニ、手ノコウノウヘニテ、竹ノアラ面ニナル事アルニタトフルナリ、コレヲゲト云、竹六本アリ、ソレハタムルモノニアラズ、タムルハ弓ノ事ナリ

一アサモヨヒ

朝モヨヒキノ關守ガタヅカ弓ユルストキナクマヅエメル君

天平勝寶五年春二月於二左大臣橘卿之東家一宴二飲諸卿大夫等一、アサモヨヒ　アガモヘルキミ　其情奈何イカン、式部卿石川卿說云、古俗ノ語稱ハク、朝炊レ飯因テ是將ニ曰ニ紀伊國ト一發言以爲ニアサモヨヒト一耳云々、爰ニ知ヌ古哥ノ難義、先賢無レ疑、況後代愚要無レ由ニ據勘一ハ、聊合ニ首尾ヲ一頗以會尺云々。コレハ万葉ニ人丸ナドノシロシメサヌコトヲバ石川卿ニトヒタマフニ、今自見シテ師傳ヲセヌ哥人ハ、アサマシキコト、云事ナリ

アサモヨヒキヒト、モシモマツチ山ユキクトミランキヒト、モシモ

アサモヨヒキノ川ユスリ行水ノイツサヤムサヤイルサヤムサヤ

イツサヤムサヤ、是ハ何ノ切處アリ、出サ、止サ也、アサモヨヒキトハ、アサ毎ニ人ノ飯カシグ時ノ木ナリ、朝毛吉ト云ナリ、アシタニモヤシテ、ヨキ木トイフ事ナリ、又タヅカ弓ノコトハ　昔女ノ夢ニ我遙ナルトコロ

ニ行ン、形見ヲトヾメントテ弓ヲノコス、ミルニ女ハナクシテ、枕上ニ弓アリ、ソレヲアケ暮愛スルニ、此弓百鳥トナリテ、南ニ飛去、シタヒ行ニ、紀伊ニ到テ又人ニナル、サテ此哥ヲヨム、イツサヤムサヤトハ、狩スル野也云〻、又曾丹歟

枕ナルヲフチノマユミヽル時ゾイモガテカゼハイトヾ戀シキ

ヲフチハ陸奥ノ名所ナリ、一説ニヲフチノマユカキト云リ、顯昭ハ、コレモ面白説ト云リ

丸案ニ、此説ハ難レ用、曾丹ガ心ヲ推スルニ、女ノ弓ニナリタル例ヲ以、ヨミタル哥ナルベシ、奥州ノオフチヨリ出タル弓ナリ、又万葉ニ

アサモヨキカタ行君ガマツチヤマコユランケフゾ雨ナフリソネ

カヤウニ「ヒ」ノ字ヲ略シタルモアリ

一アヲニヨシ

アヲニヨシナラノ家ニハ万代ニワレモカヨハンワスルト思フナ

日本紀第五、崇神ノ御時、軍兵草木ヲフミナラシタルヨリ「ナラ」ト云、其時官軍ニ、靑瓷ノ器ニ酒ヲ入テノミタリ、其軍勝タルニヨリ、アヲジノモノヨキナラトツヾクトモ云リ、アヲジノニト云アヤマルト云〻。清輔ハ、モノヽ色ヲ云ニハ、丹靑ヲ宗トス、サレバ畫圖ヲイロドルニモ靑ト丹ナリ、而平城新都ノ日出ヲホメテナリ、又万葉ニナラトツヾケヌ哥モアリ

クヤシクモカクシラマセバアヲニヨシクヌチコト〲ミセマシモノヲ

又青幣ヨシト云、ニギテノナラ〱トサガリタルヲミテ、アヲニヨシナラトツヾクト云。又袖中抄ニ、万葉集云

昔ナラ坂ニ、アヲキ地ノアルヲ取テ、繪ニツカヒタルニヨリテ、カクヨメル云々

丸案ニ、万葉ノ註ニアル歟、委丁考ト顯昭ノカケルマヽ、即日本紀第五崇神天皇ノ時、埴安彦ト合戰ノ所ヲミルニ、以忌瓮鎭坐和珥武鐰坂上則率精兵進登那羅山而軍之トアリ、コレヲ忌瓮ハ青磁ノ器、ソレニ酒ヲ入タレバ、アヲニヨシト云ト申說、甚難用、其時草木ヲフミナラスニヨリ、ナラト云トハ慥ニアリ、アヲニヨシト云ベキコトハ、少モミエズ、只万葉ノ丹青ノ說ヲ可用也、但此万葉集トコヽニ書ハ、袖中抄ニ万葉ノ抄ト云心歟、万葉集ニハサヤウノ註ヲバカヽズ、コヽニ釋日本紀トテ、日本紀ノ和哥ヲ委尺タル書アリ、仁德天皇ノ皇后ノ歌ニ

ツキネフ山シロ川ヲミヤノボリワカノホレマ(者心也) アヲニヨシ 下略

私記曰、師說、楢木之葉色如青玉、故喩言之也、或說、昔饒速日自天降時、見乃樂之地、蔓菁繁キ無故欲言乃樂之時、有此發語也

丸案ニ、此饒速日神ノ時ハ、ナラノ名アルベカラズ、モシ大和國ヲサシテ云ルカ、惣國ヲサシテノタマフヲ、今ナラノ一所ノ枕詞トハ定難シ、又ナラト云名ノサキニ別号アルカ、崇神ノ時、軍兵フミナラシ、ヨリノ詞ト

云ニ不二相叶一、或說ト云バカリニテ、何ノ本ト云出書ナケレバ難レ信用一、タヾ丸ハ、私記曰、橘木ノ葉ノ色ヲホメテイヘルト云義、諸々ノ中ニハ第一カト存、私記ニハ、青玉ノ如ト書タレドモ、ソレニテハ青バカリニテ「ニ」ノ字ノ心ウスシ、瓊ノ字ニテヨクキコエ侍ル、瓊ハ玉ナリ、アヲキ玉ノヨキト云褒美ノ詞ナリ、數百年ノ歌人ノマトヒ今爰ニハラシ侍ル

歌林樸樕第十九卷畢

【ア】

一幄屋　幕ナドニテカリヤヲスルヲ云

一海手古良　師氏大納言集

一赤毛　止雨　白毛　祈雨　禁祕抄ニアル事也

一白馬節會

一庵室

一アマノスサミ　スルワザヲ云也

一アマノマテカタ　雨說、貝ヲサシトル、俊成說。アマノシホヒガタニ塩ヲマクト云、淸輔說。イヅレモヒマナキ事ニヨメリ、和式部。海人ノマクカタトヨメリ

一明ヌヘク千鳥シバナク白妙ノ君ガ手枕イマダアカナクニ　此白妙ハ衣ノコトナリ

一アレマクラ

スガハラヤ伏見ノ里ノアレマクラユフカヒモナキクサノ霜カレ

ヨヲヘテハウキネノトコノアレマクラ鴛ゾナクナル池ノ氷ニ

右兩首トモニ家隆ノ哥也
丸案ニ、荒キ枕歟
一朝鷹狩　鷹場ノ朝、カヘリ行モ春ナリ、春ハ朝ナラデハ鷹ガリニハ不出也、宗祇說也

一アヤメ草飼モスサメス

　オフレドモ駒モスサメズアヤメ草カリニモ人ノコヌガワヒシキ　躬恒

顯昭云、世俗ニハ不許容ヲ「スサム」ト云ヲ、哥ニハ許容スルヲ「スサム」ト云ナリ、アヤメハ馬ノクハヌモノ也

丸案ニ、二樣アリ、不許容ヲスサムト云ハ、始ハ溫ナル氣ノアル物カ、末ノサムルト云義ナリ、スタルヤウノ心ナリ、スタルモ長モノヲ持クルニ、力(チカラ)タラネバ末ノ下ヘ垂ルナリ、ソレヲバモチコタヘヌナリ、又許容スルヲ「スサム」ト云ハ、スヽムト云詞也、「サ」ト「ス」ト同音ナレバ、スヽムヲ、スサムトモ云ナリ、サレバスヽミイサム心ナリ

一アカシノウラノ嶋　ホノ〴〵トノ歌

顯昭云、顯輔被申シハ、公任卿三年之後、始案得云々、何事ノ不審ナリケルコ歟、或人云、明石浦ニ無レ嶋、

隆緣云、淡路歟、又云、ソレハ一國也、嶋カクレ行舟トハヨムマジキ歟、今案ニ、明石ノ沖ニハクラカケ嶋●フタゴ嶋●ミナヲ嶋、此三近相双テ、沖ヨリコグ行ホカケ舟ドモノ、此小嶋ドモニ、カクレアラハレ行ナルベ

シ、或人、舟、ヲシニヲス、心ヲソヘタリ、トイヘリ、アシ、
丸云、公任卿三年之後始案得トノ給事ヲ、三年マデハアマリノ事也、何事ヲカトノ給シハ定家卿ト世ニ云傳、今愛ニ顯昭ノカケルハ顯輔ナリ、定家ニテモマシマセ、顯輔ニテモマシマセ、是ハカヘリテ愚ナル詞ナリ、此人等ノ案得セラレシ分ヲ、公任サショリ知テ、ソレヨリ重々段々ヘノボリテ、三年以後ノ義理、イカヤウトモ知人ナシ、若猶モトヾメヲカレシ事ナラバ、カホドノ義ヲ何トテ三年マデハカヽリテ案ジ給シゾトイハンモコトハリ也、人丸ノ内證、公任ノ了智、後人ノ及所ニアラザルベシ、智門ホドタカキモノハナキヲ、後人ノカヤウニ我知タルヤウニイハレシハ、努々ウケラレヌ事也、唯佛與佛ノ妙理ハ、菩薩モシロシメサズドコソ

一アシツ、

ナニハガタカリツム芦ノアシツヽノヒトヘニ〔○モ後〕君ガ〔○ヲ後〕ワレヤヘダツル

奥義抄、芦ノヨノ中ニ、ウスヤウノヤウナル皮也、ツ〔○奥義抄ナシ〕ヨクウスキモノナリ、サレバアシツヽバカリノヘダテモ我心ニハナシト詠ナリ。顯昭云、其皮ハ竹帛トテ竹ニモアリ、昔ハソレニテ文ヲ書リ、其帛字ハ「キヌ」トヨメリ、ツヽト云ベカラズ、アシツヽハ筒ナリ

丸案ニ、後撰ニ、ヒトヨモ君ニトヨミ、アシツヽバカリノヘダテモ我コヽロニナシ、トヨメバ中ノウスヤウナルベシ、ツヽハ筒字也、濁テヨムベシ、然而、顯昭ノヽタマヘルヤウニ、筒トバカリ心得テハ、一夜ノヘダテナドヨミガタシ、一重ヲトリナヲシテヨメリ、コレハ竹帛ヲ、チキレズ、破レズ、ヨクコシラヘトレ

バ、筒ノ如ニヌケ出ベシ、サレバアシツヽトイハンニタガフベカラズ、ツヽト濁ハワルシ

一アベタチハナ

ワギモコニアハデ久シク馬下ノアベタチ花ノ苔生ルマデ

万葉ニ　阿倍橘、　尓雅云橙、和名　安倍太知波奈、　似レ柚而小者也、　一説、橙ハ　宅耕反、タウトヨム、訓ハアマタチバナ也、陳皮ニハ不レ用レ之、橘ヲトラントテ橙ヲトルト云ハ愚ナル事ヲ云ナリ

丸案ニ、馬下ノアヘハ名所歟、　又ムマキ舌ノ粘トツヽケタル歟、　橙ヲダイ〱ト道王ノカヽレタルモ相違ナリ、尓雅ニ柚ヨリ小トアリ、陳皮ニトラズトアレバ蜜柑ノ内ニアルトミエタリ、柑子ナド云モノニヤ、コレハミカンホド甘カラヌヲ、アマ橘ト云モワケナキコト也、但熟スレバ甘ニヤ

今案ニ、万葉ノアヘ橘ハ、アメノ如クアマキ橘ナレバ、蜜柑ナルヘシ、尓雅ニ橙ヲアベタチ花トツケタルハ、アヤマリナルベシ、コレハダイ〱ナルベシ、似レ柚而小ト云コト、カラノ説ナラバ、ワルキミカンノ類ナルベシ、和名ノ筆ノツヽキナラバ、コレモアヤマレルナルベシ、トカク哥ニヨメル万葉ノアベ橘ハ、橙ニハアルベカラズ、名所ノ安倍ヲ、粘ノアマキニウケテヨメバ、蜜柑ト心エテスム也

一アマノナハタキ

思キヤヒナノワカレニオトロヘテアマノナハダキイサリセントハ

燒ニアラズ、タグル也、日本紀ニモ、万葉ニモ、栲繩ト書リ、公任ノ間答抄ヲバ世ニ歌ノ論議ト申、ソレニモ

此歌ヲ尺スルニ「クル」ト云コトヲ「タグ」ト云モ田舎ノ詞也、手ニテ引ヨスルヲタグト云其義也ト云々、其縄タルハツリ縄ナリ、古今ニ

イセノ海ニアマノツリナハウチハヘテクルシトノミヤオモヒワタラン

此歌アマノタグナハト書タル本モ有、ソレハアミニ付タル縄ナリ、ツリ縄ニハアラズ、網引縄ナリ

一**アラヒトカミ**　アヒオヒ、又オヒアヒトモアリ

アヒ生ヲイ

天クダルアラ人ガミノオヒアソビ思ヘバヒサシ住ヨシノ松

顕昭云、マサシク人ノ神トナルヲ云ベシ、後拾遺ニ八幡ヲ

スベラギモアラヒトガミノナゴムマデナキケル森ノ時鳥カナ

續詞花ニ、北野ニヨセ奉歌

思川ヤナキ名ヲ立ハウカリキトアラヒトカミモアリシ昔ヲ

万葉長歌ニ、住吉ノ荒人神トヨム、但今ノ歌ニアマクダルトアルゾオボツカナキ、又日本紀云、現人ノ神、アラ人ガミ師說、神ノ白稱（マウシ）スル号也、治部卿在原嶷（ヨシカ）曰、此事可レ指ニ天皇ー而言ニ也、公望案、假名日本紀可レ謂ニ宿之号ハ、又云天神アマツヤシロ、地祇クニツヤシロ、人神曰レ鬼ト、オニハ隠音也、訛也、故左京兆被レ申、住吉神主云、住吉モトハ三社也、第四ノ社ハ玉津嶋、後ニイハヽレ給、仍好ニ和哥ニ云々、安法ガ天クダル哥ハ、詠ニ衣通姫ー歟。奥義抄ニアラ人神ハ地祇ナリ、或物ニハ惣而地神ヲアラ人カミト名付云々、今云、然バアマク

ダル詞如何、又日本紀ニ天神地祇之外擧ニ現人神ニ如何、但現人神モ天ニ上リテアマクダルナルベシ
丸案ニ、右条ミ末ニ落居ハ、是ハ公望ノ帝ノ号ト云ニ付テミレバ、衣通姫ニモアラズ、底津・表津・中津等ニモ非ズ、神功皇后ヲサスベシ、攝津國ニテコヽヲ住吉トノタマヒシ時ノ義ニテ、何ノウタガヒナキ歟

一アシタツ

ユノハラニナクアシタヅハワガゴトヤ妹ニコフシ（レ 袖一本）ヤ時ワカズナク

アシタヅモ田鶴ナリ、芦ノ中ニモヰレバ鴨ヲ芦鴨ト云ニ同ジ、「ツル」ト「タヅ」トハ同物ノ内ニカハリ目アリトミユ。順和名ニ、鶴ヲハ「ツル」トツケ、鶴ヲバ「タヅ」トツケワケタリ、文字モヨミモ別ナレバ同ジモノトハサダメ難シ、サレドモ歌ニハ鶴題ニ「タヅ」トヨミテモ不レ苦、醫師ナドコソ藥性ノカハリメアリヤト、其形ヲトヒキハムベケレ、歌ハ差別シテ用ナシ、イカサマツルノ一類ナレバコソ「タツ」トハ名ヅケタレ、田ニヲリテ居ルツルト云心ニテ、タヅト申トミエタリ、同鼠ノ野ニアルヲ「ノネズミ」ト云類ナルベシ、ヨクシレル人ニトヒタラバ、箸カ羽ニカ、少ノカハリ目ノアルベキナリ

一扇ユヽシ　昔ハ扇ヲ人ニトラスル事ヲバ忌コトニセシナリ

名ニシオヘバ頼ヌベキヲナゾモカク扇ユヽシトナヅケソメケン

大和物語ニ、三条左ノ大臣、中將ニイマソカリケル時ニ、祭ノ使ニサシテ出給ケル、絶テ久ナリケル女ノモトカヽル事ニナンタツ、扇モタベカリケルヲ、サハガシクテ忘ニケル、一ツタベトナン云ヤリ給ケル、ヨシアリ

シ女ナレバヨクテヲコセテント思ヘルニ、色ナドイトキヨラカナル扇ヲ、イトカウバシウオコセタリ、引返シタルウラノモトノ方ニ

ユヽシトテイムトモイマハカヒモアラジウキヲバコレニ思ヨセナン

新撰、男ノ心ツネヨリモカハル氣色ナリケルニ、サラザリケル時、心ザセリケル扇ニカキツケヽル

人ヲノミウラムルヨリハ心カラコレイマザリシツミト思ハン

公任卿集云、宣方中將カモノ祭ノ使立ケル、ガヒノ花カタヲ作リタリケル扇ヲ、●指(スリ袖)バカマニソヘテヤリタマヘリケレバ

扇ヲバユヽシトノミゾ思コシケフハカヒアル形見ナリケリ

丸案ニ、班女ガ事ヨリ戀ニイムコトナルヲ、後ニハ何事ニモイムコトニ人ノ思ナシタル歟

一**アヌカ爲**　紀女郎

アヌガ爲ワガテモスマニ春ノ野ニヌケルツバナヲミケテコエマセ

戲奴(ママ)六反云、和氣　アヌモ、ワケモトモニ我ト云詞ナリ、筑紫詞ナリ。ミケハ御食也、ツバナハ人ヲコヤスモノナリ。家持返シ

ワガ君ハ(○ニ袖)ケヌハコフラシタフヒタルツバナヲクヘハイヤヽセニヤス

ワガ君ヲワレハコフルト云コトナリ

ヒルハサキヨルハコヒヌルネブリノ木君ノミランヤ和氣サヘニミヨ

一アマノシマツ

イセノウミノアマノシマツガ鮑(ダニィ)貝トリテノチモガ戀ノシゲヽン

顯昭云、嶋ハ只嶋也、津ハ助字ナリ、又人ノ名歟

丸案ニ、海人ノ内ニ、嶋津ト云者アリシト云說可レ然

一アダヽラマ弓

陸奥ノアダヽラマユミツルスケテヒカバカヒトノワガコトナラン

顯昭云、吾田多良眞弓ト書、奥州ノ在所也。能因哥枕云、アダヽラネ有ニ神峯ニ云々。陸奥防人云

アダヽラノネニフスシヽノアリツヽモアレハイタランホ(○ネ袖)ドナサリソネ

童蒙ニ、アダヽラ弓ト此哥ヲ書テ、アダチノシラマ弓ト云リ、不レ知ニ案内一歟

一アシカラヲフネ

モヽツシマアシガラ小舟アリキオホミメコソカルラメ心ハモヘソ(○ド袖)

顯昭云、相摸ノアシガラノ舟也、コレハ相模防人歟也、一說、葦苅舟ナリ、一說足輕舟也、万葉ニ

アシガリノ箱根ノ●ロノ●アシガリノワヲカケヤマニ●アシガリノマノヽコスゲノスガ枕●アシガリノアキナノ山

敦隆等ハアシ鴨ト心エタリ、部類ニ此哥ヲ葦鴨ニシテ鴨ノ部ヘ入タリ

一アナメ〳〵

アキカゼノフクニツケテモアナメ〳〵ヲノトハイハジス、キ出ケリ

顕昭云、アナ目イタト云コト也、此哥小町集ニアリ、昔野中ヲ行人アリ、風ノ音ノヤウニテ此哥ヲナガムル聲キコユ、立ヨリテ尋キ、ケレバ、髑髏ノ目ノ中ニ薄出ケリ、其薄ヲ取捨テ、其頭ヲ清キ所ニヲキテカヘリヌ、其夜ノ夢ニ、我ハ是昔小野小町トイハレシモノナリ、ウレシク恩ヲ蒙ヌルト云リ、サテ此哥ヲ彼集ニ入タルトゾ、野中ノ風ノ聲ハ通哥ナリ、後朝業平下句ヲ付タリ、古今目録、小町ハ出羽郡司ガ娘ナリ、數十年在京ノ好色ナリ、而本國ニ皈テ死去畢、古今ニ小野ガ姉ノ哥ニ

時過テカレユクヲノ、淺茅ニゾイマハ思ノタエズモヘユク

シカレバ小野ハ姓歟

一アユノ風

アユノカゼイタク吹ラシナゴノ海人ノツリスル小舟コギカヘルミユ

顕昭云、万葉云、東風、越俗語東風謂之(〇安由乃可是也袖アリ)今云、コチカゼ也

丸、此万葉ノ註、落字アル歟

童蒙云、南ノ風ヲアエノ風トゾ申タル、昔今ノタガヘルニヤ、或人云、此比モ東風ヲゾアユノ風トハ申云ヾ

丸案ニ、「ア」ハ「雨」、「ユ」ハ「由」字、アメヨリ歟、東風トハアマゲニナルモノナリ

一アスハノ神

ニハ中ノアスハノ神ニコ柴サシアレハイハ（〇ハ袖アリ）ン飯クルマデ

上總ニアスハノ神オハス、其神ノ誓ニテ、チイサキ柴ヲタテ、祈事有ト云、俊頼悔ニ離別ノト云コトヲ

イマサラニイモカヘラメヤイチジルキアスハノ神ニ小柴サストモ

一アハユキ

シハスニハ沫雪フルトシラヌカモ梅花サクツヽミテアラデ

顯昭云、消ヤスキ雪ナリ、世人春ノ雪ト思ヘリ、多モ春モヨムベシ、ツヽミテアラデハ、ツボミテアラデナリ。又

フル雪ハアハニナフリソヨゴモリノヰガヒノヲカノセキニセマクニ

一アリス川

チハヤブルイツキノ宮ノアリス川松トヽモニゾカゲハスムベキ

顯昭云、アリス河ハ、齋院ノオハシマス本院ノカタハラニ侍ル小河也、又古哥ニ

昔ニノミ（〇キク袖）イツキノミヤノアリス川タヾフナヲカノワタリナリケリ

或人云、太秦ヨリ、法輪ヘマイルミチニアル小河ヲ云ナリ、サレバ嵯峨野ノ行幸ニ、ミツネニ、此河ヲ何ト云

トトハセ給ケレバ、躬恒云

イザシラズミツネハコ、ノ〔〇ニ神〕アリス河君ガミユキニケフコソハミレ

私云、是ハ僻事也、北野行幸之時、本院ノ邊ナルアリス川ヲ躬恒此哥ヲ詠

一アマノスカソ

中トミノアマノスガソヲタツミソギ祈シ神ハケフノ爲コソ

顯昭云、アマハ天ナリ、スガハ菅也、ソハ麻也、祓ニハ麻モ菅モ入モノ也、初句ハ中臣祓也、ナカトミノフトノリトゴトトモヨメリ、又万葉ニ

御社ノスガヘニタテルカホガ花ナサキイデソネコメテシノバン

此スカヘトイヘル瓶カト思フニ、スカト云コトハオボツカナシ、若菅ニコトカ、リタルコトノアル歟、瓶ニテハ、カホガハナタテリトイハン事如何トキコユ、菅邊ニタテルト云歟。孫姫式云、裂ニ菅麻ニ而禱レ神、終ニ得ニ榮於今日ニ、榊掛テ木綿ヲ而祠レ社ニ未レ知レ起コトヲ於誰カ世ニ共ニ古神ノ哥也

榊葉ニ木綿トリシデ、タガ世ニカ神ノヰガキヲ祝ソメケン

丸案ニ、中臣ノ歌ノ註ハ、委キコエタリ、御社ノ哥ノスオヘハ、菅邊ニハアルベカラズ、酢瓶ナルベシ、必酢ヲイレネドモ、スカメト云ツボノアルナリ、ソレヲ花イケニシテタテタル良ガ花ナルベシ

一アマトリ

アマタユヒユタヒタユタフ雲間ヨリキコエヤスランアマ鳥ノ聲

顯昭云、雲中ニ住テ人ニシラレヌ鳥也、六月ノ晦、七月ニナルホドニ、雲中ニ巣ヲ作コヲウム、風ニ其巣ノヤブレヌベケレバ、ワビテナク也、其時バカリゾ、世ノ人聲ヲ聞ト云、實トオボエネド、古草紙ニシルシタレバ書載ナリ、但和名ニハ、胡鷰ト書テ、「アマトリ」トヨミ、又「アトリ」トモヨメリ、又獦子鳥ト書テ、別ニ「アトリ」トヨミタレト別與、「アトリ」トヨムハヒガ事ナリ、獦子鳥 俗名阿止利、 辨色立成云、䳄鳥 一云胡雀 此鳥群飛如列卒之滿ニ山林ニハ、故名ニ獦子鳥ニ也、胡鷰、兼名苑註ニ云、鷰有ニ胡越二種ー 楊氏漢語抄云、胡鷰子 阿万止利

丸云、肥前鍋嶌ノ家中ヨリ、アマトリトテ足ノナキ鳥ヲ、江戸ヘモテ行ト云說ヲ聞侍、雲ニ巣ヲクフト云モ無足ト云ニ付テ、サモヤト其時思ハレ侍キ、佛說ノ中ニ、サマ〲ノ衆生アレバ、小智ニテサモアルマジキ事ト、モノヤブリノミスルモ愚癡ニシテ、ミコ覡ニタボラカサル、トヒトシカルベシ、鷸（シャウ）アマトリ、舞則天大ニ雨フル

一アミノハカヒ

ミナクル、（◯クル和）アミノハカヒノカヒモナク人ヲ雲井ノヨソニミルカナ

水ヲクヽルアミト云鳥ナリ、アニトモ云、「ニ」ト「ミ」トカヨヘリ、ニヲ・ミヲ、ニラ・ミラ、ニフ・ミフ等ナリ。大アニトモ云鳥ナリ、下ニ、トブカヒモナク、ヨソニノミ人ヲミルトソヘタリ

丸云、此正字未尋

一アナシ吹　倭訓

アナシフクセトノシホアヒニ舟出シテハヤクソ過ルサヤカタヤマヲ

アナシ吹清見ガ關ノカタケレバ浪トヽモニテ〔〇モ袖〕タチカヘル哉

無名抄云、シナトノ風トテ、中臣祓ニアル風ハ、スナハチ是ナリ。顯昭云、シナトハ所名ナリ、以外ニ風早トコロナリ。日本紀云、級長戸部命、是風神也、一書云、伊弉諾尊与ニ伊弉冊尊一トモ生ニ大八州國ヲ一、然後伊弉諾尊曰、我所レ生之國、唯有ニ朝霧一而薰滿之哉、乃吹撥之氣化シテ爲レ神ト號シテ曰ニ級長戸邊命一是風神也、經定卿歌合、月　維順朝臣

ヤマノハヲシナドノ風ハフキハラヘカタブク月ヤシバシトマルト

丸云、シナドノ風ト、アナシト同風ト云詿、非ナリ、或書ニアナシハ乾ノ風ト云ヘリ、シカレバアナシハ、イヌヰノ風ノ名同、イヌヰヨリフケドモ、シナドノ風ハ別而早キヲ云ヤウニ心得ラルヽ也

歌林樸樕第廿卷畢

歌林樸樕　第廿一

【サ】

一サネトコ

憶企都茂播（オキツモハ）　陛尒播譽戻耐母（ヘニハヨレトモ）　佐禰耐據茂（サニトコモ）　阿黨播怒介茂譽（アモハヌカモヨ）　播磨都智耐理譽（ハマツチトリヨ）

オキツモハ瀛之藻也、吾田津姫ニタトフ、ヘニハヨレドモトハ、皇孫ノ邊ニハヨレドモ也、皇孫ヲ恨奉テトモニモノヲイハヌ也、サネドコハ寝床也、鴨ハ皇孫ニヨス、濱千鳥ハ無伴喩也、是ハ皇孫豐吾田津姫（トヨアタツヒメ）ノ一夜ニ有身ヲウタガヒ給、遂ニ又火酢芹命（ホノスソリノミコト）ヲウム、次ニ火折尊（ホノサキノミコト）ヲウム、彦火々出見（ヒコホホデミノミコト）ト号母ノ誓己ニ諭、實ニ是皇孫（イチシルシ）之胤ナリ、然ニ吾田津姫、皇孫ヲ恨テモノイハズ、皇孫此歌ヲヨミ給也

丸思フニ、小寝床也、アタツヒメノ皇孫トネタ事ナリ、アモハヌハ、オモハヌナリ、釋ニハ、鴨ハ皇孫ニヨストアレドモ、姫ナルベシ、ハマチドリハ、皇孫ノ御身ニタトフル歟、又姫ヲ鴨ヤチドリニタトヘテヨメル歟

一ザトカホリタル

一作文（サクノモン）

一サバヘナス神

一坂鳥　秋小鳥ナリ

一サヘテ　サヘシハ遮也

日ヲサヘシ跡マデミエテヤマカゲノムラ〳〵キユル霜ノ下柴

一サテハベシヽノ夢

網兒之山五百重カクセル佐堤ノ崎左手蠅師子ノ夢ニシミユル

袖中抄ニ、サマ〳〵了簡アレドモ、終末ニ分明ニ

丸案ニ、是ハ先「師子」ヲ「シ、」トヨミチガヘタルニヨリ、故人不審ヲコル也、子ノ字ヲ「コ」トヨメバ其マヽキコユ、網兒之山ノ五モジモ、皆左手ハヘシコニ緣アリテ用ニ立歟、アゴシ山カ、サデノサキヲ、五百重モヘダテシ也、名所ナリ、佐手ノ崎モ名所ナリ、左手ハヘシハ「左手」ト云網ヲ、左手ニ持ナリ、非ニ獅子ニ「シ」ハ過去ノ「シ」ナリ、子ハ兒也、必ワラベナラネド、ヲトナヲモ人ヲ「コ」ト云ナリ。イザヤコラナド云モ皆人ナリ、サレバサデノ崎ニテ、左手ヲツカヒシ人ヲ夢ニミル、ト女ノヨメルナルベシ

一サホヒメ　諸鬮腦ニ、ハルヲ染ル神也云々、佐保山ノ神ヨリ事ヲコリテ、サホヤマノ霞ヲ詠哥等ニヨセテ、春ヲ染ル神トイヘリ、サアヲイト、春色ヲ云說不レ用。又龍田姫ノ春ヲツカサドル證跡。万葉悔哥ニ

ワガユキハ七日ハ過シ立田姫夢此花ヲカゼニチラスナ

丸案ニ、此哥ニテ、掉姫ノ如ク春ヲ領スルトハヒガ心得歟、是ハ金刻木ノ道理ヲイヘリ、立田姫ハ秋ヲ主ル神ナリ、秋ハ金也、サレバ春ノ木ノ花ヲチラスハ、秋ノ神ノワザナルベシ、巽風モ、兌ノ卦ノ遊魂ナレバ、風モ

西方ノ金ノ德ナリ、歌ノ心ニヨク叶ベキ義ナリ、是モ万葉ノ此哥ノ作者ニ尋聞バサヤウニヨミタリト申サルベキヲ、末代ノカナシサハ、理ニ當タル事ナレドモ、不肖ノ者ノ云事ハ、人耳ニモ不二聞入一アサマシ〱

一サニツラフ

散生相イロニハイデズチヒサクモ心ノウチニワガオモハナクニ

左丹頰經イモヲ思フニ霞タツハル日モクレニ戀ワカルカモ

サハ狹小也、サニホヘル妹トモ、君トモ、紐トモツヾク、少アカキカホ也、サニヅラフモ、サニホヘルモ、共ニホムル詞ナリ

旅ノ夜ノ久ナレバサニヅラフ紐トキアケズコフル此ゴロ

カキツバタ丹頰經君ヲイサナミニ思イデツヽ嘆ツルカモ

一サクサメノトシ

今コントイヒシバカリヲ命ニテマツニケヌベシサクサメノトジ

顯昭云、コレハ後ニ人ノムコノ、今コントテマカリニケルガ、文カヨハス所アナリト聞テ、久マデコザリケレバ、アトウカタリノ心ヲトリテ、カクナンイヒツカハシケル、女ノ母ノ哥ナリ、サクサメトハ能因歌枕ニハ、シウトメヲ云、トジトハ順和名云、劉向列女傳云、古語ニハ謂テ老母ヲ爲ス負ト、今案勝負ノ負ノ字也、俗老女ノ名ニ用ニ刀自ノ二字ヲ者訛也云々、然者トジハ或老母、或老女ノ名ナリ、但惣而女ノ名ナルニヤ、万葉ニハ、母

トジトヨメリ、又其兒ノトジナド所々ニヨメリ、コレハワカキメニカヨヘリ、又公家ニモトジト云モノアリ、又行成卿ノ書レタル後撰ニハ、丁年トアリ、丁年ハワカクサカリナルベシ、又丁年ヲバ或廿廿（〇補ナシ）六十ト云事モアリ、或年トヨムベシト云リ、奥義抄ニ、アトウカタリト書リ、或本ニハ東歌ノ心ト書リ、或本ニハ、アヅマ語ノ心トアリ、アトウガタリハ、アヅマ語ト同歟、東ノ古語風俗ニ「シウトメ」ヲ「サクサメ」ト云事アレバ、ソレニ叶ヘル詞ヲ用ベシ。童蒙抄云、四条大納言和歌論義ニ此事云キカセン人モガナト書リ

丸案ニ、定家卿ノ僻案ニ、早草妻ノ說モアレド、只シウトメノトジナルベシ、トジハ老女ノ事ナリ、若女ノトジト云ハ、ワレト卑下ナルベシ、アトウガタリハ、アツマガタリ也、カタリハ、コトバト云心ナルベシ

一サクラアサ

櫻麻ノヲフノ下草ハヤクオヒバイモガ下紐トカザラマシヲ

顯昭云、麻ノ花白シテ、少アカク櫻ニ似タル敀ナリ、又下人ノ申ハ、クラアサト云アサアリ、クラ、アサト云事歟、ソレニ「サ」モジヲ加ンコト心得ズ

丸案ニ、サクラアサヲ上略シテ「クラアサ」ト下人ノ云ナルベシ

顯昭云、櫻麻ノ麻原、是ハ麻ノ義ニ叶ヘリ、櫻麻ノ苧原トモ書リ、是ハイハレズ、麻ト苧ト別ノモノ也、苧ハ平乎ハ（一）マヲ（補）」トモ、カラムシトモ云ナリ。万葉ニ

櫻麻ノ苧原ノ下草露シアラバアカシテユカン親ハシルトモ

或ハサクラ苧ノ苧婦ノ不草トモヨメリ

丸案ニ、蔴ト苧ト別モノナレド緒ニナル事ハ一同ナレバ、イヅレヲモ櫻アサト云トミエタリ、櫻アサトテ、蔴ノ中ニ一種アルヤウニ心得ベカラズ、苧モ蔴モ、サクラアサト云トミエタリ、万葉ノ文字ノカキヤウニテ心ウルニ、櫻ト云木ハ皮ヲムキテ、樺（カバサクラ）ニ用レバ、蔴モ苧モ皮ヲ用故ニ、サクラト号シケルナルベシ、花ノ色ノ説ナレバ苧ノ字ノ義ニ不レ叶

一瑠菊（リウノキク）

一宰相（サイサウ）　カンナニハ「サイシヤウ」トハ不レ書

一神樂波　又樂波トバカリモ書ナリ、此万葉ニカク、日本紀ヨリ出タルヨミナリ、神者ヲ佐尒羽トヨム、神樂ヲ称ニス沙佐之庭トフ

一サツ人ノユツキカタケ

カケロフノ春サリクレバ作豆人ノ弓月ガタケニカスミタナビク

顯昭云、薩人武士也、薩雄モ同、サツ弓モツヨキ弓ヲ云、サト人ト云モ同音ナリ、郷人ニマギレヌベシ、万葉ニハ、長谷ノ弓槻、又マキモクノ弓槻カタケ、又卷向ノ●十（小袖）槻ガタケトモヨメリ、白槻山ヲモ、白月山トモ書、一説、雄略ノ弓ヲツキ給シヨリ、弓ツキガタケト云、ソレハ弓村也、又マスラオ●武士（モノヽフ）●薩雄（サツオ）同事歟、マスラオハ猶ヒロシ、サツオ（薩雄歟）ハ武士ニカギルナリ。童蒙抄云、サツオハ五月ニ狩スル人ト云、僻事也、サツオ

ハ、シツオト云詞ナリ、「サ」ト「シ」ト同音也。昭云、サツオ・シヅオ別ナリ、シヅオハ下部ナリ、五月農人ヲコソサツヲメトハ申セ

丸案ニ、サツオト云ソメシ(イヒ)ヲコリハ、五月ノ男歟、又殺ノ字歟、イヅレモアラケナキ武士ノウハサ也、薩摩(サツマ)ノ下﨟(ゲラフ)ハ死生ヲシラズ、今モ野郎(ヤラウ)トテ長キ刀ヲヨコタヘアリク也、サレバサツマ人ト云ヨリ出タル詞歟、彼國ノ五文字ニハ、隼人(ハヤト)ノサツマト万葉ニモヨメリ

一サカリヨケ

一サジキ　棧敷

一サヽナミ

サヽ浪ノシガノカラサキサチハアレド大宮人ノ舟マチカネツ

顋昭云、サヽ浪ハ近江ノ名ナリ、日本紀云、天智粟津宮ニオハシテ佛寺ヲ作ラント勝地ヲ求タマフニ、御夢ニ沙門奏云、乾方ニ靈崛アリト、帝其朝其方ヲ見給ニ光明アリ、人ヲツカハスニウバソクアリ、帝行幸シテ此山ノ名ヲ問タマフニ、古仙靈崛伏藏地、佐々名實長等(ナカラ)山云テ失ヌ、其所ニ伽藍ヲ立、今ノ崇福寺是也、此心ナラバサヽ浪ノナガラトバカリヨムベキ事ナルヲ、万葉ニハ志賀トモ、國トモヨメリ、又天智天皇ヘ率ル歟、少納言長谷雄哥

サヽ浪ノヨスル海ベニ宮ハシメ世々ニタエヌカ君ガミノチハ

ミノチハ、御後ナリ、日本紀ニ狭々浪栗林ト書、チイサクチイサキ浪也、能因歌枕ニ、近江ヲバサヽ浪ト云ヘリ、此故ニ近江ノ外ニハヨマヌ事ト先達思ハレタリ、八条大相國哥合ニ琳賢歌

ナニハガタサヽナミヨスル浦風ニテルミナ月モスヾシカリケリ

六条修理大夫難云、サヽ浪キヽナラハズ、シガナド云テコソ、サヽラ浪ト思ヘルニヤ、似ヌ事ナリ、但サヽナミ●サヽラ浪ハ同詞ノ麁略也、金葉ニ師俊卿

水鳥ノ羽風ニサハグサヽ浪ノアヤシキマデニヌルヽ袖カナ

丸案ニ、サヽ浪ト云詞必ナガラニカギラズ、近江ノ内ノ名所ナラバ可ㇾ詠、又無理トハ存ナガラ、琳賢ガ難波ニヨメルヲ、六条修理太夫トガメラレシカバ、他國ノ海川ニテヨマン事ハ無用ナリ、サレドモ、サナミ●サヽラナミ●サヽ浪イヅレモ同ジ浪ナレバ、名所ナラヌ池澤海川ニテ、サヽナミトヨミテモ少モ難ニハアラザルベシ

一サキタヅマ

野邊ミレバ弥生ノ月ノ廿日マデマダウラワカキサキタヅマカナ

顕昭云、草ノ名ナリ、故堀河源左府以ニ淺青朽葉色ニ称ニ左伊多津万色ト。綺語抄云、ワカク生タル草ノ名也。私云、ウレ葉●ウラ葉ト云也、万葉ニ

●ウラワカキ〔ミ袖〕花サキガタキ梅ヲウヱテ人ゴトシゲミ思ゾワガスル

草木ニ付テ如ν此ヨミタルヲ、ウラト云ハ「シダ」ト云人アレド、アシノウラ葉・クズノウラバ・藤ノウラバ皆ウハ葉也、下葉ハトリ出ヨムベキ事ニアラズ、又弓ノウラハズト云モ、末(スヱ)ノ筈(ハズ)也。以上

丸云、虎杖(イタドリ)ヲサキタヅマト云トイヘド、連歌ノ譜ナドニノミアリテ出證未見、只若草ノ異名ニテスマスベシ、「ウラ」ヲ上ノ說、是モ草ノ葉ニハヨク叶ヘリ、サレドモ、ウラサビシ・ウラカナシ、ナド、云時ハ、上ノ字ニテ心エニクシ、幽齋法印御口傳ニ、ウラハ心ト云義也、人ノ心ト云物ハ、上ヘハミエズ、裏ニアル故也、サレバ心サビシ・心ガナシト云理也ト被ν仰侍ル、尤ト存ナガラ藤ノウラ葉ナド云詞ノ時ハ少モ不ν叶

丸案ニ、ウラガナシ・ウラサビシノ類ニハ裏ノ字ニモヨク叶ヘバ、心ト云理ニテ其心ヲ得、物ノウラ葉・ウラワカミナドノ時ハ、上ノ字ノ說ヨシ、ト兩樣ニ分テヲクベシ、ウラワカキハウラサビシノ詞ニ用テモ不ν苦ベシ、ウラナクモノヲ思ケル哉ナドハ、心ト云ニテモフトハ不ν叶、裏ノ義ニテ心エヤスシ、表ウラナキ也、ソレモヨクイヘバ心ノ義ナリ、ウラ葉ノ時ハ大ニ違ナリ、ソレハ上葉ノ說ヨシ

一サイハリ

サイハリニ衣ハ染ン雨フレドウツロヒガタシフカクソメテバ

顯昭云、神樂ニ大前張(オホサイバリ)・小前張(コサイバリ)トテアリ、サイハリハ「サイ」ハ前也、「ハリ」ハ萩也、又サイタヅマト若草ヲ云モ、「サイ」トハ、チイサク新心ナリ

丸云、只「サキ」ト云コトナリ、余ノ花ヨリハサキニサク也、初萩也

[万] イカホロノソヒノハリハラ我キヌニツキヨフ〔○ラカ〕シメヨヒタヘト思ヘバ

上野防人(サキ)歌也、日本紀波利我曳陀、師説所レ登之木也、是榛(ハギ)木也　然者「ハリハラ」ハ萩原也、又云、榛原

[万] 時ナラヌマダラ衣ハキホシキカシマノ針原トキニアハズトモ

[同] タテフコノ衣スランニ匂ヒセヨシマノハキハラ秋タヽズトモ

此二首同心也

丸案ニ、ハリ原・ハキ原ハ同ジ事ト云義ハスミ侍レドモ、榛ハ大木ナリ、萩ハ草ナリ、此哥共ニ花ヲヨメバ萩ナリ、ハリノ木ニ花アリトモ未レ知、タトヒアリトモ萩ノ花ニハ似ベカラズ、或人云、萩ニ木ハギトテアリ、年々ニカレズ、クキノコリテ花サク、コレヲモトアラノ萩ト云トイヘド、ソレヲ榛ノ木ト云ベキニアラズ、萩ト榛トハ各別ノモノナルヲ、只同物トバカリ註シテヲキタルハ不審ナリ、是ヲバ何トサバクベキト思フニ、萩ヲ「ハギ」トモ「ハリ」トモ云ナリ、ソレヲ万葉ニ榛ノ字ヲカリテ書タルヲ、今正字カト思ニヨリ疑出來セリ、針ト書トモ、榛ト書トモ、波利ト書トモ、皆假名字ナリ、萩ノ花ノ事ト可得心也、但大木ノ榛ノ花葉、萩ニ似タルモノ歟、山人ニヨクタヅネテミルベシ

一サヽラヘ男

山ノハニ左佐良榎壮子(サヽラヘオトコ)天ノ原トワタル光ミラクシヨシモ

アメニマス月讀壮子(ツキヨミオトコ)幣(マイ)ハセン今宵ノ長サ五百夜(イラヨ)月コソ

月ヨミノ光ニキマセ足引ノヤマヲヘダテ丶トヲカラナクニ
大船ニマカヂシヾヌキ海原ヲコギ出テ渡ル月人男(ツキヨミ)
ユフダ丶ミ行カフ天道(ソラ)ノイツマデカアフギテマタン月人男
イヅレモ月ノ事ナリ

一散位　上太政大臣ヨリ、五位六位ニ至マデ、前官ノ人ノ懐帋ニハ書セタマフ事、ト和歌庭訓ト云本ニアリ

一サクラカリ
櫻狩(サクラカリ)雨ハフリキヌ同ハヌルトモ花ノカゲニカクレン
顯昭云、「サ」ハ詞ノ助、サワタルナド云ガ如シ。万ノ長歌ニ
タナクモリ雲ハオチキヌ、左雲理アメハ落キヌ云々
此左雲理ヲモ「サクラガリ」トヨメル本アリ、雨ハ落キヌヲバ、遠(〇袖ナシ)モ降(フリ)キヌトヨムベシ　ソレヲアシク心エテ、花ゾノヤマヲアサタテバトヨムニヤ、又古ヨリサマ〲ノ義アリ、或サトクラカリト云、或ハ狭也、チイサク少心ニテ、少クラカル(〇心歟脱カ)或櫻ノ狩ト云心(〇歟脱カ)、櫻ノモトヘフリクト云歟　和泉式部
サキヌラシ櫻狩(サクラカリ)トテキヌレドモコノ木ノモトニ主(アルジ)ダニナシ
道命阿闍梨

折シマレ花ノ盛ニイキタラバ櫻ガリトヤ人ハ思ハン

花見ノ御幸ニ、實隆卿

コノ御幸サクラガリトヤ思フランアナウレシゲノ花ノ景色ヤ

是等同心歟。與義抄云、或先達ノ申ハ「サ」ト云ハ「ア」ト云詞ナリ、アクラガリテ雨ハフリキヌトヨメル也、ト申セド如何ト聞ユ、櫻ヲ尋求也、何ヲモ求ヲバ「狩」ト云ナリ、又古今ニ素性ノ哥ノ詞ニ、タケガリニ北ヤマニマカリケル、トアルハ、松茸求ニコソ侍メレ、中比ノ人ノ歌ニ

春ガスミ花園ヤマヲアサタテバ櫻狩トヤ人ハミルラン

是「サ」ト云詞ノ義ニアハズ、狩ト聞タリ。私云、花ト云義ハ此花園山ノ哥ヲ、良暹打聞ニ入レタレバニヤ、アマタノ人申メリ、但アサ立テ行旅人ヲ、サクラノモトヘ來ルトヤミルラント云ツベシ、又東ニムラサキガリト云モ、紫ノ花ノサキタルニ、馬ニノリ野ニ出、弓ノハズニテヲシヘテホリトラスルトゾ申

丸云、顯昭ハ万葉ノ長歌ニヨリテ「クラカル」ト云ヲ正説ニオモヒ、タナクモリ雨ハ落キヌト云詞ト、サクラガリ雨ハフリキヌト云同詞ナリ、ト書レタルハ、左雲理ヲ「サクラガリ」トヨム流ノ万葉ノ本ヲ被レ信トミエタリ、只左雲理ハ「サクモリ」トヨメバ、何ノ疑ナシ、只此古今ノ櫻ガリノ哥ハ、櫻ヲ狩事ト申ゴロノ歌仙達ノ心得テ、雨ナクテヨミヲカレタレバ、櫻ノ字、思定ベシ、若万葉ノ「左雲理」ヲ「サクラガリ」トヨムトモ、ソレハ又別ニ「クラカル」詞ニ「サクラカル」ト云詞ト心ウベシ、雨ハ落キヌヲ遠ト心ウベキ說不レ可レ然、コレモ落字タルヘシ

一榊サスマ

古ヲオモヘバクヤシ、メノ中ニサカキサスマハオリマシモノヲ

伊勢齋宮ニハ、イマダ男セヌ女ハ、榊サスオリニハキロ(オイ)サズ、男シタル女ハ、ヲロストナン、サレバ逢事ヲイヤシムト云題ニテ俊頼ノヨメル也

一サナカツラ　サネカヅラト同

ユフダ、ミシラツキ山ノ佐奈葛後モカナラズアハントゾ思フ

ユフダ、ミ田上ヤマノ狭名葛アルモイニシモアラシメズトモ

又樣葛トモカケリ　本ノママ

丹波道ノ大江ノヤマノ眞玉葛(サネカツラ)タエンノコ、ロワレハオモハズ

又サナカヅラトモヨメリ、「カ」文字ヲ略也本ノママ

玉匣ミンマトヤマノ狭名葛サネズハツヰニアリガテマシヲ

コレハ狭名ト書テ「サネ」トヨメリ、サテ下ノ句ニサネズハト詠

玉鬘カケヌ時ナクコフレドモ何ゾモイカニアフ時ノナキ

ヤマ高ミ谷ベニハヘル玉カヅラタユル時ナクミルヨシモガナ

此葛ト葛トマギレヌベシ、又玉楓ト云事アリ、是ハ桂也、以上袖中抄

丸云、サネカヅラハ五味子カ、兎絲子ト云藥ノ和名也、サナカヅラ同ジ、玉カツラハ一切ノモノヲホムル時、玉トヲケバ、女ノ髮ヲモ、又草ノカヅラヲモカヨヒテ云ナリ、ソレ〳〵ノ哥ニテ思分ベシ、玉楓ヲ桂也ト註スルコト覺束ナシ、日吉ノ祭ニ用ル桂ノ木ノ枝ヲ、加茂ノ祭ノ葵ニソヘテ、是ヲモロカヅラト云說アレバ、ソレヲホメテ玉桂ト云ナルベシ、玉楓ハ楓字「カヘデ」トヨメバ、玉カヘデナルベシ、ソレヲイツトナクアヤマリテ、楓ノ字ヲ誤テ「カツラ」ト讀ツケタルトミエタリ、自今以後不レ可レ令ニ混亂一

歌林樸樕第廿一卷畢

【キ】

一キビナルイモヲ　應神廿二年春（丸云、春ト云迄ハ日本紀ノ巻ノ始ノ文章也）ナニハニ幸シテ大隅ノ宮ノ高臺登テ遠望、時ニ妃兄媛西ニ望テ大ニ歎ク、（兄媛ハ、吉備ノ臣ノ祖御友別之妹）帝トヒ給、對曰、妾此比父母ヲ戀ト、爰温清ノ篤コトヲ思召、淡路ノ御原ノ海人八十人ヲヨビ、水手トシテ吉備ニ送タマフ、夏四月兄媛大津ヨリ發船行、天皇高臺ヨリ望テ歌曰

アハヂシマ（淡路島也）イヤフタナラニ（弥二並也）アヅキシマ（小豆嶌也、淡路嶋与ニ小豆嶋一並也）イヤフタナラニ　ヨロシキ（宜ナリ）シマ〴〵　タカ（誰ナリ）タサレアラチシ（謂在也、言誰住セル也）キビナルイモヲ（在ニ吉備一也、妻也、又妹也）　アヒミツルモノヲ（相見也）

舊事記曰、生ニ吉備兒島一、次生ニ小豆嶌一、

丸云、ヨロシキ嶌〻タガタサレ（○アラチ歟カ）シト云所ノ註、昔ヨリ如レ此、誰住セルトアリ、「タサレ」ト云詞ノ註ハセズ、「アラチシ」ヲバ「在」トセラル、「タサレ」ト云詞、住ト云心ニ不レ叶、丸思ニ「タ」モジヲ濁テ、出サレシナルベシ、其故ハ、兄媛ノ舟ヲミヲクラルヽニ、此嶌〻サハリトナレバ、誰シワザニ、此嶋ヲ只今ツキ出タルゾ、トウラミ給ナリ、又キビナルイモヲノ註ニ、吉備ニ在ト云モ心ユカズ、今海上ノ舟ヲミテ、吉備ノ

國ニアル妹ノヤウニハイカヾヨミ給ハン、此「ナル」ハ在ニハアラズ、兄姫ハキビノ人ナレバ、吉備ノ妹ト名ニシテヨミ給ナルベシ、「ナル」ハテニヲハ也、ソレニテコソ御歌ノ結ビ句ノ「アヒミツルモノヲ」ト云テニヲハモヨクキコエ侍レ、ウゴカヌ嶋ヲ、俄ニサシ出シテミセヌハ、誰シワザトアルニテ、餘情新ニ侍ル、伊勢物語ノ、山モサラニ堂ノマヘニウゴキ出タランヤウニ、トアルモ此御哥ノ詞ヲフマヘテ習タルモノナラシ

一近習（キンジウ）

一城上郡（キカミノコホリ）　山城

一禁色（キンショク）

一チクセニ　筑前也

一訓解（キゲ）　弘法作、神道ノ書也、「キ」トヨム、「キン」トハヨマズ

一金峯山

一近習〔〇重出か〕

一格式（キャクシキ）

一御記（キツキ）

一キヽス　顯昭云、日本紀ニ雉ヲバ「キヾシ」ト云、「キジ」ハ詞ヲ略也、「キヾス」ハ異名ト云ハ僻事ナリ、此事ヲ知セン料ニ註ナリ。〔已上ハ袖中抄

丸案ニ、「シ」ト「ス」ト同音ナレバ「キゞス」モ僻事トハ云ベカラズ、キゞヨキ詞ナル故、古人ノ哥ニヨミキタレルウヘハ可ㇾ取用ㇾ詞ナリ

一キビノ酒

古ノ人ノゝマスル吉備ノ酒ヤモハラスベクヌキスタバラン

備前・備中・備後ヲバ吉備ノ三ケ國ト云、此國ニ吉備津宮ト申神イハゝレ給ヘリ、又万葉〔○抄脱カ〕ニ黍(キビ)ニテツクレル酒トモイヘリ、「ヤモハラ」ハヤム腹ナリ、イタムヤウノコト歟、貫賓給ヘ、反吐セントナリ

丸案ニ、近代備前ノ小嶋酒ナド云ヤウノ名酒、三ケ國ノ中ヨリ出タルニコソ、ヤモハラスベクハ、腹ガナヤミサウナルマゝト云心ナリ

一北ノ藤ナミ

春日ヤマキタノ藤浪サキショリサカユベシトハ兼テ知ニキ

顯昭云、藤氏四家ノ中ニ、北家一ノ人ノ流也。是ヲ北ノ藤ナミトハヨメル也

フタラキミ南ノ岸ニ家ヰセバイマヤサカエン北ノ藤ナミ

コレハ、南圓堂ノ壇ヲ築トテ、老翁ノ出來テ、人夫ノ中ニ交リテ詠、此翁ハ常說ニハ春日大明神、一說ニハ爲ㇾ春日明神御使ㇾ率川明神築ㇾ壇此哥ヲ詠。隱給畢云〻。或書云、閑院左大臣冬嗣、建ㇾ立南圓堂ㇾ給之時、夢ニ兒見來テ

フダラクノ南ノヲカニイホリセバ北ノ藤ナミイマゾサカエン

委見ニ扶桑略記ニ云々、又南圓堂ハ興福寺ノ内ニトリテ南也、補陀洛山モ天竺ノ南ナレバ、ソレニヨセテヨメリ、觀音ハ補陀洛山ニオハスレバ、フタラ君トハヨメリ、此兒ノ夢無レ謂

丸云、此兒ノ夢無レ謂ト云コソイハレナキ義ナレ、カホドノ靈驗アリシ事ナレバ、現ニモ夢ニモ其瑞ナドカナカラン、又大織冠ノ息ヲ不比等ト云、其御子武智丸ヲ南家ト云、房前ヲ〔〇北脱カ〕家ト云、宇合ヲ式家ト云、大織冠ノ女麿ト申ヲ京家ト云、此四家ノ中ニ冬嗣ハ房前ノ末ナレハ北家也、興福寺ハ不比等ノ本願也

【ユ】

一夕月夜ヲクラノ山　正徹ノ說、此歌ノ時ハ非レ月ニ夕附夜也

丸云、是ハ古今秋ノ部卷軸ニ、夕月夜ヲクラノ山ニナク鹿ノ聲ノ中ニヤ秋ハ暮ラント云哥ノ註ニ、暮秋九月盡ノ山ノ歌ニ夕月夜トハアルマジキヲ、只ヲグラノ枕詞歟ト云ニ付テ、此正徹ノ說ハ出來者也、朝月日・朝附日・夕月日・夕附日、カヤウニ附字ハ書タレドモ義モ心モカハラズ、皆月日ト書正義也、附字ハ假ニ書也、万葉ニ

朝月日向黃楊櫛雖舊何然公見不飽

殘リタル月ト出ル日トサシ向ニヨリ、女ノカンサシノ櫛ノムカフト云枕詞ニ用タル物也、サレバ附ノ字ハカケ

ドモ、月ヲ本トス、サルニヨリ、朝附日トハアレド、朝月夜トハナシ、又夕月日モ、入日ト出ル月ト向ヲ云ナリ、夕月夜トハ、三日比ヨリ七日八日前ヲ云也、イマダ滿月ナラネバヲグラキトツヾクル也、朝附夜ト云詞ナキユヘニ、月ナラズシテ夕附夜ト云アルベカラズ、初心ノ連歌師ナドニ、夕附日ト夕月日ト別ニ心エタルモアリゲニ侍ル、朝附日・夕附日ト云テモ、皆月日ノ義ナリ、朝附夜ト云字ナケレバ、夕附夜ト書ヘキ理ナシ、此古今ノ歌ノ正義ニウトキニヨリ、カヤウノ新義出來ナリ、此哥ノ夕附夜ハ、初月ノヲグラキ影ニ、鹿ノナキシガ、ホドナク秋ノ暮トナルハ、只鹿ノ中乞也、タトヘバ夏ノ夜ノフスカトスレバ郭公ナク一聲ニアクルシノヽメノ類ナリ、カヤウニソコノミシツレバ古歌ニハ邪義ハ付ラレヌ物也

一**ユタ**　ユタカナリ。万

アサカ方シホヒノユタニ思ヘラバウケラガ花ノ色ニ出メヤモ

一**ユメノウキハシ**（宗祇說）　夢無端ト書、只サマ〴〵ノ事ノハシ〴〵トモミユル夢也、源氏一部ハ三國ノ間ノアラユル事ドモヲ少ヅヽ取テ書アツメタルト云心ナリ、イカニモ秘說也

丸案ニ、夢無端ノ文字ノ出所未見、又ユメノウキバシト云詞、源氏以前ニアル事未レ知、只道ナキトコロヘモ橋ヲカケテユキカヨフ如ク、夢ハオモハヌ方ヘモ心ノユクコトハリニテ付タルカ、ト云說正義タルベシ

一**タサレ**　夕サレトハ、夕ニナレバト云事也、夕サレニトモ、夕サレノトモヨムベカラズ、哥ノ五文字ノ稽古ノ大事トハ是也、智蘊連歌ニ、サヒシクミユル春サレノ山トアリ如何、多サレ・秋サレ・春サレ・夕サレ

ハアリ、夏サレ・朝サレハナシ、夕去ニ三首ノ名歌アル間、今ハ夕サレトハヨマヌ也、塩風コシテ陸奥・野邊ノ秋風身ニシミテ・門田ノイナハ音信テ是也。以上宗祇相傳

丸案ニ、夕ニナレバト云義不レ叶、万葉ニ去ト云字ヲ書タリ、オシム時刻ハ早ク移リ去ルヤウニオボユルモノナレバ、ホメテ云ソメシ詞歟、去ヤスキト云心ヲ付テ、只春ナレバ、秋ナレバ、又春ハ・秋ハト云分計也、ナレバト云義ハワルシ、問云、賞翫故ニ春秋ニ付ル、道理ハキコエタリ、サルニヨリ夏サレトハナキニ、冬サレトアルハ如何、答云、多ハ四季ノ終ナレバ惜ム心アルベシ、問云、夕ハアハレモフカク侍レバ、去コトヲ悲テ付タルハ尤ナリ、朝モ面白モノナルニ、何故朝サレトハナキゾ、答、朝ハアサボラケトテ、一日ノ始ニテ時刻ノオシムベキ道理侍ラズ、サレバ去ノ字付ベキヤウアラズ、昔ハ此義理ニテアリケルニヤ

夕サレノ哀ヲタレカトハザラン柴ノアミドノ庭ノ松風　慈鎮

カヤウニ夕サレノトモヨメリ、此歌ヲ、夕ニナレバト云義ニハ心得難シ、サレバ智藴連歌ノ、春サレノヤマモアシキニハアラズ、是宗祇ノ御アヤマリ歟、祇ハ常縁ノ傳ヲ信ジテ不レ改人也、サアラバ常縁ノオボエチガヘナルベシ、又名歌三首アレバ今ハヨマヌト云説、甚不レ可レ然、カヤウノ制戒、定家卿ノ非ニ筆跡ニ者不レ可レ用、ホノ〴〵トアカシノ浦・月ヤアラヌ春ヤ昔ト云二バカリ侍、夕ザレバナドハ、アシ引ノヤマ郭公・久方ノ月ノカツラ・玉鉾ノ道ノ類ニテ、イクタビモ不レ苦詞ナリ、後人丸ヲアナドリテ正理ニマヨフ事ナカレ

一ユラク　ユラクハユルグ心、又ノブル心也

初春ノハツネノケフノ玉箒手ニトルカラニユラグ玉ノ緒

是家持ヨメル万葉ノ歌也、正月初子ノ日、イマダ男セヌ午ノ歳ノ女ニ、カイコノ居所ヲハカスルナリ、其箒ノ緒ノ所ハ、水晶ナドニシテカザル、子日ノ松ヲ持ソユルナリ、其緒ノユルグコヽロナリ、面ハ如レ此、下心ハ命ノノブル心也、子日ノ松ニテ千年ノ命ヲノブルコトナリ、此歌ヲ志賀寺ノ上人モ、戀ノ命ニ引被レ用也、ユルグ心ノ歌

露ナガラ浅茅ノユラグ秋風ニナビキカタヨル虫ノ聲〳〵

一ユツノツマクシ

朝マダキタブサイトナクカキナヅル神ナビクナリユツノツマグシ

公望ノ作、日本紀註云、湯津爪櫛、湯ハ潔齋ノ義也、今云、由紀ハ湯之義ナリ、主基ハ是其次也、湯ハイハヒキヨマハル辞也、津ハ語ノ助也、爪櫛ハ其形如レ爪也、或説、ユツハ湯津カツラノ木ニテ作歟、ツマハ妻ノ義也、奥義抄云、素戔烏尊天ヨリ出雲國ニ至リシニ、老翁老婆哭泣スルヤウ、ワレハ此國ノ守也、八人ノ子ヲ毎年ニ八岐大蛇ニノマレキ、此姫ヲ又トラルベシト云、尊女ヲユツノツマグシニトリナシテ、御髪ニサシタツ云ミ、トリナストハ櫛ニナス事歟、爪櫛ニハアシキモノ、ヲツル故ニヤ、シコメニ、ヲハレテ、ニグルトテ、懐ナルツマグシヲ取出シ、打マクニ、シコメ、ヲヒコズト云リ、シコメハ鬼也、トリナスハ化ト書。又齋宮群行之時、御額ニ帝櫛ヲサシテ曰、ミヤコノ方ニ長クカヘリ給ナ。又基俊戀哥

カツシレド猶ゾ戀シキワギモコガユツノツマグシイカヾサヽマシ

一ユタノタユタ

（古）イテ我ヲ人ナトガメソ大船ノユタノタユタニモノ思フ比ヲ

（万）我心湯谷絶谷浮蕁邊ニモ奥ニモヨリヤカネマシ

奥義抄云、浪ニ浮テトカクユルグナリ。万葉ハ猶豫ト書テ、タユタニトヨム、又云、寛字ヲユタトヨム、又ヒロシトヨム。隆緣云、舟ニ入水ハ湯ト云、「フナユ」是也、コレヲクミスツルヲ「ユカク」ト云、ソレカク手ヲバ「ユタ」ト云ベケレバ、大船ノユハ多カランズレバ、タユシト云心也。又万葉ノ歌ハ、フネモ蕁モタユタフ也、但長能、分別スル思ヒ哥云

ヨキコトヲユタニタユタニツクルトモ一コトヲシルマサラサリケリ

コレゾヒロキ義ニ叶也、ウキタル善事ハ、一事ヲ知ニマサラヌ也

大船ノ其ナガハマニヨルナミノ寛ニヤ君ヲ思ヒハテツル

イホハラノ清見ガ崎ノミホノ浦ノ寛ニミエツヽ物思モナシ

海原ノ道ニノリテヤワガ戀ヲラン、大船ノユタニ有ラン人ノ子故ニ

一ユハタ

柏木ノユハタ染テフ小（「ムラサキノ」イ）紫アハンアハジハ灰ノコヽロニ

顯昭云、纈（ケツ）字也、順和名云、纈革（ユハタカハ）・蘇芳革・黄櫨（ハジ）革・交纈（カウケツ）革・紫革・緋革
今案ニ、スワウ・ハジ・カウケツ・ムラサキ・カラアケラノ外ニ、ユハダガハヲ上タリ、色々ノ交タレバ錦革
ヲ云ベキ歟、サレド紫ノ大纈トアルハ、色々ナラネド文ヲ云歟、今ノ歟モユハタソムテフトアレバ、色ノ外ニ
別ニ「ユハタ」ト云事アルベシ、纈字ハ「ク、ル」トヨメリ、詩ニモ苔纈（クヽル）池ト作リ、纐纈ト申モ文ニ可レ付歟、黄
擲纈ハ黄ナルヲ云也、又纈字ハ斑（マタラ）也ト訓ゼリ、柏木ハ兵衛也、彼府ノ太刀ノ緒ハ紫革也、衛門馬寮ノ太刀ノ緒
ハ藍革也、文ハ四季ニ随サマ〴〵カハル、又玉篇ニ綵（サイケツ）纈ト云モイロヘタル心ナリ、狡ノ字ヲ斑（マタラ）也ト云モ同心
也、唐韻ニ纈ハ帛也ト云ハ、ハクノキヌ也、サレバユハダノキヌトヨム也、革ニテアランコトヲ不レ可レ嫌、纈（ユハタ）
ノ障子トモ有

ムラサキハ灰サスモノヲツバ市ノヤソノチマタニアヘルコヤタレ
トシヒサニユハタノキヌヲトリタテ、神ニゾマツル君ニアハンタメ（万代マテニィ）
顯季

基俊ハ、ワギモコガユハダノヒモトヨメリ、錦ノヒモト同ヤウノ心歟、又メユヒト云事ハ如何トキコユ、纈字
ニユハダク、ルト云訓ノ外未見者也
丸案ニ、ユハダト云物、色ニモアラズ、紋ニモアラズ、革ニモ不レ定、目結ニモアラズ、錦ニテモ非ズ、革ニ
モアリ、絹ニモアリ、紐ニモアリ、障子ニモアリトミエタリ、右ノ註如レ形カラノ書ヲ引出シ給ヘドモ、顯昭
モ分明ニハシラレヌ躰也、兵衛ノ官人今モ侍ベケレバ、ソレヲミテ知ベキ事ナルヲ、上代ノ如クニナケレバコ

ソ顯昭ノ時代ニモ、エシラヌヤウニ書ヲカレ侍レバ、シレヌ事ニ極レリ

丸案ズルニ、是ハシホノアル事ナルベシ、カラ革ニモシホノユキタルアリ、絹ニモチリメンナド、云ハ、シハヨリタルアリ、障子ニユハダノアルト云ハ不審ナガラ、カラ帋障子・襖障子ナドハ紋ヲ高ク雲母ニテヲキ上ニスレバ、是等ヲ云歟、其故ハ「ユハダ」ト云義ハ柚ノ皮ノヤウナルハダヘト云ヨリツケタル名トミエタリ、兵衛ノ太刀ノ紐、イヅレモシボノ行タルニ定タルユヘニ、ユハダトイヘバ、シボノヨリタルモノニ心得ラル、歟、恩ヲシラヌハ畜類ニ同ジ、歌人多ケレドモカヤウノムツカシキコトヲ書トヾメテ、今ノ我等ニ智惠ヲ付給フ顯昭ノ御心根、アリ難事也、大知識也、大仁者也、此道ニ此泆橋ホド功忠アル人無之、ヨミ方ニハ定家卿、歌學ニハ顯昭也、此兩人ノ御恩ヲシラヌ好士ハ冥加アルベカラズ、何ニテモ編ヲカレケル書ヲミテ、何トモオモハデ、結句アシキコトアレバ誹謗ヲナス人アリ、心得ヌ事ナリ、ヨクトアシクト書トメテ末代ニシラシメント思心ヲ感ジ、一切ノ物ノ本ヲバイタヾキテミルベキ事也

一ユサハリ

梅ガ枝ニユサハリシタフ鶯ヨ梅ノムバラニシリアヤ〔〇ヘ補〕フタヘ

顯昭云、ユサハリハ、ユサフリト云遊也、「ハ」ト「フ」ト同音也、古今藝術圖云、鞦韆（ユサフ〔〇ハ補〕リ）以二綵繩一懸二空中一以爲レ戲也。採姫式云、鞦韆以レ笠懸二錦羽之用ニ柳絲ニ鞦韆於レ枝恐ニ鶯尻之刺ニ梅針一如本

青柳ヲカタイトニヨリテ鶯ノヌフテフカサハ梅ノ花笠

丸案ニ、今小兒ノプラコ、トテ、フゴナドニノリ、ブラサガリテアソブコト也、詩ニモ鞦韆トアル歟、ユサフリト云ハ「ユ」ハ結(ユフ)也、上ヲツヨクユヒツケル事也、「サ」ハサカル也、フリハ振(フリ)也

一ユキアヒノワセ

乙女ラニ行アヒノワセヲカルトキニナリニケラシモ萩ノ花サク

顯昭云、ユキアヒノワセトハ、所ノ名ヲワセニヨミ付ダルナリ

ユキアヒノ坂ノフモトニヒラケタルサクラノ花ヲミセンコモカモ

丸云、此說尤可ㇾ然、色々ノ苗ノ稱ノ変テ、行アヒ次第ナル、ト云說ハツクリゴトナルベシ

一ユフツケ鳥

相坂ノユフ付鳥ニアラバコソ君ガユキ、ヲナク〱モミメ

顯昭云、世ノサハガシキ時、四境祭トテ公ノセサセ給ニ、鷄ニ木綿ヲ付テ、四方ノ關ニ到テ祭也、此歌ハ中納言源昇朝臣ノ近江介ニ侍ケル時ニ、閑院カヨミテヤリケルナリ

丸云、閑院ノ下ニ、人ノ名ニ閑院ノ中ノ誰トアルベシ、閑院ハ所ノ名ナリ、四境祭ノ事、イツノ御代ニアリシコト、云コトヲ未ㇾ勘、四境ト云ハ東ハ相坂、南ハ木幡、西ハクスハ、北ハクラマ也、ナラノ京ノ時ハ、立山、須磨トバカリニテ、今二方ノ關モ申サレズ、人ノカタラレ侍レドモ、タシカナル出所未ㇾ見バ疑多侍ル、或說云、鷄ハ不見跡トナク、故ニカレガ尾ニ四手ヲカケ、關ノ外ヘワザワヒ(禍歟 災也)ヲ放チヤルマジナヒ(呪也)也、但東山左府管

範公ノ書ニ、三關、相坂・鈴鹿・不破トアリ、此外ニクラマヲ入ルニヤ、或書ニ、クラマヲ入トアリ、大和物語ニ、ヤマトノ國ナリケル人ノ女、イトキヨラカニテアリケルヲ、京カラキタル男、カヒマミテケルニ、イタウウツクシゲナリケレバ、ヌスミテ馬ニカキノセテ、ニゲテイニケレバ、アサマシウオソロシト思フニ、日クレテ龍田山ニヤドリヌ、草ノ中ニアブリヲトキシキテ、女ヲイダキテフセリ、女オソロシトオモフ事限ナク、侘シト思テ、男ノモノイヒケレド、イラヘモセデ泣ケレバ、男

タガミソギユフツケ鳥カ唐衣タツタノヤマニオリハヘテナク

女返シ

立田ヤマイハネヲサシテ行水ノユクヱモシラヌワガゴトヤナク

トヨミテ死ニケリ。私云、此タガミソギノ哥ハ古今ニ入。童蒙抄云、齋宮ノ、業平ガ爲ニ祓シテイダシタリシ鷄ヲ、ユフツケテ相坂ノ關ニ放タリシニヨメリ、顯長卿云、鷄ノ尾ノ長白ヲシラユフ付タルニ似タレバユフ付鳥ト云也、是等ノ說無二其證一、四境祭鷄ニ木綿ツクル事ヲ不レ知ナリ

歌林樸樕第廿二卷畢

【メ】

一乳母沙汰

一メザシ

ココロギノ磯立ナラシイソナツムメザシヌラスナ沖ニヲレ浪

キノクニノナグサノ濱ニ貝ヒロフアマノメザシノヲトナ、リセバ

メザシハ女童也、顯ノ説ハ目ト云字ヨリ付タル歟、不レ可レ用

【ミ】

一ミキノサヲハシ　付ミキノ國　景行天皇筑紫ノ道後國ノ御木ニ到テ、高田ノ行宮ニ［〇脱カ］僵タル木ノ長九百七十丈アルアリ、此木ヲフンデ往來ス、時人哥云

阿佐志毛能（朝霜ハ消ヤスキニヨリ、ミケノ發語也）彌概能（御木也、所名也）佐烏麼志（竿橋也、言一橋ナリ）麼幣菟耆彌（群臣也）伊和多羅秀暮（渡也、伊助語也）彌開能佐烏麼志

天皇何ノ木ゾト、ヒ給ヘバ、一老夫曰、是樹ハ歷木也、イマダタフレザル時ハ、朝日ノカゲヤカスニ杵嶋ノ山ヲ隱シ、夕日ニハ阿蘇山ヲオホフト申、天皇是ハ神木也、故此國ヲバ宜レ号ニ御木國ト云々

一ミナソコノオキ　万葉

海底沖津白浪立田山何時越奈武妹之當見武　トアルヲ

ワタツミノオキツシラ浪タツタヤマイツカコエナンイモガアタリミン　ト

カンナヲツケタリ、是ハアヤマレル歟、是ハ日本紀ニ、應神（〇仁德の誤）天皇十六年秋七月、以ニ宮人桑田ノ玖賀媛ヲハ示ニ近習舍人等ニ曰、朕欲レ愛ニ是ノ婦女ヲ苦ニ皇后之妬ニ不レ能レ合、以經ニ多年ヲハ何ゾ徒ニ棄ニ其盛ナル年ヲ乎、即歌曰

ミナソコフ（水底歷也）ヲミノ（女子也）ヲトメヲ（乙女也）タレヤシナハン（玖賀媛誰養也）

凡御哥意者、以ニ玖賀媛ヲ可レ賜ニ何臣ニ哉之由也、水底歷者忍義歟

丸云、万葉ノ歌モ、此御哥ヲ本歌ニシテヨム歟、水底ハ忍心也、万葉ノ沖ハ奥ト云心歟、底ヨリ奥トツヾケ侍ナルベシ、ワタツミノ沖トハ何ノ心モナキツヾキニテ面白カラズ

於是播磨ノ國造祖速待獨進之歌曰

ミカシホ（三日闕（〇潮誤）也、私記曰、三日之闕（〇潮誤）其流急速、故欲レ讀ニ早待ニ之發語、置ニ此言ニ也）

ハリマハヤマチ（播磨早待也）イハクダル（岩下也、私記曰、巖石自レ嶺下レ潤之時、人何ゾ不レ然慎（〇恐懼

釋）仍欲レ言ニ恐悚ニナラ之發語、引ニ此辞ニ乎）　カシコクトモ（畏也）　アレヤシナハン（吾養也）

即日以ニ玖賀媛ニ賜ニ速待ニ

一ミヤマガクリテ　コレハ顯宗天皇ノ父ノ御死骸ヲ埋シ所ノシルベセシ、近江ノ置目トイヘル老嫗ヲ、宮中近ヲカセメグマセ給ベトモ、近江ヘカヘリタク思ニヨリ、心ノ如ク古郷ヘカヘサセタマフ時ノ御歌ニ

オキメモヨ（置目也）　アフミノヲキメ　アスヨリハ　ミヤマガクリテ（御山隱也、利与レ礼五音通）　ミエズカモアラン

一宮司（ミヤツカサ）

一恩頼（ミタマノフユ）　多ノ玉祭ヲ云

一御八講（ミハカウ）

一ミノシロ衣　襲ノカハリニキル上着也。又祈ノ時ナテモノニ出スキモノ也

一ミナムシロ　石ヲ云歟、水筵ト書

木ガクレテ浪ノオリシク谷川ノミナムシロニモ月ゾスミケル

一水陰草ハ　稲也、萩ヲモ云、ミソハギ也、其時ハ水懸草也

アマノ川水カゲ草ノウチナビキ玉ノカヅラモ露コボルラン

一ミテクラハ（宗祇説）　神ヘ進物ヲ云。ユサハラヒ也、又太神宮ノ御祭ナドニ、荷ザキノ箱トテ色々ノモヲ入、大

內ヨリ以二勅使一被レ進ヲ云

丸案、神樂ノ採物（トリモノ）ノミテグラ幣也、シカレバ幣ヲミテグラト云歟、ミテハ御手、グラハ、ホコラ歟、ホクラ也、神ノ御手ニアルホコラト云事ナルベシ、【頭注。採撫物カ但狩物カ】

一水ナハトハ　水筋トテ河中ニ水ノツヨキ筋アリ

ヤマ風ノイハセ吹コス音羽河イソグ水ナハニクダル年浪　定家

右祇說也

丸案ニ、水筋ノ事難レ信、タヾ水泡ナルベシ、水筋トハ水ノ繩ト心得タル也、ミナハヽ、水淡也

一ミヽラクノシマ

ミヽラクノ我日本ノ嶋ナラバケフモミカケニアハマシモノヲ　俊頼

尼上ウセ給テ後ヨメル。能因坤元儀云、肥前チカノ嶋ニ、ヒヽラコノ崎ト云所ニハ、夜トナレバ死タル人アラハレテ、父子相ミルト云ヽ、万葉第十六云、肥前國松浦縣美禰良久崎（ミヽラクノサキ）發レ舶（イタスフネヲ）云ヽ。俊頼ハ非二日本一トオモヘリ、ヒヽラコ、ミヽラク同事也

一ミツヽノ柏

ワギモコガミモスソ川ノ岸ニ生ル人ヲミツヽノ柏トヲシレ

輔親集云、齋宮ノ女房ドモ、ミツノ柏ト云柏ヲオコセテ、是ハ何トカ云トイヘバ詠スル哥也。中納言俊忠卿ニ

テ俊頼、占ニ逢事ニ戀ニ

神カゼヤミツノ柏ニコト、ヒテタツヲマ袖ニツ、ミテゾクル

ナクルニ立ハ叶フ、タ、スハ不レ叶、太神宮ニテノ占也、御綱葉（日本紀）三角柏（國史）三綱柏　延喜式　ミツノ・ミツハ（○ナカ）同

一ミヤコノテブリ

アマザカルヒナニイツトセ住居シテミヤコノテブリ忘ラレニケリ

ミヤコノフルマヒ也、六条修理大夫歌ニ

カスミタツクラマノヤマノウス櫻テフリヲシテナ折ゾワヅラフ

是ハ供奉人ノ手振、馬副ノテフリニヨセタリ、クラマノ山ノウズハ、カザリ馬ノカラクラノ雲珠ニヨセタリ

ウキ身ニハ都ノテブリワスラレズヒナヘサソハンアヅマヅモガナ

アヅマヅハ東人ト云

里人ノミルメハヅカシサフルコニサドハスキウキ（○ミガカ）ミヤデシリフリ

サフルコハ、遊行女婦之字也、ミヤヂハミヤテ也、（○チとテと入替るか）「チ」ト「テ」ト五音同也、シリフリトハ、シリウチフリテアリク也

丸染ニ、コレラハ手フリ・尻フル也、ミヤコノ手フリヲ、綺語抄ニ、ムマノ花ムケヲ云トカ、レタリ、ソレヲ

ゲニトモキコエズ。公實卿百首ニ
　飯コンホドモサダメヌ別ヂハミヤコノテブリ思出ニセヨ
是ハ、ハナムケトキコユ、万葉ノ哥ノ「テフリ」ハミヤコノフルマヒ也
一ミヤヒ　色々ノ註アレドモ、口傳ニハミヤコビタル也、風流ナル事也、イヤシキコトヲ、ヒナビタルト云詞ノウラ也
　梅花夢ニカタラクミヤビタル花トワレオモフ酒ニウカベコソ
　ミヤビタル辟ニモアルカナサヲシカノフカキヤマベニスマフモノカラ
一ミクマノヽ浦ノハマユフ
　ミクマノヽウラノハマユフモヽエナルコヽロハオモヘドタヾニアハヌカモ
非紀國伊勢ノ名所也。但クマノヘ詣トテ、人ノモトヘツカハシケル　　道命阿闍梨
　忘ナヨワスルトキカバミクマノヽ浦ノハマユフウラミカサネン
コレハ、紀州ノクマノ也。童蒙抄云、ハマユフハ莖ノ皮ウスクテ多重ル也、是ハイセノクマノヽ浦ニアリ、大嘗ノトキハ、鳥ノ足ツヽム料ニ、イセノハマユフヲメスト云
一ミヤマトシミ
　梅花ミヤマトシミニアリトモヤカクノミ君ハミレドアカニケン

「トシミ」ハ「トキシミ」ノ「キ」ノ字ヲ略歟、「トキシミ」ハ常ニト云コト也、「トキ」ハ常也、時也、「シミ」ハ「シゲミ」也、トキハカキハニアリトモナリ

一ミタラシ河　神前ノ河ヲ云。京極御息所春日社歌合ニ

　カスガノ、松シカレズハミタラシノ河ノ流ハタエジトゾオモフ

堀河院百首　匡房

　神山ノフモトヲトムルミタラシノ岩打波ヤ万代ノ數

コレハ賀茂也、イヅレノ社ニモ川アラバヨムベシ

一水カケ草

　アマノ河水陰草ノ秋風ニナビクヲミレバ時ハキヌラシ

顯昭云、水ノ陰ニ生タル草也。万葉ニ

　山河ノ水陰ニ生ルヤマスゲノヤマズモイモガオモホユルカモ

是ハ、菅ト名ヲサス、天河ノハ何ニテモ侍ベシ、凡天河ニ草ノ生事アルベカラザレドモ、ツネノ川ニナズラヘナヨムナリ、又万葉ニ、天河ニ田鶴・ヌエ・鳥ナドモヨメリ、或說ニ雨ハ天河ノ水也、シカレバ苗ヲ水懸草ト云々

私案ニ、苗ヲ云ナラバ水ヲカクル草也　万葉ニ懸字モカヽズ、又別ニサアルベキ歌ナシ、只水ノ陰ナル草ナル

ペシ

一ミコシヲカ

ミコシヲカイクソノ代々ニ年ヲヘテケフノ御幸ヲ待テミツラン

顯昭云、ミコシヲカハ常盤林ノ西ニアリ、嵯峨野行幸ノ時、御輿昇（カキ）スヘ奉シ所也。奥義抄云、此哥ニハ延喜御時、北野行幸ニ御輿ヲ昇テト有、歌ニハミコシヲカト有、是ハ所ノ名也、北野ノ方ニアルニヤ、或人云、近衛ヲバミコシ長（オサ）ト云、枇杷大臣ノ近衛司ノ時ヨミタマヘル歌也、又彼大臣、其時若人ニコソオハシケン、イクソノ代々ニトシヲトアルモ心エズ、猶所ノ名ニテアルベキニコソ。追考、御輿岡ハ北野ノ方ニ有云々。野行幸ニ駄餉ノ所也云々。今案云、後撰詞ハ御コシヲカニテトアルベキヲ、ミコシヲカキテト云ナシタル也、えノ字ヲきト書ケル也、撰云、枇杷大臣御コシヲ昇テ、御コシ長トヨムヘカラズ、イクソノ代々ト侍、即是也

一ミヲツクシ

君コフル泪ノトコニミチヌレバミヲツクシトゾ我ハナリヌル

顯昭云、河江ナドニ水ノフカキ所ヲ澪ト云、濺トモ云、其ミヲノシルシニ立ル木ヲ云也、世俗ニハミヲシリナド云、又水脉舟ト書テハ、ミヲビキノ舟トヨメリ

水閂御行心ツクシテ思フカモコノマモコ●「モ袖」トナユメニシミユル

「コノマ」●「コヌマ」トヨメル歟、又土左日記云、ミヲツクシノモトヨリ出テナニハニ付河尻ニ入ト云リ、國史

ニハ難波津ニ始立ニ澪標ニ之由アリ、其年月可レ考、攝津ニミヲツクシヲバタテラレヌ、身ヲツクシト云所モ有

バ、外ニハヨマン事モハヾカラハシキニ、万葉ニ

トヲツアフミイル〔〇ナ袖〕サホソ江ノミヲツクシアレヲ頼テアラ〔〇サ袖〕マシ物ヲ

又相摸ガ歌

住ヨシノホリ江ニサセルミヲツクシフカキニマケヌ人ハアラジナ

河ニヨメル歌

河浪モウシホモカヽル澪標ヨル方モナキ戀モスル哉

能因歌枕ニ、水ノフカキ所ニタツル木也

歌林樸樕第廿三卷畢

歌林樸樕　第廿四

【シ】

一シタヽミ　日本紀第三、神武冬十月、其嚴瓮ノ粮ヲ嘗給ヒ、兵ヲトヽノヘテ出、先八十梟帥ヲ國見ノ丘ニウチ破斬、コノ役ニ天皇志必克ナント存給ハリ、乃御謠之曰
伊齊能于瀰能於費異之珥夜異波臂茂等倍屢之多儴瀰能阿誤豫之多大瀰能異波比茂等倍離于智弖之夜莽務
イセノウミ（伊齊ハ伊勢也）　オヒイシニ（大石也）　ヤエ（八重也、伊江五音通）　ハヒモトヘル（匍繞ナリ）　シタヽミノ（貝名也）　アコヨ（小兒ナリ）　シタヽミノイハヒ（石間也）　モトヘリ（繞ナリ）　ウチテシ（擊也）　ヤマン（止也）
歌ノ心、大石ハ、此國見丘ニタトフ、ヤソタケルヲ、シタヽミノ貝ノ、石間ニツキマトヘルニタトフ、アコハ小兒也、アナドリヤスキ義ナリ、餘黨マデウチヤマントナリ

一シマツトリ　神武イセノイクサニカチ、又磯城彥ヲセメントスルニ、介胄之士ツカレタル時、謠曰
多々奈梅弖（楯並也）　伊那瑳能椰摩能（山名）　虛能莾由毛（自二木間一也、由字有二与利之訓一）　易喩耆（行也、易助語）　摩毛羅毘（守也）　多々介陪磨（戰也、言于（〇互釋）守戰也）　和例破耶（我早也）　隈怒（飢也、略レ字也）　之摩途等利（島津鳥也、私記曰、欲レ謂レ鵜之發語也）　宇介譬餓等茂（鵜養等也）　伊莽（今也）

縫聞耳（助也、言扶也） 虚禰（來也、私記曰、言助レ我而來也）

古事記曰、擊ニ兄師木弟師木ニ之時、御軍暫疲、尒哥曰、

御哥ノ心ハ、山ノ木間ヨリハ、戰來事長ニヨリ飢タリ、人來テタスケヨナリ、別而ウガヒヲサスハ、件鳥ハ魚ヲノミ入コトタヤスキニヨリ、皇軍ノ食政タヤスキニヨスル也

一シホセノナヲリ 仁賢カクレ給テ後、武烈天皇イマダ太子ノ時平群眞鳥臣政ヲ恣ニス、太子物部麁火遉女影媛ヲ聘ントオボシ媒ヲ以媛ガ宅ニテアハントノ給フ、影媛眞鳥大臣ガ息ノ鮪ニハヤ逢シ故、ソレヲ心ニ恐、海柘榴市巷ニテアヒ奉ント云、太子近侍ノ舍人ヲ以平群大臣宅ニ官馬ヲコハシム、大臣戲ニ言陽テ官馬ハ爲レ誰飼養カシコマリタルト云テ、久マイラサズ、太子心ニ恨タマヘド色ニイダサズ、約束ノ所ニ行、歌場衆ニ影媛ガ袖ヲトラヘ立ヤスラヒ給所へ、鮪臣俄ニ來リテ太子ト媛ガ間ニ立、コレニヨリ袖ヲハナチ立ノキ鮪ニ當テ歌曰

シホセノ（潮瀨也） ナヲリヲ（師說謂レ砂也、私記曰、波ノ邊ヲ打依久留也） ミレハ（見也） アソヒクル（遊來也） シビカ（鮪也） ハタテニ（鰭手也、魚比礼也、言隱ニ于袖一也） ツマ（妻也） タテリミユ（立見也）

鮪答哥曰

ヲミノコノ（女子也） ヤヘヤ（八重也） カラカキ（唐垣也） ユルセトヤ（赦也） ミコ（御子也、謂二太子一）

凡歌意者、鮪以前已奸二影媛一、豈可レ容レ赦哉之由也

丸云、是ヨリアトニ始テシロシメシタリトアレバ、コヽノ哥ナドヲバタヾ鮪ガタハブレテ、ザレゴトニ妨申ト、太子ハ思召シトミエタリ

太子歌曰

　オホタチヲ（大太刀也）　タレハキタチテ（誰帶立也）　ヌカストモ（雖不拔也）　スエハタシテモ（末果ナリ）
　アハントソ思フ（遇思也）

凡御哥意者、鮪之答歌无礼之間、太子已御念怨、只今縦雖レ无二誅戮一、可レ有二御報尉一之由也

丸云、此註心ユカズ、コレハ太刀ヲハキ、ソリヲカヘシテ、ヌキハセズシテヲドス者アリトモ、我ハソレニヲザヘラレズシテ、終ニアハントノ心ナルベシ

鮪臣答歌曰

　オホキミノ（大君也）　ヤヘノクミガキ（八重組垣也）　カヽメトモ（謂雖レ緊也、一説カコメトモ也）　ナヲ
　（猶也）　アマシミニ（謂レ不レ遇也）　カヽヌ（不レ緊也）　クミカキ

凡歌意者、縦亦雖レ不レ籠二居（〇子釋）檜垣一、聞二我威勢一、太子豈可二遇給一哉之由也

丸云、此註如何、アマシミト詞未レ知事也、モシ餘身歟、タトヘバモノヽ數ニ不レ入モテアマシタル身ヲ、古詞ニアマシミト云歟、シカラバ鮪ガ我身ヲサシテ云也、ソレナレバ歌ノ心キコエタリ、大君ノ八重垣ヲバカキ給

ヘケレドモ、ミヅカラガ垣ノヤウニハエカキコ゛メ給マジキト云義也

太子歌曰

ヲミノコノ(女子也) ヤヘノ(八重) シハカキ(柴垣也) シタトヨミ(謂雖レ蹈レ垣) ナヰカヨリ(自レ無也)

コマ(小間也、言自ニ垣之間一也) ヤレン(破也) シハカキ(柴垣ナリ)

凡御哥意者、匪ニ啻確ニ執ニ影媛一ヘ、雖レ挿ニ獨歩之心一ヘ、如ニ柴垣之破一ヘ、遂可レ被ニ滅ニ亡鮪臣一之由也

丸案、此詞皆アヤマリ歟、此御哥ノ心ハ、八重垣ヲシテカキコメタリトモ、其垣ノ下ヨリ流トヨミ、ワガ通當來テシタヒタラバ、其八重ノ柴垣モヤブルベシト也、コレマデハ太子ノ鮪ガ實ニ惜トハシロシメサズ、タハノレテ云ト心得テ、問答シ給フトミエタリ

太子曰ニ影媛一歌曰

コトカ゜ミニ(異身也、言差ニ鮪臣一也) 丸云、鮪ガ所ヘ來也 キヰル(來居也) カゲヒメ(影媛也) タマナラバ(爲レ玉也) アガホ

ル(我保利須留省語乎、或說、欲也、或說、明之義也、先師云、明之義可也)(丸云、明ニホルハ、光也)

タマノ(玉也) アハビ(鮑也) シラタマ(白玉也)

凡御哥意者 以ニ影媛一喩レ玉、吾雖レ欲レ之、寄ニ居于異人之方一ヘ、片思之間寄ニ鮑玉一也

鮪臣爲ニ影媛一答歌曰

オホキミノ(大君也) ミオヒノ(御帶ナリ) シツハシ(端也) ムスヒタレ(結垂也) タレ(鮪也) ヤシヒ

ト（卑人也）　アヒオモハナクニ（相憶）
歌意者、君之装雖レ貴、本自只相ニ憶卑人一鮪之臣由也
丸云、此註相違歟、是ハ御哥ニコトカ身ニ來キルトアソバシタルハ、ツバキ市ヘ來テ鮪ニソフトアルヲウケテ、我ヲバイヤシキ人モ思申サズト、媛ガ哥ニナシテヨミシヲ、シロシメシテ、其時鮪ガ眞實ニ契シ事ヲシロシメスナリ、シヅハ下字歟
太子聞鮪ガ影媛ヲ得シコト、父子共無敬ノ心ヲシロシメシテ、大ニ怒タマフ、此夜速向ニ大伴金村連宅ニ、兵ヲツトヘ鮪ヲナラ山ニテキリツ、此キラレシ所ヘ影媛尋行、悲テ歌

　イスノカミ（石上也）　フルヲ（布留也）　スキテ（過ナリ）　コモマクラ（薦枕也、私記曰、古以レ薦爲レ枕、云レ高ニ之眼目一須故欲レ言レ高之始有ニ此言一乎）　タカハシ（高橋所名也）　スキ（過也）　モノサハニ（物多也、私記曰、家多レ物、故有ニ此發語一乎）　オホヤケ（多宅也、言多過ニ在家一也）　スキ（過也）　ツマゴモル（妻籠也）　ヲサホヲ（小澤也、褒与レ波五音通）　スキ（過也）　タマケニハ（玉笥也）　イヒサヘモリ（飯盛ナリ）　タマモヒニ（謂玉笥也、比之訓並也、言並ニ于飯一盛レ水之義也）　ミツサヘモリ（水盛也、言人死之後、備ニ飯水一也、今世如レ備ニ靈供一）　ナキソボテ（泣擧也）　ユクモ（行ナリ）　カゲヒメアハレ
凡歌意、遠尋ニ行鮪之刑所一、行ニ哀傷一也
又

アヲニヨシ　ナラノハザマニ（奈良之間ナリ）　シヽニモノ（丸云、死者也、私記曰、尒保鳥好入ニ水中ー、故假喩ニ于今死人埋ニ土中ー、故謂ニ内尒保ニ）　ミツノ（〇ク紀）ヘ（水滄也）　ミモリ（漏也、御者助語也、言欲レ謂漉之發語也）　ミナソコノ（〇ク紀）（皆灑也、言墳墓之邊灑レ水也）　シビノ（鮪ナリ）　ワクゴヲ（若子也、謂レ夫也）　アサリ（丸云、求食フルコトナリ）　フ（〇ツ紀）ナ（謂ニ葬礼ー也）　イノコ（猪子也、影媛之自称ナリ）

凡歌意者、行ニ鮪之葬礼ー也

丸、此註如何、シヽニモノ、是ハ鳥ニハ非ズ、死シ者、ミヅノヘ、水上也、ミモリ、水漏也。ミナソコ、水底ナリ。シビノワクコヲ、鮪ハ魚ナレバ、水底ト云ナリ、アサリフナ、求食スナ也、イノコ、豕也、コレハ、鮪ガ尸ヲ影媛ガ埋テ、ソレヲ猪ニホリヲコスナトヨム哥ナルベシ

一シナテルヤ　推古廿一年冬十二月、庚午朔、皇太子遊ニ行於片岡ニー、時ニ飢者臥ニ道垂ー、仍問ニ姓名ー、而不レ言、皇太子視之、與ニ飲食ー、即脱ニ衣裳ー覆ニ飢者ニ而言、安ク臥也、則歌テ之曰

シナテルヤ（級照也、私記曰、山乃之奈良倍留也）　カタヲカヤマニ（片岡山也）　イヒニエテ（飢飯略字也）　コヤセル（私記曰、師説、寝臥之義也）　ソノタビト（其旅人也）　アハレ（哀也）　オヤナシニ（無レ親也）　ナレナリケメヤ（成也、或云、那礼者汝也、言飢ニ臥于道路ニ者、無レ親與之由也）　サスタケノ（私記曰、師說、謂レ矢也、言以レ矢刺レ身之事、甚可ニ恐懼ー、故欲レ言レ君之發語有ニ此辭ー也、或說、古謂レ刺ニ胡錄ー之矢ー

爲ニ刺矢一也 阤氣謂レ矢也） キミハヤナキ（無君也） イヒニエテ（飢レ飯也） コヤセル（謂ニ寢臥一也、縮レ詞也） ソノタビト（其旅人也） アハレ（哀ナリ）

辛未、皇太子遣レ使ヲ令レ視ニ飢者一、使者還來之曰、飢者既ニ死、爰ニ皇太子大悲之、則因以葬ニ埋於當處一、墓固封也、數日之後、皇太子召ニ近習者一謂之曰、先日臥ニ于道一飢者、其非ニ凡人一、必眞人也、遣レ使令レ視、於レ是使者還來之曰、到ニ於墓所一而視レ之、封埋勿レ動、乃開以見、屍骨既空シ、唯衣服疊置ニ棺上一、於レ是皇太子復返ニ使者一、令レ取ニ其衣一、如レ常且服矣、時ノ人大異之、曰聖之知レ聖其實哉、逾惶、

裏書云万葉第九、級照片足羽河之左丹塗。万第六刺竹齒隱有吾背子。万第三家有者妹之手將纏（○草枕客爾臥）臥有此旅人阿怜。挽哥。上宮聖德皇子出ニ遊竹原井一之時、見ニ龍田山死人一悲傷御作歌、黎田宮御宇天皇代

丸云、此御歌拾遺集ノ終ニ、三十一字ノ歌ニシテ、次ノ句ハ、詞ノヤウニ書ナシ入テ、返哥ニ又、イカルガヤトミノ小河ノタエバコソワガ大君ノ御名ハワスレメト云歌ヲ入タリ、日本紀ナラデ別ノ本ヨリ習出トミエタリ、サテ哥ノ面ハ、シナテルハ、山ノ出入アルハ、日影ノアタル所、アタラヌ所、シナ〴〵アレバ、山ヤ岡ノ發語ナリ、片岡山ハ名所ナリ、ソコニ臥タル旅人、アハレ親ナシトヤ、昔ヨリ世云傳タルハ、達磨大師ノ此土ニワタリ給ヲ、太子ノ今ハ早シ、佛法ヒロマリテ後ニ來テ禪法ヲヒロメタマヘト云テ、天竺ヘモドシ給ト云ミ、シカラバ此哥ノ裏ノ說、シナテルヤハ不レ死而居也、飯飢テハ、佛ハ法喜禪悅食トテ、法味ヲ委命トンタマヘバ、佛法日本ニナクシテ、飢給タルト云ニヤ、サス竹ノ君ハ、ナニトモシラレヌ事ト古來云コトナリ、サ

ス竹ハ、天ヲ云トアレバ、天字ハ天字ヲカタドリタリ、竺ハ竹也、天竺ト云事ヲコメ、折節竹原井ニ遊タマヘバ、天竺ノ君トハ云歟、此君ハ法王歟、瞿曇タルベシ、キミハヤナキハ、前佛ハ早無歟、云心ハ遶轉ノ天下ニ禪ヲヒロメント、大慈悲ノ心ニテワタリ給ヘドモ、前佛ハ既ニ去タレバ、親ナキ躰ナリ、佛ハ世ノ父ナレバ也、サレバ父モナク、傚モナキ躰ヲノベ給歟、ナレナリケメヤハ、汝也、ナリハ、成也、成就歟、ケメヤハ、キエメヤ也、滅ノ字ナルベシ、サス竹ノ君ハ別ニ有二秘傳一

一シモサマヨリ　下様也

一神供(シンクウ)

一淑景舎(シゲイシヤ)

一シヤウテン　釋奠トテ、二八月ニ孔子・顔回・九哲ノ像ヲマツラル、コト也

一シノブモヂズリ　スリヲス ム説不レ用

一周易(シユヤク)　シウエキトハヨマズ

一宿仕之人(シユクシノヒト)

一拾遺(シフヰ)

一種子(シユシ)

一塵外(ヂンクハイ)

一霜ノフリワ　一説フリハ場。丸有ニ別義

一シヅリ　雪ノ消方ニ、木ヨリ落ナリ

一シラヅクシ　ミヲヅクシ也

一シマ鳥　嶋鳥ハ鶏ナリ

一シク〳〵　シキリ也

一シビラ　袴ニウラツケタル也

一四境ニ鶏ヲ放闘ハ　相坂・立田・大江・クラマ

一シヲリ　信折ト云、宗祇説

丸案ニ、シヲリハ道ノシルベニ木ノ枝ヲ折カケテ、シルシニスレバ、信ノ字ノ心モ侍レドモ、正字ハ枝折也

一シラヌヒノツクシニ　二説アリ。一ニハ、白縫ニ手ヲ盡也、一ニハシラヌ火ノ古事也

丸案ニ、万葉ニ字ヲカリテ白縫ト書シニヨリ、手ヲ盡ノ義ヲマウクトミエタリ、不レ可レ然

一シノヽメハ　篠ノ目ノミユル比ナリ。卯ノ刻ニナル始ヲ云

一シルラメヤ　トガメテ何カシランゾト也

シルラメヤ木葉フリシク谷川ノイハマニカヨフ下ノ心ヲ

一白妙　白色ハ五色ノ始也、サレバ鮮白トテ、キレイナルモノ也、モノヽ新方ヘナルナリ、白色ヲホメタ

ル也

白妙ノ袖ノ別ニ露落テ身ニシムイロノ秋風ゾ吹　定家

本歌。白露トミエシ泪ニ年フレバカラクレナヰニウツロヒニケリ

吹ヨレバ身ニシミニケルアキカゼヲイロナキモノト思ケルカナ

コレラモ一向アハス白色根本也。カスガノヽワカナツミニヤ白妙ノ袖フリハヘテ人ノ行ラン。是モ本色ヲヨメリ、此定家ノ哥ノ正説ハ、白妙ノ袖ナガラ別ノ露ニソメラレテ、紅ニ染タルト云心ヲ、身ニシム色トヨメリ、唯授一人ノ相傳也。已上宗祇之説

一白露ノヲケルメ

万　シラツユノヲケルメニユル女郎花アナワヅラハシ人ナ手フレソ

拾　アキノヽノ露ニヲカルヽ女郎花ハラフ人ナミヌレツヽゾフル

露ガ妻ニ定テ置タルト云義也

一シナカトリキナ

シナガドリキナノヲユケバアリマヤマ夕霧タチヌ宿ハナクシテ

顯昭云、万葉ニ或志長鳥、或四長鳥、居名ト云、サレバ白鹿ヲ取ト云ガタシ、又狩衣ノ尻ヲ取トモ云難シ、居名ト云ハ、猪無野トモ云ガタシ、又シナガトリキナノトバカリアラバコソ、白鹿ヲ取テ猪無野トモ云ベキニ、

シナガトリヰナノ浦トモ、ヰナノ湊トモアレバ、野ニ限テ云ベカラズ、今案ニシナガトリ猪ナノト云所アルベシ、万葉長哥ニ、水長鳥(シナガトリ)安房(アハ)ニ繼タル梓弓末ノ珠名(タマナ)ハ云々。水長鳥アハトツヾキタルハ所名ナリ、此類ナルベシ。此外、無名抄・綺語抄・童蒙抄等ニ日本紀ヲ引テ以釋、イヅレモ不相叶

丸案ニ、是ハヤスク心得ラレヌル歟ナリ、シカルヲ古人或景行天皇卅年ニ、日本武尊信濃ニテ白鹿ヲコロシ給フコト、或雄略天皇狩葛城山猪暴(ニハカニ)出ヲ、フミコロシ給フナドノ古事ニアテ、見、又名所ニ定ラル、カヤウニムツカシキコトヲ、丸ガ今ヤス／＼ト了知スルトテ、書付タラバ、ゲニモトハ思ナガラ、ニクシト思テ、カヘリテソシラル、事モアルベケレバ、同志ノ人ニカタリテナグサムベシ、トカヽザリツレド、又書ツケズバ何事ヲカ云ラン、トウタガフ人ノネガヒヲハラサン爲ニ、コヽニアラハス、是ハ鴫ガ居ル野ト云コトナリ、鴫ハ根本ハシナガキモノナレバ「ハ」ノ字「ナカ」ノ字ヲ略シテ「シギ」ト号ストミエタリ、今シナガドリモ「ハ」ノ字ヲ上略シテ云也、此所鴫ノ名所也、又童蒙抄ノ、シラガ鳥ヰナノヲユケバアリマ山霧タチコムルムカコ崎カナ。是モ有馬山ノ哥ヲ少云カヘタルナリ、「シナ」ヲ「シラ」ト云、「ナ」ト「ラ」ト五音横通也、鴫ノ一名ナリ、シナガ鳥ト云ヲ、シラガトリトモ云ナスバカリナリ、此外別ニ正義アルベカラズ、丸ガ末弟ハ疑事ナカレ

一シホカマ　能因歌枕云、鹽竈浦、此神ハ田村將軍討夷之時、五万八千人之兵粮ヲカシギタル竈ナリ、又チカノシホガマト云。童蒙抄云、昔陸奥守塩竈ノ明神ニチカヒ申コトアリテ、獨ムスメヲ此神ノ[illegible][illegible]ニヲシ入飯ニケリ、此女泣悲神殿ヨリサシ出タリ、父是ヲミルニ、心マドヒニケリ、是ヨリ此神ノ命婦ハ[illegible]ツカサノア

ラザランカギリハ、親子タガヒニミユマジトチカヘリ、年ノ一タビノ祭ノ日ナラヌカギリハ、人ニアヒミエズ、件ノ女ノ子孫、今ニツギテ其命婦タリ、委見ニ陸奥國風俗ニ云々

歌林樸樕第廿四畢

歌林樸樕　第廿五

【シ】

一シルシノ杉

我宿ハミワノヤマモト戀シクバトブラヒキマセ杉タテル門

古今雜、讀人不知ノ歌也、新撰ニハ戀ニ入、世人是ハ三輪明神ノ哥トイヘドサセル無レ證、又住吉ノ御許ヘ、ミワノ神カヨヒケル間ニ

住ヨシノキシモセザランモノユヘニネタクヤ人ニマツトイハレン

拾遺抄ニハ、此歌住吉御託宣トアレバ、三輪ハ男神、住吉ハ女神歟、又神功皇后伐ニ新羅ニ之時、住吉ハ大將軍、日吉副將軍、將門追討之時ハ、日吉ハ大將軍、住吉ハ副將軍也、三千法施シケキニヨリ、日吉位マサセ給由、江記ニミユ、古語拾遺ニハ、大己貴神、大三輪神是也、又日吉ノ明神ハ三輪也、大宮權現也、本地ハ釋迦也、二宮ハ地主也、本地ハ藥師也、垂跡同也、傳教ノハモ山ヤヲビエノ杉トヨメルモ此故ナリ、無名抄云、昔大和國……ウタヒニアル說、日本紀ニアルヤマト・ヒメノミコトノ古事也、崇神紀ニアリ。童蒙抄云、昔イセノアフキノ郡ニ、深山ニ入鹿待ニ、雨風シテ形黒長高日電光ノ如シテ來モノアリ、獵師是ヲ射ツ、夜明血ノアル跡ニ付テミルニ塚アリ、其前ニ神女有テ招ク、矢ヲハゲヨルニ、女ノ云、汝ガ射タルハ此塚ノ鬼ナリ、我ハトラ

レテコ、ニ年來アリ、此鬼ヲ汝コロセト云ニ、鐵師柴ヲ塚ニコメ燒コロシツ、其神女ヲツレテ婦トシ、三年ヲフルニ兒ヲ生、男ノアリキケル間ニ、女失ヌ、男尋行ニ、此兒又ウセヌ、男ナキカナシミ、女ノ居間ヲミルニ、ミワノヤマモト杉タテル門、トバカリ書付、是ニヨリ、和州ミワノ社ニ參、此女ニアフベキヨシ祈ニ、社ヲヒラキ、女ト兒トマミユ、此男ノ志ノ切ナルヲミテ、トモニチカヒ、兩神ニナルトミエタリ、サレバ其社ノ祭ヲバ伊勢ノアフキノ郡ノ人ノ、トリヲコナフ也、ソレヨリシルシノ杉トハ云ナルベシ、諺ニ云、鬼ニ神トラル、ト云ハ是ナリ

丸案ニ、此古事ヨリ、シルシノ杉ト云ベシ、トカケルハ誤ナリ、此以前ヨリ古今ノ哥ハアリトミエタリ、又志ノ切ナルニヨリ、兩神トナルト書ルモアヤマリ也、モトヨリアリシ、三輪ノ社ヘタヅネ行祈トアリ、サレバ三輪ト云ハ彼糸ノミワケノコリシ因緣ナリ、コレハ後ニ過去ノ宿緣ニヨリ、狩人ト明神ノ、少ノ契ヲ結タマヒシトミルベシ

奥義抄云、此三輪ハ社モナク、祭ノ日モ茅ノ輪ヲ三作テ、岩ノ上ニヲキテ、ソレヲ祭也、社ノオハセヌアヤシトテ、里ノ者ノ作タレバ、烏百千出來テクヒヤブリ、各クハヘテ去ヌ、其後ハ神ノチカヒトシリテ不作トゾ

一シタヒ

水鳥ノ鴨ノスム池ノ下樋ナクユカシキ君ヲケフミツルカモ

池ニ樋ヲカケテ、水ヲ出入ス、其クチノフタギアクルモノヲ楲ト云ナリ、下人ハイリト云、池水ノイヒ出ナド

ヨムハ是也、下樋ナクハイヒ出ルコトモナク、オモヒコメタル心ナリ。童蒙抄ニ、池ノシリヘニ、下ニ樋ヲ渡シテ、水ヲトヲスナリ、サレバ思ヤル方モナキニヨセテヨメルナルベシ。又万葉

秋山ノ舌日下(シタヒカモト)ニナク鳥ノ聲ダニキケバイトナゲカル、

顯昭云、山ニモ樋ハアレド、ナベテ秋山ノ下樋トイハンコト如何、若トニサシ入タル日歟、舌日ト書モアヤシケレド、万葉ニハ文字兎角カケバナリ。又長哥

秋ヤマニ下部留(シタベル)イモカナユ竹ノトヲヨルコラハ

是ハ吉備津采女(キビツウネメ)ガ死ニ、人丸歌ナリ、山ノ下ニ伏タル心ナリ、「ヘ」ト「ヒ」同音也、ハルビ・ハルベ、ヲカベ・ヲカビ同事ナリ、下ヘト書テ、モト・イハン事モ何カクルシカラン

丸案ニ、舌日下ハ日影ニテモ侍ベル、サレドモト・アルハ下樋カ、邊ノ心歟、秋山ニ下部留ハ、慕ヘルト云義歟、死タルヲ戀シタフナリ、秋山ノトナクテ「ニ」トアレバナリ

一シテノ田オサ　古今

イクバクノ田ヲツクレバカ郭公シデノ田オサヲアサナ〱ヨブ

顯昭云、シヅノ田オサ也、「ツ」ト「テ」ト同音也、郭公ハ勸農ノ鳥ニテ、過時不熟トナク、時過ハ實(ミ)ノラント也、催馬樂ノ、イモガ門セナカ門ノ哥ノ、シテ田オサハ、田作ルモノナリ、シヅタオサ也、然ヲ郭公ノ名ト云ハワルシ、伊勢哥ニ

シデノヤマコエテキツラン郭公戀シキ人ノウヘカタラナン

死出ノ山ヨリクルヨシハ昔ヨリイヘリ、寂蓮ハ地藏陀羅尼經ニミエタルト云ヘリ。伊勢物語ニ

名ノミタツシデノ田長ハケサゾナク庵アマタトウトマレヌレバ

又匡房歌ニ

イトヾシク入相ノカネノカナシキニシデノ田オサノ聲キコユナリ

或書ニ、シデノヤマヨリ、童ニナリテ來ル故ニ、ウナヒコ鳥ト云

時鳥オチカヘリナケウナヒコガウチタレガミノサミダレノ比

此哥ヨリ云歟、是ハ「ウチタレガミ」イハントテノ「ウナヒコ」ナリ。綺語抄・無名抄・奧義抄・童蒙抄、何モ郭公ノ一名ト云リ、古今ノ哥ニハ相違セリ

丸案ニ、古今ノ哥ニハシデノ田長ト、郭公トハ、面々ニヨミワケタリ、即農ヲス丶ムル鳥ナレバ、時鳥ノ名トモシテ、伊勢物語等ノ古歌ニヨメルウヘハ論ニ及ベカラズ、二様ニ心得テヲクベシ

一シキノコヤテ

オソハヤモマ〔〇ナ袖〕ヲコソマタメムカツオノシキノコヤデノアヒハタガハジ

遲トモ、早トモ也、マヲコソハ、眞人ヲコソ也、ムヤツオハ、向ノ尾ナリ、「ツ」ハ休字也、コヤデハ小キ枝ナリ、「ヤ」ト「エ」ト同音ナリ、「テ」ト「タ」ト同音ナリ、マヲコソハ、マシニテモ在ナン、「マシ」ハ汝ナリ、万葉

或本云

オソハヤモ君ヲシマタンムカツオノ椎（サイ）ノコエダノトキハ過トモ

ムカツオヲ名所歟ト一説

一シマシクモ

オモフヘニ逢物ナラバシマシクモ妹ガ目カレテアレヲラメカモ

シマシクハ、シバラク也、オモフヘハ、思故ナリ、アレハ我也

ツクシヂノカタノ大嶋シマシクモミネバコヒシキ妹ヲヽキテキヌ

ワガセコガフル家ノサカノアスカニハ千鳥シバナクシマヽチカネテ

顯昭云、千鳥ノ嶌待カネンコト如何、人ノ心ニヨセテ云ニヤ

丸云、シバナクト云ニタヨリテ「シマ」ト重詞ナリ、又「シマ心」ト云事アリ

玉ノ緒ノ嶋心ニヤ年月ノ行カヘルマデイモニアハザラン

顯昭云、玉ノ緒ハミジカキ由ニツヾケテ「シバシ」ノ心トソヘタルニヤ、シハシノ心ナレバ、年ノカハルマデアハヌカトヨメルカト覺タリ

丸云、此義シバシノ心ハ妹ガ心歟、我心歟、エキカズ、愚案、此シマ心ハ、シヾマル心歟、年月アハネバ、ワガ玉緒ノシヾマルヤウニナルト歟、又シバシノ心ニテ云ナラバ、シバシトオモフ中ニ、年月行カハルマデアハ

ヌト歎心ナルベシ

一之奴比（シヌヒ）　シヌニ

近江ノ海夕浪千鳥ナガナケバ心モ思努ニイニシヘオモホユ

ヨグタチニネザメテキケバカハセトモ心モシヌニナクチドリ哉（カナ）

梅花カヲカグハシミトヲケレバ心モシヌニ君ヲシ思フ

ユフヅクヨコヽロモシヌニ白露ノヲク木葉ニハ蛩（キリ〳〵ス）ナク

ヨグタチテナク河千鳥ウベシコソ昔ノ人モ之努比キニケル

朝ガスミカヒヤガ下ニナク蛙シヌビツヽアリトツゲンコモガモ

秋ノホヲ之努尓押靡ヲクツユノケカモシナマシ戀ツヽアラズハ

袖中抄ニサマ〳〵ニ尺セラレタレドモ、ゲニモトハミエズ

丸案ニ、シヌニト云詞ニハ、シノブ●シゲシ●シヅカ●シタフ、コレラノ心ノ外ハアルベカラズ、ソレ〳〵ノ哥ニ、此心ヲトリ合セ吟味シテ、ヨク叶心ヲ以テ納得スベシ

一シヌヽニヌル

朝ギリニシヌヽニヌレテヨブコドリミフネ山ヨリナキ渡ルミユ

「之努々」ト書テ「シトヽ」トモヨメリ

丸案ニ、シト、可レ然、努字ヲ後ニ「ヌ」ト訓尺シテ兩說トハナレル歟。ヨミタル訓尺マサル也

一シノク

　奥ヤマノスガノハシノギフル雪ノケナバ、タフレ雨ハフリコソ

顯昭云、宋韻云、凌者歷也、然ハフルトハ雪ノフリオホフ也、道ヲフルト云モ其道ヲトヲル心ナリ、古今ニ

　奥山ノスガノ根シノギフル雪ノケヌトカイハン戀ノシゲキニ

万葉ニハ葉トアルヲ是ハ根トアリ、雪ノ根ニフリカ、ランコト不レ得レ心

丸案ニ、菅ノ葉ノ根モトナリ、地中ノ根ニハ非ズ

顯昭云、藥師經ニ不相侵凌、コレモシノグ、ヲカス心也、史記云炎帝欲レ侵(ヲカシシノガント)二凌諸侯一是モヲカス也、凌雲臺モ雲ニトヅキ雲ヲ、カス也。奥義抄云、シノグハ侵(ヲカス)也、ナドモセヌナリ。教長卿云、シノグハ、ヨグ也、去ナリ。今云、ヨグトハイハレズ、浪霞ノ中ヲ渡ルヲ、シノグト云ナリ

丸云、冬ヲシノギ、サムサヲシノグト云モ、ソレニヲカサレヌヤウニ、堪シノンデトヲルナリ、雲ヲシノグト云モ、細道ヲ通ル如ク、其キハヲスリ〳〵トヲル義ナリ、雪ノ菅ノ葉ノ細キ上ニハタマラデ、葉ノ末ヲシノギ落テ、根モトニタマルユヘニ、万葉ノ葉ト大ヤウニヨミタルヲ、古今ニハ根トヨミナヲシテ入タルナリ、シカリトテ万葉ノ葉アヤマリニハアラズ、葉ヲシノギトヲル雪ナレバ、根ニツモルモ皆葉ノ分ナリ、先カヤウノ心エニクキ事ヲバ、詞ノ元來ノヲコリヲ案ズルガヨシ、古人其工夫ナカリシユヘニ、ヨクエスマサレヌトミエタ

リ、シノグハ、シノビスグト云コト歟

一シヽネ

人シレズモノ思フトキハツノ國ノ芦ノシヽネノシヽネヤハスル　　貫之

顯昭云、万葉ニ繁ノ字ヲ「シト」ヽヨム、梶ヲ繁貫(シゲヌク)、又シヽヌクトモヨメリ、又催馬樂ニ

ミヤノヤマニシヽニ生タル玉柏トヨノアカリニアフガタノシサ

是シゲク生也、芦ノシヽネトハシゲキ根ヲ云ナリ、ソレニシゲクハ不泣トヨメル歟。又俊頼父ニヲクレ、筑紫ヨリ上ルニ、芦ヤニテ終夜思ツヽケテ

ツクシブネウラミヲツミテモトルニハアシヤニネテモシヽネヲソスル

貫之哥ヲ本ニテ、恨ヲツメルニハ、芦ヤニテモシヽネヲ引ヨセタリ。又俊頼哥ニ

畠フミキヒハ虫シヌシヽネシテカシマシキマデ世ヲゾ恨ル

又說、シゲク泣ニハアラズ、シゲク寢(ヌル)也、イヲネラレヌヲ云ナリト申人アレド、此俊頼歌ハ、ナク心也、「シヽメ」ハ雀ナリ、「シ」ト「ス」ト同音ナリ、下衆(ス)ノ詞ヲワザトタハブレテヨムナリ、又嚼字ヲ「スヽミ」トヨム、雀ハ常ノ字也

丸案ニ、貫之ノ哥ハ人シレズト云五文字、忍戀ナレバシゲク音ニタテヽハエナカヌナリ、ミノヤマノシヽニ生タルハ繁ナリ、ツクシ舟ノ哥ハ、シゲク泣ナリ、畠フミノ歌ハ獅子也、猪鹿ノ畠ヲフミ虫死ナリ、カラ獅ノ聲

ニハ、一切ノ虫死ト云古事モアルヲカケタル歟、述懐ノ哥ノ序ニ、猪鹿ノナクヤウニ、我カシマシキマデ世ヲウラムルナリ、此畠ノ歌ノ「シヽネ」ハ獅子寢トスル心カヨヘリ、猪鹿ノ伏ニ、ワガヨル寢テ、大聲ヲ上テ泣サケブニタトヘタリ、此歌ノ「シヽネ」モ先ハシゲク泣也、余情ハ獅子寢ナリ、ヨク〳〵哥ノ景事ヲ吟味スベキナリ、定家卿ノ、俊頼ノ哥ヲホメラレテ、ウラヤミ給モコレラノ哥ニテシラレタリ、彼卿ノ歌一重ナルハマレナリ、皆カヤウニ厚侍也、コレヲイヤシキ事ヲヨメルハカヘリテヤサシキ也、此風ヲイヤシト聞ハ無二相傳一ノ歌人ナリ、是イヤシカラズ、コレハツヨキ哥ナリ〔○校云、袖中抄は凡てシラネとせり〕

一シガ゜ノ山越

サヽナミヤシガノヤマゴエセシ人ニアフコチヽスル花ザクラカナ

北白河ノ瀧ノカタハラヨリノボリテ、如意ノ嶺コエニシガ゜ヘ出ル道ナリ、經賴卿記ニ荒生山ヲ經テ歩行云々、瓜生山トハ白河ノ瀧ノ上也、顯基集云、屏風繪ニシガノ山越スル所ヲ

名ニオヘドナレルモミエズ瓜生山春ノ霞ノ立(タチ)ルナリケリ

惠慶ガ淨土寺ノ和哥ノ序ニモ、月ノ光ノ清キテフ、荒生山ノ麓ト書リ、荒生ハ山シロノ方ニモアリ、此サヽ浪ヤノ歌ハ、能因ガ歌合ノ詠ナリ、心エラレズトモ云ベキヲ、人ノ尋ケレバ、モノモイハデ後ニ、和歌バカリヨムベシトコソ、長能ハヲシヘシカトゾツブヤキケル、能因ハ長能ヲ師トス、故玄玄集ニモ長能ガ哥ヲ多入云々、此歌ノ心ハ、古今春ノ下、シガノ山越ニ女ドモノ多アヘリケルニヨンデ遣ケル貫之

アヅサユミ春ノ山ベヲコエクレバ道モサリアヘズ花ゾチリケル

此哥ニ、女ヲ花トヨミタレバ、彼シガノヤマゴエセシ女ニ、アフコ、チスル、ト花ヲヨメリ、志賀ノ山越ハ、イツモスルコト也、紅葉・時鳥・雪等ニ例多シ、而ニ次郎百首ニ、春題ニ志賀山越ヲ出ス、尤以テ不審ナリ、但花哥ニツキテハ良玉集ニ、紹ニシ志賀ノ山越ゾスル、又シガノ花園ト云事アリ。平等院僧正集ニハ、春秋ノ花園アリ。三条ノ橋ノナカリシトキ、聖護院道澄和尚、三井寺ニ百ケ日ノ御ケギヤウアリシヲ、紹巴法橋トブラフトテ、大覺寺殿・速水左衛門尉ト丸ト四人、如意ゴエニ行テ、寺ノ中ヘ入侍シニ、五月雨ノハレ間ニテ、雲石根ニヲコリ、雉鶏ナド行袖ノ下ヨリ飛立、エモイハレヌ面白道ニテ侍

一シヒノヲノキシ

ワカキモノナカル、瀧ノムスル聲キコエヤスランシヒノヲノキシ

顯昭云、山城ノ歌枕ニ椎ノ尾ト云所ヲバ慈悲ノ尾有トカケリ、サレバ此歌ノ心ハ我折ノ泪ノ瀧ノムセブ聲ハ浄土ニモヤキコユラントナリ。孫姫式云、雨之濺涙勞鯉涓留ニ於涙河ニ瀧之流レ滴咽聲止聞ニ於稚領一。（如本）或本ニハ、シヒノヲノ西トアリ、西方ノ心歟

一シノブモヂズリ

陸奥ノ信夫郡ニモヂズリトテ亂タルスリヲスルナリ、無名抄云、所ノ名ト、ヤガテソノスリノ名ヲツヾケテヨムナリ、遍昭寺ノミスノヘリニス、レテアリシヲ、四五寸バカリ切テ、故帥大納言（經信卿也）ノ、清和院ノミスノヘリニマネハレテアリシカバ、世ノ人皆興ゼシ、此ゴロハ皆ヤリトラレテ、失ニケル

トカヤ。童蒙抄云、シノブヲウチ、ガヘテ、亂ガハシクスレリ、遍昭寺ノ芦簾ノヘリニテアリ。私云、先年民部卿成範卿・左京大夫修範卿ナドニイザナハレテ、西ヤマノ寺廻シ侍シニ、遍昭寺ニ詣デ侍シカバ、彼母屋ノミスハ、ミクリノヘリト申物ニテ、シノブズリノヘリハ皆ウセテ侍ラザリシカバ、各ミスヲ折ツ、コソ持テ皈侍リシカ、又故中納言大將兼長、多ノ春日祭ノ使ニ下給シ供ニ、人々色々ニ花ヲ折テキラメキケル中ニ、前右馬助範綱ガ子、清輔ガシノブズリノ狩衣ヲキタリケル、心アリテミエケレバ、故左京兆次ノ日清綱ガモトヘ

　キノフミシシノブモチズリタレナランコ、ロノウチヅカギリシラレヌ

世ノ末ニモヲカシキ事ハ出來ニケリ

一シツハタオヒ

　去家(イニシヘ)ノ倭文(シツ)旗帶(ハタオヒ)ヲユヒタレテ誰テフ人モ君ニマサラシ

一書哥曰

　古之狹織之帶乎結垂誰之能人毛君尓波不益

顯昭云、布ヲル機ヲシヅハタト云ベシ、下衆ノ布帶ヲシヅハタ帶ト云ベシ、布ヲル女ノ、シリマキトテ稍ノヤウナルモノヲ腰ニアテ、、猪ノ爪ト云モノニムスベルヲ云ベキカト申セド、ソレハ不レ叶、ユヒタレテトヨメリ、ウルハシク絹小袖ヲキテスル帶ニテアルベシ、考二万葉一云。古ニアリケン人ノシヅハタノ帶トキカヘテ、

ナドヨメリ、是ハカツシカノマヽノテコナナドヲヨメリ、トキコフナドヨムモ、例ノ帶ト聞エタリ、但コレハ、マヽノテコナガ墓ヲミテ、古ニアリケン人ノトハヨムナリ、古ノシヅハタ帶ヲユヒタレテトハナドヨメルニカ、旗トカケルハ万葉ノ習ナリ、織女ノ歌ニモ或機・或幡・或旗ト書リ、帶ヲヨメルコトサマ〴〵ナリ

紫ノ帶ノムスブモトクモミズモトナヤイモニ戀ワタリナン

或七夕ノ哥ニ

サネソメテイクエ(〇ラ袖)モアラネバ白妙ノ帶コフベシヤ戀モツキネバ

是等ハ色ヲヨメリ。見聞抄云、シヅハタトハ、イヤシキ機ナリ。奧義抄ニ

シヅハタニヘツルホドナリ白糸ノタエヌル世トハオモハザラナン

シヅハタニヘツルト云ハ、思亂テヘツルホド、イヘルナリ、シヅハタハ、ミダレタル事ニ云也

シヅハタニ思ミダレテ秋ノ夜ノアクルモシラズ歎ツルカナ

忠岑ガ長歌ニ

ワガナスコトハシヅハタニミダレテナラズアリシカバ

又

シヅハタニ思フコヽロヲ亂タル人ヲツラシト思キヌレバ

又アサハタト云ハ、アサ布ヲ織ハタ也

タテヌキニ身ヲバナストモアサハタノヲリテハ君ニアハントゾ思フ

又ウツハタト云ハ、例ノ布ノ機ノ、タテヲヲラントテ、サカサマニナストゾ申

棹ヒメノヲリカケサラスウツハタノ霞立ヨル春ノ野ベカナ

丸云、ウツハタヲ、サカサマトハ、機ヲウツブシニナス故、ウツハタト云ナルベシ、又古ニアリケン人ノ哥ハ、マヽノテコナガ墓ヲミテヨメルナレバ無二不審一、古ノシヅハタ帶トヨム哥ノ、イニシヘ、顕昭モ不審トカケリ、コレハ彼古今ノ哥ニアル、古ノシヅノヲダマキノ類ナリ、シヅト云歌ニハ多古ヘヲヨミソヘ侍ル、是口傳アリ

一シラハキ

ワガ待シ白芽子サキヌイマダニモ匂(コホ)ニユカナヲチ方人ニ

顕昭云、シラ萩トハ、白花サク萩アレバ、ソレヲヨメルトイハンモアシカラネド、是ハ秋萩トヨムベキナリ、ヤガテ此哥アル、万葉ノ十巻ニ

マケナガクコフルコヽロハ白風ニイモガヲトキコユヒモトキユカン

白風ヲ、秋カゼトヨメバ、白芽子ヲモ秋萩トヨムハ、マサリタリ、アナガチニ、ワガマチシヽラハギト不レ可詠歟

丸云、是殊勝ノ説也、顕昭法橋タヾ人ニアラズ

一シナヘウラフレ

君コヒテシナヘウラブレワガヲレバ秋カゼ吹テ月カタブクヲ

顯昭云、ナゲキモノ思フト云詞ナリ、ウラブルモ同事也、ウレフト云詞トモ申

君コヒテウラブレヲレバシキノ、ノ秋萩シノギサヲシカナクモ

鴈モキヌ萩ハチリヌトサホシカノナクナル聲モウラフレニケリ

万葉ニ

我ツマノコガ夏草ノ思志萎テナゲ、ドモ

ナヘタルハ、ナヤムナリ

歌林樸樕第廿五畢

歌林樸樕　第廿六

【ヱ】

一榮花ノ物語　之ノ字ヲ可レ入

一ヱキ゜　延喜

一ヱフノ身ナレハナヲヤマス

丸云、古人ノ説サマ〲アル中ニ、閻浮ノ説ヲ最上トス、古今傳授ノ説モ是ニ極テアルヲ、丸ガ今愚案ニ非ニ正義ニト云ハ尤多罪ナガライカニシテモ覺智セン事アレバ爲口傳。サレドモ上代ノ歌仙ノ註ノ〔シ（圖書館本）〕外ヲ、何トシテモドク程ナル説ハ、今ノ世ニ出ベキゾ、ムサトシタル義ナルベシト、門弟ヲ始、思コナレ給ベキニ付テハ信ジテ傳ル人モアルマジ、傳ル人ナクバ、後生ハ猶シラズシテ此長哥ノ作者ノ本意、未來永劫アラハルベカラズト存ズレバコヽニカキ侍ベシ

アフコトノ、マレナル色ニ、思ソメ、我身ハツネニ、アマグモノ、ハル、時ナク、フジノネノ、モエツ、トハニ、思ヘドモ、アフコトカタシ、何シカモ、人ヲウラミン、ワタツミノ、沖ヲナガメテ、思ヒテシ、思ヒハイマハ、イタヅラニ、ナリヌベラ也、行水ノ、タユル時ナク、カグナハニ、思ミダレテ、フル雪ノ、ケナバケヌベク、オモヘドモ、エフノ身ナレバ、ナヲヤマズ、

袖中抄ナドヲミレバ、此「エフノ身」ヲ蝶ノ身ナレバト云説モアリ、莊周ガ胡蝶ニナリシコトナド云義ヲトリテ、本ヲ亡「テフ」ト書タル也、是等ニ比スレバ「閻浮ノ身」スグレタル故、二条家・冷泉家トモニ閻浮ノ説ニテヲカレシナリ、ヨク吟味シテミ候ヘ、閻浮ナレバ不定世界ナレバ死タク思ヘドシナレヌト云義ニナルナリ、ソレハ老人ナドノ死タケレドモシナレヌ、ト云時ハ尤ナリ、此哥ハ戀ノ歌ナレバ、其義不レ叶也、シナバ死ベケレドモ、主上ノ御爲ナラデ私ノ用ニ一命ヲ失ハ非道トナゲキタル者ナリ。サレバ丸ガ了見ニハ、衛府ノ身ナルベシ、六衛府ハ武官也、君ヲ守ル者也、エフ（閻浮ノ時ハヹフト濁也、衛府ノ時ハヱプト清也）

一　ヱク

君ガタメ山田ノ澤ニ惠具ツムト雪消ノ水ニモノスソヌラシツ

顯昭云、女萎ト書テ「ヱゴ」トヨメリ、「ク」ト「コ」ト同音ナリ、花ハ蘇芳ニサキテ、水邊ニアル草ナリ、又芹ヲ云義アレドモ、六帖ニハ芹ノ外ニ別ニ出セリ、但古キ文ニハ委アカサズシテモノ、異名ヲモタヾサズ、名ノカハリタレバ別ニ書ル事モアレバ一定ニアラズ。仲實朝臣許ヘワカナヲツカハストテ　俊頼

オガミ川ウキツニハユルヱゴノウレヲツミシナヘテモソコノミタメゾ

返事　仲實

心ザシフカキミタニ、ツミタメテイシミユスリテアラフネゼリカ

此哥ハ「ヱゴ」トヨメリ、源シハ「芹」トヨメリ、ヱグト芹ト同モノトオモヘバ歟。万葉云、芹トヱクト一物ト

云、又山田ノ澤ヲ「ソフ」トヨメリ、「ソフ」ハ「サハ」ナリ、「ソ」ト「サ」ト通辭ナリ。私云、世俗ニ「サハ」ヲバ「ソフ〳〵」トイヘドモ、万葉ニ澤字ヲ「ソフ」トヨミタル本ハ未レ見

丸云、万葉ニ云トアルハ、万葉ノ抄ナルベシ、後ノ万葉ハ集ナリ、又仲實ノ返事、芹トヨメルハ、俊頼送ラル、若菜ノ中ニ、エクモ芹モアルベケレバ、カケ哥ニハ「エク」トアルヲ、返シニ芹ヲモ賞シテカヘサレタル事モアルベシ、是ヲ必證據ニハ引ガタシ、只六帖ノ旨ヲ守リ、芹ノ外ニエグ有ト定ベシ、顯昭ノサヽレタル女萎ノ說尤正說ナリ

一エヒスノ身ヨリイタス血

ミチノクニ〔〇ノ袖〕エビスノ身ヨリ出ス血ノコトウチナレヤアハヌ戀カナ

顯昭云、我子•人ノ子、定メントスルニハ、父ガ血•子ノ血ヲ合ルニ、我子ナレバ血一ツニアヒ、人ノ子ナレバ一ニ不レ成トイヘリ、扨コト氏ナレヤアハヌトハヨメリ。江記云、赤染ハ赤染時用女也、依レ歷ニ右衛門志尉等ヲ号ニ赤染衛門ト、實ハ兼盛ヵ女ノ也云々、離ニ別スル彼ノ母ニ之後、稱レ有ニ女子ト欲ニシテ尋取ント之處、母惜ニ而稱ニ不レ然之由ヲ、相論之間、爲ニ道檢非使時用沙汰ト之間与ニ彼母ト密通シ相住之間弥々稱ト非ニノ兼盛子ニ之由ヲ深ク稱ニ時用ト云々。兼盛可ニ合血ト之由申ト云々、云ニ其藝能ト尤可レ謂ニ兼盛子ト歟

一ヒメナソヒ　崇神天皇十年秋七月、民ヲ導モトハヲシユルニアリ、詔ニ不随モノヲバコロセ、トテ四方ヘ將軍ヲツカハス、北陸道ニハ大彦命オモムキ給ニ、和珥坂ノ上ニ少女歌フ、一說ニハ山背平坂ニ到時、童女歌ト云〻

瀰磨紀異利寐胡（御間城入彦ハ崇神ノ御名也）　播娜（私記曰、寧備（〇惜カ）之義也）　飫迺餓（己也、私記曰、大彦命也）　烏塢（私記曰、謂レ君也、言大彦命之君、崇神也）　志齋務苔（私記曰、謂殺也、今案、死与レ殺同義也、丸案ニ、是ハ弑ノ字ナルベシ、臣トシテ君ヲコロスヲ弑ト云）　農殊末句（私記曰、謂望來也、今案ニ、盜已來也、丸案ニ、ノソミキタルノ說吉歟）　志羅珥（不知也）　比賣那素寐殊望（私記曰、言不レ知ニ殺逆之謀ヲ爲ニ兒女之遊ヲ比々奈遊ヒ也）　於朋耆（謂ニ大彦命ニ也、略ニ彦命ニ也）　姤能利（自レ外也）　于介伽卑氐（窺也）　許呂佐務苔須羅句塢（欲レ殺也）　志羅珥（不レ知也）　比賣那素寐須望（爲ニ比々奈遊ヲ也）

コノワラハ、カクウメヒテウセヌ、天皇ニ此由ヲ申ス、倭迹々日百襲姫命此哥ノ心ヲサトリテ云、是武埴安彦ガ返逆ノ表ナリト云〻、於レ是四方ヘツカハス將軍ヲトヾメテ戰アリテ、武埴安彦ト其ツマノ吾田媛トヲコロセシコトナリ

丸云、ミマキイリヒコトハ、崇神也、ハヤヲノカヲ、ハ、早クヨリオノレガ大君ゾト云コト歟、ヒメナソヒス

モハ、ワラハ、ベノヒイナアソビスルヤウニ、大事ノヲコルモシラデ、人數ヲ四方ヘ遣シテハカナキト云心ナリ、オホキトヨリハ、多外ヨリ歟、埼安彥ト吾田媛ト兩方ヨリセメ來ラントスルナリ

於朋耆ノ註ニ、大彥命ノ下略トアリ、是如何

一ヒトツマツ　景行天皇ノ內　日本武尊　於レ是始有二痛身一、然稍起之、還二於尾張一、爰不レ入二宮簀媛之家一、便移二伊勢一而到二尾津一、昔日本武尊向レ東之歲停二尾津濱一而進食、是時解二一劍一置二於松下一、遂忘而去、今至二於此一劍猶存、故歌曰

烏波利珥（尾）多陀珥（直）務伽幣流（歸也對）比苦菟麻菟（一松）阿波例（哀）比等菟麻菟（一松）比苔珥阿利勢麼（人在也）岐農岐勢摩之塢（衣欲レ着也）多知波開摩之塢（太刀欲レ佩也）

松樹ヲホメ給心ナリ、又宮簀媛尊ノ妻也、ソレヲ思出給ナリ

一ヒレフル　欽明天皇廿三年七月、新羅ト任那ノ戰ニ、日本ノ河邊ノ臣瓊缶、任那ヲスクヒ得ズ、新羅ノ爲ニコロサル、其時日本ノ諸將ノ中ノ妻、皆禽ニセラル、其內大葉子愴然而歌曰

カラクニノ（韓國也）キノヘニ　タチテ（立ナリ）オホハコハ（大葉子也）ヒレフラスモ（領巾振也）ヤマトヘムキテ（向二日本一也）

或有和曰

カラクニノキノヘニタチシオホハコハヒレフラスミユナニハヘムキテ（向二難波一也）

凢哥意者、慕ニ日本ニ也

一ヒジリボウシ

一ヒザツキ　　軾也、陣屋ニ敷物ナリ

一飛香舎　　ヒキヤウシヤ

一ヒハノホウシ

一比良ノネワタシハ　風也　　ヒラノネワタリハ　雪ナリ

一ヒチカサ雨　　俄ニフル雨ヲ云、六帖

　イモカ門行過ガテニヒヂカサノ雨モフラナンアマガクレセン

方　イモガ門行過ガテヌ久方ノアメモフラヌカソヲヨシニセン

顕昭ハ、此万葉ノ哥ヲ考テ、六帖ノ哥ハ僻事ト釋ス、サレドモ源氏スマノ巻ニモ、ヒヂカサ雨トカフリテトアリ、又一条左大臣雅信公ノ作ノ催馬楽ニ、妹ガ門ノ歌ニモ、

　イモガ門、セナガ門、行過カネテ、ヤツガユカバ、ヒチカサノ、雨モフラナン、シデ田長、アマヤトリ、笠ヤトリ、ヤトリテマカラン、シデノタオサ、

ト侍、万葉ノ久方ヲ後ニ、ヒチカサトワザト作カヘテ、ヒヂカサ雨ト云名ニナレルトハ合点セズ、ヒガゴト也、不レ可レ用ト顕昭ノ云ル、ヲロカナルモノ歟

一ヒトヘニ　偏ナリ

一ヒイコ　彦ナリ

一ヒタハ　引板又引手トモ書、板ニ木ヲソヘテ繩ヲ付テ引也

一姫　トヨタマ―　ソトヲリ―　下テル―　橋―（宇治ニ限ル）　ヒメハ何モ濁ル也、但下テル姫ハ清ナリ、イヅレモ非二神祇一

丸以二此説一案ズルニ、人丸ヲ始奉リ、神ニ祝タレドモ、存生ノ御名ヲバカリニテハ皆可レ非二神祇一

一ヒヲリノ日　天下第一ノ難儀ト六条左京兆被レ申シト也、五月三日ハ左近ノ荒手結（ツガヒ）、四日ハ右近ノ荒手結、五日ハ左近ノ眞手結、六日ハ右近ノ眞手結ナリ、射手ノ近衛舎人、水カンハカマニクヽリヲ上テ、褐ノ尻ヲ女ノ中ユヒタルヤウニ引出テ、其上ニムカバキヲ結ナリ、眞手結ノ日ハ、紅ノ下ノ袴、織物ノサシヌキニクヽリモアゲズ、ソバヲハサミテ、褐ノシリヲ袴ヨリ前ザマニ引折テ前ニハサメリ、サレバ眞手結ノ日ヲ、引折ノ日トハ云ナリ、右近ノ馬場ノヒヲリノ日トハ六日也。俊頼　法性寺殿ニテ五月五日ノ心ヲ

長根モ花ノ袂ニカホルナリケフヤマコモノヒヲリナルラン

和泉前司道綱ノビ上リ、古今ノ難義聞侍ヌト申ケレバ、俊頼、文書傳ヘテ侍ル、カウナ申シソ、ト計ニテ人ヤル事モ侍ラザリキ、六条修理大夫顯季卿傳聞テ、道綱ヨク云タリ、難義ニテヲキタレバコソアレ、カヽルヲシワザスル不便ノ事ナリトコソ申ケレ

一ヒザクラ

梓弓春ノ山べニ煙立モユトモミエズヒサクラノ花

無ニ正字一、モシ朱櫻ヲヤ云ベキ、是ハカバザクラトヨムナリ

一ヒタチ帶　無名抄云、常陸鹿嶋明神ノ祭ニ、ケサウ人ノアマタアル時ニ、其男ノ名ドモヲ布ノ帶ニ書アツメテ、神前ニヲクナリ、多カル中ニ、スヘキ男ノ名カキタル帶ノ、自ウラカベルヲ、祢宜ガ取テトラスルナリ、ヤガテ御前ニテ女ウヘノカケ帶ノヤウニウチカツグナリ、ソレヲ聞テ、オトコカコチカヽリテ、シタシクナリヌ、占ナドノヤウナルコトナリ。奥義抄云、ヒタチニハ、男女ノナカラヒヲトハントテハ、亭ト云モノヲ帶ニシテ、一ニハケサウスル男ノ名ヲカキ、二ニハ我名ヲ書ヲ、彼神ノ御前ニテノト申テ、帶ヲ折カヘシテ、名ヲバカクシテ、末ヲ祢宜ニムスバスル也、ソレニワルカルベキナカラヒハ、離々ニムスバレ、ヨカルベキハ、カケ帶ノヤウニマロニ結ツナガルヽヲ、サモト思フ男ナレバ、ヤガテカケ帶ノヤウニ打カケツ、山菅ノ占ノヤウナル事トゾ、私　無名抄ノ義ハ僻事トゾ申也。童蒙抄云、ヒタチ帶トハ兩説アリ、彼國ノ人、カゴトヽ云、クミヲヒラナル帶ノヤウニシテ、大緒ニスルヲ云ナリ、是ハワルキ説ナリ、鹿島明神祭日子細同前、無名抄、和語抄ニ云、カシマノヤシロニ、大ヒラ帶ノヤウニシテシヲキテ、男女ノ占ニアフベキニハ、風ナド吹テ輪ノヤウニナルヲ云ナリ

一ヒチキノナタ

昨日コソフナ出ハセシカ伊佐魚トル比治奇ノナダヲケフミツルカナ

顯昭云、ヒヂキノ灘ハ播磨ニアリ、イサゴトルトハ、魚取ト也、俗說ニハ「ヒヾキノ灘」トモ云。孫姫式云

アフトキハマスミノカヾミハナルレバヒヾキノ灘ノ浪モトヾロニ

又忠見集云、延喜ノ御時躬恒ガ御厨子所ニ候ケル例ニテ、年來津國ニ候ケルヲ召上テ、天曆御時御厨子所ニテ奏スル哥

トシヲヘテヒヾキノナダニシヅム舟浪ノヨスルヲ待ニゾアリケル

シカレバ、ヒヂキ・ヒヾキ、トモニ本說歟、或歌枕ニハ、チビキトモアリ

一ヒルメノカミ

イカバカリヨキワザシテカアマテルヤヒルメノ神ヲシバシトヾメン

顯昭云、神樂ノヒルメノ哥也、日神ヲバ大日孁貴(オホヒルメノミコト)ト申ナリ、神樂ニハアマテル御神ヲオロシ奉レバ、神擧(シンキョ)トテアゲ奉ル哥モアリ、サレバイカナルワザヲシテモ、シバシトヾメタキトナリ。教長卿云、ヒルメノ哥ハ、大嘗會ニ、メヒルトテウタフナリ、「メ」ハ「米」ナリ、米(ヨネ)ヒル女也、戀ノ哥ニヨメリ云々。私云、大嘗會ニハ稻舂(イナツキ)哥トテ、八乙女ガヨネツクトテウタフ歌アリ、別ニ米ヒル哥ヲ、ヒルメノ歌ト云コト不レ聞、古ハ、ヌキホノ哥トテ詠ニヨミケレドモ、近來ハキコエズ

一ヒナノミヤコ

アマサカルヒナノミヤコア（ママ）メヒトシカク戀ストハイケルシルシアリ

顯昭云、是ハ家持越中ニテヨムナリ、ヒナハ田舍ナリ、ミヤコハ京ナリ、アメヒトシハ、天齊ナリ、ヒナト京ト同ジ案ナルニ、我ヒナニ居ナガラ、京ノ戀ルモ、世ニイキテフルカヒナシ、他ノ田舍ノ人ハ、我ヤウニ京ヘモノボルマジケレバ、人々シク京ヲモ戀マジトヨメルナリ

丸案ニ、此註何トヤラン持テマハリテキコユ、先ヒナノミヤコ、國ノミヤコト云ハ、諸國ノ府中ヲサスト云リ、此哥ニテハ、ヒナト都ト別ニナシテ、ヒナノミヤコヲヨミ入タルナリ、アマザカルヒナマデハ田舍ノ事、其ヒナノ案モ都ノ案モ、思ヘバツヽキテヒトシクアル也、サレバヒナナレドモヒトシキ天ノ下ニ居テ戀ルガ、セメテ今生ニアルカイ也ト云心歟

一ヒナノワカレ

思キヤヒナノ別ニヲトロヘテアマノナハタギイサリセントハ

万葉ニ夷ト書テヒナトヨム、是ハ篁ガ隱岐ニテヨム哥ナリ

アマザカルヒナノ長路ヲコヒクレバアカシノトヨリヤマトシマミユ

顯昭云、是ハ人丸、鎭西ヘ下ル海路ニテヨム、明石ハ播州ナレバ遠カラネド、遙ナルヒナヨリ、京ヲ戀タルニ、明石ヨリ大和ノ方ノ山ノミユルヲ悅心ナリ、惣而日本ヲ大和島トヨムコトナレド、大和國ヲヨムモタガハジ、又極山ノ四鳥ノ飛別レタルヨリ、離ノ別ト云事モアリ、何ニテモタガハザルベシ

丸今案ニ、夷ヲ「ヒナ」トヨマスルモ、ソノヲコリハシレズ、桓山ノ四鳥ノ別ヨリ、鳥ノ雛トイハンモタシカナラズ、只鄙ノ字ヲ「イヤシ」トヨミ、都鄙ト云ツヾケテハ、ミヤコ・ヰナカトイヘバ、風流ナルコトヲ「ミヤビ」ト云、イヤシキコトヲハ「ヒナビタル」ト申セバ、ヒナト田舎・遠國ヲ云ハ、鄙ノ字ヨリ事ヲコリタル詞ナルベシ、「ヒナ」ハ「ヒナビ」ノ下略ノ詞也、鳥ノヒナニハアラザルベシ、万葉ニ一旦ノ義ヲ以「夷」字ヲ書タルニテ、近國ヲバ云マジキ歟、ナド、云、昔ノ衆ノ疑ハ此鄙字ノ合点ユカザリシ故ナリ、「ヒ」ハ鄙字「ナ」ハ「ヰナカ」ノ「ナ」ノ字トモ云ツベシ、「ヰ」ト「カ」ト上下略シテ「イヤシキヰナカ」ト云事ヲ「ヒナ」ト云ト了知スベシ、不レ可レ疑

一久方ノミヤコ

ヒサカタノミヤコヲヽキテ草枕タビ行君ヲイツシカマタン

顯昭云、ヒサカタトハ月ヲ云、又空ヲ云ト申義ハミエタレド、ミヤコヲヨメルコトハナキヲ、万葉ニ或久固・或久方ト書、サレバミヤコヲ祝テ久クカタシト云歟、日本紀ニ帝宅ト書テ「ミヤコ」トヨミ、天闕ト書テ「ミカド」トヨメリ

丸案ニ、久方トハ月ヲ云ト申コトハ、定テ伊勢ガ桂ニテ、久方ノ中ナル川トヨメルヨリノ故ナルベシ、思フニ月ノ異名ヲ「久方」ト定テ、伊勢モヨミタリトハオモハレズ、只月ノ中トイハズシテ、月ニキコフルヤウニ上手故、ワザトヨミナセルヲ、カヤウニ後人カタクナニ月ノ名トシルセル事、ウケラレヌコト也、今月ノ歌ヲヨマ

ソニ、此伊勢ガ哥ヲカタドリテ、久方ノ中ナドトヨマズ、タヾ久方ノ山ノハイヅルナドトヨマバ、月ニハナルベカラズ、是其シルシナリ、道理ハ正直物ナリ、タヾ久方トハヒサシキ方ト云詞ナルヲ、天バカリ久シキ、トヲキモノナケレバ、天象ノ枕詞トナレリ、又帝都ハ九重ノ天ヲ表シ、雲ノ上トモ云、帝ハ非二人間一トテ天子ト云、ミヤコソリ●ミヤコモルト云心ニ、ミヤコト名付、天宮ト云文字モアレバ、久方ノ宮コトツヾケタルベシ、只又昔ハ程遠キコトヲ、天ニカギラズ久方ト云ヘルニヤ、然トテ今久遠キコトニ、天象ナラズシテツヾクベカラズ、但此哥アレバ久方ノミヤコトヨマンハ可レ不レ苦

一ヒカタ

アマキリアヒ日カタ吹ラシ水グキノ岡ノミナトニ浪タチワタル

無名抄云、ヒカタハ巽ノ風ナリ、ヒルハフカデ夜吹ナリ、顕昭云、巽ノ風ハヲシヤナ、又イセゴチト云、ヒカタハ坤ノ風也

歌林樸樕第廿六巻畢

歌林樸樕　第廿七

【モ】

一**モトコトニ**　日本紀第廿五卷、孝德天皇大化五年ニ、蘇我臣日向倉山田大臣ヲ太子ニ譖テコロス、物部）二田造塩ト云モノニ大臣ノ頭ヲキラシム、蘇我造媛此由ヲ聞テカナシミ給、故近侍ノ人塩ト云名ヲ改テ堅塩ト云、造媛イタンテツヰニ死、皇太子造媛之死ヲ聞テナゲキ給、此時野中ノ川原ノ史滿ス、ンデ奉レ歌々曰

ヤマカハニ（山河也）　ヲシフタツヰテ（鴛鴦双居ナリ）　タグヒヨク（類吉也）　タグヘルイモヲ（類妻也）

タレカイニケン（誰行也）

九哥意者、皇太子造媛如ニ鴛鴦相双ニ之處、造媛去逝之由也

モトコトニ（毎本也、木本也）　ハナハサケドモ（花雖レ開也）　ナニトカモ（何ナリ）　ウツクシイモガ（麗見妻也）　マタサキテコヌ（亦不ニ開來一也）

九哥意者、花者雖レ散亦開、造媛者逝後不レ歸之由也

一**鵙ノ草茎**　モズノヰタル草ノクキナリ。俊成說ハ、一說ニ霞ヲ云。顯昭說ハ、鵙ノ草ヲクヾルナリ、シカラバ「クキ」ノ「ク」ノ字ニゴルベシトモミエズ「ク」ヲスミテ「キ」ヲ濁ベシ、種々ノ說アレドモタヾモノ、シルシヲ云ト心得ベシ、茎ヨリ、クヾルノ說ゲニモト思侍

一モナカ　霧中ナリ、霧字ヲ立コメテヨマヌハワルシト思人アリ、少モ不レ苦、證哥　越中守仲實

ミタヤ守ナルコノツナニテカク也ハレマモミエヌ霧ノモ中ニ

一モノナレヤ　物ナルヤト云義ナリ、トガメテイヘル詞也

一モヨト云詞　雨モヨ・雪モヨ、「夜」字催心也。歟ニヨルナリ

後 月ニダニマツホド多過ヌレバ雨モヨニコジトオモホユルカナ

新古 草モ木モフリマガヘタル雪モヨニ春マツ梅ノ花ノ香ゾスル

源氏 カキツメテ昔戀シキ雪モヨニアハレヲソフルヲシノウキネカ

續拾 三笠山サシハナレヌトキ、シカドアメモヨニトハ思ヒシモノヲ

一鵙　月令ニ五月節鵙始テ啼トイヘリ、秋サカリニナキ、冬春ハ不レ啼也。俊頼イセヨリ匠作ノモトニ送ル

トヘカシナ玉クシノハニミガクレテモズノクサグキメヂナラズトモ

匠作コレヲミテ、モズノクサクキヲバイカニシテヨメルニカトカタブカレケリ、匠作ハ顯季也

万 春之在バモズノ草具吉ミエズトモ我ハミヤラン君ガアタリヲ

同 足引ノヤマベニヲレバ郭公木ノマタチ具吉ナカヌ日ハナシ

「クキ」ハクヾル也、此万葉ノ類哥ヲ以テ、顯昭ノ說正義ナリ。綺語抄・奥義抄ナドノ「モズノハヤニヘ」ノコ

ト、又野中ニテ女ノヲシヘシコト、霞ヲ云ナドト云說、出所不ㇾ委、皆虛說ニオボシテ來ルトミエタリ

一モロコシノ吉野山

モロコシノヨシノ、ヤマニコモルトモヲクレントオモフワレナラナクニ

顯昭云、昔漢土有ニ金峯山ー金剛藏王菩薩住(シタマフ)ㇾ之、而彼山飛移テ泛ㇾテ海而來、是ノ間金峯山則是彼山也、又考、日藏傳云、天竺佛生國騣俄ニカケテ飛來云々、是ハ天竺トアレバ唐トハ難ㇾ詠也。童蒙抄云、金峯山ハ五臺山ノワレノ、五色ノ雲ニ乘テ來、ト李部王記ニカ、レタリ、是ニヨリ江中納言ノミタケノ御塔御願文ニ、五雲ニ乘テ飛來ト被ㇾ書タリ、又甚俊ハ、文彥太子ノ母后ノ太子ノ佛ノモトヘヤルトテ、漢ノ惠帝ノ事ヲ思テ、商山ノ四皓ノ心ヲ詠トイハレシヲ、或人伊勢集ニ

三輪ノヤマイカニマチミン年フトモ尋ル人モアラジト思ヘバ

トヨンテ、仲平大臣ヘツカハシケル、返哥ト云ケレバ、サコソアナレトテ、モノモ不ㇾ被ㇾ申キ、カヤウノ古事ナラバ雜ノ部ヘコソイラメ、思モヨラヌ心アマリタルニヨリテコソ誹諧ニハ入タレ

丸案ニ、古事ヲステ、アラヌ事ヲヨムユヘニ誹諧ナリ、トオドシ付ラレ侍、ゲニモナガラ、江中納言ナドノ慥ニカ、レタル古事ヲ可ㇾ捨ニアラズ、古事ヲフマヘテヨマレタレド、趣向誹諧ナリ、其義ハ、カラノ五臺山ハ日本ヘハセ飛來レリ、サレバコ、ノ吉野ハ云ニ不ㇾ及、此吉野ガカラニアル時ナリトモ、君ガ侍ナラバトハントヨメル心、アラヌ所ヲタクミ出タル作ヲ以、誹諧ニ入タルベシ、アル古事ヲ無理ニステヽ、誹諧ノ所ヘ入タ

ル、義ニ叶ヘントシタル註ハ、近比ヲロカナルコト歟

一百千鳥

モゝチドリサヘヅル春ハモノゴトニアラタマレドモ我ゾフリ行

鶯ノ一名ト云說アレド、古今ニ、鶯ノ歌ドモノ次ニ、他題ノ哥ドモヲノセテ、後ニ此歌入、又後拾遺ニ

隙タエズサヘヅル春ノ百千鳥殘スクナキハルニヤハアラヌ

目錄ニ、鶯ノ外ニ百千鳥ノ歌一首トノセタリ。又万葉ニ

吾宿ノエノミモリハム百千鳥チドリハクレド君ハキマサヌ

梅花今盛ナリ百千鳥聲ノコホシキ春來ラシ

定家卿モ、必鶯ノ名トハオチツケ給ハズ。又貫之集ニ。百囀鳥

ミヤマニハ月モサダメヌモゝ千鳥時ゾトモナク啼ワタルカナ

鶯

キデツタフ春ニモアラヌ鶯ハ谷ニノミコソナキワタリケレ

此歌二首相双テ書リ、別ノ鳥トミエタリ

一モトメツカ　　ヲトメヅカト云コトナリ

モトメヅカオマヘニカゝルシバ舟ノキタゲニナレヤヨル方モナシ

大和物語ニ委、攝津ノ男、姓ハ菟原、和泉ノ男ハ姓ハ陳努、又サヽダノ男・ソハ〳〵男・ウナヒ男ハツノ國ノ男ノ名ナリ、ウナヒ乙女・ウハラ乙女・アレカフ乙女一人ノ名ナリ

　住ワビヌワガ身ナゲテンツノクニノイクタノ川ハ名ニコソアリケレ

万葉ニ過二葦屋處女墓一時

　古ノサヽダ男ノツマドヒシ菟會ヲトメノ奥城ゾコレ【〇以下圖書寮本ニ據テ補フ】

カヽル事ノ昔アリケルヲ繪ニカキテ故后ノ宮ニ奉【〇奉カ】ケレバ、伊勢御息所

　カゲトノミ水ノ下ニテアヒミレバ玉ナキカラハカヒナカリケル

一モトナ

　紫ノ帶ノムスブモトクモ見ズモトナヤ妹ニ戀ワタリナン

顯昭云、ヨシナト云心トミエタリ、又其心アル哥

　ワキコモル【〇ギモコガカ】エマヒマヒキノ係ニカケツヽモトナヲモホユルカモ

　タビニシテ物ヲモフトキニ時鳥モトナヽキソ我戀マサル

　サヨナカニ物ヲモフチドリ物オモフトハビヲル時ニ鳴ツヽモトナ

　春サレバツマヲ求ムト鶯ノ梢ヲツタヒ鳴ツヽモトナ

或人云、モトナトハ心エナシト云事無ト【〇以上補】申セトモ哥ノ心ニ不レ叶

丸云、此心モトナノ說可レ然、サレドモ常ニ云心モトナキハ、オボツカナキコトニ云ナラフニヨリ、此歌ドモノ心ニ不レ叶、「モトナ」ト云詞ノ根本ノヲコリヲ尋ルニ、「モト」ハ心モトナリ、人ノ心ノ臓・ムネヲサスナリ、「ナ」ハ無也、氣ツカヒナル時ニモ、不審ナル時ニモ、アヤウキトキニモ、胸中サハギテ心ノ臓ナキヤウニナルヲ「モトナ」ト云トミエタリ、「ヨシナ」ト云モ叶ヤウナレドモ義アサシ、又「モトナ」ト云詞「ヨシナ」ト云ヨリヲコルベキイハレナシ、「ヨシナ」ハ詮ナキ事ニ云詞ナリ、モトナヤイモニ續ワタリナン、モ只今本心ヲ失ヤウナレバ云ニヤ、イヅレモ哥ドモニ心モトノナキヤウニ心エテキケバ「心モトナキ」ト云詮尤神妙ナリ、心モトナキト云詞ノ上略ナリ、サレド常ニ云ニ コ、ロモトナシトアサ〳〵トキケバ古哥ニ不レ叶、此詞ノ根元ヲ分別シテミレバヨク叶侍

一モノヽフノヤソウヂ川

[万三]武士ノ八十ウヂ川ノアジロ木ニイサヨフ浪ノ行ヱシラズモ　人丸

顯昭云、モノヽフトハ人ノ惣名ナリ、人ノ姓ハ多カレバ八十氏ト云ナリ、百姓ト云モ多カル數ナリ、八十ハ陰ノ數ノ滿ナリ、是ヲ略シテ武士トイハネド、八十氏人トモ云也、イサヨフハヤスラフナリ。奧義抄云、武士トハタケキ者トイヘドモ、只男ヲナベテ云ニコソ、「ウヂ」トイハントテ「ヤソ」トハツヾク、八十氏ノ人ナリ

思ヤレヤソ氏人ノ君ガ爲ヒトツコヽロニイノルイノリヲ

私云、姓八十有ト定ベカラズ、只多カルヲ八十氏ト云ナリ。以上袖中抄。由阿ガ作。采葉云、物武ハ万人ニ勝

タルヲ云ナリ、八十氏事、異義マチ〱ナリ、或モノヽフノ矢トツヽクルナリ、或百官ハ政ヲタスク、武士ハ散在シテ國家ヲ守ル、モノヽ數ノ極ハ九々八十一、滿數ヲ云ナリ、九条前内大臣製作ノ玉垣内風俗ニ、天武天皇吉野河ハタニ奇有ヲ御ランジテ問給ニ、我武ト申、又ハ八十氏人ト申、即召仕、子孫相續シテ其後ウヂノ川上ニヲキ給云ヽ。依之家持歌ニ

吾君ノ　ミコノミコト　モノヽフノ　八十伴ノ雄ヲ　召アツメ　イサヨヒタマヒ　朝ガリニ　シヽフミヲコシ　ユフガリニ　鳥フミタテヽ云ヽ

八十伴ノ雄トハ只多義ナリ。古老傳云、祟神御宇逆徒山背ヨリ競來ル、時八十氏ト云防人ヲ宇治ノ邊ニ差遣シテ、關城ヲ固云ヽ。是橋ノ小島ノ關歟、可レ尋。又卿相雲客ヲモ八十氏人ト云ニヤ。古今六帖

長月ノ九日(コヽヌカノヒ)ノ百敷ノ八十氏人ノサカユテフ菊

行カヘル八十氏人ノ玉カヅラカケテゾタノム葵テフ名ヲ

又、八十氏トツヽカヌ哥

モノヽフノ八十乙女ラガフミトヨム白猪(マヽ)ノ上ノカタカゴノ花

一モヽフネノハツルツシマ

百船ノハツルツシマノアサヂヤマシグレノ雨ニモミダヒニケリ

此哥ハ新羅使到ニ對馬之淺茅浦ニ時詠也

大伴ノミツノトマリニ舟ハテテ龍田ノヤマヲイツカコエナン

是ハ廻來到ニ播磨ニ作ト云

秋サラバワガ舟ハテン忘貝ヨセキテヲケル沖ツ白浪

新羅使

礒ゴトニアマノツリ舟ハテニケリワガ舟ハテン礒ノシラナク

大伴卿

嶌陰ニ我フネハテ、ツゲヤランツカヒヲナミヤコヒツ、ユカン

顯昭云、モモフネハ多ノ舟ナリ、ハツルハヨスルナリ、或說ニ「出ル」ヲ云トイヘド万葉ノ哥ドモ其義ニ不叶

モミダヒニケリハ、モミヂニケリナリ

丸云、此新羅ノ使ハ皆日本人歟、異國人ナラバ和哥ヨミガタシ、又舟ハツルハ舟ヲコギハツル也、サアレバ舟ヲトドムルヲモ、ヨスルヲモ云ナリ、此中ハテシモナク漕來シ舟ヲコギハタスナリ、海士小舟、ハツセト云モ、昔彼所海ニテ、シカモ觀音ノ淨土タリシユヘニ名付トイヘド、今思フニ、舟ハテ、ト云詞ヨリ、アマノ舟ハツトハツゞケタルベシ、昔海ニテアリシト云說モ、此アマ小舟ト云ヨリ、作出タル事ナリ、舟ハツルハ、舟トマルト同、ハツセヲ泊瀬ト書テ「トマセ」トモ云ナリ、彼河ノ末ノ瀨百瀨アリ、其第一ノ始ノ瀨ナレバ初セト云也云ゝ

【セ】

一前司　三光院殿説
一折桂業（セツケイゲフ）
一前栽（セサイ）　能宣集ニ、前栽ノヘラニ侍リテ、ト云コトアリ、「ヘラ」ハマヘリ歟
一旋頭歌（セントウカ）　赤人集ニ、カウベヲメグラスト云題アリ
一セイレウテン　涼ノ字ヲリヤウトヨマズ、レウ・ラウヲ一ツニマギラハシテヨム
一是法々師（ゼホツシ）　是ハツレ〳〵草ニアル人ノ名歟
一關ノ戸ヲサソヒシ人ハ出ヤラヌ有明ノ月ノサヨノ中ヤマ
此關ハサヨノ中ニハナシ、相坂ノ關ナリ、此哥ノ義サバク人稀ナルベシ
一セミノ小川
　ミダラシノタエヌニシルシ石川ヤセミノ小河ノキヨキ流ハ
或書云、至ニ山代國岡田之賀茂ニ、隨ニ山代河ニ下坐、葛河与ニ賀茂河ノ所ニ會立坐見ニ廻賀茂河ニ、而言雖ニ狹小ニ然石河清河ニ在、仍号ニ石川瀬見小川ト
丸案ニ、神語也

一先途

一芹ツミシ昔ノ人

セリツミシ昔ノ人モ我如クコヽロニモノヽカナハザリケン

又俊頼長歌ニ

アヅマノ杣ニ宮木引、ミカキガ原ニ芹ツミシ、昔ヲ外ニキヽシカド、我身ノウヘニナリハテヌ

顯昭云、家々說多ケレド尙獻芹コソ本文アレ、文選ニ、野人有ニ快ク炙(アブリ)レ背ヲ而美ニ芹子ニ者ニ欲レ獻ニ之ヲ至尊ニ、是ハ稽叔与ニ巨源ニ絕レ交書ニ引事ニシタル古事也。列子ニ云、宋ノ國ニ田父アリテ春日ニ背ヲアテ、是ヲ思出トシ是ヲ貴人ニシラシメハ賞ニ預ントイヘバ、其妻ノ云、昔芹ヲウマシト思テ、鄕豪ニ奉リシカバ、ナメテミテ、是ハ味ナシト云シトアザミシ事也

丸案ニ、是モ俊頼ノミカキガ原ニ芹ツミシナドヽ云ニ不レ叶、又サガノ后ノコトモ信ジガタシ、タヾ奧義抄ノ說ヲ可レ用也

昔大和國ニ猛者(タケキ)アリキ、家ニハ山ヲツキ、池ヲホリテイミジキコトヾモヲツクセリ、門守ノ子ナリケルワラハノ、マウクタ丸ト云ケル有ケリ、池ノ邊ニ到テ芹ヲツミケリ、猛者ノイツキヒメ川遊ケルヲミテヨリ、此童戀病ニナル、母アヤシミテアナガチニ問キケドモ、アルベキコトナラネバ母モ又病ニ伏ヌ、時ニ彼家ニ立入レル女房親子ノ死ナンコトヲアハレミ、姬君ニカタル、姬ヤスキ事也、病ヲヤメヨト云ケレバ、例ノ如ニナリヌ、

姫ノ云ヤウ、忍テ文カヨハサンニ、手カヽザランハ口惜トイヘバ、童ヤガテ習ツ、我父母死ナンコト近シ、其後ハ何事モサタセサスベシ、文字シラヌハワルシ、學文スベシ、童又學文シテ、モノミアカスホドニナリヌ、又童ハシノンデカヨハサンニミグルシ、法師ニナレト、即法師ニ成ヌ、又云、其コトヽナキ法師ノ近付ンコトアヤシ、心經大般若ナドヨムベシ、祈セサスルヤウニシナサント云ニ、隨テヨミツ、又イサヽカ修行セヨ、護身ナドスル躰ニテ近付ベシトイヘバ出立、姫君憐テ藤ノ袴ヲトラス、片袴ヲバ自ヌヒツ、是ヲ着テ修行スルホドニ、姫君カクレニケレバ、道心ヲコシテ、尊キ聖ニテウセヌ、弟子ドモ行基ヲ請ジタルニ、禮盤ニ上テ云、マウクタ丸ガ藤袴、ワレコソヌヒシ片ハカマヽト云テカネウチテモノモイハデオリヌ、弟子アヤシミ問ケレバ、亡者智光ハ往生スベキ緣アレドモ、世間ニ貪着シテ、惡道ニユカントセシカバ、ワレ姫君トナリシ也、行基ハ文殊也、マウクタ丸ハ智光ナリ、智光頼光トテ往生シタル者ハ是也、コレハ仁海僧正ノ說也。俊成卿語云、行基ノ詞ハ哥也

マウクタガ修行ニ出シ藤バカマワレコソヌヒシソノ片ハカマ

此古事ヨク相叶侍、袖中抄ニ行基若クシテ智光ノ老僧ヲ敎化セン事如何トソシレリ、愚ナル難也、智光ノ若年ニ姫ニ生レ、死テ行基ト生レ、臨終以後ノ法事ノ導師ニ成給事能叶侍ル莫レ疑

歌林樸樕第廿七畢

【ス】

一ス丶フネ　仁德三十年秋九月、皇后紀州能野ノ岬ニ遊行テ御綱葉ヲ取テカヘリ給、其間ニ天皇八田皇女ヲ宮中ニ娶給、皇后恨テ所レ採ノ御綱葉ヲ海ニナゲ不著岸、故ニ時ノ人散葉海ヲ葉ノ濟ト号、天皇、皇后ノ忿テ不著岸ヲシロシメサズ、大津ニ幸シテ皇后ノ御舟待テ歌曰

ナニハビト(難波人) ス丶船(鈴船也、私記曰、以レ鈴餝レ舟也) トラセ(謂避也、登呂志乃義也) コシ(腰也) ナヅミ(泥也) ソノフネ(其舟ナリ) トラセ(謂避也) オホミフネ(大御舟也) トレ(取也、言レ極速取也)

凡御歌意者、皇后御船遲シ、機欋急速ニ可レ取由也

裏書云、フル雪ヲコシニナヅミテマイリコシ丶ルシモアルカ

時ニ皇后大津ニ不泊、更ニ引テ泝レ江　山背ヨリ廻テ向レ倭、明日天皇舍人鳥山ヲ遣シテ歌曰

ヤマシロニ(山背也) イシケ(急也、辭与レ曾五音通) トリヤマ(鳥山也、舍人ノ名也) イシケシケ(謂ニ急行ニ也、之字有ニ由久之訓ニ也) アカモフツマニ(我思妻ナリ、略レ於也) イソ(〇シ羅)キアハンカモ(急週ナリ)

皇后不レ還猶行(イデマス)之、至二山背河一而歌曰

ツギフネ（〇ネフ譯）、欲レ讀二山城一之發語也、泥者山也、須藝(ツギ)者繼也、言山相建繼也）（丸云、泥者山也、ト云註如何、タヾツキフネハヤマヌト云ベキ爲ナリ）　ヤマシロガハヲ（山背河也）　カハノボリ（河昇也）

アガノボレマ（磨ハ八歟、吾昇ナリ）　カハクマニ（河隈也）　タチサカユル（立榮也）　モ、タラス（百不足也、欲レ謂二八十一之發語也）　ヤソマノキハ（八十木ナリ）　オホキミロカモ（大君也、呂助字）

凡御哥意者、以二大皇ヲ奉レ喩二立下河隈一之木上、召二納八田皇女一之條、如二木石一无レ心之由也

愚昔云、万葉モ、タラズヤソクマザカニ

丸云、ヤソマノキノ註ニ、八十木也云々、ソレニテハ「マ」ノ字心得難シ、八十隅ノ木ナルベシ、川隅毎ニアル木ニタトフル歟、又河隅ト云ニ、皇后ノシリタマハヌ時ノ心モ含歟

越二那羅山ヲ望二葛城ヲ歌曰

ツキフネ、ヤマシロガハヲ（同上）　ミヤノボリ（見昇也）　ワガノボレマ（我昇也）　アヲニヨシ（私記曰、師説、楢ノ木之葉ノ色如二青玉一、故ニ喩テ言レ之也）　ナラヲユキ（過二奈良一也）　ヲタテ（小楯也、言倭國ノ山、如レ立二小楯ヲ也）（〇以下岡書舘本ニテ補フ」ヤマトヲユキ（過二大和一也）　ワガミガホシ（吾欲レ見也）　クニハ（國者也）　カヅラキ（葛城也）　タカミヤ（高峯也、略稱也）　ワギヘノ（吾家也）　アタリ（邊也）

凡御歌意者、眺二望葛城峯一兼忍二舊里一（吾家是也）之由也、更還二山背一興二宮室(ミヤヲ)於筒城岡南一而居(イマス)レ之、冬十月的(イクハノ)

臣祖口持臣ヲ遣シテ皇后ヲ喚シム、筒城宮ニ至リテカクト申セド默シテ不答、トキニ口持臣雪雨ニ沾ツヽ、
日夜ヲフル、口持臣ガ妹國依姫、皇后ニ仕テ侍リ、其兄ノ雨ニ沾ヲ流涕テ歌曰

ヤマシロノ(山背也) ツヽキノミヤニ(筒城也) モノマウス(物言也) ワガセヲ(吾兄也) ミレバ 見也)

ナミダグマシモ(涙流也)

皇后國依媛ニ、何ゾ尓泣ゾ、對テ申サク、庭ニ伏シテ請謁者ハ妾ガ兄也、コノ故ニ泣ト申ス、皇后曰、汝ガ兄ニ告テ速ニ還シメヨ、(〇以上補) 吾ハツヰニカヘラジ焉、口持復ニ奏于天皇ニ十一月天皇浮江幸ニ山背ニ、水ニ流ル、桑ノ枝ヲミ給テ

ツノサハフ(角障、私記曰、昔孝靈ノ御代、有ニ連牛ハ、欲ニ以レ角破ト堤、々ノ中急ニ有ニ巌石ハ、觸レ角相ヒ防ク、仍ニ遂不レ能レ壞コト) イハ(〇ノアリ釋ノ)ヒメカ(岩姫也、喩ニ皇后ニ) オホロカニ(朧ケ也、加与レ介五音通) キコサヌ(不レ聞也) ウラクハノキ 桑木也、背指レ桑爲ニ字具久羽ハ、故欲レ讀ニ怨由ニ矣) ヨルマシ(〇ジ釋ノリ)キ(不レ可レ寄也) カハノクマ(河隈ナリ) ヨロボヒユクカモ(行也) ウラグハノキ

凡御持意者、皇后嫉妬煩氣悶シ而、不レ隨ニ度々勅喚ニ、如レ障ニ角ヲ巌石ニ也、桑木雖レ爲ニ不レ可レ寄之物ハ、隨レ水者流行、似ニ心弱之人ニ貴(〇乎カ)、强弱相違之由也

丸云、心ノツヨキヨハキニタトフルニハアルベカラズ、ウラクハノ木ハウラミナリ、天皇ノウラミツヽヨルマジキ所ヘ、ヨロボヒ來ルヲヨルマシヽキ河ノクマニ、桑木ノヨルニタトヘ給心ナルベシ

明日、乘輿ニテ詣ニ于筒城宮一、喚ニ皇后一、皇后不ニ參見一、時天皇歌曰

ツギネ赴（丸云、ツキフネ也）ヤマシロメノ（山背女也）コクハモチ（木鍬持也、加尒也〔〇衍カ〕、言持ニ木鍬一也）ウチシ（打也、謂レ作レ畠也）オホネ（大根也）サワサワニ（左波也加尒也、言[illegible]、左和也加奈利）サカ（内也、汝也）イエセコソニ（謂家也、言造ニ廬家一也）ウチワタス（打耳也、言作ニ耳畠一也）ナカハヘナス（中納成也、謂臨幸也、今世称ニ夜蚊一之義也）キイリ（來入也）マイクレ（參來也、略利也）

亦哥曰

ツギフネヤマシロメノコクハモチウチシオホネ（以上同上）ネシロノシロ（根白之白也）タナムキ（手牟伎也、言以ニ皇后御手一蘿蔽平牟介ト也）マカスケマコソ（不レ蒋者古曽也、鷄助語、言殖ニ蘿蔽一也、マハ麿也）シラズトモ（不知也）イハメ（言也、言以ニ皇后御手一蘿蔽平牟加牟、雖レ爲ニ下劣事一、彼畠在ニ宮邊之上一者、定被ニ知食一歟）

皇后ノ奏給フヤウハ陛下八田皇女ヲ納テ爲レ妃、ソレニ副テ后タランコトヲ不レ欲トテ、ツキニマミエタマハズ、天皇ヲカヘシ玉フ、天皇大ニウラミ怒ナガラ猶シノビ思給トアリ

右兩首トモニソコニアル大根ヲ題ニシテヨミ給フナリ

丸云、光源氏ノ物語ハ皆寓言タリトイヘドモ、下ニハ實ヲフマヘテカクトイヘリ、サレバ桐壺帝ハ醍醐天皇●

源氏君ハ西宮左府ナド、云ナラハス上ハ、彼物語ニアル男女ドモニ、シカトシタルハイヅレモソレ〳〵ニアテテ書ベシ、然ドモ末代才智少ク、上古ノ書モ多ウセ、心ヲ付テミイダサント思フ人モ稀ナルニヨリテ、シレヌコトノミ、サルニヨリ、深キ所モタヾ浅々トオモハルヽ、遺恨ノ事也ト思フニツケテ、フト思ヨリ侍ル、此皇后ノネタミノフカキヲ以、六条ノ御息所ヲ書タルベシ、荘子ガ寓言モ、ウラニ世ノ道理ヲ實ニカキタルニ、紫式部ハ世ノ道理ノ外ニ、カヤウノ證跡ヲフマヘ、猶其上ニ佛法ヲコメタリ、日本無双ノ書ヤウナリ、マコトニ觀音ノ御照光ヲソヘラレタルモノナラシ

一スサクキン　朱雀院

一ストリ　洲ノ鳥也、非レ栖

一スカ鳥　飛田ノ細江ニヨメリ

一雀鷂　小鷹也、貝ニモスヾメ貝トテアリ

一鈴舟　公家ハ御アリキノ時、驛路鈴ヲ持給也、行平須磨ヘ下向ノ時

ス、舟ヲヨセクル波ニ驚テスマノ上野ニ雉子ナクナリ

ツノクニノスマノセキモリイデ、見ヨムマヤツタヒノ鈴キコユナリ

一源ト云題ニテ　定家卿

マネクトモ草ノ袂ノカヒモアラジトハレヌ里ノフルキ籬ハ

花薄ハ、穗ノ白ヲ云、尾花同、草ノ袂ナドモ同、シノ薄ハシノヽヤウ也、一說マダホニイデヌヲ云

鶉ナクヲザヽガ原ノシノズヽキタレヲウシトカホニ出ザラン

ツヰニハ穗ニイヅレドモ、ホニイデヌ間ヲ忍心ニカリテ、哥ニヨムナリ、シノブ薄ト云アリテ、穗ニ不レ出トオモフハワルシ、タヾシノ薄ト云薄ノアルヲ、忍心ニトリ用バカリナリ、篠ニ似タル薄ト云說尤ナレドモ、サヽノ葉ノヤウニ短葉ノ薄モアリガタシ、「シノ」トハ、シゲキ薄ト云義ナルベシ、糸薄ハ細ヲ云、キリフノ薄ハフヲ切タルヲ云也、キリウフノ薄トモ云、俗ニ鷹フ薄ト云也、マスヲハ、十寸緒也、穗ノ長ヲ云、「マスヲ」ハ麻羽ト云、穗黄色ニ在也、マスホハ、ホノイロウス紫ナリ

右之說ハ鴨長明ガ無明抄ノ說ニ相違ナリ、爲二覺悟一載之、只登蓮ガ說ヲ可レ用。カリフノ薄ハ、カリタル跡ニ生タル薄也

一スハヤリ　是ハ頼朝ノ哥ニ、人ノ送ル鮭ノ楚割ト云コトナリ、「ソ」ト「ス」ト五音同ケレバ、「ソワリ」ト云コトヲヨメリ、東鑑ニアリ

マチエタル人ノナサケモスハヤリノワリナクミユルコヽロザシカナ　頼朝

「スハ」ノ二字ハ「ソ」ト云ヒヾキナリ、タトヘバ「ケ」ノカンナヲ「クヱ」トカクニ同

一スハノ明神ノ事　信乃ノ諏方ノ明神ノ、一宮ト申女神ノ許ヘ、十二月ノ晦夜カヨヒ給チカヒトテコソハ、スハノ海ハ氷テ旅人モ歩ワタリシ侍レ、晦夜神ワタリ給シルシ、氷ノ上ニミエテ、春立朝ニ氷ハトクトイヘリ

右袖中抄ニミエタリ、又神ノ渡リテトクルト云、哥ニテミレバ、春立朝氷ノトクト云ハ相違歟

一スカルナル野

春サレバスガルナル野ノ時鳥ホト〴〵イカマアハズキニケリ

顕昭云、酢軽成野ト云、草ノスノカレテカロクナル野ト云歟、草ノスハ茎ナリ、万葉ニコシボソノ酢軽キ妹ナドヨメリ、スグロノ薄ト云モ、薄ノヤケテ、スノクロキヲ云ガ如シ、但是ハ末ノクロキヲ云ト云義アリ、又古今ニ

スガルナク秋ノ萩原立テタビ行人ヲイツトカマタン

諸抄ニ、コレハ鹿ヲ云、或若鹿トモ云、其中奥義抄ニハサソリト云虫ナリ、万葉ニ春ナレバスガルナルノ、云ヽ、今案ニ、日本紀ニスガルト云人ノ名アリ、文字ハ蜾蠃（クハラ）ト書、蜾蠃サソリ・サヽリ・スガル、或説アヅマニハ蜂ヲスガルト云、蜂・サソリ同物也、然テサソリヲモ、鹿ヲモ共ニスガルト云詞ニ付テ、スガルナルノヘト云、万葉ノ歌ヲ、サソリト奥義抄ニ釋タルハ如何

丸葉ニ、顕昭ノ、草ノスノカレタルニモアルベカラズ、春サレノ歌ノハ、郭公ノ身ノカルキナルベシ、古今ノスガルナクハ鹿ナリ、シカハ身ガルキモノナリ、奥義抄ノサソリ蜂ノ説不レ可レ用歟、万葉ニコシノ細キ美女ヲ、コシボソノスガルキ妹トヨメバ、蜂モ腰ホソケレバ、蜂ヲスガルト古國ニ云モ尤ナレド、万葉ノスガルナル野ヲ、蜂トイハンハ、無下ノコトナリ、又薄トモ草トモナクテ、スガルナル野トバカリアルヲ、スノカレテ

花薄ハ、穗ノ白ヲ云、尾花同、草ノ袂ナドモ同、シノ薄ハシノ、ヤウ也、一說マダホニイデヌヲ云
　弱ナクヲザ、ガ原ノシノズ、キタレヲウシトカホニ出ザラン
ツヰニハ穗ニイヅレドモ、ホニイデヌ間ヲ忍心ニカリテ、哥ニヨムナリ、シノブ薄ト云アリテ、穗ニ不レ出ト
オモフハワルシ、タヾシノ薄ト云薄ノアルヲ、忍心ニトリ用バカリナリ、篠ニ似タル薄ト云說尤ナレドモ、サ
、ノ葉ノヤウニ短葉ノ薄モアリガタシ、「シノ」トハ、シゲキ薄ト云義ナルベシ、糸薄ハ細ヲ云、キリフノ薄ハ
フヲ切タルヲ云也、キリウフノ薄トモ云、俗ニ鷹フ薄ト云也、マスヲハ、十寸緒也、穗ノ長ヲ云、「マスヲ」ハ
麻羽ト云、穗黃色ニ在也、マスホハ、ホノイロウス紫ナリ
右之說ハ鴨長明ガ無明抄ノ說ニ相違ナリ、爲二覺悟一載之、只登蓮ガ說ヲ可レ用。カリフノ薄ハ、カリタル跡ニ
生タル薄也

一スハヤリ　是ハ賴朝ノ哥ニ、人ノ送ル鮭ノ楚割ト云コトナリ、「ソ」ト「ス」ト五音同ケレバ、「ソワリ」ト
云コトヲヨメリ、東鑑ニアリ
　マチエタル人ノナサケモスハヤリノワリナクミユルコ、ロザシカナ　賴朝
「スハ」ノ二字ハ「ソ」ト云ヒヾキナリ、タトヘバ「ケ」ノカンナヲ「クエ」トカクニ同

一スハノ明神ノ事　信乃ノ諏方ノ明神ノ、一宮ト申女神ノ許ヘ、十二月ノ晦夜カヨヒ給チカヒトテコソハ、
スハノ海ハ氷テ旅人モ歩ワタリシ侍レ、晦夜神ワタリ給シルシ、氷ノ上ニミエテ、春立朝ニ氷ハトクトイヘリ

右袖中抄ニミエタリ、又神ノ渡リテトクルト云、哥ニテミレバ、春立朝氷ノトクト云ハ相違歟

一スカルナル野

春サレバスガルナル野ノ時鳥ホト〳〵イカヾアハズキニケリ

顯昭云、酢醎成野ト云、草ノスノカレテカロクナル野ト云歟、草ノスハ莖ナリ、万葉ニコシボソノ酢輕キ妹ナドヨメリ、スグロノ薄ト云モ、薄ノヤケテ、スノクロキヲ云ガ如シ、但是ハ末ノクロキヲ云ト云義アリ、又古今ニ

スガルナク秋ノ萩原立テタビ行人ヲイツトカマタン

諸抄ニ、コレハ鴟ヲ云、或若鹿トモ云、其中奧義抄ニハサソリト云虫ナリ、万葉ニ春ナレバスガルナルノ、云ヽ、今案ニ、日本紀ニスガルト云人ノ名アリ、文字ハ蜾蠃（クハラ）ト書、蝸蝓サソリ・サヽリ・スガル、或說アヅマニハ蜂ヲスガルト云、蜂・サソリ同物也、然テサソリヲモ、鹿ヲモ共ニスガルト云詞ニ付テ、スガルナルノヘト云、万葉ノ歌ヲ、サソリト奧義抄ニ釋タルハ如何

丸案ニ、顯昭ノ、草ノスノカレタルニモアルベカラズ、春サレノ歌ノハ、郭公ノ身ノカルキナルベシ、古今ノスガルナクハ鹿ナリ、シカハ身ガルキモノナリ、奧義抄ノサソリ蜂ノ說不レ可レ用歟、万葉ニコシノ細キ美女ヲ、コシボソノスガルキ妹トヨメバ、蜂モ腰ホソケレバ、蜂ヲスガルト東國ニ云モ尤ナレド、万葉ノスガルナル野ヲ、蜂トイハンハ、無下ノコトナリ、又薄トモ草トモナクテ、スガルナル野トバカリアルヲ、スノカレチ

クロキト云ベキヤウナシ、今モ人ノ詞ニスガルキ●スモノカクリ●スハナシ、ナド云如ク、カルキコトヲスガルナル野ベノ時鳥ト心エ侍ベシ、スガルノ詞ヲ、野ヘハカクベカラズ、時鳥ニカクベシ、時鳥モ身ノカルキ鳥也

スカハラヤ伏見

イザコヽニ我世ハヘナンスガハラヤ伏見ノサトノアレマクモオシ

顯昭云、古今ヨミ人シラズ也、隆縁ト云僧ノ、伏見仙人ガ哥トイヘド無レ證、惠心僧都ノ物語ノ中ニ、伏見舞ト云モノアレド、此哥作トハミエズ、菅原ノ伏見ハ大和也、後撰ニ

スガハラヤ伏見ノクレニミワタセバカスミニマヨフヲハツセノ山

奥義抄ニ、安康天皇崩、菅原伏見野ニ葬、此所也

丸或古今傳授之本ヲミルニ、此哥天照太神ノ御哥、ト秘事ガマシクアリ、博學ノ顯昭スラ如レ此書ヲカル、上ハ、何ノ證據ナキコト、知ベシ、カヤウノコトヲ心エテ、末生猥ナル無證説ヲ信事ナカレ、又菅原院ニアリケル人ニ

菅ハラヤフシミノ里ノアレシヨリカヨヒシ人ノアトモタエニキ

是ハ菅原ト云ニ付テ、伏見トヨミソヘタル也

一スミノ江ノヲツラヒ

住江ノヲ集樂ニイデヽウツヽニモヲノガメスラヲ鏡トミツル

顯昭云、ヰナカノモノヽアツマリテ遊ヲ小集樂ト云、件ヨシニハ年毎ニ、濱ニ出デヲツラヒトテ、アソブコトアリ、昔アヤシキ男、里人ノ多中ニ、メニツク女ノアルヲミテヨメルトナン。万葉、首鄙人姓名未レ詳也、于レ時郷里ノ男女衆野遊、是ノ會集之中有ニ鄙人夫婦ニ其婦容端正ニシテ秀ニ於衆諸ニ乃彼鄙人之意弥増ニ愛妻之情ニ而作ニ此謌ニ讃ニ嘆美貝ニ也

丸、右ノコトガキナレバ、此哥ノ作者ワガ婦ノ人ニスグレタルヲホメテヨメルトキコエタリ、日ニツク女ノアルト云ハワルシ

一末ノ松山　在奥州

君ヲヽキテ他シゴヽロヲワガモタバ末ノ松山浪モコエナン

坤元儀ニハ、末ノ松山●中ノ松山●モトノ松山トテ三重ニアリ、又或本ニハ末ノ松●中ノ松●モトノ松トモ、サレバニヤタヾ末ノ松ト讀リ

コエニケル浪ヲバシラデ末ノマツ千代マデトノミ思ヒケルカナ

或ハ只松ヤマトモ

マツヤマニツラキナガラモナミコサンコトハサスガニカナシキモノヲ

昔男、女ニアヒテ、末ノマツヤマヲサシテ、アノ山ニ浪越ントキゾコトゴヽロハアルベキ、トチカヒタル、彼

山ハ遠ミレバ山ヨリアナタニ、海ノ浪ノ山ヨリ上ニミユル、マコトノ浪ノコユベキ由ヲ讐ヘルナリ、アダシハ異字也。心カハリケル女ニ人ニカハリテ、　元輔

契キナカタミニ袖ヲシボリツヽ末ノ松山浪コジサトハ

兼道朝臣ノカレガタニナリテ、年越テトブラヒテ侍ケレバ、元平親王ノムスメ

アラ玉ノ年モコエヌル松ヤマノ浪ノコヽロハイカヾナルラン

又男女ナラネドモ、古今ニ

浦近クフリケル雪ハ白浪ノ末ノマツヤマコスカトソミル

又金葉ニ　匡房

イカニセン末ノマツヤマ浪コサバ嶺ノ初雪キエモコソスレ

又弘徽殿ノ女御ノ哥合、祝歌ニ、金葉ニ入

君ガ代ハ末ノマツヤマハル〳〵トコス白浪ノカズモシラレズ

義忠判云、哥ノ姿イトヲカシクシテ、歌嶋ノヤマト哥トハミエ侍レド、男女ノ中イカニゾヤ、ウラミ哥トオボエテ、祝ノ方ニハ聞ズ侍ハ、是モカレモワタツウミノ方ニタカセ舟ノ、サシテマサレリトモ申難シ、又八条相國海橋立亭歌合ニ

櫻　左　　德大寺左府

花ザカリ末ノマツヤマ風フケバウス紅ノナミゾ立ケル

判者顕季卿云、此哥コソ思タマヘアツカヒワ(〇ニ袖)タレ、マヂカキ櫻咲所ハ、昔モ今モアマタヨミ來ル所ヲサシスグシ、花モヨミコヌ末ノ松山ト思カケラレ侍ラズ、ムネト又松ノ花トミエタリ、ウス紅ト云コトハ、ソノカミヨミタリシ後ヨリ、今ハヨミ侍ラズ、カタ〴〵思カケラレズ

一スクロノ薄

アハヅノヽスグロノスヽキツノクメバ冬立ナヅム駒ゾイバヘ(〇ユ袖)ル

童蒙抄云、此歌ヨミタリケル時ハ、カゲノヤウナルモノヽ醉シテ云ケルハ、素性法師也、此ヨミタマヘル哥イミジクタノモシク思フスヂナレバ、メヅル心ニタヘズナン、マウデ來トゾ云ケル。顯昭云、此歌ハ、木幡僧正靜圓ノ哥也、此人ハ大貳殿小式部内侍ノ子ナレバ、イミジキ好士也、スグロノ薄ト云コトモ、和泉式部ガ孫ナレバ習傳ヘテヨマレケルニヤ、 興アル事ナリ、スグロノ薄ト云ハヤケノヽ薄末黑キナリ、「エ」モジヲ略シテ「スグロ」ト云ナリ。万葉ニ

春山ノ關ノ乎爲黑ニワカナツムイモガシラヒモミラクトモシモ

是ヲトリテ　基俊

春ヤマノ關ノヲスグロカキワケテツメルワカナニアハ雪ゾフル

万葉註云、關ノヲスグロトハ所ノ名也、今云、春山ノ關ノト云マデコソ、所ニテハアルベキ、ヲスグロトハ末

ノクロキ草ヲ云ベキナメリ、萩トモ●薄トモ●草トモイハデ、只スグロトイハンコト心エネド、万葉ノ哥ハヤノミコソ侍レ、ハダレ雪ヲモ「ハタレ」ト云、サヾレ石ヲモ「サヾレ」トヨメリ、カキワケテ若菜ツムトヨムゾ、オリマダシケレド、ヤケノヽ草ノ、末黒キヲカキワクベキニコソ

　ケフヨリハ萩ノヤケハラカキワケテワカナツミニト誰ヲサソハン

或説、薄ノフルキクキヲバ「ス」ト云、クキノヤケテ黒ヨリツノクム也

丸云、此説可レ然、末ノ黒キト云義アシヽ、ヤケノヽ草トテ萌出タル若葉ノ、末クロカルベキ故ナシ

歌林樸樕第廿八巻畢

歌林樸樕二十八卷爲十四策矣　逍遊軒貞德所撰述者也

右全篇以貞德老翁之眞筆爲元本書寫之畢

諸居

クモノシカラミ　雲柵　六帖ニ大井川雲ノシガラミトヨメリ

クイコ（ママ）　乘門　ヨステ人也

クサノイト　草綫　詩ナド作ル

　クサノイトニヌク白玉ト見ヘツルハ秋ノムスベル露ニゾ有ケル

クサハナキ　狸　草稲置ニヤ、稲置ハ縣ノ長ナドヲ云也

クチノハナ　口花　文章ヲ云

草ムシロ　草筵　法師ノ敗物ト注

丸思ラク、此註ノゴトクナラバ尺教ノ詞成ベシ、此草ハ褻ナルベシ、草座ト云事ニハ侍ラズヤ、又連哥ナドニハ只筵ノヤウニノベタル草ヲ「草筵」トイヘリ

草枕　山野　旅宿ニカギルト思フベカラズ

クニスミカ　國栖國棲　吉野クス人ヲ云歟、古哥ニ、クニスミカワカナツムランシメノヽニトヨメル標野ハ近江ト山城ニアリ、大和ニハアラズ、此國栖正月ニ内裏ニマイレル其時シメ野ニ出テ、若菜ヲコソツミ侍ルラメ、江州ノ都ハ天智ノ御時ナレバ、國栖ハイマダマイルベカラズ、天武ヨリ國栖ハマイリソメタリ、然ハ此京ノ内裏ヘマイリテ、其時シメ野ヘ立イデ侍ル歟、七野社ノ邊ニ標野ト云野有ト云々、クスノマイリソメタル事、日本紀ニハ應神天皇十九年ニマイルトアリ、但中絶テ又天武ノ比マイルニヤ、但天武ニ始ルトハ俗說、天

武ハ大和國飛鳥淸見原ニ都シ玉フナリ

クシミタマ　石ノ名也

クモカクレ　月ノ雲ニ隱ル、ニタトヘテ、月トイハネドモ人ノ死スル事ニナル也
哥ニヨリテ死スル事ニハ限ラサレドモ源氏ノ卷ノ名ヨリ、イマ〳〵數コト葉ニヲノヅカラ成ケレバ、哀傷ノ哥
ナラデハ其詞ヲヨムベカラズ

　トヾメ得ヌイノチニシアレバ數妙ノ家ヨリ出テ雲ガクレニキ

天平七年新羅國ヨリ理願トイフ尼仁德ヲ感ジ朝ニ來レルガ、病死スル事ヲカナシビテ、坂上郎女ガヨメル也、
雲隱ハ死スルヲ云、源氏ノ心ハ遁世ヲ云、
丸云、此源氏ノ心ノ註不ㇾ可ㇾ用、別ニ御傳有

クハノエヒラ

　山里ハ桒ノエビラニスム月ノカリニモマユノスソハ見ヘツ、

羅飼ニ落ナド（本ノママ(朱)）ヲ編テ、ソレニヲサテ（上ニ同シ(朱)）カフヲエビラト云

クモテ

　戀セジトナレルミカハノ八橋ノクモデニ物ヲヲモフコロ哉

蜘蛛手也、蛛ハ手ノ八數アルニヨリテ八橋ノ蛛手トハツヾケシ也、又八橋ナクテ蜘手ト詠ル哥

浪(ママ)クテル松ノ下枝ヲ蜘手ニテ霞ワタレル天ノ橋立　俊頼

クモノミヲ

天ノ川雲ノミヲニテ早ケレバヒカリトヾメズ月ゾナカル、

雲水尾トハ水ノハヤキ所ヲ水尾トイヘバ、ソレニタトヘテ、雲ノハヤキヲ雲ノミヲト云歟

九品ノ哥

九品上　四条大納言撰

上品上　是ハ詞妙ニシテ餘リノ心サヘアル也

春タツトイフバカリニヤミヨシ野ヽ山モ霞テ今朝ハ見ユラン

ホノ〴〵ト明石ノ浦ノ朝霧ニ嶋ガクレ行舟ヲシゾオモフ

上品中

深山ニハアラレフルラシ外山ナルマサキノカヅラ色付ニケリ

相坂ノ關ノ清水ニカゲ見ヘテ今ヤヒク覽望月ノ駒

上品下

世ノ中ニ絶テ櫻ノナカリセバ春ノ心ハノドケカラマシ

望月ノ駒曳ワタス音スナリ勢多ノ中道橋モトヾロニ

中品上　心詞トヽノホラズシテヲモシロキ也

立トマリミテヲワクランン紅葉ゝハ雨トフルトモ水ハマサラジ
遠方ニ萩刈ヲノコ躙ヲナミネルヤネリソノクダケテゾ思フ
中品中　スグレタル事モナク、ワロキ所モナクテ有ベルサマヲシレ〔○ルナリ脱カ〕
春キヌト人ハイヘドモ鶯ノナカヌ限リハアラジトゾ思フ
イニシ年ネコジテウヘシ我宿ノワカ木ノ梅ハ花咲ニケリ
中品下　スコシヲモヒタルトコロ有也
キノフコソサナヘトリシカイツノ間ニイナバソヨギテ秋風ゾフク
我ヲトフ人ヲ、モハヌ報ニヤワガ思フ人ノ我ヲ思ハヌ
下品上　ワヅカニ一フシ有力也
吹カラニ秋ノ草木ノシホルレバムベ山風ヲ嵐トイフラン
アラシホノ潮ノハル〔○ミツノ潮カ〕アヒニヤク塩ノカラクモワレハ老ニケル哉
下品中　〔○ことのこゝろ、むげにしらぬにもあらず脱カ〕
今ヨリハ植テダニ見ジ花薄穂ニ出ル秋ハ佗シカリケル
我駒ハハヤ、引〔○ク行カ〕コセマツチ山待ラン妹ヲ行テモ〔○ハカ〕ヤミシ
下品下　〔○ことばとゞこほりて、おかしき所なきなり脱カ〕

世ノ中ノウキ度毎ニ我〔〇衍カ〕身ヲ投バヒトヒニ千度我ヤシニケン

アヅサ弓ヒキミヒカズミコズバコズコバコソハナヅコズバコハイカニ

葉子　元日ニマイルトソ白散ノ事也、世ニシレル事ナレバ記ニ不レ及、天子清涼殿ニテキコシメス

クキラ　ホト丶ギスノ梵語也

クハセ　爲飡　鷹ノ鳥ヲ取タル時、ソノ鳥ノ肝ヲ鷹ニ飡スルヲ云、小鷹ハ頭ヲクハスル也、大鷹ニハ何鳥ニテモ肝ヲ飡スル也、其肝ニカハリメ有、雌ハ右ノ腋ヲサキ、雄ハ左ノ脇ヲ割テ肝ヲ取出シテ鷹ニクハスルヲ云、鳥トハ大方雉ヲ云

クヒナトヒ　水鷄飛　草頭ノタカサニ飛入テ、ヤガテヲホクスコシヅツトビテ行ヲ「クヰナトビ」ト云、水鷄ト云鳥ノトビヤウニ似タレバ也、是モ鷹ノ事ヲ云ノ章ニヤ

クモノソテ　雲袖　雲ノカサナル事也

クツノナリイタ　沓鳴板　内裏御緣ノ板也

クガタチ　探湯　アマカ丶ノヲカノクガタチキヨケレバト盜人ノ實否ヲシランタメニ湯起請ト云事ニ云、昔盜人ヲセムトテ、湯ニテ手ヲ入サセケル事ヲ詠、アマカ丶ハ所ノ名也、クガタチハ盜人ノ事也ト倭朝抄ニ有丸云神功皇后ノ御時、イヤシキ者等神ノ子孫ト云ヲタヾサントテ、銅湯ヲワカシテ手ヲ入サセ玉ヒシ事也、是我朝湯起請ノハジメト云

日本紀 應神天皇十年ニ甘美内宿祢ガ武内宿祢ヲ讒言スルコトアリ、其實否ヲ正サントテ磯城川濱ニテクガタチシ、武内罪ナクテ勝レタリ、其後允恭天皇四年姓ヲ僞ル者ヲタヾサント羣師百寮メシツレ味橿丘云辞禍戸碑ニシテクガタチアリシナリ

日本紀ニハ「アマカシノヲカノコトノマガトノサキ」トアリ、爰ニハアマカヽミト云、神功皇后ノ御時ニクガタチハ日本紀ニナシ、不審

クチノハ　ロ　タマクチノ事也

クモツヽミ　雲皷　鳴神ノ異名也

クモ待出ンホト　雨ハレルハト云心也、文ノ詞也

丸云雨フルウチハ、ソラフタガツテウゴカヌ故ニ雲ノアヤ見ヘヌモノ也

クツハムシ　鞍馬山ニヨメリ　又相坂山駒迎ニ

　鳴ナルハ相坂山ノクツハ虫駒ムカヘスト人ヤ聞ラン　師時

クモノカケハシ　雲棧・雲梯、禁中ニ詠、又只モヨム、魯般ガ古事史記ニ出

クシタカハ　櫛田川　齋宮ノ御前ニ有川也

クロトノハシ　黑戸楷、禁中也、又クロトノハシノモトノサウビ、ケシキ斗咲テトハ階底薔薇入レ夏開ト云心也、「クロト」ハ仁和帝ニハジマレリ、此帝ノ御子ニヲハシマシ、時(五十一歳御即位)アソバシナレタルマ

サナゴトヲ遊バシ、御殿ノ名也、マサナゴトハ今ノ料理調味ナドノ事也、火ヲ燒玉ヒシニ、フスボリタレバタロ戸トハイフ也、光孝天皇ヲ仁和帝トモ小松帝𪜈申

クハヤ　クハヤトテトハ「サソ」ト云心、又サラバトテト云詞也

クレ竹ノニホヒ　吳竹匂　源氏ニ「クレタケノワザトナク風ニコボレタルニホヒ」ト有、薫香ニアラズ、物ノ色ニ付テ匂トイヘリ、竹ニモ有ルベシ

クシロ　釧　女房ノテニヌキタキ(本ノママ(朱))モリテシタル物ヲイヘリ、女ノ指腕ナドヲ太クナサジトテ昔ハカネノ輪ヲ入タリトイヘリ、礼記ニ見エタリ、但ムスヒヲコ(ママ)、モノナリト註、此注ニハ相違

クサ〳〵　種〻　草〻也

古今ノ序ニモ有、中臣祓ニハ雑ノ一字ヲ「クサ〳〵」トヨメリ

クマ〳〵シク　曲〻𪜈、隈〻𪜈書　ヲボツカナキナド云也

クチ　倶知(日本紀)　鷹ヲ云也、屛風ノ繪山里ニ人々ナガメテヰタルニ、野ニ鷹狩スル處ヲ

キマス鳴カタ野ニ君ガクチスヘテァサフマスランイザ行テミン　俊頼

顯昭云、スタ(ママ)所ノ名也、若ハ菟田交野ヲ書違タルニヤ、「倶知」ハ鷹ノ名、日本紀ニ有、アサフマスハ、朝ニ野ヲ踏スルナリ、万葉ニ

タマキハル内ノ大野ニ駒ナベテアサフマスランソノ草フケノ

紫野御狩ハユラシマジロナルクチノハガヒニ雪チロホヒテ　俊頼

野行幸ヲヨメル、顕昭初句ハ紫野也、「ユラシ」ハ「シハシ」ト也、サレド此哥ニテハホムル詞ト聞エタリ、玲瓏ヲ一タマモユラニ」トヨメリ、万葉ニ鷹狩ヲヨムニ、少鈴モユラニトモ、鈴モユラニトモヨメリ

丸云、「マシロ」ハ白鷹ト云ニハアラズ、眉白ト書也、「シ」モジ濁ベシ

クロトノクヰナ

タレシカモクヰナナカテハタヽクベキクロトノミトノヒマシラムマテ

遶水鶏ヲヨメル、顕昭云。黒戸萩戸清涼殿ニ有

丸云、水鶏ハ邊土ナラデハ有マジキヤウニ人ノ存ズルニ、禁裏ニヨメリ、依レ爲ニ覺悟ニ書之畢

クサトルタカ

ユフ間グレハネモツカレニタツ鳥ヲクサトル鷹ニ任セテゾミル

顕昭云、ツカレトハ雉ノ一度タチテ居ルヨリ後ヲバ疲ト云也、タチテ飛疲ヌル心也、サレバ疲ニタツ鳥トハタチテヰタルカ、又タツヲ云也、サテ〳〵ツカレトハ云也、草取トハ草中ニテ雉ヲ云也、空ニトルハ空取ト云

丸云、取ノ「ト」文字濁ルベシ

クレハトリ　ハトリトハ、ハタヲリ也 タヲ反ト

クキヌキ

守人モマタ絶ナクニ河口ノ關ノクキヌキ早朽ニケリ
關ノ釘貫ハ貫ノ木也、河口ノ關ニ河也、一說北國、催馬樂ニ、川口ノ關ノアシガキトモヨメリ

クレナハナケ

イサケフハ春ノ山邊ニマジリナンクレナバナケノ花ノカゲカハ
定家卿曰、クレナバナケトハ暮ヌトモナカルベキ花ノ陰カハ、夜モ花ニ交リテ寢ナントヨメリ
丸云、イサノ「サ」モジ濁、「ナケ」ノ「ケ」モジ濁ベシ

クモノハタテ

（サレハ(朱)）　（人コフル身ハイ(朱)）
夕暮ノクモノハタテニ物ゾ思フ天津空ナル君ヲコフトテ
雲ノ旗手トハ、日ノ入ヌル山ニ、ヒカリスラ〳〵トタチノボルヤウニミユル雲ノ、旗ノ手ニモ似タルヲ云也、又蛛手ノヨシニ書タル物モアレド、天津空ナルナドヨメル哥、雲ナラデハウタガフベキナシ、重之蛛トヨミタルモ、雲ノ旗手ナレバ、蛛ニソヘヨマン事ナカルベキ事ニアラズ。　蜘蛛ノ機手（ハツテ）、是ハ巢ヲ作ル事ナルベシ、是又一理アル歟、衣通姬ノ御事ヲ思ヒアハセタル御方ノヲホシメシヨルナラバ、天津空ノ君ノ御事ニ付テヨマセナクハアリシ、又「ハタテ」トモイフベキ歟、是ハ隔也、「ハ」ト「ヘ」ト五音通也、物ヲワカツヲ「ハタツル」トナン云ニヤ

〔○以上帝國圖書館本ク部の全部〕

日本古典全集既刊書目總覽

（洋數字ハ全冊數。無記入ハ他卷併綴。＊ハ古典文庫編入ノ印。(狩)ハ棭齋全集。(西)ハ西鶴全集ノ略符。）

【第一期刊行書目】

＊出雲風土記 1
＊常陸風土記 1
＊播磨風土記
＊豐後風土記
＊肥前風土記
萬葉集＊略解 8
懷風藻 1
凌雲集
文華秀麗集
＊校本日本靈異記(狩) 1
經國集
本草和名 2
＊御堂關白記・附歌集 2
本朝麗藻
源氏物語 5
榮華物語 3
平家物語 2
＊吾妻鏡 8
＊曾我物語 1
法然上人集 1
易林本節用集 1
＊好色一代男(西) 1
好色二代男(西) 1
＊西鶴諸國咄(西) 1
近代艶隱者(西)
好色一代女(西) 1
日本永代藏(西)
新可笑記(西)
本朝櫻陰比事(西) 1
世間胸算用(西)
俗つれづれ(西)
芭蕉全集 2
＊玉かつま 2
日本靈異記攷證(狩) 1
京遊筆記(狩)
轉注說(狩) 1
扶桑略記校譌(狩)
每條千金(狩)
大隈言道全集 2

【第二期刊行書目】

＊古事記 1
＊採輯諸國風土記 1
＊竹取物語 1
古今和歌集・附教長注 1
土佐日記 1
＊大和物語
＊住吉物語
後撰和歌集 1
＊片假名本後撰集
＊延喜式 7
＊拾遺和歌集・附公任集 1
蜻蛉日記
更級日記
＊清少納言(枕草紙)家集 1
＊紫式部日記・附家集
和泉式部全集 1
＊唐物語
＊舞圖(信西古樂圖) 1
教訓抄 2
＊保元物語 1
＊平治物語
＊宇治拾遺物語 1
長秋詠草 1
山家集
＊承久記
＊義經記 1
徒然草 1
謠曲百番 4
＊諸功分物 1
＊應仁記 1
＊醒玄錄
＊因縁算歌
＊ぎやどぺかどる 1
＊妙貞問答 1
破提宇子
鸚鵡錄
好色五人女(西) 1
本朝廿不孝(西)
男色大鑑(西) 1
懷硯(西)
武道傳來記(西) 1
武家義理物語(西) 1
＊好色盛衰記(西) 1
＊一目玉鉾(西)
＊西鶴置土產(西) 1
西鶴織留(西)
萬の文反古(西)
名殘の友(西)
參考讀史餘論 1
＊賀茂眞淵集 1
與謝蕪村集 1
江漢西游日記 1
＊本朝度量權衡攷(狩) 2
＊錢幣考遺(狩)
＊錢幣考遺圖錄(狩) 1
日本現在書目證注(狩) 1
說文檢字篇(狩) 1
文教溫故批考(狩)
＊上宮聖德法王帝說(狩)
古京遺文(狩) 1
＊萬葉集品物圖繪 2

【第三期刊行書目】

日本書紀 4
伊勢物語 1
うつぼ物語 5
後拾遺和歌集 1
金葉和歌集 1
詞花和歌集
千載和歌集 1
新古今和歌集 1
古今著聞集 2
伊呂波字類抄 8
人倫訓蒙圖彙 1
古抑譚 2
五畿內志 3
物類品隲 1
雲根志 2
近世畸人傳(正續) 2
＊重訂本草綱目啓蒙 4
假字遣奧山路 2
＊歌舞伎年代記 3
蹴鞠品目 2
＊坤齋發香 1
＊觀古雜帖・附忠友歌集
蝦夷日誌集 3

昭和六年八月十八日印刷
昭和六年八月廿八日發行

日本古典全集

【非賣品】

歌林樸樕

編纂者 正宗敦夫
東京府北豐島郡長崎町一六二
發行者 合資會社日本古典全集刊行會 代表社員 長島東一
東京府北豐島郡長崎町一六二
印刷所 不二製版印刷所 印刷者 高瀨淸吉
東京府北豐島郡長崎町一六二
裝幀者 賢川松五郎
發行所 合資會社 日本古典全集刊行會
振替東京七三〇一二